Student Hand Book 2019

学生便覧／履修の手引き／シラバス

KYOBI
京都美術工芸大学

Student Hand Book 2019

学生便覧／履修の手引き／シラバス

KYOBI
京都美術工芸大学

◆目次◆

はじめに

1　理事長挨拶 …… 9

2　学長挨拶 …… 9

3　2019 年度学年暦 …… 10

4　学校法人 二本松学院　京都東山キャンパス・マップ …… 13

学生便覧

1　大学の概要

1 大学の建学理念 …… 19

2 大学の教育目標 …… 19

3 3 つのポリシー …… 19

4 学校の沿革 …… 22

5 大学組織図 …… 23

6 専任教員紹介　主な担当科目 …… 24

2　キャンパスライフ

1 学籍

1-1　学生証 …… 30

1-2　学籍異動 …… 30

2 納入金

2-1　納入金について …… 32

2-2　学籍異動時の納入金について …… 33

2-3　奨学金・学費貸付制度 …… 34

3 諸手続き

3-1　各種証明書の発行 …… 36

3-2　通学定期券・学割証 …… 36

3-3　個人情報の変更 …… 37

3-4　通学について …… 38

3-5　定期健康診断 …… 38

3-6　学生教育研究災害傷害保険（学研災）・
学研災付帯賠償責任保険（付帯賠責） …… 39

4 大学施設
4-1 事務局 …… 40
4-2 掲示板 …… 40
4-3 アクティブ・ラーニングゾーン …… 41
4-4 図書館 …… 41
4-5 デジタル・ラボ …… 41
4-6 諸教室 …… 41
4-7 カフェテリア …… 42
4-8 学生食堂 …… 42
4-9 文具コーナー …… 42
4-10 工作機械室 …… 42
4-11 有料ロッカー …… 42
5 課外活動
5-1 京都美術工芸大学認定サークル・クラブ …… 43
5-2 課外活動における注意事項 …… 44
6 充実した学生生活のために
6-1 キャンパス・マナー …… 44
6-2 アルバイトについて …… 45
6-3 悪徳商法に注意 …… 45
6-4 薬物乱用防止について …… 46
6-5 宗教勧誘に注意 …… 46
6-6 構内での喫煙について …… 46
6-7 構内警備について …… 46
6-8 学生相談について …… 46
6-9 キャンパス・ハラスメントの防止のために …… 46
7 学校法人二本松学院の在学生等に関する個人情報の取扱いについて
7-1 在学生等の個人情報の取得とその利用目的について …… 48
7-2 個人情報の安全管理について …… 49
7-3 在学生等の個人情報の第三者への提供について …… 49

3　授業について

1 開講期 …… 50

2 授業時間帯 …… 50

3 休講・補講 …… 50

4 公認欠席手続 …… 51

5 受講の上での心がまえ …… 52

4　キャリア支援

1 キャリア開発プログラム …… 53

2 キャリア形成科目 …… 54

2-1　メディアリテラシー …… 54

2-2　しごと論 …… 54

2-3　インターンシップ …… 54

2-4　キャリア支援講座 …… 54

3 資格取得支援講座（キャリアサポートプログラム） …… 55

4 キャリア支援スケジュール …… 56

5 就職活動届・報告 …… 56

履修の手引き

1　履修について

1 履修手続 …… 61

2 履修申請の流れ …… 61

2　単位について

1 卒業要件単位数（2019 年度入学者のうち美術工芸学科） …… 63

2 卒業要件単位数（2019 年度入学者のうち建築学科） …… 63

3 履修モデル …… 64

3　他大学で修得した単位について

1 「他大学における学修」とは …… 72

2 外国等提携校との交流学生プログラムについて …… 72

3 単位互換制度 …… 72

4　試験について

1 定期試験 …… 73

2 追試験 …… 74

3 再試験 …… 74

4 その他 …… 74

5　成績について

1 成績評価 …… 75

2 ＧＰＡ …… 76

3 成績発表 …… 77

6　学生相談

1 オフィスアワー …… 78

2 クラスアドバイザー制度 …… 79

3 カウンセラー（学生相談室） …… 79

4 医務室 …… 79

5 ハラスメント防止対策委員会 …… 79

学則・規程等

学則 …… 82

京都美術工芸大学規程抜粋

京都美術工芸大学
休学、復学、転学、退学、再入学等の手続に関する規程 …… 96

京都美術工芸大学学納金等に関する規程 …… 98

京都美術工芸大学追試験・再試験規程 ……100

（参考）ハラスメント防止対策委員会内規
（平成 25 年 3 月 21 日　制定） ……101

※なお、記載内容については、変更する可能性がありますので、ご了承ください。

はじめに

1　理事長挨拶

2012年の春、京都美術工芸大学は、南丹市園部町に開学しました。2017年には、新たに京都東山キャンパスを開設し、京都建築大学校と京都伝統工芸大学校とで培った専門学校教育に加えて、新たな時代を創造する専門知識、教養を修得する大学教育をここ、日本文化の中心地である京都で目指すこととなりました。

本学の建学理念は、世界を代表する美術工芸文化が息づく京都で、わが国の伝統と文化を尊重し、その継承と文化の創造を担う有為な人材を育成するため、美術工芸に係る教育研究を行い、併せて教養を身に付けた専門職業人を育てることにあります。

全国に数多くある大学の中でも、唯一「工芸学部」を持つ学府として、伝統産業にとどまらず、建築や美術工芸、ものづくり産業など、幅広い分野で活躍できる人材育成をすすめます。

ここに学生生活の指針となる「学生便覧」を作成しました。活用いただきますと共に、学生の皆さんが、大学生としての誇りと自覚をもって、学業に励みながら教職員と共に新しい大学づくりに参画していただくことを願っています。

学校法人 二本松学院

理事長　新谷　秀一

2　学長挨拶

豊かさの本質である「文明」と「文化」を受け継ぎ、発展させる人を本学から。

皆さんは文明と文化の違いについて考えたことがありますか。現代は科学の発展がもたらした文明により、あらゆることが効率化され、便利に暮らせるようになりました。しかしその反面、私たちの祖先が時間をかけて育んできた文化がないがしろにされています。私は人がこれからの時代をより豊かに生きるには、文明と失われつつある文化を融合させ、発展させることが不可欠と考えています。京都美術工芸大学に入学される皆さんには、単に工芸やデザインや建築の手業を継承してもらうだけでなく、その奥にある精神性の豊かなものを深く理解していただき、一人ひとりが自分自身の新しいもの・ことを生み出して次代の担い手になってほしいと思います。現代は何でもITやAIなどで簡単に答えを得られる世の中ですが、本学では答えがない課題に挑み、試行錯誤しながら自分の頭で考える力を身につけてもらいます。そのような経験を通して、これからの時代のあるべき姿を見つめ、創造する力を磨いてください。

京都美術工芸大学

学　長　冷泉　為人

3　2019 年度　学年暦

4	April	
日	曜日	行事等
1	月	**2･3･4年生 前期授業開始**
2	火	
3	水	
4	木	**1年生ガイダンス 1日目**
5	金	**1年生ガイダンス 2日目**
6	土	
7	日	
8	月	**入学式**
9	火	**1年生 前期授業開始**
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	**2・3・4年生 履修申請締切日**
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	**オリエンテーション （鴨川トレッキング）**
21	日	
22	月	**1年生 履修申請締切日**
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	昭和の日
30	火	祝日

5	May	
日	曜日	行事等
1	水	祝日
2	木	祝日
3	金	憲法記念日
4	土	みどりの日
5	日	こどもの日
6	月	
7	火	
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	**1 年生健康診断（予定）**
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

6	June	
日	曜日	行事等
1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	

7	July	
日	曜日	行事等
1	月	
2	火	
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	**補講日**　海の日
16	火	
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	**補講日**
24	水	**補講日**
25	木	**補講日**
26	金	
27	土	**貞教夏祭り（予定）**
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	**補講日**　**3年生 夏季休暇**

※日程は変更する場合があります。

8 August

日	曜日	行事等
1	木	**補講日**
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	山の日
12	月	
13	火	学院休業期間
14	水	
15	木	1年生夏季休暇 2年生夏季休暇 3年生夏季休暇 4年生夏季休暇
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	

9 September

日	曜日	行事等
1	日	
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	1年生夏季休暇 2年生夏季休暇 3年生夏季休暇 4年生夏季休暇
16	月	敬老の日
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	秋分の日
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	

10 October

日	曜日	行事等
1	火	**後期授業開始**
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	**貞教　体育会（予定）**
14	月	**貞教　体育会（予備日）** 体育の日
15	火	**後期科目履修 取消申請締切日**
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	
31	木	

11 November

日	曜日	行事等
1	金	**KYOBI 祭準備**
2	土	**KYOBI 祭 1 日目**
3	日	**KYOBI 祭 2 日目** 文化の日
4	月	**片付日**
5	火	
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	勤労感謝の日
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	

2020年

12 December

日	曜日	行事等
1	日	
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	**補講日**
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

学院休業期間
年末休暇

1 January

日	曜日	行事等
1	水	元日
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	**年始授業開始**
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	成人の日
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	**補講日**
30	木	〃
31	金	

学院休業期間
年末休暇

2 February

日	曜日	行事等
1	土	
2	日	
3	月	
4	火	**補講日**
5	水	**卒業作品審査会 1 日目**
6	木	**卒業作品審査会 2 日目**
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	建国記念の日
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	天皇誕生日
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	

1年生春期休暇
2年生春期休暇
3年生春期休暇
卒業制作展（予定）

3 March

日	曜日	行事等
1	日	
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	**卒業式・学位授与式**
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	春分の日
21	土	
22	日	
23	月	**新2・4年生ガイダンス＋健康診断（予定）**
24	火	**新3年生ガイダンス（予定）**
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

1年生春期休暇
2年生春期休暇
3年生春期休暇

４　学校法人 二本松学院　京都東山キャンパス・マップ

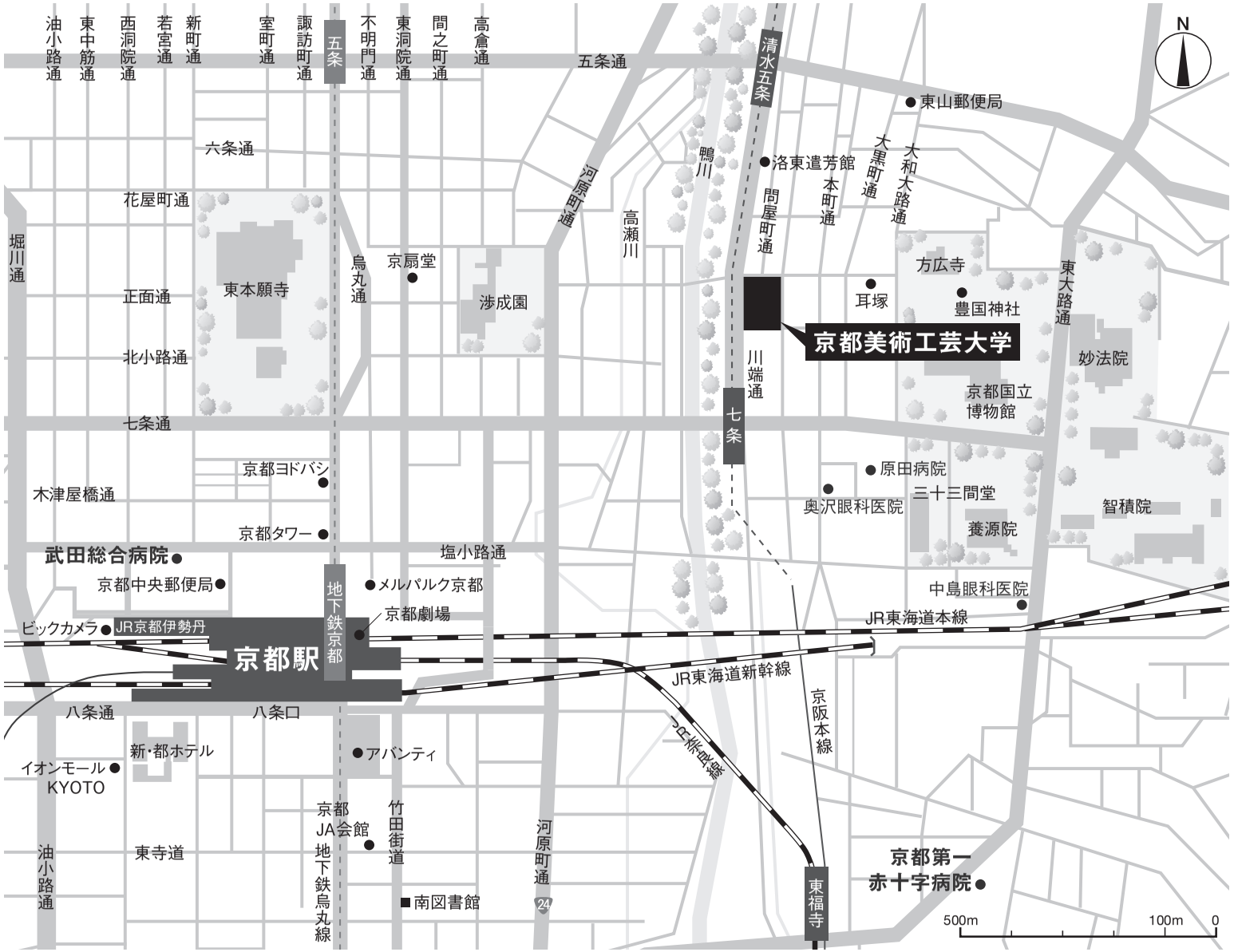
京都東山キャンパスは、西館・南館・北館・東館の４つのゾーンに分かれています。

川端通りに面している西館１階には、事務局・鴨川七条ギャラリーがあり、学生・外来者の総合窓口となっています。２階には、アクティブラーニングゾーンがあり、学生の憩いの場であり、かつ、学生・教員間の接続的な教育機会を設ける場となっています。３階は演習系科目のための大教室である「デザインラボ」が配置されています。南館には、１階から３階まで、小・中・大教室が配置されています。また、１階にカフェテリアが川端通りに面しています。

東館および北館は、主に実習室が配置されています。東館１階に「陶芸実習室」、２階に「木工・彫刻実習室」、３階に「漆芸実習室」そして、北館の２階に「文化財情報実習室」、３階に「デザイン実習室」を設けています。

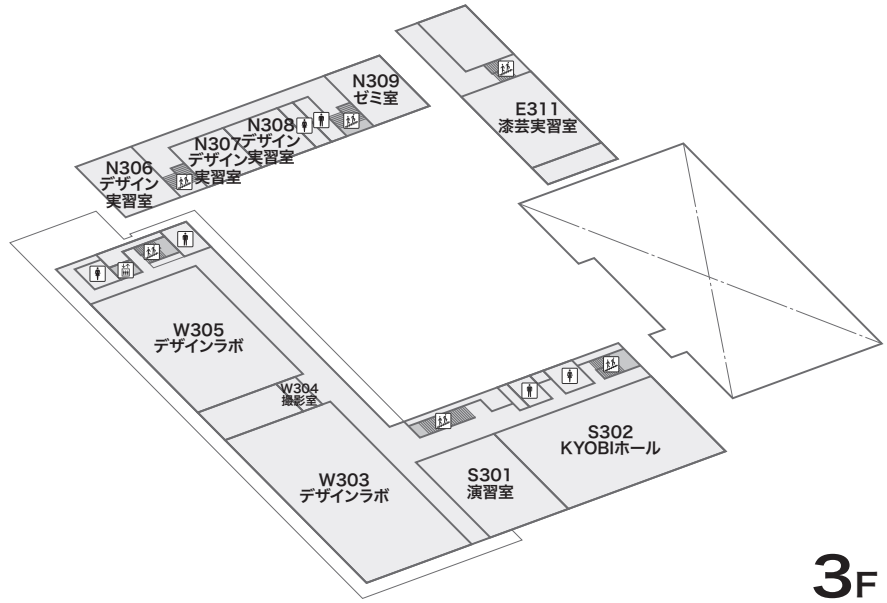
鴨川の景色も楽しめるキャンパスでの充実したキャンパスライフを満喫してください。

周辺マップ

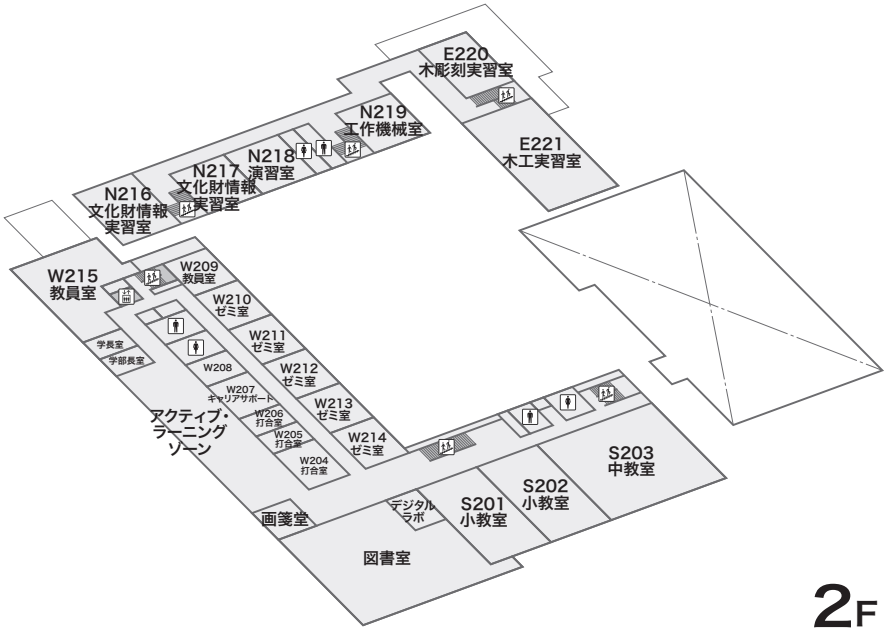


N
油小路通
東中筋通
西洞院通
若宮通
新町通
室町通
諏訪町通
五条
不明門通
東洞院通
間之町通
高倉通
五条通
清水五条
東山郵便局
六条通
鴨川
洛東遣芳館
大黒町通
大和大路通
本町通
問屋町通
河原町通
高瀬川
花屋町通
堀川通
東本願寺
烏丸通
京扇堂
涉成園
方広寺
耳塚
豊国神社
東大路通
正面通
京都美術工芸大学
北小路通
川端通
妙法院
京都国立博物館
七条通
七条
京都ヨドバシ
原田病院
木津屋橋通
三十三間堂
奥沢眼科医院
智積院
京都タワー
養源院
武田総合病院
塩小路通
京都中央郵便局
メルパルク京都
中島眼科医院
地下鉄京都
京都劇場
ビックカメラ
JR京都伊勢丹
JR東海道本線
京都駅
JR東海道新幹線
八条通
八条口
京阪本線
新・都ホテル
アバンティ
イオンモール KYOTO
京都JA会館
竹田街道
河原町通
東寺道
油小路通
地下鉄烏丸線
南図書館
東福寺
京都第一赤十字病院
500m
100m
0

フロアマップ



3F



2F

1F

学生便覧

1　大学の概要

1 大学の建学理念

世界を代表する美術工芸文化が息づく京都で、我が国の伝統と文化を尊重し、その継承と文化の創造を担う有為な人材を育成するため、美術工芸に係る教育・研究を行い、併せて教養を身に付けた専門職業人を育てることにより、国家・社会の発展に貢献する。

2 大学の教育目標

本学では大学理念の具現化のために、「社会人基礎力」「学士力」「職業実践力」を身に付けた専門職業人の育成に努めることを教育上の目的とする。

「社会人基礎力」とは、経済産業省が定めた「人が社会で生きて行くのに必要な基本的な力」で、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を培うことである。「学士力」は中央教育審議会が定めた、学士課程の各専攻分野を通じて培う力、教養を身に付けた市民として行動できる能力のことで、「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」からなっている。また、「職業実践力」は学生が目標とする職業に従事するために必要な専門的な知識・技能を４年間の職業教育により得られる能力のことである。

これらの能力は様々な素養から成り立っており、本学では教育上の目的をより重点化して、次の「3 つの素養」を身に付けた人材を育成することを目指す。

ⅰ）美術工芸＜伝統工芸・総合デザイン・文化財・建築＞に関する知識・技能
ⅱ）社会に受け入れられる人間力
ⅲ）美術工芸の将来を思考する能力

これらの素養は、社会人基礎力、学士力、職業実践力のそれぞれが複合的に作用し合って育まれる。これらにより育つべき人材像は、専門的技術や知識のみに偏重することなくかつ、社会的にも歓迎される人間性を兼ね備えた美術工芸業界を牽引すべき社会人となると考えられる。

本学では、こうした教育目標を達成するため、学生のみなさんと共に、教職員が一丸となって取り組む。

3 3つのポリシー

アドミッションポリシー

大学の理念、教育目的を理解し、常に自己の可能性を追究していく持続性と熱意を持ち合わせ、真摯に学業に励むことのできる素養を持った、以下のような学生を求める。

1）未来を切り拓いていこうとする夢と情熱を持っている人
2）知的好奇心にとみ、美術工芸分野などの専門職業人として、社会の発展に貢献したい人
3）自主的に学ぶ姿勢と柔軟な思考を持ち、芸術分野で優れた才能を有する人
4）常に他者を尊重する姿勢と協調性に富み、リーダーシップを発揮することができる人
5）本学の教育課程を学修するための基礎的な学力とコミュニケーション能力を身につけた人

美術工芸学科

美術工芸学科は、常に自己の可能性を追究していく持続性と熱意を持ち合わせ、真摯に学業に励むことのできる素養を持った以下のような学生を求める。

1）大学の理念、教育目的を理解するとともに美術工芸学科の教育目的・方針に沿って美術工芸を通して、未来を切り拓いていこうとする夢と情熱を持っている人。
2）知的好奇心に富み、美術工芸分野などの専門職業人として、社会の発展に貢献したい人。
3）自主的に学ぶ姿勢と柔軟な思考を持ち、美術工芸分野で優れた才能を有する人、あるいは持

ちたいという情熱を有する人。
4）常に他者を尊重する姿勢と協調性に富み、リーダーシップを発揮することができる人。
5）本学の美術工芸全般の教育課程を学修するための基礎的な学力とコミュニケーション力を身につけた人。あるいは本学の教育課程を通じて左記の能力を身に着ける可能性を有する人。

建築学科
建築学科は、大学の理念、教育目的を理解するとともに建築学科の教育目的・方針に沿って常に自己の可能性を追求していく持続性や熱意を持ち合わせ、真摯に学業に励むことのできる素養を持った以下のような学生を求める。
1）建築を通して、未来を切り開いていこうとする夢と情熱を持っている人。
2）知的好奇心に富み、建築やその関連分野の専門職業人として、社会の発展に貢献したい心を持った人。
3）自主的に学ぶ姿勢と柔軟な思考を持ち、建築やその関連分野で優れた才能を有する人、あるいは持ちたいという情熱を有する人。
4）常に他者を尊重する姿勢と協調性に富み、リーダーシップを発揮することのできる人、あるいは組織の中で必要とされる素養を有する人。
5）本学の建築専門領域を含めた教育課程を学修するための基礎的な学力とコミュニケーション力を身につけた人、あるいは本学の教育課程を通じて左記の能力を身に着ける可能性を有する人。

ディプロマポリシー

所定の期間在学し、所定の単位数を修得することにより、以下の素養を身につけた学生に対して学士の学位を授与する。
1）美術工芸に関する幅広い知識、技能
2）社会の発展に貢献するための課題解決力、伝統から革新を生み出す構想力
3）多様な人々と協働するための協調性、コミュニケーション力

美術工芸学科
美術工芸学科では、京都美術工芸大学ディプロマポリシーに基づき、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定する。
1）美術工芸やデザインに関する幅広い知識、技能。
2）美術工芸を通して社会の発展に貢献するための課題解決力、伝統から革新を生み出す独創的な構想力、発想力。
3）日本の歴史文化を修得理解するとともに、グローバルな視点も視野に入れた新しい文化づくりへ発展させる感性・価値観。
4）美術工芸を通して多様な人々と協働するための協調性、コミュニケーション力、表現力。

建築学科
建築学科では、京都美術工芸大学ディプロマポリシーに基づき、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定する。
1）デザイン領域だけでなく施工や歴史文化、あるいは建築関連法規など建築に関する幅広い知識、技能。
2）建築行為を通じて社会の発展に貢献するための課題解決力、伝統の継承およびそれらを基にした新しい文化や作品作りにつながる独創的な構想力、発想力。
3）日本の歴史文化を修得理解するとともに、グローバルな視点も視野に入れた新しい文化づくりへ発展させる感性・価値観。
4）建築は単体の作品ではなく文化そのものであり、また多くの人々の協力の中から作品が生まれるという観点から、多様な人々と協働するための協調性、コミュニケーション力、表現力。

カリキュラムポリシー

ディプロマポリシーに掲げる素養を修得させるために、下記の方針で教育課程を編成、実施する。

1）教養教育科目、専門教育科目及びその他必要な科目を体系的に編成する
2）教育目的に合わせて、講義、演習、実習等を適切に組み合わせる
3）職業実践的な教育内容、協調性やコミュニケーション力を高める教育内容を適切に盛り込む

美術工芸学科

美術工芸学科ディプロマポリシーに掲げる素養を備えた人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成、実施する。

1）教養教育科目、専門教育科目及びその他必要な科目を体系的に編成する。
2）美術工芸の教育目的に合わせて、講義、演習、実習等を適切に組み合わせ、各領域の特徴に沿った教育プログラムを実施する。
3）美術工芸、あるいはデザインなどの世界で活躍するための職業実践的な教育内容、協調性やコミュニケーション力、表現力を高める教育内容を適切に盛り込む。

建築学科

建築学科ディプロマポリシーに掲げる素養を備えた人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成、実施する。

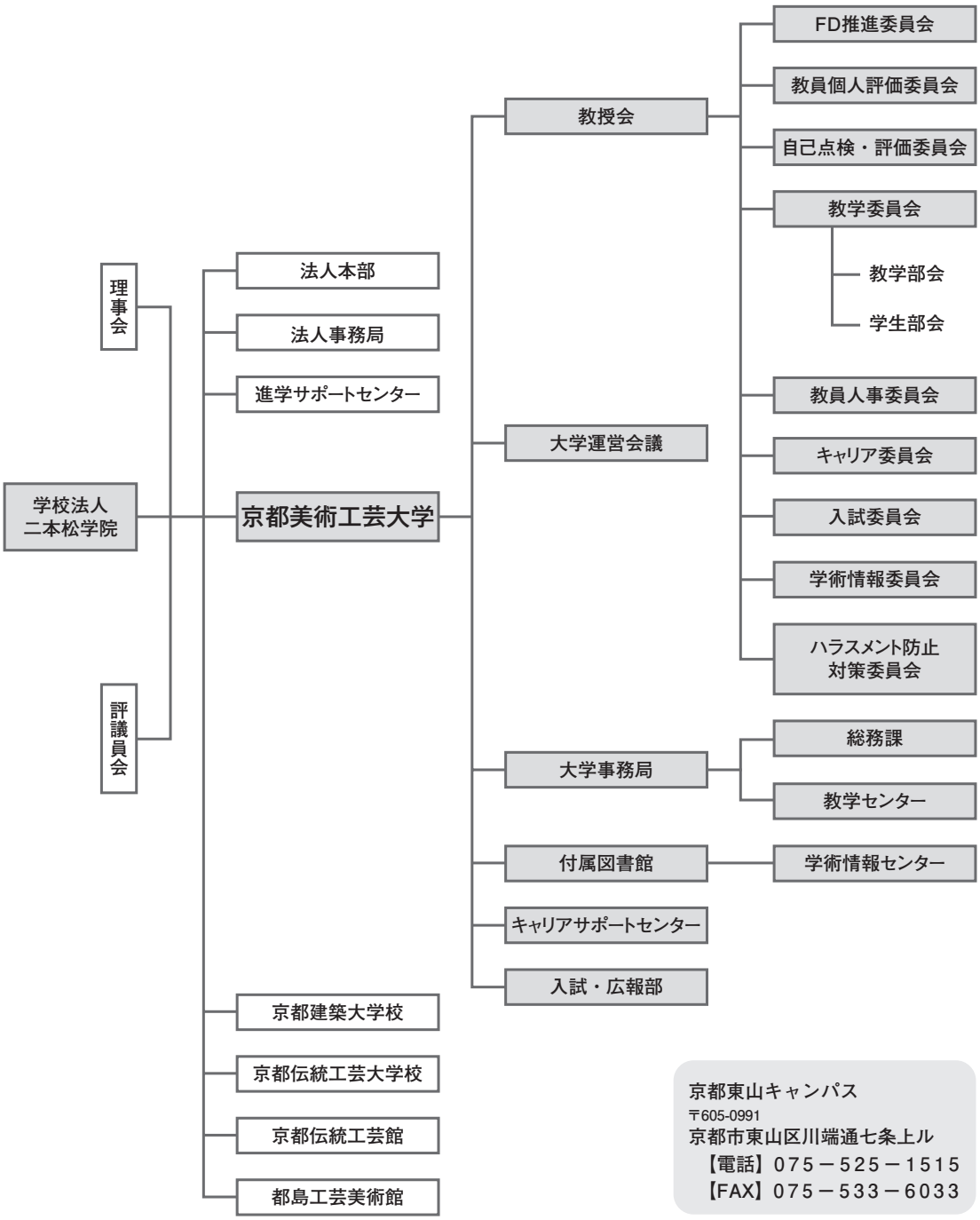
1）教養教育科目、専門教育科目及びその他必要な科目を体系的に編成する。
2）教育目的に合わせて、講義、演習、実習等を適切に組み合わせる。建築全般にかかわる教育だけでなく、建築デザイン領域と伝統建築領域の特徴に沿った適正な教育プログラムを領域ごとに編成し実施する。
3）建築デザインや施工、あるいは文化財の保存修復など建築関連のものづくり世界で活躍するための実践的な教育内容、あるいは協調性やコミュニケーション力・表現力等を高める教育内容を適切に盛り込む。
4）現物の建築の調査や視察を体験する中で、その持っている意味をより深く理解し、新しいものづくりへ展開させる。

4 学校の沿革

学校の沿革

1990(平成２)年	学校法人二本松学院「京都国際建築技術専門学校」設立認可
1991(平成３)年	「京都国際建築技術専門学校」開校
1995(平成７)年	「京都伝統工芸専門校」開校
2001(平成13)年	京都府より認可を受け「京都伝統工芸専門学校」に改称
2002(平成14)年	放送大学連携協力校に指定
2003(平成15)年	「京都伝統工芸館」開館
2007(平成19)年	「京都建築大学校」「京都伝統工芸大学校」に校名変更と共に高度専門課程新設 京都伝統工芸館に皇太子殿下ご行啓
2009(平成21)年	京都伝統工芸館に皇太子殿下ご行啓 伝統的工芸品月間国民会議全国大会が本キャンパスで開催
2010(平成22)年	「大阪都島工芸美術館」開館 芸術的職人伝統工芸国際憲章に署名
2011(平成23)年	「京都美術工芸大学」設置認可 「エコール・ブール国立工芸学校」／工芸振興組合「アトリエ・アール・ド・フランス」と提携 京都伝統工芸館にブータン国王夫妻ご来館
2012(平成24)年	「京都美術工芸大学」開学 「エコール・ブール国立工芸学校」と交換留学プログラム開始 「エコール・ブール国立工芸学校」との合同作品展開催 京都府福知山市と連携協定を締結
2013(平成25)年	兵庫県川西市と連携協定を締結
2014(平成26)年	京都府南丹市と包括的連携協定を締結 「ニュイ・ブランシュ KYOTO」に初参加 「上賀茂神社アートプロジェクト」に初参加
2015(平成27)年	福井県鯖江市、鯖江商工会議所と包括的連携協定を締結 京都伝統工芸大学校が「京都創造者大賞 2015」で京都創造者賞（アート・文化部門）を受賞
2016(平成28)年	「京都美術工芸大学 工芸学部 建築学科」開設 京都市と包括的連携協定を締結
2017(平成29)年	京都府宮津市と包括連携協定を締結 京都東山キャンパス開設
2018(平成30)年	工芸学部の入学定員を増員 （建築学科 150 名、美術工芸学科 100 名 計 250 名）

5 大学組織図



京都東山キャンパス
〒605-0991
京都市東山区川端通七条上ル
【電話】075－525－1515
【FAX】075－533－6033

6 専任教員紹介

【学　長】

教授	冷泉　為人
学歴／経歴	関西学院大学文学部美学科卒業、関西学院大学大学院文学研究科博士課程満期退学／大手前女子大学教授、池坊短期大学教授、同学長、（財）冷泉家時雨亭文庫理事長
学位等	修士（文学）

【副学長】

教授	新谷　裕久
学歴／経歴	朝日大学歯学部歯学科卒、同大学院歯学研究科歯学専攻修了／朝日大学歯学部准教授、京都伝統工芸大学校校長（～平成27 年3 月）、京都美術工芸大学副学長、学校法人二本松学院事務局長
学位等	歯学博士、歯科医師、日本労働衛生コンサルタント

【学部長】

教授	川北　英
学歴／経歴	京都工芸繊維大学建築工芸学科卒、㈱竹中工務店入社、竹中工務店広島支店設計部長、竹中工務店東京本店設計部長、竹中工務店プリンシパルアーキテクト、公益財団法人ギャラリーエークワッド館長、京都工芸繊維大学非常勤講師、大阪大学非常勤講師、首都大学非常勤講師、関西インテリアプランナー協会理事
主な業績	新神戸オリエンタルシティー、佐川美術館（建築学会建築選奨）、武者小路千家起風軒、京料理なかむら、祇園畑中、岡山アートガーデン（芦原義信賞）、竹中工務店東京本店（建築学会賞、村野賞）、国際デザインコンペティション銀賞、沖縄市立体アートコンペ最優秀賞、その他多数
学位等	工学士（建築）

【特命学部長】

教授	髙田　光雄
学歴／経歴	京都大学工学部建築学科卒業、同大学院修了、同教授を経て、名誉教授、都市住宅学会会長、日本建築学会理事、日本建築士会連合会理事、京都府･京都市建築審査会会長、京都府・京都市・大阪府・大阪市住宅（まちづくり）審議会会長など
主な業績	日本建築学会賞、都市住宅学会賞、日本建築士会連合会賞、SB05 Best Paper Award など
学位等	博士（工学）、一級建築士

【建築学科長】

教授	種村　俊昭
学歴／経歴	大阪市立大学工学部建築学科、同大学院工学研究科修士課程修了、同博士課程所定単位取得／安藤忠雄建築研究所、日本設計（チーフ・アーキテクト）、種村建築研究所（所長）、職業能力開発総合大学校建築システム工学科教授、建築専攻教授
主な業績	上野市立図書館、流通科学大学Ⅰ～Ⅶ期、上野だんじり会館、滋賀県立安土城考古博物館、大阪市立環境学習センター、M 邸（古民家再生）、NHK 大阪放送会館・大阪歴史博物館、宝塚福祉コミュニティプラザ・フレミラ宝塚、NHK 神戸新放送会館、養父市大屋市民センター・大屋地域局（以上主要設計作品・受賞作品）
学位等	博士（工学）、工学修士、一級建築士

【特命学科長】

教授	戸高　太郎
学歴／経歴	京都工芸繊維大学建築学科卒、同大学大学院博士前期課程修了後、東急建設株式会社工事部勤務を経て、二本松学院京都国際建築技術専門学校（現京都建築大学校）にて二級建築士・木造建築士受験講座の運営に携わる。
学位等	工学修士

教授	山内　貴博
学歴／経歴	東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程 デザイン専攻 環境・設計分野修了。株式会社 鴻池組、株式会社 難波和彦＋界工作舎、株式会社 ランドスケープデザイン
主な業績	（財）日本産業デザイン振興会主催グッドデザイン賞受賞、（株）良品計画MUJI+INFILL「木の家」（共同）青島小鎮プロジェクトプロポーザル1等、（株）ランドスケープデザイン（共同）
学位等	博士（美術）、一級建築士

特任教授	大上　直樹
学歴／経歴	芝浦工業大学大学院工学研究科建設工学専攻修士課程修了、大阪市立大学生活科学研究科生活科学専攻後期博士課程単位取得後退学。大阪市立大学に学位請求論文を提出、博士号授与。後閑建築設計事務所、滋賀県庁、雇用促進事業団滋賀職業能力開発短期大学校住居環境科助教授、大阪人間科学大学環境・建築デザイン学科准教授
主な業績	日本建築学会支部共通設計競技　東海支部入選
学位等	博士（学術）、一級建築士

准教授	井上　晋一
学歴／経歴	京都大学工学部建築学科卒／京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了、博士号取得、一級建築士事務所井上晋一研究所設立、大谷女子短期大学非常勤講師、京都造形芸術大学非常勤講師、神戸松蔭女子学院大学非常勤講師、関西学院大学非常勤講師
主な業績	
学位等	博士（工学）、一級建築士

准教授	井上　年和
学歴／経歴	京都大学工学研究科生活空間学専攻　修了 一般財団法人　建築研究協会　主任研究員
主な業績	京都景観賞建築部門　優秀賞
学位等	修士（工学）・一級建築士

准教授	川嶋　貫介
学歴／経歴	早稲田大学大学院創造理工学研究科建築学専攻博士課程中途退学。
主な業績	早稲田大学理工学総合研究所嘱託研究員、日本工業大学建築学科非常勤講師、東京電機大学未来科学部建築学科非常勤講師、京都精華大学デザイン学部建築学科特任准教授
学位等	修士（工学）、一級建築士

准教授	森重　幸子
学歴／経歴	京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。京都大学博士（工学）。株式会社設計組織アモルフ、京都大学大学院工学研究科非常勤研究員、武庫川女子大学生活環境学部建築学科講師
主な業績	日本不動産学会業績賞、都市住宅学会業績賞、都市住宅学会博士論文コンテスト優秀賞
学位等	博士（工学）、一級建築士、京都市京町家耐震診断士（構造診断士）

准教授	安田　光男
学歴／経歴	東京大学工学部建築学科卒／株式会社 伊東豊雄建築設計事務所、安田光男一級建築設計事務所、Andrea Branzi Architetto、Giovannoni Design S.r.l.、日本文理大学客員教授
主な業績	邑楽町役場庁舎設計競技入賞、鬼石町多目的ホール設計競技佳作、Vignola市Astambéin設計競技2等（共同設計）
学位等	学士（工学）、一級建築士・イタリア政府公認建築士・宅建建物取引士・インテリアコーディネーター

講師	人見　将敏
学歴／経歴	早稲田大学理工学部建築学科卒、同大学院創造理工学研究科建築学専攻博士課程修了／一級建築士事務所フォルムデザイン一央㈱、早稲田大学創造理工学部専任助手、早稲田大学理工学術院総合研修所次席研究員
主な業績	大多喜町庁舎建設設計業務プロポザール第二位、元総社県営住宅整備事業設計者選定競技五位、武蔵野の森総合スポーツ施設新築工事基本設計競技第二位、新宿区立「漱石山房」記念館プロポザール最優秀作品
学位等	博士（建築学）

講師	山田　幸秀
学歴／経歴	大阪外国語大学外国語学部タイ語学科卒業。野村貿易株式会社、産経新聞社、在大阪カンボジア名誉領事館
主な業績	産経新聞大阪代表賞
学位等	学士（文学）

特任講師	杏　義啓
学歴／経歴	一級建築士·福祉住環境コーディネーター。立命館大学理工学部卒業。㈱園建築事務所に入社しWACOAL、NISSHA㈱、SCREENホールディングス、京都薬科大学、立命館大学などの設計監理を担当。1991年K設計室（一級建築士事務所）を設立し集合住宅、個人住宅、商業建築などを設計。一乗寺集合住宅、鞠小路集合住宅、5人家族のための100㎡の家、パーキンソン病を患う人の為の家、京都美術工芸大学基本計画など。2005年より京都建築大学校講師。
主な業績	石川県いしかわ景観賞受賞。

助教	岡北　一孝
学歴／経歴	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科造形科学専攻修了。日仏交流促進事業共同研究員、京都工芸繊維大学工芸科学部造形科学域ティーチング·アシスタント、大阪大学文学研究科非常勤講師、日本学術振興会特別研究員PD、イタリア·ローマ第一大学（La Sapienza、ラ・サピエンツァ）建築史学部客員研究員
主な業績	平成20年度日本建築学会近畿支部優秀発表賞
学位等	博士（学術）、一級建築士

【美術工芸学科長】

教授	津村　健一
学歴／経歴	倉敷芸術科学大学大学院 芸術研究科美術専攻現代表現系修士課程 修了／京都伝統工芸大学校講師
主な業績	第5回国際丹南アートフェスティバル優秀賞、京都美術工芸展準大賞2回、第54回行動美展　行動美術賞（大賞）、第49回全関西美術展　第１席、平成16年2月美の解放展大賞、第52回全関西美術展　読売新聞本社賞
学位等	修士（芸術）

教授	浅見　武
学歴／経歴	大阪学院大学 経済学部卒／京都市産業技術研究所講師、公益社団法人日展〔会友〕、一般社団法人現代工芸美術家協会〔本会員〕
主な業績	第41回日本現代工芸美術展 現代工芸賞、第30回日本現代工芸美術展近畿展　京都工会議所会頭賞·月華賞
学位等	経済学士

教授	小林　泰弘
学歴／経歴	東京藝術大学 美術学部彫刻科卒、東京藝術大学 美術研究科保存修復技術修了／㈱京都科学
主な業績	〈文化財修理〉京都東寺、木造四天王立像、奈良長谷寺木造地蔵菩薩坐像ほか多数
学位等	芸術学修士

教授	中井川　正道
学歴／経歴	東京藝術大学美術学部デザイン科卒、同大学院美術研究科環境デザイン修了／ FIT環境デザイン研究所主宰
主な業績	福島県景観アドバイザー、第一回人間道路会議賞「パークシティ守谷」、CLA賞2013優秀賞「桜川市」、第28回長野市景観賞「JR 長野駅　善光寺口駅前広場」
学位等	芸術学修士

特任教授	安藤　眞吾
学歴／経歴	京都市立芸術大学美術学部工芸学科デザイン専攻卒　同大学院美術研究科デザイン専攻修了／安藤デザイン事務所 主宰、京都精華大学デザイン学部 教授、京都建築大学校 講師
主な業績	第4 回おおさかパブリックアート賞、第1 回JID 企業デザインコンペ「ECHO 賞」最優秀賞、第2 回JID 企業デザインコンペ「ECHO 賞」奨励賞、住まい創造展2003「経済産業大臣賞」、大阪府デザイン産業功労賞、京都デザイン賞2010「商工会議所会頭賞」ほか
学位等	芸術学修士

特任教授	ヒルド　麻美
学歴／経歴	同志社大学大学院文学研究科英文学専攻（博士課程前期）修了、米国 ブリッジポート大学大学院 人文学研究科修士課程 修了／放送大学京都学習センター客員准教授、米国 パッカード美術財団メトロポリタン東洋美術研究センター英語日本語翻訳嘱託員
主な業績	国内･海外での翻訳出版　*The History of Painting in East Asia – Essays on Scholarly Method*（Rock Publishing International, Taipei),『若冲大全』解説編英訳（英題：*Jakuchu*・小学館）, *CEREMONIAL COSTUMES AND TREASURES OF THE EMPERORS OF JAPAN*（Paleis Het Loo National Museum, Holland), *Masterpieces of the Ho-am Art Museum: Antique Art II*（Samsung Foundation of Culture, Korea) 他150件余　大学英語教材出版　*Power-Up English*（南雲堂）, *Social Issues in a Contemporary World*（成美堂）
学位等	文学修士・M.A.（English）

特任教授	宮本　貞治
学歴／経歴	京都府立嵯峨野高等学校卒、黒田乾吉（木工芸作家黒田辰秋氏の長男）内弟子／木工芸作家
主な業績	京都工芸美術展大賞　日本伝統工芸展日本工芸奨励賞2 回、日本伝統工芸展第50 回記念賞、第7 回秀明文化賞、日本伝統工芸近畿展5 回入賞、伝統工芸木竹展4 回入賞
学位等	滋賀県指定無形文化財、紫綬褒章、大津市文化賞

特任教授	村上　隆
学歴／経歴	京都大学工学部、同大学院工学研究科修士課程修了、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程、同博士課程修了／奈良文化財研究所上席研究員、京都国立博物館学芸部長、岡山大学客員教授、佐賀大学特命教授、立命館大学特別招聘教授を歴任。高岡市美術館館長、石見銀山資料館名誉館長、日本伝統文化学会会長
主な業績	第8回ロレアル国際賞「色の科学と芸術賞金賞」、第1回「石見銀山文化賞」ほか
学位等	学術博士、芸術学修士、工学修士

講師	青木　太一
学歴／経歴	花園高等学校卒／京仏師吉岡定雲に師事、定雲工房として独立、京都伝統工芸大学校講師、京都佛像彫刻家協会会長歴任
主な業績	京都府仏具協同組合賞受賞

講師	遠藤　公誉
学歴／経歴	奈良大学 文学部文化財学科卒・京都伝統工芸専門校卒／京都伝統工芸大学校漆工芸専攻助手
主な業績	日本伝統工芸展近畿支部展入選、日本クラフト展毎日新聞社賞、朝日現代クラフト展入選、全国伝統的工芸品公募展入選、京都工芸ビエンナーレ京都新聞社賞ほか
学位等	文学士・伝統工芸士・京もの認定工芸士

講師	岡　達也
学歴／経歴	京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科卒、同大学院工芸科学研究科博士課程修了／京都工芸繊維大学美術工芸資料館、㈱アーテファクトリー　デザイナー
主な業績	受賞作品<<タ景>>（第150回記念日図創作図案総合展京都織物卸商業組合賞)2013年、受賞作品<<Righttto Know>>（Graphic Design Festival Breda 2014 Poster Project Winner)オランタ:2014年、受賞作品<<CelebrateJAZZ>>（JAZZ for Ruins 2014 Poster Exhibition)ポーランド2014年、受賞作品<<四季図>>（第152回記念日図展京都商工会議所会頭賞)2014年
学位等	博士（学術）

講師	玉村　嘉章
学歴／経歴	京都伝統工芸専門学校卒／京都伝統工芸大学校木工芸専攻助手
主な業績	日本伝統工芸展新人奨励賞、京都工芸ビエンナーレ招待出品、京の若手職人総合技術コンクール最優秀賞、京展入選、京の伝統工芸新人作品展優秀賞 ほか
学位等	専門士・京もの認定工芸士、家具製作一級技能士

助教	木村　奈保
学歴／経歴	バンタンキャリアスクール雑貨MAC3Dデザインデザイナー／MACDTP科　卒、京都美術工芸大学　卒、㈱ユニープロセス
主な業績	
学位等	

客員教授	藤原　勝紀
学歴／経歴	九州大学大学院教育学研究科博士課程終了（昭和48年3月）／九州大学教授（～平成8年11 月)、京都大学教授（～平成20年3月)、放送大学京都学習センター所長（～平成27年3月)、京都市教育委員長（～平成26年12月)、京都市教育相談総合センター常任顧問（～現在)、京都大学名誉教授、臨床心理士
主な業績	三角形イメージ体験法（誠信書房)、からだ体験モードで学ぶカンウセリング（ナカニシヤ出版)、催眠療法（福村出版)、学生相談と心理臨床（金子書房)、臨床心理スーパーヴィジョン（至文堂）など
学位等	博士（教育心理学）

客員教授	若林　卯兵衛
学歴／経歴	同志社大学経済学部卒／（株）若林佛具製作所　取締役相談役（～現在)、京都府仏具協同組合理事長（～平成24年5月)、(財）伝統的工芸品産業振興協会副会長（平成23年5月)、京都伝統工芸協議会会長（～平成23年8月)、京都商工会議所副会頭（～現在）

特任教授	建 田　良 策
学歴／経歴	京都大学 薬学部薬学科卒／木工芸作家、黒田乾吉木工塾講師、木漆工芸京都幾何工房主宰業
主な業績	第19回日本伝統工芸近畿展　日本工芸会賞受賞 第31回京都府工芸美術作家協会展奨励賞受賞 第32回京都府工芸美術作家協会展奨励賞受賞
学位等	薬学士

特任教授	橋 本　頼 幸
学歴／経歴	大阪市立大学大学院工学研究科建築学専攻後期博士課程修了
主な業績	㈱こま設計堂代表取締役、第1回パイロシステムガラス防火区画デザイン・コンペ2008最優秀賞（公社）大阪府建築士会理事
学位等	工学博士

特任教授	八 田　誠 治
学歴／経歴	京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科機械工学専攻修士課程修了／京都市産業技術研究所研究室長（～平成23年3月）、京都市伝統産業交流センター専務理事
主な業績	京都精華大学芸術学部非常勤講師（染織史）、20世紀西陣織物総覧（共著）
学位等	（一社）日本繊維機械学会フェロー認定（番号0909）

特任教授	藤 岡　春 樹
学歴／経歴	文化財保存修理株式会社光影堂取締代表役（～平成25年）、国宝修理装潢師連盟理事（～平成25年）、古美術品修復・美術表装株式会社藤岡光影堂代表取締役

特任教授	八 木　光 也
学歴／経歴	多摩美術大学美術学部建築科卒／大和ハウス工業㈱入社、亀岡市役所建築課、京都建築大学校教頭
学位等	学士（芸術）、一級建築士、インテリアプランナー、宅地建物取引士、福祉住環境コーディネーター、総合旅行業務取扱管理者、一級インテリア設計士

特任教授	横 山　直 範
学歴／経歴	信州大学大学院工学系研究科合成化学専攻修士課程 修了　工学修士 第655号／横山工房開窯（現在に至る）、京都市産業技術研究所研究部長（～平成26年3月）、京都美術工芸大学教授（～平成28年3月）、京都市立芸術大学非常勤講師、京都市産業技術研究所「陶磁器コース」特別講師
主な業績	公益財団法人大倉和親記念財団表彰、京都ものづくり協力会会長賞ほか
学位等	工学修士

※職位毎に五十音順に記載

2　キャンパスライフ

1 学籍

1-1　学生証

学生証は、京都美術工芸大学の学生としての身分を証明するものであり、2 階図書館の図書カードも兼ねています。常時携帯するよう心がけ、傷つけたり紛失することのないように注意してください。

●利用上の注意事項

⑴表面に入っているバーコードは図書館の利用者番号です。図書館での本の貸し出しを受ける際に提示してください。
⑵事務局窓口で各種証明書等の発行を申請する際には、必ず学生証が必要となります。
⑶記載事項に変更が生じた場合は、事務局にて申し出てください。「住所・電話番号・氏名等変更届」を提出していただきます。
⑷学生証を他人に貸与・譲渡してはなりません。
⑸卒業・退学等により学籍を離れる際には、すみやかに学生証を返却してください。

●有効期限

4 年間

●再発行について

学生証を紛失・破損した場合は、直ちに「学生証再発行願」を事務局に提出し、再交付を受けてください。一枚につき 1,000 円の手数料が必要です。なお、紛失した学生証が発見された際には、古いものを返却してください。

1-2　学籍異動

●学籍について

学籍とは、本学の学生としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、卒業・退学・除籍により消滅します。

●修業年限・在学年限

本学の修業年限（卒業の要件とする在学年数）は 4 年で、在学年限（在学できる年数の上限）は 8 年です。ただし、休学期間は在学年限に算入されません。

●学籍異動の手続きについて

長い学生生活には、病気や家庭の事情等で予想もしなかったことが起こり、就学が困難となる事態に遭遇することがあるかもしれません。そのような場合は、すみやかに身近な教員や事務局職員に連絡を取り、必要な手続きについて指示を仰いでください。適切な時期に手続きを行わなかったことでその後の就学に支障をきたすことのないよう、十分注意してください。

●休学

病気や特別な理由により引き続き 2 カ月以上就学できない場合、休学することができます。

【留意事項】

①休学期間は半年間あるいは 1 年間のどちらかの選択とし、年度をまたがっての休学はできません。ただし、特別の事情がある場合はさらに 1 年を限度に休学期間を延長することができます。
②休学にあたっては、あらかじめ教員に相談の上、所定の期日までに「休学願」を事務局に提出

する必要があります。期日を過ぎた場合は翌学期の授業料の支払い義務が生じますので、休学を考え始めたらなるべく早くその旨を申し出てください。

休学しようとする学期	提出期限
（春期）前期	3 月 15 日
（秋期）後期	9 月 15 日

③上記提出期限までに「休学願」を提出した場合、別途在籍料として半期であれば 35 万円、通期であれば 70 万円を納入していただきます。
④病気により休学を希望する場合、医師の診断書が必要となります。
⑤休学期間は、在学年数に算入されません。また、休学期間が連続して 2 年、通算 4 年（8 学期）を超えることはできません。

●復学

休学の期間が満了したとき、または休学の理由が消滅したときには、復学の許可を得なければなりません。

【留意事項】

①復学しようとするときは、所定の期日までに「復学願」を提出しなければなりません。ただし、復学できるのは学期の初めとします。

復学しようとする学期	提出期限
（春期）前期	3 月 15 日
（秋期）後期	9 月 15 日

②病気によって休学した者が復学を希望する場合、医師の診断書が必要となります。

●退学

やむを得ない事情により就学が不可能な場合は、教員に相談の上、学生証を返却するとともに、「退学願」を事務局に提出しなければなりません。「退学願」には退学の理由を明記し、保証人の連署により願い出て、退学の許可を受けなければなりません。

【留意事項】

①下記の期日までに「退学願」が提出されなかった場合、翌学期の授業料の支払い義務が生じますので、注意してください。

退学しようとする学期	提出期限
（春期）前期	3 月 15 日
（秋期）後期	9 月 15 日

②次の場合は退学となります。
・休学期間の限度を超えてなお復学できない場合
・在学年数 8 年を超え、なお卒業できない場合
③退学となった学期は、在学年数に含まれません。

●除籍

授業料の納入を怠り、督促してもなお納入しない場合は、除籍となります。除籍となった場合、学籍は入学時まで遡って取り消されます。

2 納入金

2-1 納入金について

●納入金

2019 年度入学生 **（単位：円）**

納入金の内訳		1年次		2年次		3年次		4年次	
		入学時	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
学費	授業料	595,000	595,000	595,000	595,000	595,000	595,000	595,000	595,000
	教育充実費	180,000	180,000	180,000	180,000	180,000	180,000	180,000	180,000
諸費※	校友会費	40,000	—	—	—	—	—	—	—
	自治会費	5,000	—	5,000	—	5,000	—	5,000	—
合　計		820,000	775,000	780,000	775,000	780,000	775,000	780,000	775,000
年額合計		1,595,000		1,555,000		1,555,000		1,555,000	

※諸費のうち、校友会費については入学時に全額（40,000 円）を徴収しますが、自治会費については、在学している限り、毎年、前期授業料とともに年額（5,000 円）を徴収します。

●納入方法

⑴授業料は、通期分一括納入もしくは、年額の 2 分の 1 を前期分学費と後期分学費とし、半期ごとの分納になります。

⑵納入用紙（振込依頼書）は、前期分は 3 月上旬、後期分は 8 月上旬に、原則保証人住所に発送します。

⑶納入金は、本学所定の用紙と共に、振込手続きを行う方の本人確認書類（運転免許証、健康保険証、パスポート等）をご用意の上、最寄の金融機関窓口（銀行、信用金庫）から、必ず「電信扱い」でお振込みください。

●納入期限

前　期	4 月 26 日（金）
後　期	10 月 31 日（木）

●納入金未納による除籍

納入期限までに納入がない場合は除籍扱いになります。納入期限までに納入できない場合は、延分納を願い出ることができますので、「延分納願」の提出期限までに事務局に申し出てください。

●納入金の延分納

経済上の事情で納入期限までに納入が困難な場合、延分納を願い出ることができます。期日までに事務局にて手続きを行ってください。

「延分納願」提出期限	前期	4 月 19 日（金）
	後期	10 月 18 日（金）
延分納による納入期限	前期	6 月 28 日（金）
	後期	12 月 20 日（金）

●その他

⑴納入金の納入は銀行振込みのため、あらためて本学の領収書は発行いたしません。

⑵振込金領収書は、提出を求める場合もありますので大切に保管してください。

⑶一旦納入した納入金は、理由の如何にかかわらず返還いたしません。

2-2　学籍異動時の納入金について

●学籍異動時の納入金について

学籍の異動にあたっては、教員もしくは事務局に相談の上、所定の期日までに各種異動願を提出する必要があります**［→ 1-2. 学籍異動］**。期日を過ぎた場合は翌学期の授業料並びに諸費全額の支払い義務が生じます。

●休学の場合の納入金

休学者として許可された学生は、学則第 65 条により所定の在籍料を納入していただきます。詳細については事務局に問い合わせてください。

●復学

復学時の納入金は、当該学年の納入金を納めていただきます。

●退学

学期途中で退学する場合は、その期の納入金を納入しなければなりません。ただし、前期分の納入時に通期分の納入金を納入し、かつ前期途中で退学した場合は、後期分が返金されます。
なお、諸費（校友会費・自治会費）は返金されません。

2-3　奨学金・学費貸付制度

教育資金を必要とする場合、日本学生支援機構の奨学金や、国の教育ローン、本学の提携信販会社の教育ローンを利用することができます。

●日本学生支援機構奨学金

奨学金の種類	種別	貸与額（月額）	選考基準等
第一種奨学金	貸与（無利子）	自宅生 ２万・３万・４万 又は５万４千円 自宅外生 ２万・３万・４万・５万 又は６万４千円	対象学生：特に優れた学生で、経済的理由により著しく修学困難な人 返還方法※：卒業後、原則最長 20 年以内の分割返還
第二種奨学金	貸与（有利子）	２万～ 12 万円（１万円刻み）で各自が選択	対象学生：第一種奨学金より緩やかな基準で選考 返還方法※：卒業後、原則最長 20 年以内の分割返還

※返還方法については条件により異なりますので、日本学生支援機構「奨学金貸与・返還シミュレーション」をご覧ください。

https://simulation.sas.jasso.go.jp/simulation/

〈貸与期間〉

奨学生に採用された月から最短修業年限まで。

〈採用の種類〉

⑴予約採用

高等学校在学中に奨学金を予約する制度です。本学入学後の４月頃に実施するガイダンスに必ず出席してください。

⑵在学採用

本学入学後に奨学金を申込む制度です。毎年４月頃にガイダンスを実施しますので、希望者は必ず出席してください。申込書類はその際に配付します。

⑶緊急・応急採用

家計支持者が失職・破産・倒産・病気・死亡又は火災・風水害により家計が急変し、緊急に奨学金が必要になった場合に随時申込みができます。希望者は事務局に相談してください。家計急変の事由が発生したときから 12 か月以内の学生に適用されます。

〈申込方法〉

申込方法についてはガイダンスを開催して周知します。

ガイダンスの日程については、学生掲示板及びホームページ掲示板にて通知しますので、必ず確認してください。

申込の手続きはすべて事務局を通じて行ないますが、本人の住民票やご両親の所得に関する証明書などの添付書類の入手に要する日数を見込んで、余裕をもって手続するようにしてください。

●提携信販会社の教育ローン

本学では株式会社ジャックスと提携し、入学金や授業料などの借入が簡単な手続きで利用できる教育ローンを準備しています。（ただし、金融機関の信用調査がありますので、その結果によっては借入ができない場合もあります）

利用対象	入学金・授業料などの納入金 （信販会社の審査によっては利用できない場合があります）
融資限度額	10 万円以上 500 万円以下 （1 回の利用金額は大学が発行する納入用紙に記載されている金額が上限となります）
契約者	本学入学・在学者の親権者かつ安定収入のある方
利率	年率 2.5%（期間中固定金利） （2019 年２月４日現在）
返済方法	在学中は金利のみの支払い。返済期間は最長 15 年まで選択できます（繰上げ返済可能）。
お問合せ先	株式会社ジャックスコンシューマーデスク（TEL 0120-338-817）

●国の教育ローン

「国の教育ローン」とは、日本政策金融公庫（旧国民生活金融公庫）が取り扱う融資制度です。日本政策金融公庫の各支店のほか、最寄の金融機関の窓口でも取り扱っており、保護者の方が直接申込・契約をします（インターネットでも申込み可能）。

利用対象	本学入学・在学者の保護者
融資限度額	学生 1 人につき 350 万円以内
融資対象	・大学納入金（入学金・授業料・施設設備費など） ・受験にかかった費用（受験料・受験時の交通費・宿泊費など） ・住居にかかる費用（アパートの敷金・家賃など） ・教科書代、道具代、通学費用、学生の国民年金保険料など ※今後 1 年間に必要となる費用がご融資の対象となります。
利率	年率 1.78%（2019 年２月現在） ※利率は金融情勢によって変動します。
返済期間	15 年以内
お問合せ先	詳しくは、「教育ローンコールセンター 0570-008656」へお問い合わせいただくか、日本政策金融公庫のホームページをご覧ください。

3 諸手続き

3-1 各種証明書の発行

証明書の発行申請は、事務局にて受け付けています。学生証を提示し、所定の手数料を添えて申請を行なってください。

発行は、申請日の翌業務日となります。当日発行は受け付けません。時間に余裕をもって申請するようにしてください。

分類	証明書名称	手数料	備考
在学・在籍	学生証（再交付）	1,000 円	申請時には本人証明書類（保険証、運転免許証等）が必要
	通学定期券発行控（再交付）	200 円	
	在学証明書	200 円	在学者用
	在籍証明書	200 円	休学者用
	在籍期間証明書	200 円	退学・除籍者用
成績	単位修得・成績証明書	200 円	
卒業	卒業見込証明書	200 円	4 年次以降発行可
	卒業証明書	200 円	
資格取得	指定科目修得単位証明書	200 円	一級・二級・木造建築士試験受験者用、二級建築施工管理技術検定試験受験者用
	博物館に関する科目の単位修得証明書	200 円	博物館学芸員資格取得志望者用
	資格取得見込証明書	200 円	
健康	健康診断書	200 円	当該年度に本学で受診した者のみ発行可
その他の証明書		200 円	
各種英文証明書		1,000 円	
学生割引証（学割証）		0 円	科目等履修生・聴講生は発行不可

窓口	事務局
場所	西館　1 階
受付時間	平日 9：00 ～ 17：30（土・日・祝祭日は除く）
ＴＥＬ	075-525-1515

3-2 通学定期券・学割証

●通学定期券

通学定期券は、学生証と通学定期券発行控を交通機関の定期券発行所に提示して購入します。なお、引越等により住所が変更した場合、旧住所のままでは定期券の購入ができない場合がありますので、すみやかに事務局へ「住所変更届」を提出してください。**[→ 3-3　個人情報の変更]**

●学割証（学生割引証）

JR であれば片道区間内において営業キロが 100㎞を超えて旅行する場合に利用できます。急行料金等を除き大人普通旅客運賃が 2 割引となり、有効期限は発行の日から 3 か月以内です。

学割証の交付を受けるには、事務局に備えている「学割証交付願」に記入し、学生証を提示して申し込んでください。**[→ 3-1 各種証明書の発行]**

この制度は「修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与する」趣旨の下に定められたもので、学生はみだりにこれを請求することはできません。また、不正に使用した場合、本人はもとより大学も学割停止処分を受けることがありますので、特に注意してください。

●学生団体旅行割引証

学生・サークルなどの合宿等で、8名以上が同一行程で旅行する場合、学生団体割引証を利用することができます。鉄道・船は普通運賃が5割引、バスは2割引になります。利用する場合はJR各駅、または旅行代理店等から所定の用紙の交付を受け、事務局窓口に団体責任者が提出してください。なお、この場合教職員1名以上の引率者が必要です。

3-3 個人情報の変更

●変更届の提出

大学に届け出ている個人情報に変更があった場合、すみやかに以下の書類に記入して事務局に申請しなければなりません。その際、印鑑が必要となりますので、忘れずに用意してください。

個人情報の種類	提出書類
・入学手続時に登録した保証人の変更	「保証人変更届」
・現住所の変更	「住所・電話番号・氏名等変更届」
・保証人住所（実家住所）の変更	
・携帯電話番号、メールアドレスの変更	
・保証人電話番号の変更	
・氏名の変更	

●携帯電話・メールアドレスについて

大学からの連絡には原則掲示板を利用しますが、個人宛の呼び出しや、緊急を要する場合には、掲示板と併せて、学生皆さんの携帯電話もしくはメール宛に連絡を行います。電話番号やメールアドレスを変更した際は、すみやかに届出を行なってください。

「メールアドレスが変わっていたので大学からの連絡が届かなかった」等のトラブルについて、大学は責任を負いかねます。学生生活に必要な情報は自ら確保しなければならないことを自覚し、常に連絡の取れる状態を保つように心がけてください。メールフィルターの解除忘れにも注意してください。

3-4　通学について

東山キャンパスの最寄り駅は京阪本線「七条駅」とバス停「七条京阪前」です。

◆自動車・バイク通学は厳禁

本学では自動車・バイク通学を一切禁止しています。東山キャンパス周辺では交通量も多く、極めて危険な状況にあります。また、交通事故による補償問題から学業の継続ができなくなる場合もありますから、通学には公共交通機関を利用してください。

◆自転車通学は自粛を

自転車置き場には限りがありますので、通学には原則、公共交通機関を利用してください。自転車通学を希望する場合は、入学前希望調査票にて申請が必要です（利用料 12,000 円 / 年）。

希望者が多数の場合、抽選になりますのでご了承ください。抽選結果は新入生ガイダンスでお知らせいたします。

許可を受けた学生は、決められた駐輪場に整頓して駐輪し、交通ルールを守り、近隣住民への迷惑や他人の通行の妨げになるような行為はしないでください。駅周辺の放置自転車・バイクは大きな社会問題となっています。本学への通学は JR 京都駅から徒歩でも可能な距離にありますので、駅周辺には自転車などを放置しないようにしてください。

また、駐輪場内での盗難・事故に関して大学は一切責任を持ちません。

抽選に外れた場合は下記の駐輪場をご利用ください。

・七条東駐輪場（屋根付き）

1 日 150 円 , 1 ヵ月定期 2,700 円

☎ 0120-3566-21

定期申込み　https://biz1.ecopool.jp

・七条西駐輪場（屋根なし）

1 日 150 円

☎ 0120-9235-21

◆通学定期乗車券の購入

本学の学生が通学を目的として、交通機関の定期乗車券を購入する際にのみ、割引制度を受けることができます。通学定期乗車券の購入は、現住所最寄り駅から大学最寄り駅までの最短区間とし、遠回りや現住所、大学最寄り駅を超える区間の定期券は購入できません。

通学定期乗車券の購入する際は以下のものが必要です。

- 在学確認票・通学定期乗車券発行控（入学式にて交付予定）
- 学生証（入学式にて交付予定）
- 定期乗車券購入申込書（交通機関定期券販売所で交付）

注意）不正購入の禁止について

区間を偽っての購入や、通学以外の目的（サークル活動・アルバイト通勤など）で通学定期を購入することは不正購入となります。不正購入はいかなる場合であっても許されません。

3-5　定期健康診断

毎年春に健康診断を実施します。必ず受診してください。また、4 年生で就職活動等に必要な健康診断証明書は、健康診断後 2 ～ 3 週間で発行します。

3-6　学生教育研究災害傷害保険(学研災)・学研災付帯賠償責任保険(付帯賠責)

●学生教育研究災害傷害保険（学研災）

全学生には、本保険に加入していただきます。この保険は、**加入者本人の怪我に対する補償**になります。

授業中や課外活動での怪我や、通学途中や課外活動が行われている場所への移動中の怪我などが保険の対象となり、通院日数に応じて学生に保険金が支払われます。入院の場合は１日から、通院の場合は内容によって適用される最低通院数が決まっています。

手続方法	万一怪我をした際には、まず事務局に連絡してください。 申請に必要な書類をお渡しします。

●学研災付帯賠償責任保険（付帯賠責）

学生教育研究災害傷害保険が本人の怪我に対する補償であるのに対して、この保険は、**学生が他人に怪我を負わせた場合や、他人のものを壊すなど法律上の賠償責任を負った場合に対する補償**になります。本保険についても、全学生に加入していただきます。

手続方法	万一事故が発生したら、まず保険会社に電話で連絡してください。 氏名・年齢・大学名・事故発生の日時・場所・事故の原因・被害の程度を伝えてください。 **【フリーダイヤル 0120-868-066（東京海上日動学校保険コーナー）】** その後、事務局に連絡してください。

保険の種別

種別	学研災	付帯賠責
補償対象	本人の怪我に対する補償	学生が他人に怪我を負わせた場合や、他人のものを壊すなど法律上の賠償責任を負った場合に対する補償
補償内容	死亡保険金　最高２千万円 医療保険金　３千円～30万円　等	対人賠償と対物補償を合わせて１事故につき１億円限度
補償の対象となる事故の範囲	①正課中	
	講義、実験、実習、演習または実技による授業を受けている間の事故 ※実習には社会活動・インターンシップも含みます。	
	②学校行事中	
	大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式など教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間の事故	
	③キャンパス内にいる間	
	①②以外で学校施設内にいる間	
	④課外活動（クラブ活動）中	
	大学の認めた学内学生団体の管理下で行う学校施設外での文化活動または体育活動を行っている間の傷害事故	インターンシップまたはボランティア活動の実施を目的とした組織として承認を受けた学内学生団体が行うインターンシップまたはボランティア活動中の加害事故
	⑤往復中	
	通学中および学校施設相互間の移動中の事故	住居と活動場所となる施設との間の移動中の加害事故
	⑥学校施設等相互間の移動中	
	大学が教育活動のために所有、使用又は管理している施設の相互間の移動中の事故	

4 大学施設

4-1 事務局

事務局は西館１階中央にあります。学割発行、証明書発行業務に加え、履修申請や授業等での提出物等の受付を行っています。また、直接事務局からメール、電話連絡することがありますので、連絡を受けた場合、必要に応じて事務局へ来るようにしてください。

4-2 掲示板

●学生掲示板及び京都美術工芸大学ホームページ掲示板による連絡について

大学から学生への連絡は、原則として西館１階に設置された学生掲示板にて行います。

また、学生掲示板に貼り出すと同時に、大学のホームページ上にある、在学生がアクセスできるホームページ掲示板にも掲載します。

掲示板には、台風・地震等の自然災害により学生の通学に危険が伴うと判断した場合や、交通機関の乱れにより通常授業を実施することができない場合の授業開始時刻の変更・休講措置など、緊急性の高い情報についても掲載しますので、毎日確認する習慣を身につけてください。

大学が掲示した事項については、学生が周知したものとして扱います。見落としによる諸手続きの遅れや就学上の支障が発生した場合は、学生個人の責任となりますので、十分に注意してください。

※ホームページ掲示板の利用方法はガイダンスにて説明します。

【主な掲示内容】

①授業関連全般（休講、補講、教室移動等）
②学生呼び出し
③定期試験時間割
④試験に関する注意事項
⑤課題レポート内容
⑥図書延滞者通知
⑦サークル・クラブ関連連絡事項

●展覧会ポスター・作品公募情報

大学に案内のあった美術館や博物館の展覧会ポスター、また、作品公募に関する案内状を、アクティブラーニングゾーン及び所定の掲示板に掲示しています。招待券や割引券の用意がある場合もありますので、気軽に利用してください。

●携帯電話・メールによる連絡について

大学からの緊急連絡や、個人的な手続き等に係る連絡については、携帯電話やメールを利用する場合があります。

入学時に登録した電話番号・メールアドレス宛に通知しますが、情報に変更があり連絡がつかず、手続き等に支障が生じた場合には、学生個人の責任となります。常に大学からの連絡を受けられるよう注意するとともに、個人情報に変更が生じたときにはすみやかに事務局まで届け出てください。**[→ 3-3　個人情報の変更]**

4-3　アクティブ・ラーニングゾーン

少人数のグループディスカッションからプレゼンテーションまで、さまざまな使い方ができるゾーンです。43 インチモニターが設置されたコーナーや A2 サイズまでの出力が可能な複合機が設置され、各自のノート PC を活用した情報の共有と学生の学びに寄与します。

授業だけでなく、放課後などのグループ学習や自治会・サークルなど、課外活動のミーティングなどにも活用してください。

4-4　図書館

南館 2 階の図書館は、図書や雑誌に加え、電子情報などさまざまな資料を揃えています。また、ネットワークを通じ、図書館所蔵資料の検索や国内外のオンライン・データベースを利用することができます。

●図書館の利用について

入館や図書の貸出には学生証が必要ですので、必ず携帯してください。

開館時間	平日　10:00 ～ 19:00（授業期間中） ＊開館時間は変動する場合があります。ホームページにて確認してください。
貸出冊数	５冊まで
貸出期間	２週間

●蔵書検索サービス

パソコンやスマートフォンから本学図書館に所蔵する資料を検索することができます。

https://sv1.opac.jp/aop/cgi-bin/index.cgi?Libld=164r5fr

●相互貸借サービス

本学に所蔵のない資料は他大学図書館等へ借用・複写を依頼することができます。また、特定の資料を直接他大学に赴き閲覧することもできます（事前に図書館の方で所蔵確認後、紹介状を発行します）。

4-5　デジタル・ラボ

図書館に隣接するデジタル・ラボは、最新鋭コンピュータが設置されたスペースです。ハイスペックなマシンで 3DCG、アニメーションソフトなどを駆使したクリエイティブな画像制作、プレゼンのための動画編集などのデジタル技術にチャレンジできます。

4-6　諸教室

●教室の使用時間について

講義・演習系の諸教室は、平日の 8 時 30 分から 20 時までの間で利用できます。土日・祝日の利用は原則として認めません。土日･祝日での利用可能となる教室は、一部の演習室と実習室です。

●実習室・演習室の使用時間について

各実習室・演習室の開放時間は以下の通りです。

休日（土・日・祝日）も開放していますが、平日よりも利用可能時間が短くなっていますので

ご注意ください。また、休日の利用時には、各演習室、実習室に配置している、「休日実習室利用記録表」に氏名及び入室時間等を記入してください。

使用可能時間	平日	8：30 ～ 20：00
	休日	8：30 ～ 17：00

※上記に案内している時間は変更する場合があります。

4-7 カフェテリア

南館 1 階にあるカフェテリアには、約 200 名の席が配置されています。昼休みの食事の際や自習室として利用してください。夜は 20 時まで開放します。

4-8 学生食堂

南館 1 階のカフェテリア内には学生食堂があります。また、学生食堂横の自動販売機では、軽食等の販売も行われていますので、食堂の営業時間外などにはそちらを利用して下さい。

食堂営業時間：平日 11 時から 14 時半まで（授業期間中）

4-9 文具コーナー

西館 2 階の文具コーナーは河原町五条の画材店・画箋堂が運営いたします。
実習・演習にて使用する材料や道具、文具類などを学割価格で販売いたします。
本店と連携し、商品の取寄せや大判出力サービスなども利用可能です。
営業時間：平日　10 時から 17 時まで（授業期間中）
連絡先：ＴＥＬ：075-341-3020
　　ＦＡＸ：075-341-3055

画箋堂

〒 600-8029　京都市下京区河原町通五条上る東側
ＴＥＬ：075-341-3288
ＦＡＸ：075-343-5733

4-10 工作機械室

北館 1 階および 2 階に工作機械室があります。主に、木材加工に使用する部屋ですが、非常に危険な電動工具が配置されています。原則、学生の単独使用は禁止となっているので、あらかじめ担当教員の指導に従うように留意ください。なお、別冊「防災・安全対策マニュアル」には、使用上の注意事項が記載されていますので、使用前には必ず一読するようにしてください。

4-11 有料ロッカー

学生の購入する PC を収納することのできるロッカーを西館 3 階ザインラボの前の廊下に配置しています。ダイヤル錠の小型ロッカーです。利用者は本人の責任において管理するようにしてください。利用についての詳細は、事務局にて確認してください。

5 課外活動

5-1 京都美術工芸大学認定サークル・クラブ

●サークル・クラブの結成について

京都美術工芸大学の学生は、書類提出等の手続きを経てサークルを結成することができます。サークルは、結成後１年間以上の継続した活動がある場合、所定の手続きを経てクラブに昇格し、活動のための補助金交付を申請することができます。

サークル・クラブ活動に関する相談は、学生自治会もしくは事務局にて受け付けます。

◆平成 30 年度　京都美術工芸大学　サークル結成とその後のながれ

1

「京都美術工芸大学課外活動等に関する内規」を事務局にて受け取る
以下の書類を作成し事務局に届け出る

必要書類
①サークル結成届
②会員名簿
③規則書
④誓約書
⑤活動計画書

※課外活動を行う１ヵ月前までに事務局に届け出ること（サークル結成承認までに約１ヵ月要する）

▼

2

教学委員会（学生部会）において協議
教授会において審議、届出が受理されサークル登録完了
学長を通じて結成承認通知（掲示板にて）

※書類不備等についても掲示板にて通知するので確認すること

▼

3

学外活動届や会員名簿（更新報告）等の届出を行ない活動する

※活動に関する相談は、事務局および教学委員会学生部会にて受付

▼

4

＜サークルの継続＞

活動継続の為に必要な届出書類
（毎年４月に提出）

①継続届
②会員名簿
③活動実績報告書

＜クラブ申請＞

サークルの希望により教学委員会の協議を経てクラブへ昇格することができる
クラブは、補助金を申請することができる

※クラブへ認定を申請する場合、サークル結成後２年以上経過していること
※活動計画書・活動実績報告書・サークル収支決算書の届出が必要となる

▼

5

＜クラブの継続＞

活動継続の為に必要な届出書類
（毎年４月に提出）

①継続届
②会員名簿
③活動実績報告書
④クラブ収支決算書
⑤次年度クラブ収支予算書
⑥補助金交付申請書

注意事項

クラブ・サークルを解散するときには、「クラブ・サークル解散届」を事務局を通じ学長に届け出ること
教学委員会は、全クラブ・全サークル活動に対して学生自治会総会前に監査を行う

● KYOBI 公認クラブ・サークル

現在、以下のクラブ・サークルが結成承認されています。クラブ・サークルに入部したいときは、各自クラブ・サークルの部長に申し出てください。

【平成 30 年度公認クラブ・サークル

クラブ	軽音楽部	料理交流サークル
サークル	サブカルチャー交流サークル	TRPG 同好会（様々なセッション）
	スポーツサークル	Craft community
	卓上遊戯研究サークル	ぶらり伝統空間
	AAAOH(Art & Architecture of Higashiyama)	器楽同好会
	バスケットボール	美術部
	サイクリングサークル	御朱印サークル
	DOLL サークル	写真サークル
	UTAN.F.C	バドミントンサークル

5-2 課外活動における注意事項

別冊の「防災・安全・衛生対策マニュアル」を参照してください。

6 充実した学生生活のために

6-1 キャンパス・マナー

●キャンパス美化

教室、廊下、手洗所等は常に清潔にし、快適な学習環境の維持に努めてください。施設壁面、手洗所個室、教室の机等への落書きは厳禁です。

●身だしなみについて

極端に流行を追うものや、華美な服装など、学生としてふさわしくない服装はしないように気をつけてください。また、キャンパス内でのイヤホンやヘッドホンの使用は慎んでください。

選択するコースの担当教員の指導に従って、身だしなみを整えてください。

●道具・材料の整理整頓について

限られた実習・演習室を快適に利用するためにも、道具・材料の整理整頓に心掛けるようにしてください。特に、以下の点は各自遵守するにしてください。

1．不要な材料は廃棄ないし所定の場所にまとめること
2．共有で使用する道具は、使用後に必ず元の場所に戻すこと
3．個人の材料を必要以上に教室に持ち込まないこと
4．机上に、材料・作品・道具を放置することなく、作業後には片付ける習慣を身に付けること
5．共用で使用する机・機器類は、次に使う学生へ配慮して、片付けや清掃を徹底すること

●遺失物の取扱いについて

万が一キャンパス内で個人の持ち物を紛失した場合､事務局まで報告してください｡届出のあったものについては、本人確認の後にお返しします。

原則として、個人の持ち物の紛失については、本学では責任を負いません。各自責任をもって荷物の管理を行ってください。

●郵便物・宅急便について

学生個人の私的な郵便物や荷物の発送・受け取りについて、大学では取次ぎできません。必ず本人住所に送るように手配してください。

実習授業や行事準備にて使用する資材・材料等を購入し、やむを得ない理由で大学宛に送付する場合は、必ず担当教員の許可を得てから、事前に事務局まで到着時間等を連絡してください。ただしこの際、着払いの利用はできません。

6-2 アルバイトについて

学習に支障のない範囲での適度なアルバイトは、社会的にも多くのことを学ぶことができ、学生の成長には有効であるといえます。しかし、勉学をおろそかにしてまでもアルバイトに熱中してしまうと、学生として本末転倒になってしまうことは十分認識しておく必要があります。大学４年間を計画的に生活していく中で、「必要最小限のアルバイト」を選択することを勧めます。また本学では、学生として相応しくない以下のアルバイトは認めていません。

・運転免許を必要とする業務
・夜 10 時以降の業務
・風俗営業　等

学院や大学宛に募集依頼のあるアルバイトを、所定の掲示板に貼り出します。利用する場合は、記載された連絡先に各自連絡をし、自らの責任で就労してください。

※留学生は日本で働いて、収入を得ることはできません。ただし、勉強の妨げにならない程度であれば、入国管理局から許可を得て、決められた時間内でアルバイトができます。アルバイトを行う前に必ず資格外活動許可申請の手続きを行ってください。

※別冊「安全・防災・衛生対策マニュアル」も併せて参照してください。

6-3 悪徳商法に注意

●訪問販売等の悪徳商法

学生を対象とした悪徳商法には各自十分に注意してください。魅力的に聞こえる話には必ず危険・リスクがひそんでいます。軽い気持ちで承諾しないためにも、以下の心得を忘れないようにしてください。

◆曖昧な返事をしないできっぱりと断る。
◆判断できない場合は、一旦話を保留にして家族などに相談する。
◆契約の際には、契約書に書かれている文章を十分に確認する。
◆契約したのちに、契約解除する手段として「クーリングオフ制度」を活用する。

街頭で「家庭教師をしませんか」「サークルに入りませんか」などというふれこみで、登録カード等に氏名、住所、携帯電話番号等をアンケート方式で書き込ませ、個人情報を聞き出そうとする動きが目立っています。

これらは、訪問販売や電話による勧誘など、高額商法、悪徳商法に使用される恐れもあります。むやみに知人以外に個人情報を教えないことが重要です。

●クーリングオフ制度について

クーリングオフ制度は、消費者が訪問販売などの不意打ち的な取引で契約したり、マルチ商法などの複雑でリスクが高い取引で契約したりした場合に、一定期間であれば無条件で、一方的に契約を解除できる制度です。被害を回避するために、契約後でもあきらめずに迅速に対応することが肝心です。

【参考サイト】

◆独立行政法人　国民生活センター　http://www.kokusen.go.jp/
◆京都府消費生活安全センターくらしの情報ひろば
http://www.pref.kyoto.jp/shohise/

【相談先】

消費者ホットライン〈全国統一番号〉 188（年末年始を除く毎日利用可）

窓口	在住地域	相談時間	電話番号
京都府消費生活安全センター	京都府	平日 9:00 ～ 16:00	075-671-0004
京都市消費生活総合センター	京都市	平日 9:00 ～ 17:00	075-256-0800

※別冊「安全・防災・衛生対策マニュアル」も併せて参照してください。

6-4　薬物乱用防止について

昨今、大学生を含む若者の間で、不正薬物（大麻・覚せい剤等）の所持、使用、売買等が行われる事件が頻発し、大きな社会問題となっています。

本学は、健全な社会人として活躍できる人間の育成を目指しています。時代を切り拓き、将来を担う若者に、社会に出ていくための健全な判断力と倫理観を徹底することは、大学の社会的責務です。

学生の皆さんには、一人ひとりが社会的責任を負っていることを自覚し、本学の構成員としての誇りを持って、不正薬物（大麻・覚せい剤等）乱用防止に向けて行動することを期待します。

※別冊「安全・防災・衛生対策マニュアル」も併せて参照してください。

6-5　宗教勧誘に注意

若者を洗脳して、献金・募金活動を強制したり、マインドコントロールによって教祖と呼ばれる人物の意のままに他者を操るなど、時に反社会的な活動を行っている団体があります。これらの団体は現代社会の問題や関心に乗じて、真剣に物事を考える学生の心の隙間に入り込んで活動を進めることが特徴です。

街頭でのアンケートや「ビデオを無料で見てみませんか」といった勧誘、また、玄関口まで訪問しての勧誘には決して応じず、強い気持ちで断る勇気をもってください。

※別冊「安全・防災・衛生対策マニュアル」も併せて参照してください。

6-6　構内での喫煙について

大学構内の喫煙は全面禁止となっています。また、京都市では、条例により路上喫煙をしないよう努力義務（一部指定区域では路上喫煙禁止）が課せられていますので、キャンパス近隣でのたばこのポイ捨てなど、ルールを守らない学生を見かけたら互いに注意するようにしましょう。

6-7　構内警備について

平日は 8 時から 13 時及び 17 時から 21 時、休日・祝祭日は 8 時から 18 時までの間、警備員がキャンパス内外の巡回を行っています。駐輪場の利用状況も監視することになっています。不審者等を発見した際には警備員に連絡してください。また、実習室、演習室等の施錠管理も行いますので、指定時間までには退出するようにしてください。

6-8　学生相談について

本学では、より充実した学生生活の支援のために、全学生を対象として「学生相談」を行っています。学生生活を送るうえで、自分の思いが分からなくなった時やどうすればいいのか迷った時、あるいは元気が出ない、眠れないといった時に、専門のカウンセラー（臨床心理士）がお話をうかがい、あなたが自分の心とじっくり向き合って解決の糸口を見つけていくお手伝いをします。また必要に応じて適切な窓口や医療機関等を紹介します。相談の秘密は固く守られます（一部例外があります。詳細はカウンセラーにお尋ねください）。事前予約をお勧めしますが、当日に空きがあれば予約なしでも相談できます。

相談日：原則として毎週（月）14 時～ 17 時 30 分

場　所：医務室などの個室

事前予約方法：事務局に申し込んでください

※別冊「安全・防災・衛生対策マニュアル」も併せて参照してください。

6-9　キャンパス・ハラスメントの防止のために

本学では、全ての学生と教職員が個人として尊重され、いきいきと学び、教育・研究に従事し、安全で快適に活動できるコミュニティを創り出すことが重要と考えています。

●キャンパス・ハラスメントとは

ハラスメント（Harassment）とは、不適切な言葉や行為によって、相手に不快感や不利益を与え、就学や就労環境などを悪化させることを意味します。キャンパスにおいて起こりうるハラスメントをキャンパス・ハラスメントといい、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント、ジェンダー・ハラスメント、アルコール・ハラスメントなどが含まれます。

●ハラスメント相談室

キャンパス・ハラスメントの被害にあったと思ったときは、一人で抱え込まず、悩んでいる状況を友人や知人など信頼できる身近な人や、ハラスメント相談室に伝えてください。ハラスメント相談室では、関係者のプライバシー尊重と秘密厳守について十分に配慮し、あなたと一緒に解決への道を探っていきます。

京都美術工芸大学　ハラスメント防止対策委員会

相談から解決までのフローチャート

ハラスメント相談室 に、悩んでいる状況を伝えてください。

1
●相談方法●
a. 担任の先生など、身近な教職員への相談
◆相談室を紹介、希望に応じて面談に同席してもらいます
b. 相談員との面談
c. メールでの相談
◆送信先：soudan@kyobi.ac.jp
d. 手紙での相談
◆送付先：〒605-0991 京都市東山区川端通七条上ル
京都美術工芸大学　ハラスメント防止対策委員会

2
あなたの悩みを解決するために、ハラスメント委員会による話し合いをおこなってもよいか、選択してください。
委員会による対策案の検討を希望する。
自力で解決したい。

3
回答日を通知します。
それまでの間、必要を感じたらいつでも相談室に連絡してください。

4
委員会より、対応策を提案します。
相手に対して委員会が直接対応することを希望しますか？
希望する。
自分で対処を試みる。

5
委員会より、対応の結果を報告します。

あなたが安心できるまで、何度でも話を聞きます。
解決への道を一緒に探っていきましょう。

7 学校法人二本松学院の在学生等に関する個人情報の取扱いについて

学校法人二本松学院では、平成１７年４月１日に施行された「個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）」、および「学校法人二本松学院　個人情報の保護に関する規程」を遵守しながら、本学院の学生およびその保証人等（以下「在学生等」と記します）に関する個人情報の取扱いを安全かつ適正に管理することに努めます。

本学院の取扱う在学生等の個人情報およびその利用目的は以下のとおりです。

7-1　在学生等の個人情報の取得とその利用目的について

▶入学時に取得する個人情報

※在学生の氏名、生年月日、住所、電話番号、出身校、下宿等の住所および電話番号、家族構成、通学方法等
※保証人等の氏名、住所、電話番号、勤務先、緊急時の連絡先、続柄等

以上の個人情報は、学籍簿等各種帳簿類への記載、履修科目の登録、授業の実施、試験の実施、成績処理、成績の通知、学習指導など、在学生の教育および教務上必要な事項の実施・指導・連絡のために、また、在学生の生活指導上、または健康管理上必要がある場合の指導・連絡、学内行事の連絡、学納金に関する事項の請求・連絡、その他在学生の事務の処理を行う上で必要な事項の指導・連絡等のために利用します。

※既往症、現在の健康状況、健康上の留意事項等

以上の個人情報は、①在学生に対する日常的な健康安全管理の実施・指導等のために、また、②本学院における在学生の健康管理策等を検討する場合の資料として、可能な限り匿名化した上で、利用します。

※出身校から提出された指導要録および調査書等（学業成績、出席状況等）

以上の個人情報は、在学生の教科指導、または生活指導等を実施するときの参考として利用します。

▶入学後に教育活動等の中で取扱う個人情報について

※出席状況等
※学業成績および各種学力試験（定期試験、校内模擬試験、外部模擬試験等）の成績、修得単位の状況
※学習指導または生活指導上の課題事項
※クラブ活動、自治会活動、ボランティア活動等の情報
※各種表彰等
※各種検定試験の成績、合否、取得資格等

以上の個人情報は、学習指導、成績判定、単位認定、卒業認定、指導要録、調査書等の各種帳簿への記録、進学指導、就職指導など、教務上必要な事項の実施・指導・連絡のために、また、生活指導上必要がある場合の指導・連絡、その他在学生の学務の処理を行う上で必要な事項の指導・連絡のために利用します。

※健康診断結果、教職員との相談内容等

以上の個人情報は、在学生に対する日常的な健康安全管理の実施・指導等、また、在学生に対する生活指導等のために、本学院における在学生の健康管理策等を検討する場合の資料として、可能な限り匿名化した上で利用します。

※授業料等の納付状況等

以上の個人情報は、学納金に関する事項の請求・連絡等のために利用します。

※図書館利用状況等

以上の個人情報は、図書館における蔵書、その他の施設設備、企画等に関する在学生のニーズおよびその動向等を把握し、それらの蔵書・企画・施設設備等の充実を図ることを検討する場合の資料として利用します。

※進学・就職試験の合否、進路先等

以上の個人情報は、①当該在学生の学業成績および各種学力試験等とともに冊子に掲載するなど、後に続く在学生の進路指導・就職指導等の参考として役立たせるために、また、②在学生の出身校からの照会等に応じて同校に通知するために利用します。

※奨学金等の利用状況および卒業時に提出される書類等

以上の個人情報は、在学生の奨学金の給付等に関し相談および指導をするために利用します。

※証明写真（身分証明書等）

以上の個人情報は、学生個人記録書類に貼付して学習指導および生活指導などに役立たせるために、また、各在学生の携帯する身分証明書に貼付して、学外生活において適切な保護を受けさせるなどのために利用します。

※授業・部活動・各種行事の際に撮影・録音した写真、映像、音声等

以上の個人情報は、学校案内その他の PR 誌および DVD、またはウェブサイト等に掲載し、本学院の教育活動、学内の内容等を外部に対し広報等するために利用します。

7-2 個人情報の安全管理について

本学院は、個人情報が不正に利用されたり、紛失・滅失、改ざん及び漏洩することのないよう厳重に管理します。

7-3 在学生等の個人情報の第三者への提供について

・在学生の学期ごとの学業成績および各種学力試験の成績、出席状況その他在学生の学習指導、または生徒指導に有益と思われる事項、修得単位の状況、卒業認定の状況等は、郵送により保証人に対し提供します。

・在学生の学業成績、修得単位の状況等は、証明書の形式で、進学または就職の受験先に対し提供します（原則、本人の申し出により作成するもの）。

・在学生の学業成績、各種学力試験の成績、進学試験、または就職試験の合否等は、できる限り匿名化した上で冊子に掲載し、進路・就職指導用資料として、在学生および入学希望生に提供します。

・在学生の健康診断結果、在学生の出身校から取得した当該在学生の既往症および健康上の留意事項等は、在学生が傷病等により医療機関の診察等を受ける必要が生じた場合、または教育相談機関に相談等する必要が生じた場合に、医療機関、または教育相談機関等に対し提供することがあります。また、就職希望先から要請があれば、医療機関に健康診断書を作成依頼し、提供します（原則、本人の申し出により作成するもの）。

・在学生の授業・部活動・各種行事の際に撮影・録音した写真、映像、音声等は、本学院の教育活動および学内情報等の広報のために、卒業生向け冊子、各種案内その他の PR 誌、またはウェブサイト等に掲載して提供することがあります。

3　授業について

1 開講期

１年間を前期と後期とに分けた２つの学期(セメスター制)で授業を行います。授業科目によって、前期ないし後期で完結する科目と、通期で完結する科目があります。

開講期	授業期間	備　考
通　期	4月1日～3月31日	30週の授業期間で授業が完結します。
前　期	4月1日～9月30日	1セメスター（半期）の15週の授業期間で授業が完結します。
後　期	10月1日～3月31日	
集中授業	別途掲示連絡	一定の期間に集中して授業を行います。

2 授業時間帯

授業は、１時限90分です。１時限目の始業時間に遅刻しないように、ゆとりを持って通学しましょう。

時限	授業時間帯
1時限目	9：00～10：30
2時限目	10：40～12：10
昼休み（12：10～13：00）	
3時限目	13：00～14：30
4時限目	14：40～16：10
5時限目	16：20～17：50
6時限目	18：00～19：30

3 休講・補講

▶授業担当教員のやむを得ない事由・都合による休講

授業担当教員にやむを得ない事情が発生した場合には、授業を休講にすることがあります。学生への連絡には事前または当日に学内掲示板および、ホームページ上の掲示板にその旨を掲示します。休講に伴う補講掲示連絡も同様に行いますので、適時確認ください。

▶台風、地震等の自然災害などによる休講等

台風等の影響で通学上の問題が生じた場合には、休講の措置を講じることがあります。

この場合の休講・補講掲示連絡についても上記と同様、学生掲示板への掲示と同時に大学HPの在学生専用ページに掲示します。

○台風等の天候悪化の場合

警報が発令された場合の授業の取り扱いは以下のとおりです。

⑴午前６時までに、京都市内に特別警報又は暴風警報が発令されている場合は、休講とします。
⑵午前６時３０分までに前項の警報が解除された場合には、１時限からの授業を開始します。
⑶午前１０時までに前項の警報が解除された場合には、３時限からの授業を開始します。

⑷上記時間帯に、学生の居住地もしくは通学経路上の地域に特別警報又は暴風警報が発令されている場合は、公認欠席の申請を受け付け、公認欠席扱いとすることができます。
⑸授業時間内に特別警報又は暴風警報が発令又は発令見込みとなった場合は、適宜指示します。
⑹特別警報又は暴風警報が解除されていても、交通機関の運行の乱れにより登校が困難な場合は、公認欠席の申請を受け、公認欠席扱いとすることができます。
⑺特別警報及び暴風警報以外の警報では原則として平常授業となりますが、学生の安全確保の視点から総合的な判断により特別の処置を講じることがあります。

○交通機関の不通時の対応

交通機関の不通 ⇒①・②の指定区間において、全てまたは一部が同時に不通

①京阪線（出町柳～淀屋橋）
②ＪＲ線（大阪～米原）

交通機関の開通時刻	授業開始
午前 6 時 30 分までに開通	1 限から実施
午前 10 時 00 分に開通	3 限から実施
午前 10 時 00 分を過ぎても開通しない	終日休校

※各学生の通学経路上の交通機関の乱れにより、登校できない場合は公認欠席申請を受け付けます。（遅延証明書必要：各社ＨＰ掲載有）

4 公認欠席手続

授業は、学生生活の基本となるものであるため、出席することが重要です。ただし、次の①～⑧に該当する理由により授業を欠席した場合は公認欠席扱い（出席扱いになるわけでなく、その欠席により期末試験受験資格を失うことがないように配慮する）となります。

① 三親等以内の親族の忌引
　父母・配偶者・子　　－７日以内
　祖父母・兄弟姉妹　　－３日以内
　３親等までの親族　　－１日
② 学校保健安全法第 19 条及び同施行規則第 18 条の規定に基づく伝染病による出席の停止
　－医師の診断書による期間
③ 天災・ストライキ等により公共交通機関の途絶又は遅延　－事由の発生期間
④ 裁判員による裁判所の出廷　－裁判所が求める期間
⑤ 大学行事　－事由の発生期間
⑥ 学術・文化・体育活動における全国大会等への出場　－大学が認めた期間
⑦ 就職活動　　－大学が認めた活動
⑧ その他学長が認めた場合　　－大学が認めた期間

詳細については事務局に相談してください。

5 受講の上での心がまえ

学生の教室内受講時に守るべき受講マナーは、以下のとおりです。

・私語をしない
・携帯電話は使用しない
・途中入退室をしない
・飲食（ガムを含む）しない
・教室内では帽子をとる
・学生の途中入退室については教員の指示を受ける

上記マナーを守らない学生に対しては、教員から注意喚起を行います。また、シラバスへの明記に関わらず成績評価へ反映することがあります。

また、授業開始・終了時間の厳守はもちろん、各種提出物についても決められた締切日時を厳守してください。所定の締切日時を過ぎた事項について、大学は原則として一切配慮を行いません。

4　キャリア支援

本学では、大学の理念に基づき、「社会人基礎力」「学士力」「職業実践力」を養成する教育活動を行います。育てる人材像は「美術工芸に関する知識・技能」「社会に受け入れられる人間力」「美術工芸の将来を思考する能力」の３つの素養を身に付けた専門職業人です。

こうした教育上の目的を達成するためには、学生自ら入学時から職業観や勤労観を培い、卒業後に社会人として自立できる資質・能力を形成することが重要であり、きめ細かいキャリア形成支援を行います。具体的には、キャリア開発プログラム、キャリア形成科目、資格取得支援講座によって構成されています。

1 キャリア開発プログラム

キャリアサポートセンターが中心になって、学生一人ひとりが自分に適した職業的な自立を図れるよう、次のような「キャリア開発プログラム」を企画・運営し、初年次から卒業までの一貫した支援を行います。

1年次	自己発見レポート	普段の生活を明文化することで自身を再認識し、将来への目標づくりに活用するためのレポート（グループ面談資料）を提出してもらいます。
	グループ面談	自己発見レポートを通して、大学および大学外の生活に順応できているかどうかの確認、教養・演習・実習の履修状況の確認及び指導とGPAについて説明を行ないます。
	個人面談	教養・演習・実習の履修状況とGPAの確認及び指導、現時点でのコース希望・分野と進学先・就職先の確認などを行ないます。
2年次	キャリア面談	教養・演習・実習の履修状況とGPAの確認及び指導、インターンシップを控えて進学先・就職先や就職活動についての確認を行ないます。
3年次	就職ガイダンス	企業の求人活動は多様的です。就職スケジュール、求人情報など就職に関する諸問題をガイダンスします。
	キャリア支援講座Ⅰ	前期に開講。職業観・勤労観を培い、自己分析、企業研究、コミュニケーション能力の育成を図ります。また、インターンシップ履修者には本講座の中で事前学習等を実施します。
	キャリア支援講座Ⅱ	後期に開講。就活開始に向けてSPI,、エントリーシート、履歴書の書き方など実務的な演習を行います。また、インターンシップ履修者には、事後学習を行います。
	進路面談	教養・演習・実習の履修状況とGPAの確認及び指導、インターンシップを終えて２年生へのアドバイスや就職先・就職活動について確認を行ないます。
4年次	進路面談	学修状況の確認及び指導をするとともに、就職先や就職活動についてより具体的に確認を行ない、就職に繋がるように指導します。

2 キャリア形成科目

2-1 メディアリテラシー

「メディアリテラシー」とは、①新聞、テレビなどのメディアが提供するニュースや情報を主体的に読み解き、②積極的に活用し、③メディアを通じコミュニケーションできる能力、一などと一般に定義されます。情報は単に受けるだけでなく、積極的に収集し活用するもの。大学生活においても、日ごろからニュースや情報に対する感度を高め、自分の頭で考える習慣を身に付ければ、コミュニケーション能力がアップし、研究活動や就職活動にもプラスになります。

メディアに対する理解と関心を深めるため、第一線で活躍するマスコミ関係者をゲストスピーカーとして招きます。

2-2 しごと論

キャリア形成科目である「しごと論」は、1年次と3年次にそれぞれ「しごと論Ⅰ」と「しごと論Ⅱ」として開講しています。

「しごと論Ⅰ」では、入学して間もない学生に対し、多くの分野の「しごと」をとおして、人の心のありようを知ることや、人の知恵、努力の様をさまざまな講師の経験を踏まえて伝える内容になっています。

また「しごと論Ⅱ」では、社会人としての自覚の高揚や就職への助言、仕事に向かうべく姿勢を再認識させて、社会に対して新たな視点をもつ機会とするべく授業をオムニバス形式で展開します。

2-3 インターンシップ

「インターンシップ」はキャリア形成に向けての重要な科目であり、社会人として職場の中での実際の勤務を体験します。職場における課題の発見・解決能力を養い、職業・企業選択の確実性を高めるとともに、進路･就職先の開拓にもつながるよう、積極的に履修することが望まれます。

▶実習の方法

⑴ 事前学習：3年次前期に、社会人マナー研修、実習先マッチング、実習課題の設定、実習計画書の作成などの5回の事前学習を行います。
⑵ 実習期間:原則として3年次夏季休暇中の5日間(各日8時間勤務)を標準とします。ただし、実習先の事情等を勘案し、柔軟に対応する場合もあります。
⑶ 事後学習：3年次後期に、実習成果の発表会を開催します。
⑷ 実習先：教員やキャリアサポートセンターのアドバイスを受けながら、自ら受け入れ先を探します。
⑸ 実習先の評価：実習終了後、実習先からの実習学生に対する評価書を提出していただきます。

2-4 キャリア支援講座

キャリア支援講座Ⅰ（3年次前期)、キャリア支援講座Ⅱ（3年次後期）を通じて、業界･企業研究、時事問題、面接対策等を含む就職支援講座を開設します。就職を希望する学生は必ず受講してください。なお、本講座は、単位を付与する科目ではありません。

3 資格取得支援講座（キャリアサポートプログラム）

キャリア形成支援の一環として、就職に有利な「資格取得」に役立つ各種講座を提供します。

資格取得支援講座は、通常の教育課程で行うカリキュラムとは別に、資格検定試験にそなえた実力養成本位の講座を学内で開講し、本学の学生に受講資格を与えるものです。

徹底した集中学習により実力を養うことを第一義としています。希望者全員が受講できるように、あらかじめ開講日を定め、時間帯を工夫して実施する予定です。

▶ Wスクール講座

建築士試験の受験資格を取得するためには、大学等の教育機関で規定の科目を履修し、卒業する必要があります。

このWスクール講座とは、建築士の受験に必要な指定科目を、姉妹校である京都建築大学校（KASD）の２年間のカリキュラムで履修し、大学在学中の二級・木造建築士試験への合格を目指す、本学独自の講座です。

▶ 建築士受験対策講座

建物の設計を行うには、建築物に関して専門的な知識を有し、設計、工事監理その他の業務を行う「建築士」という資格が必要となります。建築士資格は、一級建築士、二級建築士、木造建築士に分かれています。

▶ インテリアプランナー資格対策講座

住宅や店舗・公共施設などの幅広い建築物を対象にインテリアの企画・設計から工事監理まで行う、インテリア設計士よりも高度な技術が求められる資格です。学科試験合格者にはアソシエイト・インテリアプランナー（準インテリアプランナー）の資格が与えられます。

▶ インテリア設計士（２級）資格対策講座

インテリア設計士（2 級）資格は、インテリアに関する設計・施工などの知識・技術・技能があることを証明する資格です。実技講座の大部分が授業内で開設されるため、インテリアの勉強をしながら資格取得にチャレンジ出来ます。

▶ 色彩検定対策講座

色に関する知識や技能を理論的、系統的に学ぶことによる色彩の実践的活用能力を身につけます。インテリアからグラフィックなどの幅広い分野で知識を活かせる文部科学省認定の技能検定で、色彩学の授業と集中講座でチャレンジ出来ます。

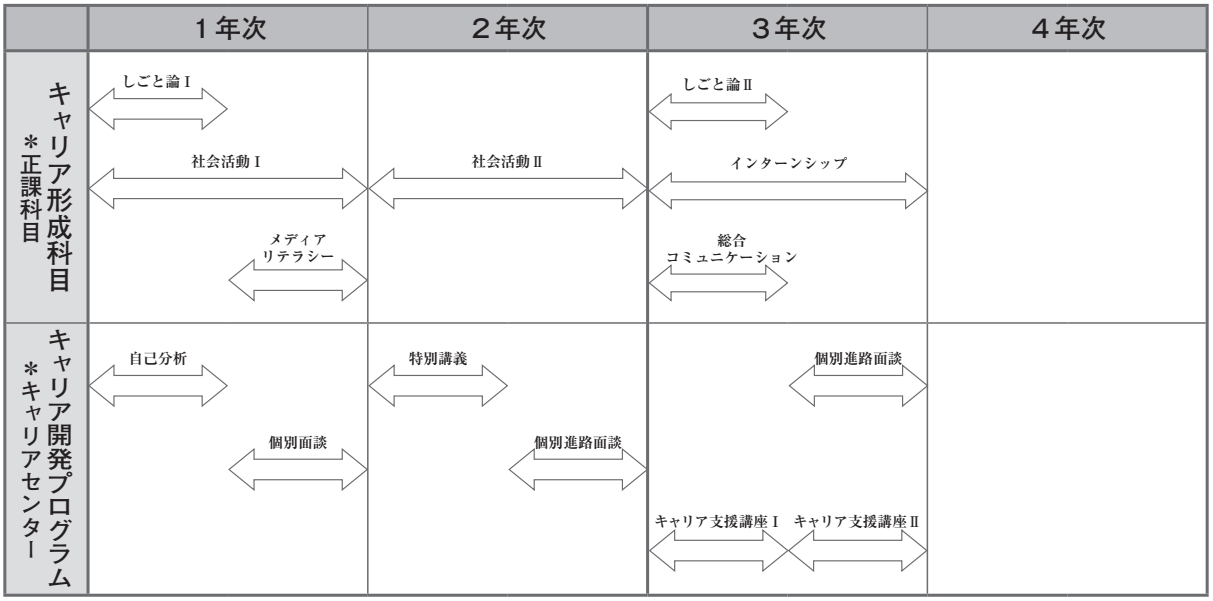
▶ Illustrator・Photoshop クリエイター能力認定試験講座

デザインやイラスト作成の必須ソフトウェアである Illustrator や Photoshop のスキルを証明するための試験です。操作方法の習得だけでなく、与えられた課題を的確・スムーズに行う力が試されるのが特長で、実践的なスキルを身につけることが出来ます。

▶ TOEIC 対策講座

TOEIC は国際的に通用する英語コミュニケーション能力を測定します。就職活動時に履歴書に資格として点数を記入でき、大学院進学に必要になることもあります。対策講座を通じ、キャリアに役立つ英語力を身につけます。

4 キャリア支援スケジュール



平成 31 年度　キャリアサポートプログラム一覧表

学年	区分	資格名称	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	二学科共通	TOEIC	☆ TOEIC 対策講座				試験							
		色彩検定	★「色彩学」受講						☆ 色彩検定対策講座	2級3級試験（中旬）				
	建築学科（美術工芸学科）	二級建築士 木造建築士	入学	KASD W スクール受講（1 年目）										
2年次	二学科共通	TOEIC	☆ TOEIC 対策講座				試験							
	美術工芸学科	2級インテリア設計士	★「デザイン作図演習」受講			学科実技試験								
			☆「学科対策講座」受講											
		2・3級インテリアパース	★「デザイン作図演習」受講				実技試験							
		インテリアプランナー						選定	★「インテリア設計」受講			選定	☆ IP 学科対策講座	KASD 卒業
	建築学科（美術工芸学科）	二級建築士 木造建築士	KASD W スクール受講（2 年目）										☆ 建築士学科対策講座	
3年次	二学科共通（建築士対策講座受講者以外）	Illustrator クリエイター能力認定試験	☆ 対策講座			認定試験								
		Photoshop クリエイター能力検定							☆対策講座		認定試験			
		TOEIC	☆ TOEIC 対策講座				試験							
	美術工芸学科	コンピュータグラフィック講座	☆ 3DCG クリエイター講座（前期）						☆ 3DCG クリエイター講座（後期）					
		インテリアプランナー	☆ IP 学科対策講座		学科試験			インテリアプランナー ☆ 対策講座（製図・パース）		製図・パース試験				
	建築学科（美術工芸学科）	二級建築士 木造建築士	☆ 建築士学科対策講座			学科試験	☆ 建築士対策講座（設計製図）		設計製図試験					

★：一般授業　　☆：対策講座

※上記日程は予定ですので変更する場合があります。

5 就職活動届・報告

就職活動を行う際には必ず「就職活動届」と「就職活動報告書」をキャリアサポートセンターに提出してください。（次ページ参照）

（例）

京都美術工芸大学　就職活動届

<table>
<tr><td>学　年</td><td colspan="2">年</td><td>提出日</td><td>平成　　年　　月　　日</td></tr>
<tr><td>学籍番号</td><td colspan="2"></td><td>氏　名</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">所属</td><td colspan="2">学科</td><td colspan="2">陶芸 ・ 木工 ・ 漆芸 ・ 彫刻</td></tr>
<tr><td colspan="4">総合デザイン</td></tr>
<tr><td colspan="4">文化財</td></tr>
<tr><td colspan="4">建築</td></tr>
<tr><td rowspan="6">就職活動内容</td><td>活　動　日</td><td colspan="2">欠席時限
（1～5時限）　　分類
（該当項目に✓）</td><td>報告書の要否</td></tr>
<tr><td>平成　　年
月　　日（　　）</td><td colspan="2">□会社訪問</td><td rowspan="2">報告書不要</td></tr>
<tr><td>平成　　年
月　　日（　　）</td><td colspan="2">□セミナー</td></tr>
<tr><td>平成　　年
月　　日（　　）</td><td colspan="2">□面接</td><td rowspan="2">後日報告書を提出</td></tr>
<tr><td>平成　　年
月　　日（　　）</td><td colspan="2">□筆記試験</td></tr>
<tr><td>平成　　年
月　　日（　　）</td><td colspan="3">□その他 （　　）
報告書の要否は別途確認のこと</td></tr>
</table>

企業・会社情報　（後日報告書を提出する活動のみ記入）

<table>
<tr><td>企業・会社名</td><td></td><td>連絡先TEL</td><td></td></tr>
<tr><td>住所</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>配属予定部署</td><td></td><td>担当者</td><td></td></tr>
</table>

※原則、当日の1週間前までに提出してください。

※提出先 ： キャリアサポートセンター

センター

（例）

就職活動報告書

該当項目に✓を記入

□面接　・　□筆記試験　・　□その他（　　）

学　　年	年	提出日	平成　　年　　月　　日
学籍番号		氏　　名	

日時	平成　　年　　月　　日　（　　）　　：　　～　　：		
企業・会社名		連絡先TEL	
住所			
配属予定部署		担当者	
当日の概要			
面接にて受けた質問事項と回答	**質問事項**	**回答**	
筆記試験の概要			
その他			

センター

履修の手引き

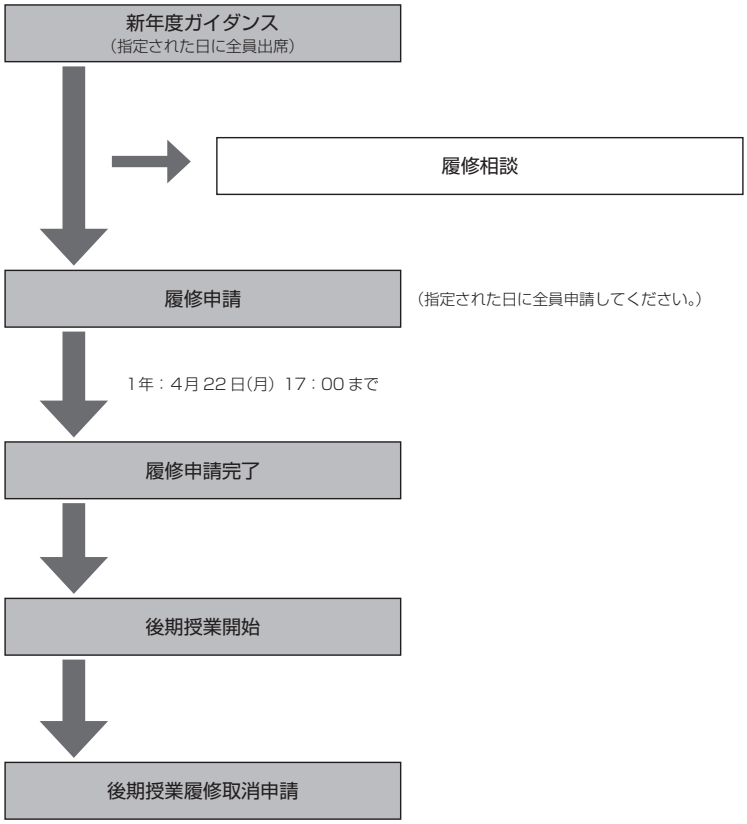
1　履修について

1 履修手続

授業科目の履修は、各自が学年はじめに受講計画を立てて履修登録をする必要があります。履修上の相談事項を含め、事前に担当窓口でも履修上の アドバイスをしています。

2 履修申請の流れ

入学前のガイダンスにて履修上の指導をしますので、それに従い履修申請を行ってください。個別相談については担当教員にて受け付けますので適宜相談してください。



▶ 後期授業科目履修取消申請について

GPA 評価では、在学期間中に履修登録した全ての科目が評価対象となります。そのため、一旦履修申請した科目を放棄した場合は、0ポイントとしてカウントすることになり、トータルとして GPA 評価値が低くなってしまいます。（P.76 参照）

後期履修取消申請締切日は、次表のとおりです。
なお、履修登録を取消した代わりの授業の追加履修申請はできません。

原則、期日を過ぎた修正の申し込みは一切応じられませんのでご注意ください。

後期履修取消申請締切日	10月15日

2　単位について

▶ 単位制

大学における教育課程は「大学設置基準」に基づく単位制を採用しています。単位制とは、授業科目を履修して試験・判定に合格することにより、授業科目ごとに定められている単位を修得する制度です。

その単位合計が一定の要件を満たすことにより卒業が認定されます。

▶ 単位数

講義、演習、実習の区分により単位数は異なります。単位の算定は大学設置基準により、1単位の授業科目を45時間の学修で構成することを標準としています。

本学における学修時間は、以下のとおり定めています。

授業の種類	1単位を修得するために必要な学修時間構成	
	授業時間	自学自習時間
講義	15時間	30時間
演習	15～30時間	15～30時間
実習	30～45時間	—

▶ 科目分類

授業科目は、「必修科目」「選択科目」「自由科目」に分類されます。授業科目のルールを理解したうえで履修してください。

授業科目の分類	履修上の注意
必修科目	卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目です。すべての必修科目を修得しなければ卒業できません。
選択科目	原則履修モデルに従って学生が自主的に選択する科目です。科目区分によって履修単位数が決まっています。
自由科目	これらの科目の単位は認定されますが、卒業に必要な単位数には含まれません。

1 卒業要件単位数（平成 31 年度入学者のうち美術工芸学科）

（美術工芸学科）

科目区分			履修単位
教養教育科目	教養科目		22 単位以上を修得のこと。
	伝統文化科目		必修 4 単位を含む 8 単位以上を修得のこと。
	コミュニケーション科目		必修 2 単位を含む 6 単位以上を修得のこと。
	キャリア科目		6 単位以上を修得のこと。
専門教育科目	美術工芸科目	基本科目	美術工芸科目のうち、48 単位以上を修得のこと。 （ただし、基本科目において、選択科目 10 単位以上 基幹科目および 展開科目において、選択科目 26 単位以上 選択のこと）
		基幹科目	
		展開科目	
	専門演習・実習科目		必修 34 単位を修得のこと。

上記、124 単位以上履修することが必要です

2 卒業要件単位数（平成 31 年度入学者のうち建築学科）

（建築学科）

科目区分			履修単位
教養教育科目	教養科目		22 単位以上を修得のこと。
	伝統文化科目		必修 4 単位を含む 8 単位以上を修得のこと。
	コミュニケーション科目		必修 2 単位を含む 6 単位以上を修得のこと。
	キャリア科目		6 単位以上を修得のこと。
専門教育科目	美術工芸科目	基本科目	美術工芸科目のうち、51 単位以上を修得のこと。 （ただし、基本科目において、選択科目 11 単位以上 基幹科目において、選択科目 14 単位以上 展開科目において、選択科目 14 単位以上 選択のこと）
		基幹科目	
		展開科目	
	専門演習・実習科目	工芸基礎系	必修 11 単位を修得のこと。
		建築デザイン系	いずれかの領域のうち、その指定された 14 単位を修得のこと。
		伝統建築系	
		卒業制作	必修 6 単位を修得のこと。

上記、124 単位以上履修することが必要です。

3 履修モデル

＜平成 31 年度 履修モデル＞（デザイン W）　美術工芸学科用

科目区分			1年次 前期	単位	1年次 後期	単位	2年次 前期	単位	2年次 後期	単位
教養教育科目	教養科目（22 単位以上）		教養科目 12（W生は 6）単位以上履修のこと	6		6	教養科目 6 単位以上履修のこと	2		4
	伝統文化科目（必修；4）（8単位以上）		京都学	2	日本工芸美術史（必修）	2			京都学演習Ⅰ（必修）	2
	コミュニケーション科目（必修；2）（6単位以上）		英会話Ⅰ（必修）	1	日本語表現法	1				
			情報基礎演習	2	美術工芸英語（必修）	1				
	キャリア形成科目（6単位以上）				しごと論Ⅰ	2				
					メディアリテラシー	2				
教養教育科目単位				11		14		2		6
専門教育科目	美術工芸科目（48単位以上）	基本科目（必修；6）（選択；4以上）	工芸概論（必修）	2	伝統工芸概論（必修）	2	伝統絵画技法Ⅰ	2		
					デザイン概論	2	西洋美術史	2		
			構成基礎演習	1			社寺建築概論（W 必修）	（2）		
			色彩学	2						
			素描	2						
			日本美術史（必修）	2						
			建築構造力学Ⅰ（W 必修）	（2）						
			伝統住居概論（W 必修）	（2）						
		基幹科目							伝統絵画技法Ⅱ	2
							デザイン作図演習	2		
					コンピュータデザイン演習	2	色彩理論演習	2		
									IT 活用応用演習	2
							建築一般構造Ⅰ（W 必修）	（2）	建築材料（W 必修）	（2）
									建築法規（W 必修）	（2）
					建築構造力学Ⅱ（W 必修）	（2）				
									デザインと法規	2
									インテリア設計	2
		展開科目（基幹・展開から選択；26 以上）							建築一般構造Ⅱ（W 必修）	（2）
	専門演習・実習科目（全科目必修）※セメスターごとに単位を修得しなければ進級できません。		芸術導入演習	2	造形基礎演習Ⅰ	2	造形基礎演習Ⅱ	2	専門実習Ⅰ	2
			芸術導入実習	2	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ	2	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ	2	プロジェクト演習Ⅰ	2
専門教育科目単位				13		10		12		12
セメスター合計単位				24		24		14		18
					年間取得単位合計	48			年間取得単位合計	32

※次年度以降に、一部の科目の開講学期・年次が変更する場合があります。

3年次				4年次			
前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
教養科目４（W生は６）単位以上履修のこと ＊W生・ＩＳ生は後期に６単位取得のこと。	2		2	W生は教養科目４単位以上履修のこと			
				日本文化史	2		
		総合コミュニケーション	1				
しごと論Ⅱ	2						
	4		3		2		0
		東洋美術史	2				
伝統空間論	2						
伝統工芸産業工学	2	伝統工芸材料科学	2				
工芸経営論	2	伝統文様	2				
立体造形	2	室内意匠論	2				
		公共デザイン論	2				
専門実習Ⅱ	2	専門実習Ⅲ	2	卒業制作研究	4	卒業制作・論文	6
プロジェクト演習Ⅱ	2	プロジェクト演習Ⅲ	2				
	12		14		4		6
	16		17		6		6
		年間取得単位合計	33			年間取得単位合計	12
				基礎教育科目単位		42	合計
				専門教育科目単位		83	125

凡例
（必修）；KYOBI 必修科目
W ；KASD 建築科二部必修科目
(2) ；履修可能科目（時間割上の制約有）

＜平成 31 年度 履修モデル＞（工芸 W）　美術工芸学科用

科目区分			1年次				2年次			
			前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
教養教育科目		教養科目 （22 単位以上）	教養科目 12（W生は６）単位以上履修のこと	6		6	教養科目６単位以上履修のこと	2		4
		伝統文化科目 （必修；4） （8 単位以上）	京都学	2	日本工芸美術史（必修）	2			京都学演習Ⅰ（必修）	2
		コミュニケーション科目 （必修；2） （6 単位以上）	英会話Ⅰ（必修） 情報基礎演習	1 2	日本語表現法 美術工芸英語（必修）	1 1				
		キャリア形成科目 （6 単位以上）			しごと論Ⅰ メディアリテラシー	2 2				
教養教育科目単位				11		14		2		6
専門教育科目	美術工芸科目（48 単位以上）	基本科目 （必修；６） （選択；４以上）	工芸概論（必修） 構成基礎演習 色彩学 素描 日本美術史（必修） 建築構造力学Ⅰ（W 必修） 伝統住居概論（W 必修）	2 1 2 2 2 （2） （2）	伝統工芸概論（必修） デザイン概論	2 2	西洋美術史 伝統絵画技法Ⅰ 社寺建築概論（W 必修） 建築一般構造Ⅰ（W 必修）	2 2 （2） （2）		
		基幹科目			コンピュータデザイン演習 建築構造力学Ⅱ（W 必修）	2 （2）	デザイン作図演習 色彩理論演習	2 2	伝統絵画技法Ⅱ IT 活用応用演習 伝統住居論 建築材料（W 必修） 建築法規（W 必修） デザインと法規	2 2 2 （2） （2） 2
		展開科目 （基幹・展開から 選択；26 以上）							建築一般構造Ⅱ（W 必修）	2
		専門演習・実習科目（全科目必修） ※セメスターごとに単位を修得しなければ進級できません。	芸術導入演習 芸術導入実習	2 2	造形基礎演習Ⅰ 工芸・デザイン基礎実習Ⅰ	2 2	造形基礎演習Ⅱ 工芸・デザイン基礎実習Ⅱ	2 2	専門実習Ⅰ プロジェクト演習Ⅰ	2 2
専門教育科目単位				13		10		12		14
セメスター合計単位				24		24		14		20
					年間取得単位合計	48			年間取得単位合計	34

※次年度以降に、一部の科目の開講学期・年次が変更する場合があります。

3年次				4年次			
前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
教養科目４（W生は６）単位以上履修のこと ＊W生・ＩＳ生は後期に６単位取得のこと。	2		2	W生は教養科目４単位以上履修のこと			
				日本文化史	2		
		総合コミュニケーション	1				
しごと論Ⅱ	2						
	4		3		2		0
		東洋美術史	2				
伝統空間論	2						
伝統工芸産業工学	2	伝統工芸材料科学	2				
工芸経営論	2	伝統文様	2				
		室内意匠論	2				
		公共デザイン論	2				
専門実習Ⅱ	2	専門実習Ⅲ	2	卒業制作研究	4	卒業制作・論文	6
プロジェクト演習Ⅱ	2	プロジェクト演習Ⅲ	2				
	10		14		4		6
	14		17		6		6
		年間取得単位合計	31			年間取得単位合計	12
				基礎教育科目単位		42	合計
				専門教育科目単位		83	125

凡例
（必修）；KYOBI 必修科目
W ；KASD 建築科二部必修科目
(2) ；履修可能科目（時間割上の制約有）

＜平成 31 年度 履修モデル＞（文化財 W）　美術工芸学科用

科目区分		1年次 前期	単位	1年次 後期	単位	2年次 前期	単位	2年次 後期	単位
教養教育科目	教養科目（22 単位以上）	教養科目 12（W生は６）単位以上履修のこと	6		6	教養科目６（W生は４）単位以上履修のこと	2		4
	伝統文化科目（必修；４）（８単位以上）	京都学	2	日本工芸美術史（必修）	2			京都学演習Ⅰ（必修）	2
	コミュニケーション科目（必修；２）（６単位以上）	英会話Ⅰ（必修） 情報基礎演習	1 2	美術工芸英語（必修）	1	英会話Ⅱ	1		
	キャリア形成科目（６単位以上）			しごと論Ⅰ メディアリテラシー	2 2				
基礎教育科目単位			11		13		3		6
専門教育科目	美術工芸科目（48単位以上） 基本科目（必修；６）（選択；４以上）	工芸概論（必修） 色彩学 素描 日本美術史（必修） 建築構造力学Ⅰ（W 必修） 伝統住居概論（W 必修）	2 2 2 2 （2） （2）	伝統工芸概論（必修） デザイン概論 文化財概論	2 2 2	社寺建築概論（W 必修） 伝統絵画技法Ⅰ	2 2		
	基幹科目			コンピュータデザイン演習 建築構造力学Ⅱ（W 必修）	2 （2）	文献絵画資料論 色彩理論演習 建築一般構造Ⅰ（W 必修） 文化財修理論	2 2 （2） 2	伝統絵画技法Ⅱ 伝統構造学 IT 活用応用演習 建築材料（W 必修） 建築法規（W 必修） 文化財マネージメント論	2 2 2 （2） （2） 2
	展開科目（基幹・展開から選択；26 以上）							建築一般構造Ⅱ（W 必修）	（2）
	専門演習・実習科目（全科目必修）※セメスターごとに単位を修得しなければ進級できません。	芸術導入演習 芸術導入実習	2 2	造形基礎演習Ⅰ 工芸・デザイン基礎実習Ⅰ	2 2	造形基礎演習Ⅱ 工芸・デザイン基礎実習Ⅱ	2 2	専門実習Ⅰ プロジェクト演習Ⅰ	2 2
専門教育科目単位			12		12		14		12
セメスター合計単位			23		25		17		18
				年間取得単位合計	48			年間取得単位合計	35

※次年度以降に、一部の科目の開講学期・年次が変更する場合があります。

3年次				4年次			
前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
教養科目４（W生は６）単位以上履修のこと ＊W生・ＩＳ生は後期に６単位取得のこと。	2		2	W生は教養科目４単位以上履修のこと			
				日本文化史	2		
		総合コミュニケーション	1				
		現代社会論	2				
	2		5		2		0
		東洋美術史	2				
伝統空間論	2						
伝統工芸産業工学	2	伝統工芸材料科学	2				
工芸経営論	2	伝統文様	2				
		室内意匠論	2				
古文書解読演習Ⅰ	1	古文書解読演習Ⅱ	1				
専門実習Ⅱ	2	専門実習Ⅲ	2	卒業制作研究	4	卒業制作・論文	6
プロジェクト演習Ⅱ	2	プロジェクト演習Ⅲ	2				
	11		13		4		6
	13		18		6		6
		年間取得単位合計	31			年間取得単位合計	12
				基礎教育科目単位		42	合計
				専門教育科目単位		84	126

凡例
（必修）；KYOBI 必修科目
W ；KASD 建築科二部必修科目
(2) ；履修可能科目（時間割上の制約有）

<平成 31 年度 履修モデル> 建築学科 1 年生用

科目区分			1年次 前期	単位	1年次 後期	単位	2年次 前期	単位	2年次 後期	単位
教養教育科目	教養科目（22 単位以上）		教養科目 8 単位程度履修のこと	4		4	教養科目 8 単位程度履修のこと	4		4
	伝統文化科目（必修；4）（8単位以上）		京都学	2	日本工芸美術史（必修）	2	京都学演習Ⅰ（必修）	2		
	コミュニケーション科目（必修；2）（6単位以上）		情報基礎演習 英会話Ⅰ（必修）	2 1	日本語表現法 美術工芸英語（必修）	1 1	英会話Ⅱ	1		
	キャリア形成科目（6単位以上）				メディアリテラシー しごと論Ⅰ	2 2				
基礎教育科目単位				9		12		7		4
専門教育科目	美術工芸科目（51単位以上）	基本科目（必修；6）（選択；5以上）	構成基礎演習 建築概論（必修） 伝統住居概論（W 必）（日本住居史） 日本美術史（必修） 建築構造力学Ⅰ（W 必） 色彩学	1 2 2 2 2 2	建築計画Ⅰ（総論） 伝統工芸概論（必修）	2 2	社寺建築概論（W 必）（日本建築史）	2		
		基幹科目（選択；14 以上）			建築構造力学Ⅱ（W 必） コンピュータデザイン演習	2 2	デザイン作図演習 建築計画Ⅱ（住空間） 建築一般構造Ⅰ（W必）（木造） 文献・絵画史料概論	2 2 2 2	伝統建築図（基礎） 伝統住居論（近現代建築史） 建築環境工学 伝統構造学 建築材料（W 必） 建築法規（W 必） IT 活用応用演習（CAD）	2 2 2 2 2 2 2
		展開科目（選択；14 以上）					伝統建築論Ⅰ（西洋建築史）	2	建築計画Ⅲ（各種建築計画） 建築一般構造Ⅱ（W 必）（RC・S 造）	2 2
	専門演習・実習科目（全科目必修）※セメスターごとに単位を修得しなければ進級できません。		工芸実習導入（建デ）	3	工芸実習基礎Ⅰ（建デ）	4	工芸実習基礎Ⅱ（建デ）	4	建築デザイン演習Ⅰ	4
専門教育科目単位				14		12		16		22
セメスター合計単位				23		24		23		26
					年間取得単位合計	47			年間取得単位合計	49

※次年度以降に、一部の科目の開講学期・年次が変更する場合があります。

3年次				4年次			
前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
教養科目6単位程度履修のこと	3		3				
				日本文化史	2	京都学演習Ⅱ	2
		総合コミュニケーション	1				
		英語コミュニケーション	1				
		現代社会論	2				
しごと論Ⅱ	2						
インターンシップ<通年>			2				
	5		9		2		2
			(2)				
伝統空間論 (外部空間)	2	伝統建築環境学(都市形成史)	2	社寺建築論	2		
建築計画Ⅳ (居住空間構成原理)	2	伝統建築図(応用)	2	専門演習	2		
建築設備	2	室内意匠論	2				
建築構造力学Ⅲ	2	伝統建築論Ⅱ (地域計画)	2				
建築施工法	2	公共デザイン論	2				
建築デザイン演習Ⅱ 伝統建築専門実習Ⅱ			6	建築デザイン演習Ⅲ 伝統建築専門実習Ⅲ	4	卒業制作	6
	10		16		8		6
	15		25		10		8
		年間取得単位合計	40			年間取得単位合計	18

基礎教育科目単位	50	合計
専門教育科目単位	104	154

凡例

(必修) ; KYOBI 必修科目

(W必) ; KASD 建築科 特別過程 必修科目

2 ; 履修推奨科目

(2) ; 履修可能科目(ただし時間割上等の制約有)

3　他大学で修得した単位について

本学では、教授会が教育上有益と認める時は、他大学等で開講されている授業科目の履修を認め、そこで修得した単位を認定することがあります。

1「他大学における学修」とは

▶本学が認める他大学等で修得した単位について

・他の大学等において履修した授業科目について修得した単位のうち、本学のカリキュラムに照らし合わせて有用と認められた単位
・大学コンソーシアム京都単位互換制度により修得した単位
・外国の大学等に留学して修得した単位

▶他大学等で修得した単位の認定について

①　他大学等で修得した単位は 60 単位を超えない範囲で、本学における卒業に必要な単位として認めることがあります。なお、60 単位の上限は、個々の制度、プログラム毎ではなく、他大学等で修得した合計単位の上限となりますので、注意してください。
②　入学前に修得した単位を認定された場合は、①と合わせて 60 単位が上限となります。
③　なお、詳細は事務局に問い合わせてください。

2 外国等提携校との交流学生プログラムについて

本学では、教育の一層の充実を図る事を目的として交換留学プログラムを設けることがあります。このプログラムは本学に在籍しながら、提携校の科目を履修することができます。プログラム計画が確定次第、掲示によって通知します。

3 単位互換制度

▶単位互換制度とは

単位互換制度とは、他大学の科目を履修し、それを本学の単位として認定する制度です。本学の学生が利用できる単位互換制度には、大学コンソーシアム京都単位互換制度があります。皆さんの幅広い関心と興味に応じて、自分の大学にない分野の科目を学んだり、色々な可能性にチャレンジできますので、積極的に活用してください。

▶受講について

大学コンソーシアム京都に出願して受講許可された科目の辞退は、いかなる理由があってもできません。受講を許可されたにもかかわらず、受講しないことは相手の大学に多大な迷惑をかけることになりますので、絶対に行わないでください。無断で受講しなかった場合は、次年度の単位互換科目の受講ができない場合があります。

出願前に、本学の学年暦（授業期間・試験期間）を必ず確認してください。なお、本学の定期試験と単位互換科目が重複した場合は、以下のとおり取り扱います。

①単位互換科目の授業と本学の定期試験が重複した場合
→　本学の追試験の受験を認めます（追試験手数料を徴収します）。
②単位互換科目の夏期集中授業と本学の定期試験が重複した場合
→　本学の追試験の受験を認めません（本学の定期試験期間を確認のうえ、出願してください）。
③単位互換科目の試験と本学の定期試験が重複した場合
→　本学の追試験の受験を認めます（追試験手数料を徴収しません）。

▶受講手続期間・方法・その他

大学コンソーシアム京都の「単位互換履修生募集ガイド 2019」で確認してください。

4　試験について

1 定期試験

大学における試験は、学生の自主的な学習を基本とし、日頃の学習の到達点を確認する非常に重要なものです。そのため、本学では試験について厳正に執行しています。試験における不正行為は、自らの学習権を放棄し、大学で学ぶ資格を失う行為であると考え、退学・停学処分に加えて、当該試験科目あるいは当該学期定期試験の全受験科目を無効とし、「不可」評価とするなど、厳しい措置を取ります。

①　次の行為は、不正行為として厳しい措置を取ります。

a)　答案の見せ合い
b)　答案の交換
c)　カンニングペーパーの所持及び使用
d)　持ち込みを許可していないノート、参考書、辞書等の使用
e)　携帯電話、パソコン、その他情報通信機器の使用
f)　所持品や机上等への事前の書き込みとその使用
g)　話し合い、覗き見
h)　替え玉受験
i)　答案や出席表への偽名記入、または故意による答案無記名
j)　持ち帰りまたは破棄などによる答案の不提出
k)　答案作成に関して、試験監督者の指示に従わない場合
l)　その他、公正な試験の実施を阻害すると認められる行為を行った場合

②　持ち込み許可物件について

持ち込み許可物件「自由」の科目でも、情報通信機器は使用できません。

③　定期試験の受験について

＊定期試験の時間割は、授業時間割と異なります。
＊試験場では、必ず携帯電話の電源を切り、カバンの中にしまってください。時計の代わりに使用することも禁止します。これに反した場合は不正行為に準じて取り扱うことがあります。
＊受験に際しては学生証が必要です。万一、学生証を忘れた場合は、事前に事務局に届け出て指示を受けてください。
＊開始時刻から 20 分を超えて遅刻した場合は、受験資格を失います。
開始後 30 分以上経過し監督者が認めた場合、途中で退席することができます。ただし、30 分以上経過しても途中退席できない科目もありますので、各担当者の指示に従ってください。

④　定期試験時間

定期試験時間は原則として 60 分です。

時　限	試験時間帯
1 時限	10：00 ～ 11：00
2 時限	11：10 ～ 12：10
3 時限	13：00 ～ 14：00
4 時限	14：10 ～ 15：10
5 時限	15：20 ～ 16：20

2 追試験

下記に定めるやむを得ない理由で定期試験を受験できなかった場合には、追試験の受験を認めることがあります。原則として事務局に当該科目の定期試験実施日より前に申請してください。ただし、やむを得ない事情により、事後となる場合は当該科目の試験日を含めて原則として１週間以内に事務局に申請してください（申請受付は事務局開設日・時間に従います）。なお追試験が認められた場合、日程等は事務局に確認してください。追試験手数料（1 科目につき 1,000 円）が必要になります。

不受験理由	必要な証明及び届け出の内容
本人の病気	医師の診断書
交通事故、就職試験、親族の冠婚葬祭、その他やむを得ないと認められる事情	事由を証明する書類等

3 再試験

本試験の結果、卒業又は資格取得の要件を満たすために次の各号に該当する場合は、再試験を受けることができます。

(1) 必修科目が不合格の場合

(2) 選択必修科目についても、当該科目の単位取得がないと卒業又は資格取得が不可となる場合

再試験受験者は、別に定める再試験申込期間内に再試験手数料（1 科目につき 1,000 円）を添えて所定の手続をしなければなりません。

前項で受験の許可を受けた者に対して、所定の期間内に再試験を行います。再試験は 1 回限りとし、試験時間割についてはあらかじめ事務局で公示します。

再試験の欠席については、試験放棄とみなします。

4 その他

▶ レポート試験

大学では、科目により、レポート・小論文などの提出を求める場合があります。これらの多くは成績評価の対象となるものであり、定期試験と同じく厳正な態度で作成する必要があります。

レポートの様式については各担当教員の指示に従ってください。

▶ 制作課題の提出

実習・演習授業等においては、定期試験に代わるものとして、課題制作の提出を求める場合があります。当該科目の担当教員の指示に従ってください。

5　成績について

1 成績評価

授業科目の成績は 100 点満点とし、60 点以上を合格、59 点以下を不合格とします。成績評価は次のとおりとします。

区分	評価	成績評価基準	評価内容
合格	秀	100 ～ 90 点	特に優れた成績を表する。
	優	89 ～ 80 点	優れた成績を表する。
	良	79 ～ 70 点	妥当と認められる成績を表する。
	可	69 ～ 60 点	合格と認められる最低限の成績を表する。
不合格	不可	59 点以下	合格と認められる最低限の成績に達していないことを表する。

▶講義・演習科目

講義・演習科目の成績は、主に期末試験、課題制作、及びレポート提出を対象に採点します。各授業科目の評価方法については、「シラバス」を参照してください。

▶実習科目

実習科目の成績は、主に実習課題を対象に採点します。（４年次の後期は卒業制作が採点対象となります）。講義・演習科目と同様、各実習科目の評価方法については、「シラバス」を参照してください。なお、原則として、当該年次の実習科目単位を修得できなければ次年次の実習科目を履修することはできません。

▶インターンシップ

３年次の「インターンシップ」については、受入機関・工房等で約５日間の現場体験をします。実施に当たっては実施計画書を作成し、日々の体験記録は報告書にまとめることとし、これらを担当教員が評価するとともに、面接も行い総合評価をします。

2 GPA

厳格な成績評価により、学習成果の質を確保するために、GPA（Grade Point Average）制度を導入します。GPA によって自分の学習効果を自分自身で把握することができるメリットがあり、本学では科目の履修にあたって、ただ卒業するのに必要な単位を取得するのではなく、学生が主体的にかつ充実した学習効果をあげることを目的としています。

▶ 成績等の表示および成績評価基準

区分	評価	成績評価基準	GP	評価内容（英文内容）
合格	秀	100 ～ 90 点	4	特に優れた成績を表する。（Excellent）
	優	89 ～ 80 点	3	優れた成績を表する。（Very Good）
	良	79 ～ 70 点	2	妥当と認められる成績を表する。（Good）
	可	69 ～ 60 点	1	合格と認められる最低限の成績を表する。（Satisfactory）
不合格	不可	59 点以下	0	合格と認められる最低限の成績に達していないことを表する。（Failure）
GP 対象外	認	単位認定科目	―	転編入や留学などにより他大学等で修得した科目を本学の単位として認定したことを表する。（Credits Transferred）
	W	履修中止	―	所定の手続を経て、履修を中止したことを表する。（Withdrawal）

▶ GPAの算出方法

$$\frac{\text{4.0 ×秀 の修得単位数＋ 3.0 ×優 の修得単位数＋ 2.0 ×良 の修得単位数＋ 1.0 ×可の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「不可」の単位数を含む）}}$$

（注 1）「認（単位認定科目）」、「W（履修中止）」は、計算式に含まない。また、博物館学芸員養成科目など卒業所要単位に算入しない科目は、GPA の算出の対象としない。

（注 2）「総履修登録単位数」には、不合格科目（不可評価）を再履修し、合格の評価を得た場合および再履修の結果再び不可評価であった場合の、それぞれ再履修前の不可評価については、通算の GPA には算入しない。ただし、学期ごとに算出する GPA にはそれぞれ算入する。

（注 3） GPA は、小数点第 4 位を四捨五入し、小数点第 3 位までの数値で、次のとおり成績通知表および成績証明書に記載する。

成績通知表 …… 学期ごとの GPA、通算の GPA
成績証明書 …… 通算の GPA

▶ GPAによる履修指導

①各学期（1 セメスター）に履修できる単位数については、学生個々人の学習進度に応じて GPA により履修指導を行います。
②GPA の成績優良者には表彰等により、学習成果を評価します。
③GPA の成績不良者には、就学意思の確認と共に、学習支援を行います。
④２年次後期から分かれるコースを決定する上で、GPA 評価を考慮します。

3 成績発表

成績は次のとおり発送します。
電話・メール等による成績に関わる問い合わせには一切応じません。

授業科目区分	発送日	発表の方法等
前期開講科目	9 月下旬	学生本人・保証人に宛てて、事務局より成績通知書を送付
後期開講科目	3 月下旬	
通期開講科目		
集中授業科目		

6　学生相談

1 オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が教員に対して学業や学校生活全般に関する質問をしたり、相談あるいは個人的な指導等を教員から受けるために設定された時間です。オフィスアワーは平日昼間の休み時間に設定されており、下記該当の曜日・時間には教員が希望する学生と面談を行います。

オフィスアワーを気軽に利用して、質問、相談をしたい教員と連絡を取り合ってください。

また、非常勤講師への相談の時間は、授業終了後に直接非常勤講師に相談の上、予約してください。

専任教員オフィスアワー　毎週火曜日　12:10 ～ 13:00

教員名		E-mail
新谷　裕久（副学長）	教授	shintani-h@kyobi.ac.jp
川北　英（学部長）	教授	kawakita-e@kyobi.ac.jp
髙田　光雄（特命学部長）	教授	takada-m@kyobi.ac.jp
種村　俊昭（建築学科長）	教授	tanemura-t@kyobi.ac.jp
戸髙　太郎（特命学科長）	教授	todaka-t@kyobi.ac.jp
山内　貴博	教授	yamauchi-t@kyobi.ac.jp
大上　直樹	教授	ooue-n@kyobi.ac.jp
井上　晋一	准教授	inoue-s@kyobi.ac.jp
井上　年和	准教授	inoue-t@kyobi.ac.jp
川嶋　貫介	准教授	kawashima-k@kyobi.ac.jp
森重　幸子	准教授	morishige-s@kyobi.ac.jp
安田　光男	准教授	yasuda-t@kyobi.ac.jp
人見　将敏	講師	hitomi-m@kyobi.ac.jp
山田　幸秀	講師	yamada-y@kyobi.ac.jp
杏　義啓	講師	kyo-y@kyobi.ac.jp
岡北　一孝	助教	okakita-i@kyobi.ac.jp
津村　健一（美術工芸学科長）	教授	tsumura-k@kyobi.ac.jp
浅見　武	教授	asami-t@kyobi.ac.jp
小林　泰弘	教授	kobayashi-y@kyobi.ac.jp
中井川　正道	教授	nakaigawa-m@kyobi.ac.jp
安藤　眞吾	教授	ando-s@kyobi.ac.jp
ヒルド　麻美	教授	hild-m@kyobi.ac.jp
宮本　貞治	教授	miyamoto-t@kyobi.ac.jp
村上　隆	教授	murakami-r@kyobi.ac.jp
青木　太一	講師	aoki-t@kyobi.ac.jp
遠藤　公誉	講師	endo-k@kyobi.ac.jp
岡　達也	講師	oka-t@kyobi.ac.jp
玉村　嘉章	講師	tamamura-y@kyobi.ac.jp
加納　奈都	助教	kano-n@kyobi.ac.jp
木村　奈保	助教	kimura-n@kyobi.ac.jp

2 クラスアドバイザー制度

本学では、各学年に担任教員を設けるクラスアドバイザー制度を採用しています。選択した専攻ごとに、それぞれ２名（主担・副担）の教員が担当します。

単位取得に関して・授業に関することや学習の方法について・実習について・学生生活について等、４年間の学生生活の中で生じた大小様々な悩みについて、打ち明ける相手に迷ったら、まずはクラスアドバイザーに相談してください。問題を早期に発見し、充実した４年間を過ごすために、クラスアドバイザー制度を効果的に利用してください。

2019年度　クラスアドバイザー一覧

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">コース</th><th colspan="4">主担</th><th>副担</th></tr>
<tr><th>1年次</th><th>2年次</th><th>3年次</th><th>4年次</th><th>全学年</th></tr>
<tr><td colspan="2">デザイン</td><td>木村助教</td><td>岡講師</td><td>安藤教授</td><td>中井川教授</td><td rowspan="4">津村教授</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化財</td><td colspan="4">小林教授</td></tr>
<tr><td rowspan="3">工芸</td><td>木工・彫刻</td><td colspan="4">玉村講師・青木講師</td></tr>
<tr><td>漆芸</td><td colspan="4">遠藤講師</td></tr>
<tr><td>陶芸</td><td colspan="4">浅見教授</td></tr>
<tr><td colspan="2">建築デザイン
伝統建築</td><td>戸高教授
大上教授
井上(年)准教授
森重准教授
人見講師
岡北助教</td><td>山内教授
井上(晋)准教授
安田准教授
川嶋准教授
杏特任講師</td><td>種村教授
山内教授
戸高教授
川嶋准教授
井上(晋)准教授
森重准教授
安田准教授
岡北助教
井上(年)准教授</td><td>川北教授
高田教授
種村教授
山内教授
井上(年)准教授
川嶋准教授</td><td>種村教授
井上(晋)准教授</td></tr>
</table>

3 カウンセラー（学生相談室）

学生生活を送るうえで、自分の思いが分からなくなった時やどうすればいいのか迷った時、あるいは元気が出ない、眠れないといった時に、専門のカウンセラー（臨床心理士）がお話をうかがい、あなたが自分の心とじっくり向き合って解決の糸口を見つけていくお手伝いをします。また必要に応じて適切な窓口や医療機関等を紹介します。相談の秘密は固く守られます（一部例外があります。詳細はカウンセラーにお尋ねください）。事前予約をお勧めしますが、当日に空きがあれば予約なしでも相談できます。

相談日：原則として毎週（月）14時～17時30分
場　所：医務室などの個室
事前予約方法：事務センターに申し込んでください

4 医務室

体調不良やケガ、日々の健康管理などで不安や相談事があれば医務室を利用してください。

看護師在室日：火・金曜日　13：00～17：30
　　水曜日　　9：00～17：30
※在室時間が変更になる場合は随時掲示します。

5 ハラスメント防止対策委員会

→46～47ページを参照のこと

学則・規程等

規程番号　132-01

京都美術工芸大学　学則

平成23年10月24日　制定(設置認可)
平成24年　4月　1日　施行
平成24年　7月　1日　一部改正･施行
平成25年　4月　1日　一部改正･施行
平成27年　4月　1日　一部改正･施行
平成28年　4月　1日　一部改正･施行
平成29年　4月　1日　一部改正･施行
平成29年　9月　1日　一部改正･施行
平成30年　4月　1日　一部改正･施行
平成30年　8月29日　一部改正･施行

目　次

第１章　総則
　第１節　目的
　第２節　学部・学科の組織及び定員
　第３節　教職員組織
　第４節　大学運営会議及び教授会
　第５節　学年、学期及び休業日

第２章　修業年限・入学・転学・休学・復学・退学及び除籍
　第１節　修業年限及び在学年限
　第２節　入学
　第３節　教育課程及び履修方法
　第４節　休学、復学、転学、留学、除籍及び退学
　第５節　卒業及び学位
　第６節　賞罰
　第７節　研究生、聴講生、特別聴講生、科目履修生、長期履修生、委託生、研修生、客員研究員及び外国人留学生等
　第８節　入学検定料、入学金、授業料及びその他の納付金等
　第９節　奨学制度
　第 10 節　厚生施設
　第 11 節　公開講座

第３章　改正及び細則

附　則

第1章　総則

第1節　目的

（目的）

第1条　京都美術工芸大学（以下「本学」という）は、我が国の伝統と文化を尊重し、その継承と文化の創造を担う有為な人材を育成するため、教育基本法及び学校教育法に従い、美術工芸に係る教育・研究を行い、併せて教養を身に付けた専門職業人を育てることにより、国家・社会の発展に貢献することを目的とする。

2　前項の目的を達するため、「社会人基礎力」「学士力」「職業実践力」を身につけた専門職業人の育成に努めることを教育上の目的とし、「美術工芸に関する知識・技能」「社会に受け入れられる人間力」「美術工芸の将来を思考する能力」を身に付けた人材育成を目指す。

（自己点検、評価）

第2条　本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行ない、その結果を公表するものとする。

2　前項の点検及び評価の結果について、学校教育法第 109 条に従い文部科学大臣の認証を受けた認証機関による評価を受けるものとする。

3　本学は、教育研究活動等の状況、自己点検·評価等の結果について、刊行物等により積極的に情報を提供するものとする。

4　本条第1項、第2項に定める点検及び評価に関する必要な事項は、別に定める。

第2節　学部・学科の組織及び定員

（学部、学科及び定員）

第3条　本学に、次の学部及び学科を置く。

工芸学部　美術工芸学科

工芸学部　建築学科

2　前項に定める学部の収容定員等は、次のとおりとする。

学部	学科	収容定員		
		入学定員	3 年次編入定員	総定員
工芸学部	美術工芸学科	100 名	5 名	410 名
	建築学科	150 名	5 名	610 名

（付属図書館）

第4条　本学に、付属図書館を置く。

2　前項の付属図書館に関する必要な事項は、別に定める。

（付属研究機関）

第5条　本学の目指す教育及び研究活動の一層の推進を図るために、研究機関として付属研究所を置くことができる。

2　前項の機関に関する必要な事項は、別に定める。

第３節　教職員組織

（教職員組織）
第６条　本学に、下記の教職員を置く。
（１）学長、副学長、学部長、学科長
（２）教授、准教授、講師、助教、助手
（３）事務職員及びその他必要な教職員
２　教職員の任免その他の人事に関する必要な事項は、別に定める。

（学長・副学長・学部長）
第７条　学長は、校務をつかさどり、所属教職員を統督する。
２　副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。
３　学部長は、学長の下で、当該学部を統括する。

（事務組織）
第８条　本学に、学務事務等を処理するため、学務事務組織を置く。
２　前項の学務事務等組織に関する必要な事項は、別に定める。

（名誉教授）
第９条　本学に多年勤続し、教育上、学術上功績のあった者に名誉教授の称号を授与することができる。

第４節　大学運営会議及び教授会

（大学運営会議）
第 10 条　本学に、学長の執務を補佐するため、大学運営会議を置く。
２　大学運営会議に関する必要な事項は、別に定める。

（教授会）
第 11 条　本学の運営に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。
２　教授会は、学長、副学長、学部長、学科長及び専任教授で構成する。ただし、必要な場合は、准教授その他の教職員を加えることができる。
３　学長は教授会を招集し、その議長となる。
４　教授会は、次に掲げる事項について審議し、学長が決定を行なうに当たり意見を述べるものとする。
（１）学生の入学、卒業及び課程の修了に関すること
（２）学位の授与に関すること
（３）前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
５　教授会は、前２項に関する事項を検討するため、必要な専門組織を設けることができる。
６　教授会の運営に関する必要な事項は、別に定める。

第５節　学年、学期及び休業日

（学年）
第 12 条　学年は４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。

（学期）
第 13 条　学年を次の２期に分ける。
前期　４月１日に始まり、９月 30 日に終わる。
後期　10 月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。
２　前項の前期並びに後期のそれぞれの学期を１セメスターとする。
３　学長は、前項に定める学期について、事情により、学期の数又は期間を変更することができる。

（休業日）
第 14 条　休業日は、次のとおりとする。
（1）日曜日
（2）国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に定める休日
（3）春季休業（3 月 21 日から 3 月 31 日まで）
（4）夏季休業（8 月 1 日から 9 月 30 日まで）
（5）冬季休業（12 月 21 日から翌年 1 月 10 日まで）
2　前項の規定にかかわらず、学長は、臨時に休業日を設け、又は変更することができる。
3　学長は、特に必要があると認めるときは、休業日においても臨時の授業日を設けることができる。

2 章　修業年限・入学・転学・休学・復学・退学及び除籍

第 1 節　修業年限及び在学年限

（修業年限）
第 15 条　本学の修業年限は 4 年とする。

（在学年限）
第 16 条　本学の在学年限は、8 年を越えることができない。ただし、編入学、転入学及び再入学した学生は、その者の在学すべき年数の 2 倍に相当する年数を超えて在学することができない。
2　教授会の議を経て、学長がやむを得ないと認めた場合は、在学年限を超えて在学できる。

第 2 節　入学

（入学の時期）
第 17 条　本学に入学する時期は、学年の始めとする。ただし、外国人留学生、帰国生徒その他再入学及び転入学等教授会の議を経て学長が認めた者は、学期の始めとすることができる。

（入学資格）
第 18 条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一つに該当し、かつ入学試験に合格した者とする。。
（1）高等学校又は中等教育学校を卒業した者
（2）通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
（3）外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
（4）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
（5）専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
（6）文部科学大臣の指定した者
（7）高等学校卒業程度認定試験規則第 8 条第 1 項に規定する認定試験合格者（旧大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）第 8 条第 1 項に規定する資格検定合格者を含む。）
（8）その他、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学において認めた者

（入学志願者の出願）
第 19 条　本学への入学を志願する者は、本学所定の入学願書と入学検定料及び別に定める書類を添えて、所定の期日までに願い出なければならない。

（入学者の選考）
第 20 条　前条の入学志願者については、学科試験、面接等の方法により選考を行ない、合格者を決定する。
2　入学志願者の選考に関する必要な事項は、別に定める。

（入学手続き及び入学許可）
第 21 条　前条の選考の結果に基づき合格した者は、所定の期日までに、誓約書、身元保証書その他所定の書類を提出すると共に、所定の入学金、学費及びその他の納付金を納付しなければならない。正当な事由なくして所定の手続きを期日までに完了しない者は、合格の許可を取り消すことがある。
2　学長は、教授会の議を経て、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

（保証人及び副保証人）

第 22 条　提出すべき書類の正保証人は、父母（父母なき者はこれに代わる者）、副保証人は本人と関係の深い身元確実な者とする。

2　保証人は、その学生の在学中、本人に係る一切の事項につき連帯の責任を負うものとする。

3　本人、保証人に転居、改名等の異動があったときには、直ちにその旨を届けなければならない。なお、保証人が死亡その他の事由によりその責を果たし得なくなったときは、新たに保証人を定めなければならない。

（学籍）

第 23 条　第 21 条第１項に定める入学の手続きをした者は、本学の学籍に入れ、学籍簿に登録する。

2　前項に定めるところにより、本学の学籍を有する学生は、本学則その他別に定める規程に基づき、学生の身分に伴う権利を有し、義務を負うものとする。

（編入学、転入学、再入学及び、転学科）

第 24 条　本学への編入学、転入学又は再入学を志願する者があるときは、選考の上、学長は相当年次に入学を許可することができる。

2　転学科を志願する者があるときは、学長は、教授会の意見を聴いた上で、これを許可することができる。

3　本学の第３年に編入学又は転入学することができる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

①　他の大学の２年以上の修了者で、本学の学科の教育課程に準ずる課程を履修した者

②　他の大学を卒業した者又は退学した者で、本学の学科の教育課程に準ずる課程を履修した者

③　短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者で、本学の学科の教育課程に準ずる課程を履修した者

④　学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）附則第７条の規定による旧制の高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等を卒業又は修了した者で、本学の学科の教育課程に準ずる課程を履修した者

4　本学に再入学することができる者は、本学を退学した者又は除籍された者で、再び入学を志願する者とする。

5　本条第３項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取り扱い、並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

6　編入学、転入学、再入学及び、転学科に関する必要な事項については、別に定める。

第３節　教育課程及び履修方法

（教育課程及び授業科目）

第 25 条　本学の教育課程における授業科目は、その内容により、教養教育科目（教養科目･伝統文化科目･コミュニケーション科目・キャリア形成科目）、専門教育科目（美術工芸科目・専門実習科目）及び博物館学芸員養成科目とする。

2　授業科目を必修科目、選択科目、自由科目に分け、各年次に配当して編成する。

3　本学の授業科目の種類、単位数等は別表第１、別表第２及び別表第３のとおりとする。なお、教育上必要あるときは寄附講座科目等を設けることができる。

4　学芸員の資格取得に必要な授業科目・単位数は、別表第４のとおりとする。

5　その他の資格取得に関する必要事項は、別に定める。

（教育課程の編成）

第 26 条　学部及び学科の設置の趣旨に従い、開設する授業科目について、組織的な研修を通じて絶えず改善に努めながら、体系的に編成するものとする。

2　教育課程の編成にあたっては、当該学部・学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮する。

3　本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に努めるものとする。

（授業科目の履修と卒業要件）

第 27 条　本学の学生にあっては別表第１、別表第２及び別表第３の教育課程を、次の各号に定めるところにより、履修しなければならない。

（1）開設授業科目は、第１年次より第４年次までにおいて履修する。

（2）必修授業科目は、卒業までにその全部の単位を修得しなければならない。選択授業科目は卒業までに規定の単位数以上を修得しなければならない。

（3）他学科の専門教育科目は 12 単位までを上限として、当該授業科目の単位を卒業に必要な単位として認めることができる。

2　本学に８セメスター、４年以上又は教授会の議を経て学長が決定した年限以上在学し、124 単位以上修得した者を卒業とする。ただし、他の大学に在学した年数を通算する。

（単位の計算方法）

第 28 条　各授業科目の単位計算方法は、１単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準より計算するものとする。

（1）講義については、15 時間の授業をもって１単位とする。

（2）演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって１単位とする。

（3）実験・実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって１単位とする。

（4）前項の規定にかかわらず、教育上特に必要があると教授会の議を経て学長が決定する場合は、単位の計算方法を変更することができる。また、卒業制作の授業科目については、これらの学修の成果を評価して、単位を認定することが適切と教授会の議を経て学長が決定する場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を別に定めることができる。

（１セメスターの授業時間）

第 29 条　１セメスターの授業を行なう期間は、定期試験等の期間を除き 15 週にわたることを原則とする。

2　教育上特別の必要があると認められる場合は、前項に定める期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

（履修届）

第 30 条　学生の履修については、別に定める履修申請書に基づいて学期初めに届け出ることとする。

2　履修申請に関する手続きについては、別に定める。

（履修科目登録単位数の上限）

第 31 条　学生が各学年次にわたって適切に授業科目を履修するため、学生が年間に履修科目として登録することのできる単位数の上限は、原則として 50 単位以内とする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生及び編入学者についてはこのかぎりではない。

2　前項に関し必要な事項は、別に定める。

（単位の認定）

第 32 条　学長は、授業科目を履修し、その試験に合格した者には、教授会の議を経て、所定の単位を与える。

2　試験は、履修した授業科目について前期末又は後期末において、筆記、口述、論文、研究報告及び課題の提出等の方法によって行なう。

3　出席時間数が三分の二に満たない者は、履修認定及び認定試験は受けられない。

4　前項の定期試験のほか、臨時に試験を行うことがある。

5　正当な理由により受験できなかった者には、教授会の議を経て学長が決定する場合は追試験を行うことがある。

（試験等の評価）

第 33 条　授業科目の試験の成績は、秀（90 点以上）・優（80 点～ 89 点）・良（70 点～ 79 点）・可（60 点～ 69 点）・不可（59 点以下）の５種の評語をもって表し、秀・優・良・可を合格とし、所定の単位を与える。

2　単位の修得及び試験に関する規定は別に定める。

（他の大学等における修得単位等の認定）

第 34 条　学長は、教育上有益と認めるときは、学生が大学の定めるところにより、他の大学等において履修した授業科目について修得した単位を、教授会の議に基づき、60 単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項の規定は、学生が外国の大学等に留学する場合にも準用する。

（他の大学等における授業科目の履修等）

第 35 条　学長は、教育上有益と認めるときは、学生が行なう大学、短期大学又は高等専門学校の専攻科等における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会の議に基づき、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

2　前項により与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

（編入学者の既修得単位等の認定）

第 36 条　編入学者の単位認定は、編入学以前の大学又は短期大学において修得した単位のうち、別に定める単位を限度として認定することができる。

2　前項に関する単位認定は、教授会の議を経て学長が決定する。

（本学以外での履修の許可）

第 37 条　本学学生にして第 35 条に定める大学等で授業科目履修を希望する者は、教授会の議を経て、学長の許可を得なければならない。

（本学以外で履修した授業科目及び単位の取り扱い）

第 38 条　本学以外で修得した授業科目及び単位の取り扱いに関する必要な事項は、別に定める。

（資格取得）

第 39 条　本学において博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法及び同法施行規則に規定する博物館に関する科目の所要の単位を修得しなければならない。

2　前項の規定に関わらず、卒業が認定されない者については、その資格を取得することはできない。

（その他）

第 40 条　この節に定めるもののほか、授業科目の配当年次等、履修すべき科目等履修に関する必要な事項は、別に定める。

第４節　休学、復学、転学、留学、退学、及び除籍

（休学）

第 41 条　学生が疾病その他特別の理由により引き続き２か月以上就学することができないときは、休学願いに医師の診断書又はその理由を証明する書類を添え、学長に願い出て許可を受けなければならない。

2　疾病のため就学することが適当でないと認められる者に対しては、学長は休学を命ずることができる。

3　休学した者は、その学期の試験を受けることはできない。

（休学期間）

第 42 条　休学期間は、休学を許可された日から当該学期末までとする。なお、引き続き休学を希望する者は、当該学期の定められた期日までに、前条第１項の手続を経れば、翌学期末まで休学することができるが、１年を超えることができない。ただし、特別の事情があるときは、学長の許可を得て、更に１年を限度として休学期間を延長することができる。

2　休学期間は、連続して２年を超えることができない。また、通算して４年を超えることができない。

3　休学期間は、第 16 条の在学年限には算入しない。

（復学）

第 43 条　休学の理由が消滅したときは、学長に願い出て、復学の許可を受けなければならない。

2　学長は、休学期間中にその理由が消滅したと認める時は、復学を命ずることができる。

3　復学の時期は学期の初めとし、すでに許可された休学期間内の学期途中での復学は認められない。

4　復学の手続は、休学を願い出た学期内の定められた期日までに完了していなければならない。

（転学）

第 44 条　学生が他の大学への入学又は転入学を志願しようとするときは、保証人連署の上、その事由を付して学長に願い出て、転学の許可を受けなければならない。

（留学）

第 45 条　学生が外国の大学又は短期大学等教育機関に留学を志願しようとするときは、保証人連署の上、その事由を付して学長に願い出て、留学の許可を受けなければならない。

2　前項の許可を得て留学した期間は、第 16 条に定める在学年限に含めることができる。

（退学）

第 46 条　学生が退学しようとするときは、保証人連署の上、その事由を付して学長に願い出て、退学の許可を受ければならない。

（除籍）

第 47 条　次の各号の一つに該当する学生があるときは、学長が除籍する。

（１）授業料等の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

（２）第 16 条に定める在学年限を超えた者。ただし、学長が所定の年限を超えて在学することも止むを得ないと認めた者を除く。

（３）第 42 条に定める休学期間を超えてなお復学できない者

（４）死亡又は２年以上にわたり行方不明の者

2　転学、退学又は除籍した学生については、第 23 条に定める学籍から除くものとする。

第５節　卒業及び学位

（卒業の認定）

第 48 条　本学に８セメスター、４年以上（第 24 条第１項の規定により編入学又は再入学した者にあっては、同条第４項に定める在学すべき年数）在学し、別表第１、別表第２及び別表第３に掲げる卒業に必要な授業科目及び単位数を取得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

２　学長は、前項により卒業を認定した者に対し、教授会の議を経て、卒業証書を授与する。

３　卒業認定の時期は、学年末とする。ただし、学長が特別の事情があると認める者に対しては、学期の末とすることができる。

（学位）

第 49 条　本学を卒業した者は、学士の学位を授与する。

２　学位については、次のとおりとする。

工芸学部	美術工芸学科	学士（工芸）
工芸学部	建築学科	学士（工芸）

３　学位に関する必要な事項は、別に定める。

第６節　賞罰

（表彰）

第 50 条　学生として表彰に値する行為のあった者に対しては、学長は教授会の議を経て、卒業時又はその他の機会にこれを表彰することができる。

２　表彰に関する必要な事項は、別に定める。

（懲戒）

第 51 条　学長は、学生が本学の規則命令に違反し、又は学生の本分に反する行為があった時は、教授会の議を経て、これを懲戒する。

２　前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

３　前項の退学は、次の各号の一つに該当する者に対して行う。

（１）性行不良で改善の見込みがないと認められる者

（２）学業を怠り成業の見込みがないと認められる者

（３）正当な理由がなくて出席が常でない者

（４）本学の秩序を乱し、その他学生の本分に著しく反した者

（５）訓告又は停学にもかかわらず、なお改悛の見込みがないと認められる者

４　懲戒処分に関する必要な事項は、別に定める。

第７節　研究生、聴講生、特別聴講生、科目履修生、長期履修生、委託生、研修生、客員研究員及び外国人留学生等

（研究生）

第 52 条　本学の学部又は付属研究所において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学部又は付属研究所の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、学長は研究生として受け入れることを許可することがある。

２　研究生を志願することができる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

３　研究生の研究期間は１年とする。ただし特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

４　研究生に関する必要な事項は、別に定める。

（聴講生）

第 53 条　本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、本学の教育に支障のない場合に限り、選考の上、聴講生として学長は入学を許可することがある。

２　聴講生に関する必要な事項は、別に定める。

（単位互換履修生）

第 54 条　本学へ単位互換履修生として入学できる者は、本学と単位互換協定を締結している大学又は短期大学等の学生で、所属の大学又は短期大学等で許可された者とする。

２　単位互換履修生に関する必要な事項は、別に定める。

（科目等履修生）

第 55 条　本学の学生以外の者で本学の特定の授業科目について履修を希望する者があるときは、本学の授業に支障のない限りにおいて、選考の上、学長は科目等履修生として履修を許可することがある。ただし、本学卒業生にあっては、選考のための検定を要しない。

2　科目等履修生は、第 32 条及び第 33 条の規定を準用して単位を与えることができる。

3　科目等履修生に関して必要な事項は、別に定める。

（長期履修生）

第 56 条　第 15 条及び第 16 条の規定に関わらず、修業年限及び在学年限を超えて履修を希望する者があるときは、本学の授業に支障のない限りにおいて、選考の上、学長は教授会の議を経て、長期履修生として履修を許可することがある。

2　長期履修生に関して必要な事項は、別に定める。

（委託生及び研修生）

第 57 条　他大学等又は地方公共団体等の機関から、本学の学部又は付属研究所の特定の分野について学生や教職員の研究・研修指導を委託したい旨の申し出があった場合は、委託する理由、これらの学生又は教職員の学歴その他必要な事項を審査し、その結果に基づき、本学の教育研究に支障のない場合に限り、委託生として受け入れることがある。

2　他大学等から委託された学生を委託生といい、地方公共団体等から委託された職員を研修生という。

3　委託生・研修生に関する必要な事項は、別に定める。

（客員研究員）

第 58 条　本学に客員研究員を置くことができる。

2　客員研究員に関する必要な事項は、別に定める。

（外国人留学生）

第 59 条　外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、学長は外国人留学生として入学を許可することがある。

2　前項の外国人留学生に対しては、第 27 条に定める授業科目のほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

3　外国人留学生に関する必要な事項は、別に定める。

第８節　入学検定料、入学金、授業料及びその他の納付金等

（入学検定料、入学金、授業料及びその他の納付金等の金額）

第 60 条　本学の入学検定料、入学金、授業料及びその他の納付金等（以下「学納金等」という。）の種別と金額は、別表第５のとおりとする。

2　前項のほか、学納金等減免に関する必要な事項は、別に定める。

（学納金等の納入）

第 61 条　学納金等は、全額一括納入か、又は２期に分けて所定の期日までに納入しなければならない。ただし、特別の事情があると認められる者は、分納又は延納を認めることがある。

2　前項の学納金等の納入方法に関する必要な事項は、別に定める。

（復学の場合の学納金等）

第 62 条　学期の途中において復学する者は、復学する月から当該学期末までの学納金等を、復学する月までに納付しなければならない。

（学年の中途で卒業する場合の学納金等）

第 63 条　学年の中途で卒業する見込の者は、卒業する見込の月までの学納金等を納付するものとする。

（転学、退学及び停学の場合の学納金等）

第 64 条　学期の中途で退学又は除籍された者の当該期分の学納金等は徴収する。

2　停学期間中の学納金等は徴収する。

（休学、留学の場合の学納金等）

第 65 条　休学を許可され又は命ぜられた者については、別途定める休学在籍料を徴収する。

2　留学期間中の学費等は徴収する。

（学納金等の免除及び徴収の猶予）
第 66 条　経済的理由により学納金等の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合又はその他やむを得ない事情があると認められる場合は、学費等の全部又は一部を免除し、又は徴収を猶予することがある。
2　学納金等の免除及び徴収の猶予に関する必要な事項は、別に定める。

（研究生及び科目等履修生の学納金等）
第 67 条　研究生及び科目等履修生等の検定料及び学納金等については、別に定める。

（納付した学納金の返還等）
第 68 条　既納の入学検定料、入学金及び授業料等納付金は還付しない。
2　前項の特例は別に定める。

第9節　奨学制度

（奨学制度）
第 69 条　本学は、奨学のため、奨学金の制度を設けることができる。
2　奨学金制度に関する必要な事項は、別に定める。

第 10 節　厚生施設

（医務室）
第 70 条　本学に医務室を付設する。
2　医務室に関する必要な事項については、別に定める。

第 11 節　公開講座

（公開講座）
第 71 条　本学は、社会人の教養を高め、地域の文化の向上に資するため、公開講座やワークショップ等を開設することができる。
2　公開講座やワークショップ等に関して必要な事項は、別に定める。

第 3 章　改正及び細則

（改正）
第 72 条　本学則の改正は、大学運営会議に諮り、教授会の議を経て、評議員会及び理事会で議決する。

（規程その他）
第 73 条　本学則に規定するもののほか、本学則施行についての規程その他必要な事項は、別に定める。

（所在地）
第 74 条　本学の主たる事務所の所在地は、京都府京都市東山区鞘町通正面下る上堀詰町 272 番 1 とする。

附　則
1　本学則は、文部科学大臣の認可の日（平成 23 年 10 月 24 日）から施行する。
2　第3条第2項に規定する工芸学部の収容定員は、平成 27 年までの間、次のとおりとする。

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
収容定員 　工芸学部 　　伝統工芸学科	95	190	295	400
合　　計	95	190	295	400

附　則

本学則は、平成 24 年７月１日から施行する。

附　則

本学則は、公布の日から施行し、改正後の別表第１は平成 25 年４月１日から適用する。

附　則

本学則は、平成 27 年４月１日から施行する。

附　則

１　本学則は、平成 28 年４月１日から施行する。

２　学則別表第１は、平成 24 ～ 27 年度の入学生に適用する。

附　則

本学則は、平成 29 年４月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成 29 年９月１日から施行する。

附　則

本学則は、平成 30 年４月１日から施行する。ただし、平成 29 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

本学則は、平成 30 年４月１日から施行する。

附　則

１　本学則は、平成 30 年８月 29 日から施行し、平成 30 年４月１日から適用する。

２　平成 31 年４月１日現在、伝統工芸学科に在籍する学生は、学科名を美術工芸学科とする。

学則　別表第２　工芸学部（美術工芸学科）の授業科目の種類、単位数等（第 25 条、第 27 条及び第 48 条関係）

①　基礎教育科目

科目区分		授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由	履修単位
教養教育科目	教養科目	歴史学		2		22 単位以上を修得のこと
		森林学概論		2		
		美学		2		
		技芸と文学		2		
		栄養学入門		2		
		生涯学習論		2		
		生活と法律		2		
		博物館概論		2		
		生物と環境		2		
		人と農業		2		
		科学と芸術		2		
		工芸と経済		2		
		伝統と学び		2		
		哲学		2		
		教育学		2		
		世界文化遺産論		2		
		宗教史		2		
		地域社会論		2		
		人間関係の科学		2		
		人間関係の心理臨床		2		
		表現技術論		2		
		初年次演習		2		
		小計（22 科目）	0	44	0	
	伝統文化科目	日本工芸美術史	2			必修４単位を含む８単位以上を修得のこと
		京都学		2		
		伝統芸術入門Ⅰ		1		
		伝統芸術入門Ⅱ		1		
		伝統芸術展開Ⅰ		1		
		伝統芸術展開Ⅱ		1		
		日本文化史		2		
		京都学演習Ⅰ	2			
		京都学演習Ⅱ		2		
		小計（９科目）	4	10	0	
	コミュニケーション科目	日本語表現法		1		必修２単位を含む６単位以上を修得のこと
		英会話Ⅰ	1			
		美術工芸英語	1			
		英会話Ⅱ		1		
		英語コミュニケーション		1		
		情報基礎演習		2		
		総合コミュニケーション		1		
		小計（７科目）	2	6	0	
	キャリア形成科目	しごと論Ⅰ		2		６単位以上を修得のこと
		しごと論Ⅱ		2		
		社会活動Ⅰ		1		
		社会活動Ⅱ		1		
		インターンシップ		2		
		メディアリテラシー		2		
		現代社会論		2		
		小計（７科目）	0	12	0	

②　専門教育科目

科目区分			授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由	履修単位
専門教育科目	美術工芸科目	基本科目	工芸概論	2			美術工芸科目のうち 48 単位以上を修得のこと （但し、基本科目から、選択科目 10 単位以上、基幹科目及び展開科目において選択科目 26 単位以上を選択のこと）
			建築概論		2		
			伝統工芸概論	2			
			構成基礎演習		1		
			伝統住居概論		2		
			色彩学		2		
			日本美術史	2			
			素描		2		
			デザイン概論		2		
			社寺建築概論		2		
			西洋美術史		2		
			東洋美術史		2		
			伝統絵画技法Ⅰ		2		
			建築計画Ⅰ		2		
			建築構造力学Ⅰ		2		
			文化財概論		2		
			文化財保存概論		2		
			小計（17 科目）	6	27	0	
		基幹科目	色彩理論演習		2		
			伝統住居論		2		
			デザイン作図演習		2		
			デザインと法規		2		
			伝統絵画技法Ⅱ		2		
			伝統空間論		2		
			伝統建築環境学		2		
			文献・絵画史料概論		2		
			伝統構造学		2		
			伝統建築図（基礎）		2		
			IT 活用応用演習		2		
			コンピュータデザイン演習		2		
			建築計画Ⅱ		2		
			建築一般構造Ⅰ		2		
			建築材料		2		
			建築法規		2		
			建築構造力学Ⅱ		2		
			建築環境工学		2		
			文化財修理論		2		
			文化財マネージメント論		2		
			インテリア設計		2		
			小計（21 科目）	0	42	0	
		展開科目	伝統工芸産業工学		2		
			伝統工芸材料科学		2		
			工芸経営論		2		
			立体造形		2		
			伝統文様		2		
			古文書解読演習Ⅰ		1		
			伝統建築図（応用）		2		
			室内意匠論		2		
			古文書解読演習Ⅱ		1		
			建築設備		2		
			建築一般構造Ⅱ		2		
			建築施工法		2		
			公共デザイン論		2		
			専門演習		2		
			小計（14 科目）	0	26	0	
	専門演習・実習科目		芸術導入演習	2			必修 34 単位を修得のこと
			芸術導入実習	2			
			造形基礎演習Ⅰ	2			
			造形基礎演習Ⅱ	2			
			工芸・デザイン基礎実習Ⅰ	2			
			工芸・デザイン基礎実習Ⅱ	2			
			専門実習Ⅰ	2			
			専門実習Ⅱ	2			
			専門実習Ⅲ	2			
			プロジェクト演習Ⅰ	2			
			プロジェクト演習Ⅱ	2			
			プロジェクト演習Ⅲ	2			
			卒業制作研究	4			
			卒業制作・論文	6			
			小計（14 科目）	34	0	0	

以上、合計 124 単位以上を修得のこと

学則　別表第３　工芸学部（建築学科）の授業科目の種類、単位数等（第 25 条、第 27 条及び第 48 条関係）

①　基礎教育科目

科目区分		授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由	履修単位
教養教育科目	教養科目	歴史学		2		22 単位以上を修得のこと
		森林学概論		2		
		美学		2		
		技芸と文学		2		
		栄養学入門		2		
		生涯学習論		2		
		生活と法律		2		
		博物館概論		2		
		生物と環境		2		
		人と農業		2		
		科学と芸術		2		
		工芸と経済		2		
		伝統と学び		2		
		哲学		2		
		教育学		2		
		世界文化遺産論		2		
		宗教史		2		
		地域社会論		2		
		人間関係の科学		2		
		人間関係の心理臨床		2		
		表現技術論		2		
		初年次演習		2		
		小計（22 科目）	0	44	0	
	伝統文化科目	日本工芸美術史	2			必修４単位を含む８単位以上を修得のこと
		京都学		2		
		伝統芸術入門Ⅰ		1		
		伝統芸術入門Ⅱ		1		
		伝統芸術展開Ⅰ		1		
		伝統芸術展開Ⅱ		1		
		日本文化史		2		
		京都学演習Ⅰ	2			
		京都学演習Ⅱ		2		
		小計（９科目）	4	10	0	
	コミュニケーション科目	日本語表現法		1		必修２単位を含む６単位以上を修得のこと
		英会話Ⅰ	1			
		美術工芸英語	1			
		英会話Ⅱ		1		
		英語コミュニケーション		1		
		情報基礎演習		2		
		総合コミュニケーション		1		
		小計（７科目）	2	6	0	
	キャリア形成科目	しごと論Ⅰ		2		６単位以上を修得のこと
		しごと論Ⅱ		2		
		社会活動Ⅰ		1		
		社会活動Ⅱ		1		
		インターンシップ		2		
		メディアリテラシー		2		
		現代社会論		2		
		小計（７科目）	0	12	0	

②　専門教育科目

科目区分			授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由	履修単位
専門教育科目	美術工芸科目	基本科目	工芸概論		2(※)		（※）平成 28 年度入学生についてのみ「工芸概論」を必修とし「建築概論」は選択とする。
			建築概論	2(※)			
			伝統工芸概論	2			
			構成基礎演習		1		
			伝統住居概論		2		
			色彩学		2		
			日本美術史	2			
			素描		2		
			デザイン概論		2		
			社寺建築概論		2		
			西洋美術史		2		
			東洋美術史		2		
			伝統絵画技法Ⅰ		2		
			建築計画Ⅰ		2		
			建築構造力学Ⅰ		2		
			文化財概論		2		
			文化財保存概論		2		
			小計（17 科目）	6	27	0	
		基幹科目	色彩理論演習		2		美術工芸科目のうち 51 単位以上を修得のこと （但し、基本科目において選択科目 11 単位以上、基幹科目において選択科目 14 単位以上、展開科目において選択科目 14 単位以上を選択のこと）
			伝統住居論		2		
			デザイン作図演習		2		
			デザインと法規		2		
			発想と表現		2		
			伝統絵画技法Ⅱ		2		
			社寺建築論		2		
			伝統空間論		2		
			伝統建築環境学		2		
			文献・絵画史料概論		2		
			伝統構造学		2		
			伝統建築図（基礎）		2		
			IT 活用応用演習		2		
			コンピュータデザイン演習		2		
			建築計画Ⅱ		2		
			建築一般構造Ⅰ		2		
			建築材料		2		
			建築法規		2		
			建築構造力学Ⅱ		2		
			建築環境工学		2		
			文化財修理論		2		
			文化財マネージメント論		2		
			小計（22 科目）	0	44	0	
		展開科目	古文書解読演習Ⅰ		1		
			伝統建築図（応用）		2		
			室内意匠論		2		
			古文書解読演習Ⅱ		1		
			伝統建築論Ⅰ		2		
			伝統建築論Ⅱ		2		
			伝統建築図（発展）		2		
			雛形製作		2		
			建築計画Ⅲ		2		
			建築計画Ⅳ		2		
			建築設備		2		
			建築一般構造Ⅱ		2		
			建築構造力学Ⅲ		2		
			建築施工法		2		
			公共デザイン論		2		
			専門演習		2		
			小計（16 科目）	0	30	0	
	専門演習・実習科目	工芸基礎系	工芸実習導入（建築デザイン）	3			必須 11 単位を修得のこと
			工芸実習基礎Ⅰ（建築デザイン）	4			
			工芸実習基礎Ⅱ（建築デザイン）	4			
			小計（３科目）	11	0	0	
		建築デザイン系	建築デザイン演習Ⅰ		4		いずれかの領域のうち指定された 14 単位を修得のこと
			建築デザイン演習Ⅱ		6		
			建築デザイン演習Ⅲ		4		
			小計（３科目）	0	14	0	
		伝統建築系	伝統建築専門実習Ⅰ		4		
			伝統建築専門実習Ⅱ		6		
			伝統建築専門実習Ⅲ		4		
			小計（３科目）	0	14	0	
		全コース共通	卒業制作	6			必修６単位を修得のこと
			小計（１科目）	6	0	0	

以上、合計 124 単位以上を修得のこと

別表第４　博物館学芸員の資格取得に必要な授業科目・単位数（第 25 条第 4 項及び第 39 条関係）

科目区分	授業科目の名称	単位数			履修単位
		必修	選択	自由	
博物館学芸員養成科目	生涯学習論		2		学芸員資格取得に必要な 19 単位を修得のこと
	博物館概論		2		
	博物館経営論			2	
	博物館資料論			2	
	博物館資料保存論			2	
	博物館展示論			2	
	博物館情報・メディア論			2	
	博物館教育論			2	
	博物館実習			3	
	小計（9科目）	0	4	15	

別表第５　入学検定料、入学金、授業料等の金額（第 60 条及び第 61 条関係）

1．正規学生

		学納金	金 額	備 考
工芸学部	美術工芸学科 建築学科	入学検定料	35,000	入学出願時
		入学金	150,000	入学手続時
		授業料	1,190,000	前期　毎年 4月30日まで（半額）
				後期　毎年10月31日まで（半額）
		教育充実費	360,000	前期　毎年 4月30日まで（半額）
				後期　毎年10月31日まで（半額）

（実習諸費等は除く）

2．転入・編入学生

		学納金		金 額	備 考
工芸学部	美術工芸学科 建築学科	入学検定料		35,000	入学出願時
		入学金			
			（学）二本松学院出身者	50,000	入学手続時
			上記以外の者	150,000	入学手続時
		授業料		1,190,000	前期　毎年 4月30日まで（半額）
					後期　毎年10月31日まで（半額）
		教育充実費		360,000	前期　毎年 4月30日まで（半額）
					後期　毎年10月31日まで（半額）

（実習諸費等は除く）

3．長期履修生

		学納金	金 額	備 考
工芸学部	美術工芸学科 建築学科	入学検定料	35,000	入学出願時
		入学金	150,000	入学手続時
		授業料	一単位料（授業料年額÷正規学生の年間履修登録可能単位数）×年間履修登録単位数	
		教育充実費	一単位料（教育充実費年額÷正規学生の年間履修登録可能単位数）×年間履修登録単位数	

（実習諸費等は除く）

規程番号　362-02

京都美術工芸大学
休学、復学、転学、退学、再入学等の手続に関する規程

平成24年　3月29日　制定
平成24年　4月　1日　施行
平成27年　4月　1日　一部改定･施行

（目的）

第１条　この規程は、京都美術工芸大学学則（以下「学則」という。）第 24 条、第 41 条から第 44 条まで、第 46 条及び第 47 条に規定する休学、復学、転学、退学、再入学、除籍及び復籍の手続を定めることを目的とする。

（休学手続）

第２条　病気その他やむを得ない理由により休学しようとする者は、学則第 41 条第１項の規定に基づき、その事実を証明する書類を添えて、保証人連署の上、休学願（様式第１号）を所属学部長に提出し、学長の許可を得なければならない。

２　前項の休学願は、休学しようとする２週間前までに提出しなければならない。ただし、やむを得ない場合は、この限りでない。

（休学期間）

第３条　休学期間は、休学を許可された日からその学期の末日までとする。ただし、特別の理由がある場合は、引き続き休学期間の延長を認めることがある。

２　前項ただし書による休学期間延長の許可を受けようとする者は、休学期間終了日の２週間前までに前条第１項の規定に定める手続を経なければならない。

３　休学可能期間は、通算して４学期以内とする。

４　前項の規定にかかわらず、学長が相当と認める格段の事情があるときは、在学年数に参入されない学期が連続して４学期を超えず、かつ、通算して６学期を超えない範囲で休学を許可することがある。

５　休学期間終了日を超えて、休学延長、復学又は退学の手続を催促するも、これを行わず欠席を続ける者は、当該学期末をもって退学とする。

６　学則第 42 条第３項の規定に基づき、休学期間を含む学期を、在学年数に算入しない。

（復学手続）

第４条　休学したものが復学しようとするときは、学則第 43 条の規定に基づき、保証人連署の上、復学願（様式第２号）を提出し、学長の許可を得なければならない。

２　前項の復学願は、復学を希望する学期の始まる２週間前までに提出しなければならない。

３　病気によって休学した者が復学を希望するときは、医師による診断書を添付しなければならない。

４　復学の時期は、学期の初めとする。

５　学則第 62 条に定める学納金等を納入しない者は、復学の許可を取り消す。

（転学手続）

第５条　他の大学等へ転学を希望する者は、学則第 44 条の規定に基づき、保証人連署の上、転学願に学生証を添えて、所属学部長に提出し、学長の許可を得なければならない。

（退学手続）

第６条　病気の他やむを得ない理由によって退学しようとする者は、学則第 46 条の規定に基づき、保証人連署の上、退学願（様式第３号）に学生証を添えて提出し、教授会の議を経て、学長の許可を得なければならない。

（在学年数超過者の退学）

第７条　在学年数が８年で卒業できない者は、当該学期末日をもって退学とする。

２　学則第 24 条に規定する編入学又は転入学をした者で、次に規定する年数で卒業できないものは、当該学期末日をもって退学とする。

（１）　第２年次に入学した者　７年
（２）　第３年次に入学した者　６年
（３）　第４年次に入学した者　２年

（処分退学）

第８条　学則第 51 条に規定する退学の懲戒処分を受けた者は、懲戒処分書の交付日をもって退学とする。

（退学の在学年数）
第9条　退学となった学期は、在学年数に含めない。

（再入学手続）
第 10 条　第７条の規定により退学した者が再入学を希望するときは、学則第 24 条第３項の規定に基づき、保証人連署の上、再入学願（様式第４号）を提出し、学長の許可を受けなければならない。ただし、在学年数に算入されない学期が通算して４学期を超えるときは、再入学を許可しない。
２　前項の再入学願は、再入学を希望する学期の始まる２週間前までに、再入学審査料を添えて提出しなければならない。
３　再入学は、学期の始めとする。
４　学則第 61 条に定める学納金等を納入しなかった者は、再入学の許可を取り消す。

（除籍手続）
第 11 条　学則第 61 条に定める期限までに学費を納入しなかった者は、学則第 47 条の規定に基づき、除籍（様式第５号）とする。
２　前項の除籍日は、前期を９月 30 日、後期を３月 20 日とする。
３　除籍期間を含む学期は、在学年数に含めない。

（復籍手続）
第 12 条　除籍となった者が復籍を希望するときは、学則第 24 条第３項の規定に基づき、保証人連署の上、復籍願を提出し、学長の許可を受けなければならない。ただし、在学年数に算入されない学期が通算して４学期を超えるときは、復籍を許可しない。
２　前項の復籍願は、復籍を希望する学期の始まる２週間前までに提出しなければならない。
３　復籍の時期は、学期の始めとする。
４　学則第 61 条に定める学納金等を納入しなかった者は、復籍の許可を取り消す。

（事務）
第 13 条　この規程に基づく事務は、教学センターが行う。

（雑則）
第 14 条　この規程に定めるもののほか、必要な事項は、学長が別に定める。

（規程の改廃）
第 15 条　この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附　則
１　この規程は、平成 24 年４月１日から施行する。
２　この規程は、平成 27 年４月１日から施行する。

規程番号　842-01

京都美術工芸大学学納金等に関する規程

平成23年12月22日　制定
平成24年　4月　1日　施行
平成26年　4月　1日　一部改定･施行
平成27年　9月　1日　一部改定･施行
平成29年　4月　1日　一部改定･施行
平成30年　4月　1日　一部改定･施行

（目的）

第1条　この規程は、京都美術工芸大学（以下「本学」という。）の入学検定料、入学金、授業料及びその他の納付金等（以下「学納金等」という。）について定めた、京都美術工芸大学学則（以下「学則」という。）第 60 条から第 68 条までの規定に関して必要な事項を定めることを目的とする。

（納入時期）

第2条　学則別表第３に規定する学納金等の納入時期は、次のとおりとする。

（1）入学検定料　　入試出願時
（2）入学金　　入学手続時
（3）授業料　　春学期（前期）　4月 30 日
　　秋学期（後期）10 月 31 日

2　入学時の入学金及び授業料の納入期日及び納入方法は、別に定める。

3　各種手数料は、その都度納入しなければならない。

（延納）

第3条　授業料を特別の事情によって前条の納入期日までに納入できない場合は、延納を許可することがある。

2　延納の願い出は、次の期限までとする。
　　春学期（前期）　4月 20 日
　　秋学期（後期）10 月 20 日

3　延納を願い出る者は、本学所定の用紙に必要事項を記載し、保護者、保証人連署、押印の上、事務局長を経て学長の許可を得なければならない。

4　延納手数料の金額は、別表第２に掲げるとおりとする。

5　延納の期日は、納入の期限の日から 60 日以内とする。

6　延納の許可を受けたもので、特別な理由により許可された期間内に納入することができない場合には、改めて再延納願を提出し、許可を受けなければならない。この場合、納入延期の期間は 30 日以内とする。

（分納）

第4条　授業料を特別の事情によって第２条第１項第３号の納付期限までに納入できない場合には、分納を許可することがある。

2　分納の願い出の期限、手続及び完納期限については、前条第２項、第３項、第５項及び第６項を準用する。

（授業料未納者）

第5条　所定の手続をせず、第２条第１項第３号の納入期限までに授業料を納入しないときは、履修科目の登録を取り消し、本学学生としての身分に関する諸証明書の発行を停止することがある。

2　授業料の未納者には、定期試験の受験資格を与えない。

（滞納者の除籍）

第6条　所定の手続をせず、督促しても授業料を指定の期日までに納入しないときは、学則第 46 条の定めにより除籍する。

（休学在籍料）

第7条　京都美術工芸大学学則第 65 条に規定する休学在籍料は、別表第２に揚げる金額とする。

（委託徴収金及び預り金）

第8条　委託金等の納入時に委託徴収金又は預り金として徴収するものは次に掲げるものとし、その額及び納入の時期は別表第１のとおりとする。

（1）学生自治会費（委託徴収金）
（2）交友会費（委託徴収金）

（3）学生教育研究災害障害保険（預り金）

2　学生自治会費は、入学後の4年間でその全額を徴収する。留学中の期間もこの期間に含めるものとする。

3　学生自治会費は、休学及び留学の期間及び最低在学年数を超過した期間においても別表第1に定める金額を所定の時期に徴収する。

4　交友会費は、入学時にその全額を徴収する。

5　退学者及び除籍者の既に納めた学生自治会費、交友会費及び学生教育災害障害保険は、返還しない。

（実習教材費及び道具代）

第9条　実習に要する教材費及び自己所有の道具代は、別に定める方法で納入しなければならない。

（実習費）

第10条　博物館実習等に要する費用は、別に定める方法で納入しなければならない。

（追試験料及び再試験料）

第11条　追試験又は再試験の受験を許可された者は、別表第2に掲げる試験料を納入しなければならない。

（証明書等の発行手数料）

第12条　各種証明書の発行及び身分証明書の再発行等の手数料は、別表第3のとおりとする。

（規程の改廃）

第13条　この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。ただし、学納金等の額を改正する場合は、事前に理事会の承認を受けなければならない。

附　則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附　則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附　則

この規程は、平成27年9月1日から施行する。

附　則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附　則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

別表第1

区　分	金　額	納入期限	備　考
学生自治会費	5,000円	学年の初め	年額
交友会費	40,000円	入学時	終身会費

別表第2

区　分	金　額	納入期限	備　考
追試験料	1科目　1,000円	指定期日内	
再試験料	1科目　1,000円	指定期日内	
休学在籍料（半期）	350,000円	指定期日内	
休学在籍料（通期）	700,000円	指定期日内	

別表第3

区　分	金　額	区　分	金　額	区　分	金　額
在学証明書	各200円	卒業証明書	各200円	その他の証明書	200円
在籍証明書		指定科目修得単位証明書		学生証再発行	1,000円
在籍期間証明書		博物館に関する科目の単位修得証明書		通学定期発行控	200円
単位修得・成績証明書		資格取得見込証明書		各種英文証明書	1,000円
卒業見込証明書		健康診断書（写）			

規程番号　362-06

京都美術工芸大学追試験・再試験規程

平成24年　1月26日　　制定
平成24年　4月　1日　　施行
平成26年　4月　1日　一部改正･施行
平成27年　4月　1日　一部改正･施行
平成30年　1月　1日　一部改正･施行

（目的）
第１条　この規程は、京都美術工芸大学試験規程第７条、第８条及び第９条に基づき、追試験及び再試験に関する必要な事項を定めることを目的とする。

（定義）
第２条　追試験及び再試験は、所定の条件をもとに実施する唯一の救済措置である。

（追試験）
第３条　追試験は、病気、交通事故、就職試験、同居親族の冠婚葬祭、天変地異その他やむを得ないと認められる事情により、本試験（授業中の試験、レポート提出を含む。）を受験できなかった者を対象とする。
２　追試験手続を完了した学生に対して、原則として所定の期間内に追試験を行う。試験は、１回限り行うこととする。

（再試験）
第４条　再試験は、卒業予定者で卒業の条件となっている所定の単位を取得できなかった者を対象とし、卒業に必要な最低単位数について、本試験を受験して不可となった科目の内、不足する分が４科目８単位以内の者に限って、卒業のための当該科目の再試験の受験、当該科目担当教員の指導によるレポート及び、課題等の提出の機会を与えることができる。

（受験願）
第５条　追試験及び再試験該当者は、指定された期日（掲示）までに「追試験･再試験受験願」と追試験･再試験手数料（別途定める。）を事務部に提出しなければならない。
２　前項の手続の際、公欠と認めた事由による欠席の場合は、受験料は無料とする。ただし、公欠試験欠席届を当該欠席日を含めて原則１週間以内に教学センターに提出し、忌引については、会葬礼状などの証明となるもの、交通事情によるものは、延着証明等を添付しなければならない。

（採点評価）
第６条　再試験の採点評価は 60 点を最高点とする。

（試験の実施期間）
第７条　追試験及び再試験の実施期間は、本試験の終了後とし、掲示により実施日時を通知する。

（試験の形式）
第８条　追試験及び再試験は、毎学期１回のみ試験又はレポート論題等の形式で実施する。なお、実習科目においては課題作品やレポートの再提出や新たな課題が課される。

（欠席者の扱い）
第９条　追試験及び再試験の欠席者については、当該科目を放棄したものとみなす。

（規程の改廃）
第 10 条　この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附　則
１　この規程は、平成 24 年４月１日から施行する。
２　この規程は、平成 26 年４月１日から施行する。
３　この規程は、平成 27 年４月１日から施行する。
４　この規程は、平成 30 年１月１日から施行する。

◆（参考）ハラスメント防止対策委員会内規

（平成25年3月21日　制定・施行　平成27年4月1日　一部改正・施行）

（目的）

第１条　この内規は、京都美術工芸大学ハラスメント防止対策委員会規程（以下「委員会規程」という。）及び同施行細則の施行に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第２条　京都美術工芸大学ハラスメント防止対策委員会（以下「委員会」という。）の下部組織として、ハラスメント防止対策相談室（以下「相談室」という。）及びハラスメント調査委員会（以下「調査委員会」という。）を設置する。

（組織）

第３条　相談室及び調査委員会は、委員会規程第３条に規定する委員の中から組織する。

２　委員の任期は２年以内とする。ただし再任は妨げない。

（相談室）

第４条　相談室は、以下に掲げる事項をつかさどる。

（1）　相談室は、委員会に持ち込まれるあらゆる相談の窓口となる。

（2）　相談者は、相談室の担当者のいずれかを指名して相談することができる。

（3）　教職員等への相談があった場合、教職員は相談室を紹介し、当事者が直接相談室において相談するように促す。ただし、状況に応じて、相談室において教職員等の同席の下相談を受けることを認める。

（4）　メールによる相談内容は、セキュリティーの万全なシステムにより保護し、相談室の担当者のみが閲覧確認をするものとする。ただし委員会において参照する場合は、その限りではない。

（5）　手紙による相談内容は、相談室の担当者のみが閲覧確認をするものとし、手紙は厳重保管する。ただし委員会において参照する場合は、その限りではない。

（6）　相談室は、相談者のおかれた状況を客観的に把握するため、また聞き逃しや記憶違いを防ぐために、「ハラスメント調査書」（様式第１号）と録音において相談内容の記録を残す。

（7）　相談者は相談内容の解決に向けて、相談室の助言に基づき、委員会による対応策の提案が必要であるか否かを選択することが出来る。ただし、相談室は相談内容が複数の教職員により合議されることを相談者に伝え、要請があればその成員の氏名を相談者に通知する。

（8）　相談者が委員会に対して対応策の提案を求めた場合、相談室は相談者に対して、回答の期日を通知する。

（9）　相談室は、相談者の依頼内容を速やかに委員会に報告する。

（10）相談室において行われる全ての業務、また相談室の業務により生じる周囲へのあらゆる影響によって、相談者ならびに担当者に不利益が生じてはならない。

（調査委員会の成立）

第５条　調査委員会は、以下の場合に成立する。

（1）　委員会が相談室から事例の報告を受け、状況確認の必要性が生じたとき。

（2）　報告された事例の状況確認を行うための実務担当者が選定されたとき。

（3）　相談者への対応について、委員会が状況確認を行う担当者に判断を委任するとき。

（調査委員会の役割）

第６条　調査委員会は、以下に掲げる事項をつかさどる。

（1）　調査委員会は、できる限り客観的な判断により事実を把握することを目的として活動する。

（2）　調査委員会は、客観的判断に基づく事実認定が完了したのち、相談者の求める対応策を検討する。必要に応じて、委員以外の者を招へいして協議を行うことがある。

（3）　調査委員会は、審議結果の決定後、回答期日までに相談者に対応策を提案する。相談者は、状況の打開を目的とした言動の行使を、委員会に要請することができる。

（4）　調査委員会が相談者以外の者に対して相談事例に関連した言動を行使した場合、調査委員会はその事実を相談者に報告する。

（5）　解決が困難であると相談者ならびに調査委員会が判断した場合、調査委員会は委員会へその旨を報告する。委員会は二本松学院ハラスメント防止対策委員会へ報告し、改めて審議し対策を講じる。事件性がある場合は弁護士等の第三者機関による対応を検討する。

（6）　相談者により事例が解決されたと判断されるまでは、調査委員会は相談者との面談を停止することができない。ただし、相談者の要請があれば、この限りではない。

（7）　調査委員会において行われる全ての業務、また調査委員会の業務により生じる周囲へのあらゆる影響によって、相談者ならびに担当者に不利益が生じてはならない。

（相談事例の解決）

第７条　相談事例の解決は、相談者の判断によってのみ決定される。

２　相談事例が解決に至った場合、委員会は事例の研究および反省を行い、再発防止について議論する。議論の内容は二本松学院ハラスメント防止対策委員会に報告し、必要に応じて助言を受ける。

（個人情報の保護）

第８条　相談者の個人情報の収集は、適正かつ公正な手段により、事例の解決に必要な最小限度の範囲においてこれを行うものとする。

２　委員会は、所有する個人情報を委員会の業務遂行以外の目的に利用してはならない。

３　相談室に持ち込まれたメールの内容、手紙、および「ハラスメント調査書」は文書形式で保存し、相談者から直接聴取した内容は CD-R 上のデータ形式で保存する。

４　相談事例の解決後は、全経緯を報告書に記すこととし、メール内容、手紙、「ハラスメント調査書」、CD-R、および報告書は委員会において厳重に管理し、これ以外のあらゆる情報は廃棄する。

５　相談室担当者の任期終了後は、前担当者がメール閲覧出来ないように、セキュリティ更新を行う。

（内規の改廃）

第９条　この内規の改廃は、委員会の議を経て教授会で行う。

附　則

１　この内規は、平成 25 年　３月 21 日から施行する。

２　この内規は、平成 27 年　４月１日から施行する。

シラバス

シラバス

[シラバスの見方]…… 108

1　教養教育科目(教養科目) …… 109

歴史学…… 109
美学…… 110
栄養学入門…… 111
生涯学習論…… 112
生活と法律…… 113
博物館概論…… 114
森林学概論…… 115
科学と芸術…… 116
工芸と経済…… 117
伝統と学び…… 118
哲学…… 119
教育学…… 120
技芸と文学…… 121
世界文化遺産論…… 122
地域社会論…… 123
人間関係の科学…… 124
人間関係の心理臨床…… 125
表現技術論…… 126

2　教養教育科目(伝統文化科目) …… 127

日本工芸美術史…… 127
京都学…… 128
日本文化史…… 129
伝統芸術入門Ⅰ(茶道)…… 130
伝統芸術入門Ⅰ(華道)…… 131
伝統芸術入門Ⅰ(書道)…… 132
伝統芸術入門Ⅱ(茶道)…… 133
伝統芸術入門Ⅱ(華道)…… 134
伝統芸術入門Ⅱ(書道)…… 135
京都学演習Ⅰ(Aクラス)… 136
京都学演習Ⅰ(Bクラス)… 137
京都学演習Ⅱ…… 138

3　教養教育科目 (コミュニケーション科目) …… 139

日本語表現法(Aクラス)… 139
日本語表現法(Bクラス)… 140
英会話Ⅰ(Aクラス)…… 141
英会話Ⅰ(Bクラス)…… 142
英会話Ⅰ(Cクラス)…… 143
英会話Ⅰ(Dクラス)…… 144
英会話Ⅰ(Eクラス)…… 145
英会話Ⅰ(Fクラス)…… 146
美術工芸英語(Aクラス)… 147
美術工芸英語(Bクラス)… 148
美術工芸英語(Cクラス)… 149
美術工芸英語(Dクラス)… 150
美術工芸英語(Eクラス)… 151
美術工芸英語(Fクラス)… 152
英会話Ⅱ(Aクラス)…… 153
英会話Ⅱ(Bクラス)…… 154
英会話Ⅱ(Cクラス)…… 155
英語コミュニケーション(Aクラス) … 156
英語コミュニケーション(Bクラス) … 157
情報基礎演習(Aクラス)… 158
情報基礎演習(Bクラス)… 159
総合コミュニケーション… 160

4　教養教育科目(キャリア形成科目) …… 161

しごと論Ⅰ…… 161
しごと論Ⅱ(Aクラス)…… 162
しごと論Ⅱ(Bクラス)…… 163
社会活動Ⅰ…… 164
社会活動Ⅱ…… 165
インターンシップ…… 166
メディアリテラシー…… 167
現代社会論…… 168

5　専門教育科目(美術工芸科目・基本科目) …… 169

工芸概論…… 169
伝統工芸概論…… 170
日本美術史…… 171
デザイン概論…… 172
伝統住居概論…… 173
色彩学(Aクラス) …… 174
色彩学(Bクラス) …… 175
社寺建築概論…… 176
西洋美術史…… 177
東洋美術史…… 178
構成基礎演習(Aクラス) … 179
構成基礎演習(Bクラス) … 180
構成基礎演習(Cクラス) … 181
構成基礎演習(Dクラス) … 182
素描…… 183
伝統絵画技法Ⅰ…… 184
建築計画Ⅰ…… 185
建築構造力学Ⅰ…… 186
建築概論…… 187
文化財概論…… 188

6　専門教育科目(美術工芸科目・基幹科目) …… 189

伝統住居論…… 189
デザインと法規…… 190
社寺建築論…… 191
伝統空間論…… 192
伝統建築環境学…… 193
文献・絵画史料概論 …… 194
伝統構造学…… 195
色彩理論演習…… 196
デザイン作図演習(Aクラス) … 197
デザイン作図演習(Bクラス) … 198
デザイン作図演習(Cクラス) … 199
ＩＴ活用応用演習(Aクラス) … 200
ＩＴ活用応用演習(Bクラス) … 201
コンピュータデザイン演習(Aクラス) … 202
コンピュータデザイン演習(Bクラス) … 203
伝統絵画技法Ⅱ…… 204
伝統建築図(基礎)…… 205
建築計画Ⅱ…… 206
建築一般構造Ⅰ…… 207
建築構造力学Ⅱ…… 208
建築材料…… 209
建築法規…… 210
文化財マネージメント論… 211
インテリア設計…… 212

7　専門教育科目(美術工芸科目・展開科目) …… 213

伝統工芸産業工学…… 213
工芸経営論…… 214
伝統工芸材料科学…… 215
文化財修理論…… 216
伝統文様…… 217
伝統建築論Ⅰ…… 218
伝統建築論Ⅱ…… 219
室内意匠論…… 220
立体造形…… 221
伝統建築図(応用)…… 222
古文書解読演習Ⅰ…… 223
古文書解読演習Ⅱ…… 224
建築一般構造Ⅱ…… 225
建築環境工学…… 226
建築設備…… 227
建築施工法…… 228
建築計画Ⅲ…… 229
建築計画Ⅳ…… 230
建築構造力学Ⅲ…… 231
公共デザイン論…… 232
専門演習…… 233
工芸実習導入(建築デザイン) … 234
工芸実習基礎Ⅰ(建築デザイン) 235
工芸実習基礎Ⅱ(建築デザイン) 236
伝統建築専門実習Ⅰ…… 237
伝統建築専門実習Ⅱ…… 238
伝統建築専門実習Ⅲ…… 239
建築デザイン演習Ⅰ…… 240
建築デザイン演習Ⅱ…… 241
建築デザイン演習Ⅲ…… 242
芸術導入演習…… 243
芸術導入実習…… 244
造形基礎演習Ⅰ…… 245
造形基礎演習Ⅱ…… 246
プロジェクト演習Ⅰ…… 247
プロジェクト演習Ⅱ…… 248
プロジェクト演習Ⅲ…… 249
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(文化財)… 250
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(木工・彫刻) 251
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(陶芸) … 252
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(漆芸) … 253
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(デザイン) 254
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(木工・彫刻) 255
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(陶芸) … 256
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(漆芸) … 257
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(デザイン) 258
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(文化財)… 259
専門実習Ⅰ(木工・彫刻) … 260
専門実習Ⅰ(陶芸)…… 261
専門実習Ⅰ(漆芸)…… 262

専門実習Ⅰ(デザイン)…… 263
専門実習Ⅰ(文化財)…… 264
専門実習Ⅱ(木工･彫刻) … 265
専門実習Ⅱ(陶芸)…… 266
専門実習Ⅱ(漆芸)…… 267
専門実習Ⅱ(デザイン)…… 268
専門実習Ⅱ(文化財)…… 269
専門実習Ⅲ(木工･彫刻) … 270
専門実習Ⅲ(陶芸)…… 271
専門実習Ⅲ(漆芸)…… 272
専門実習Ⅲ(デザイン)…… 273
専門実習Ⅲ(文化財)…… 274
卒業制作研究(木工)…… 275
卒業制作研究(陶芸)…… 276
卒業制作研究(彫刻)…… 277
卒業制作研究(漆芸)…… 278
卒業制作研究(デザイン) 279
卒業制作研究(文化財)…… 280

8 博物館学芸員養成科目 …… 281

博物館経営論…… 281
博物館資料論…… 282
博物館資料保存論…… 283
博物館展示論…… 284
博物館情報･メディア論 … 285
博物館教育論…… 286

シラバスの見方

シラバスとは、４年間に開講される授業科目の授業計画のことで、授業についての情報が詳細に述べられています。本シラバスにより、どのような教育を受けることができるかを受講前に知ることができます。
本シラバスを活用し、授業科目の内容を十分に理解した上で履修計画を立ててください。

シラバスは、「教養教育科目」・「専門教育科目」・「博物館学芸員養成科目」の３つの区分に分けて掲載しています。前掲の「履修モデル」と本シラバスを参考にして、履修科目を決定してください。

以下に、シラバスの見方を示します。

シラバスサンプル

講義コード	0000101
講義名	歴史学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：○○○○○　氏名：◎○○　○○　所属：○○○○○○
到達目標	担当教員が目標とする教育内容が記載されています。
授業概要	授業の概要が紹介されています。
授業計画 授業内容	開講期に従った、回ごとないし週ごとの授業内容が記載されています。
成績評価	担当教員の成績評価方法が記載されています。
教科書	授業で教科書を使用する場合に記載されています。
参考書 参考資料	授業に参考となる図書が記載されています。
履修上の注意	担当教員からの履修上の注意事項が記載されています。
予習・復習指導	主に講義系科目、演習系科目に課する予習・復習に関する指導内容が記載されています。
関連科目	他の科目との関連性が記載されています。

主な授業科目情報として、
・科目名
・配当年次
・科目区分
・単位数
・担当教員
が確認できます。

講義コード	0000101
講義名	歴史学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 中村　みどり　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	教養としての通史的な理解を深めるばかりでなく、その時々の文化がどのような情勢と人々の動きによって築かれたのかという「生きた歴史学」を身に着け、理解してもらうことを目標とする。
授業概要	本授業では古代から近代までの日本における歴史情勢を通史的に概説する。特に京都の歴史を中心として取り扱い、京都の土地がどのように変化したのか、並びに京都における人々の思想と文化がどのように変遷したのかを追う。なお授業は毎時間レジュメを配布し講義形式によって行う。
授業計画 授業内容	1．歴史学概論 2．古代国家の成立 3．奈良時代と天平文化 4．平安京遷都 5．摂関政治と国風文化 6．院政期と武士の台頭 7．鎌倉時代 8．室町幕府と応仁の乱 9．室町文化 10．戦国時代 11．南蛮文化と桃山文化 12．江戸時代 13．江戸文化 14．明治維新と文明開化 15．文化財保護と現代
成績評価	授業態度 30%、期末試験 70%
教科書	
参考書 参考資料	山川出版社『詳説 日本史Ｂ』、岩波書店『岩波日本史辞典』
履修上の注意	
予習・復習指導	特に予復習は課さないが、教科書レベルの通史を事前に頭に入れて授業に臨むように。なお授業中の分からなかった単語等もすぐに辞書等を引き自習しておくことが望ましい。
関連科目	

講義コード	0000301
講義名	美学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	<table><tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr><tr><td>非常勤講師</td><td>◎ 村上　真樹</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr></table>
到達目標	「美」や「見かけ」に対するさまざまに異なった見解を学び、その変遷をたどることを通して、「見る」ということについての反省的視座を獲得することを目指す。
授業概要	「見かけ」を意味する「仮象」の概念を軸に、西洋美学史を概観する。芸術作品だけではなく様々な生活領域の中に見出される「美しい見かけ」という問題が、これまでどのように論じられてきたのかを確認することを通して、「美」という価値観について改めて考え直す機会としたい。また西洋における美的装飾のとらえられ方を学ぶことによって、日本の美術工芸がどのような価値観のもとに西洋で評価されてきた（評価されている）のかを考察する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　導入 第２回　プラトンのイデア論 第３回　キリスト教美術と宗教改革 第４回　啓蒙主義と仮象 第５回　シラーの美的教育論 第６回　ドイツ観念論美学の展開 第７回　ニーチェの仮象概念 第８回　19 世紀の唯美主義 第９回　化粧、装飾、表面性 第10回　芸術の都パリ 第11回　モダニズムと機能主義 第12回　現代アートの美学 第13回　シミュラークルの誘惑 第14回　現代文化に見る「見かけ」と「本質」 第15回　まとめ
成績評価	受講態度（30%）、期末レポート（70%）によって評価する。
教科書	
参考書 参考資料	『仮象小史』、ノルベルト・ボルツ著、山本尤訳、法政大学出版局。『美の中断――ベンヤミンによる仮象批判』、村上真樹著、晃洋書房。
履修上の注意	
予習・復習指導	特別な予備知識は必要としないが、受講生には「美」や「見かけ」という問題について意識的に考えようとする姿勢を期待したい。
関連科目	

講義コード	0000501
講義名	栄養学入門
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎桑原　彩　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	人間の身体活動を支える栄養素に関する基礎的理解をはかると共に、生命活動と密接に関わる各種栄養素について考察し、さらに実践的な食事へ反映させることができる。また日本及び世界の食文化への理解を深めることができる。
授業概要	人間の身体活動の基礎となる各種栄養素について解説する。生活に密着した食事内容や水分補給、サプリメントの知識等を扱うこととする。 また、食のもつ精神的な意味合い、歴史等を食文化の視点からも解説する。
授業計画 授業内容	オリエンテーション　受講内容と講義計画の説明 栄養とは何か、食事摂取基準について 五大栄養素について（炭水化物、脂質、） 五大栄養素について（たんぱく質、ビタミン） 五大栄養素について（ミネラル、水分補給） 障害予防（貧血予防、免疫力アップの食事など） 減量のための食事と行動変容 サプリメントについて、食品衛生について 食文化の成り立ち 日本の食文化の歴史① 日本の食文化の歴史② 日本の行事食と郷土食について 西洋の食文化について 中国の食文化について 紅茶の歴史、講義のまとめ
成績評価	課題提出及び最終レポートにより評価する。
教科書	栄養の基本がわかる図解辞典　成美堂出版
参考書 参考資料	食の文化／石毛直道／味の素食の文化センター
履修上の注意	
予習・復習指導	
関連科目	

講義コード	0000601
講義名	生涯学習論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎吉富　千恵　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	1．生涯学習の理念誕生と意義を理解する。 2．人間の生涯発達について理解する。 3．生涯学習と市民社会について理解する。
授業概要	生涯学習とは簡単に言えば、生まれてから死ぬまでの生涯に渡っての学習のことである。現在では広く使われるようになった言葉であるが､その概念や意義を理解することは意外と難しい｡本講義では、生涯学習についての基本的知識を人間の発達や、歴史的背景と合わせて学ぶことを目的とする。
授業計画 授業内容	第１回　オリエンテーション 第２回　生涯学習とは 第３回　生涯発達① 第４回　生涯発達② 第５回　生涯発達③ 第６回　生涯発達④ 第７回　生涯発達⑤ 第８回　生涯発達⑥ 第９回　生涯発達⑦ 第10回　生涯発達⑧ 第11回　生涯発達⑨ 第12回　生涯発達⑩ 第13回　生涯学習に関する制度 第14回　生涯学習関連施設と専門職 第15回　生涯学習のまとめ
成績評価	出席 30 点、期末試験 70 点　合計 100 点
教科書	特に指定しない。毎回、レジュメを配布します。
参考書 参考資料	適宜、授業時に紹介します。
履修上の注意	私語厳禁です。
予習・復習指導	
関連科目	

講義コード	0000701
講義名	生活と法律
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎右近　潤一　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・身近には様々な法律が存在することを認識する。 ・法律が関係するニュース報道を理解することができる。 ・憲法・民法・刑法の意義と役割を理解することができる。
授業概要	どのような生活をしようと、取引をせずに暮らせるわけではない。家族関係でさえ法律とは無関係ではない。本講義では、日常生活にかかわる法的知識を広く身につけることを目的とする。受講することにより、身の回りにある法律がどのように自らに関わるのかを認識することができる。挙手や意見を問うことがあるが、講義の方法で行う。なお、条文を暗記する必要はないのでご安心を。
授業計画 授業内容	第１回　法学とは？ 何を何のために学ぶか 第２回　法律が憲法に違反すると―違憲立法審査 第３回　憲法で守られる人権とは―幸福追求権・新しい人権 第４回　憲法は差別問題についてどう考えているか―法の下の平等 第５回　【小テスト１】テスト１解説；六法とは何か―憲法・民法・刑法 第６回　テスト１講評；民法の適用は年齢によって区別されるか―成年年齢・18 歳選挙権 第７回　契約は守らなければならないか―例えば､「恋愛禁止」を定める契約条項違反したアイドルは？ 第８回　子どもの遊びが原因の事故でも損害賠償請求に応じなければならないか―不法行為・責任無能力者・監督責任者 第９回　お父さんと呼べるのはなぜ―嫡出推定制度・女性の再婚禁止期間 第10回　【小テスト２】テスト２解説；裁判所は何をするところか 第11回　テスト２講評；夫婦は同一姓を名乗らなければならないか―夫婦別姓 第12回　相続のルールはなぜ必要なの 第13回　冤罪事件を防ぐには―取調べの録音・録画制度 第14回　【小テスト３】テスト３解説；裁判員になって死刑判決にかかわる―裁判員最判と死刑（ある死刑判決－元少年石巻殺傷事件） 第15回　テスト３講評；AI のある生活－自動運転に付き合う・AI は法の夢を見るか？
成績評価	・各講義の最後に講義に関連した質問をするので、それに回答してもらう。【40%】 ・３回の小テストを各回 20 点で行う。【60%】
教科書	渡邊博己・右近潤一『法学ナビ：16 の物語から考える』（北大路書房）
参考書 参考資料	
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 （特記事項）教科書を指定するので、刊行後は、講義後にそれを一読することを勧める。
関連科目	

講義コード	0000801
講義名	博物館概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	<table><tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr><tr><td>講師</td><td>◎岡　達也</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr></table>
到達目標	博物館活動の大要を把握するとともに、博物館の諸活動に従事するのに不可欠な基礎的知識を総合的に習得する。
授業概要	博物館は、さまざまな博物館資料を調査・研究、さらに展示・活用し、幅広く社会と関わる学習活動の拠点である。本講義では、博物館活動の具体例を提示し、現代社会における博物館の役割と意義を理解することを目指す。
授業計画 授業内容	第１回　ガイダンス　博物館とは何か 第２回　博物館の必要性 第３回　博物館学の定義 第４回　博物館の体系化 第５回　博物館の種類 第６回　博物館の歴史Ⅰ 第７回　博物館の歴史Ⅱ 第８回　博物館の基本的機能 第９回　博物館の仕組み 第10回　現代社会と博物館 第11回　学校教育と博物館 第12回　博物館の運営 第13回　学芸員の仕事 第14回　学芸員になるには 第15回　総括
成績評価	授業時のレポート（40%）、期末試験（60%）によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「生涯学習論」「歴史学」、博物館関連科目

講義コード	0000901
講義名	森林学概論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 森本　幸裕　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	森林に親しみ、その恵みを持続可能な形で利用するにあたって重要な現代的な課題を理解できるようになる。また、30 種の my 樹木カードを作成して、京都の代表的な森林景観の実態が理解できるようになる。
授業概要	森林は最も発達した陸上生態系である。それは人類にとって、故郷でもあり、資源の源でもあり、地球生命圏の恒常性を支える基盤でもある。また、素材としてもモチーフとしても美術工芸とも関わりが深い。その多様な側面を具体例から解説し、森林生態系への認識を深めるとともに、地球環境変動の渦中における課題と取り組みについても紹介する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　森林と樹木：ウォッチングの基本 第２回　機能する森林：人々の期待とガイア仮説 第３回　宝ヶ池の森：身近な里山の危機 第４回　糺の森：攪乱と森林 第５回　鎮守の森：日本的広場の原点 第６回　京都三山の森：風水と景観生態学 第７回　吉野山：サクラの森 第８回　にほんの里：アートと多様な林産物 第９回　平安神宮の森：美と生物多様性とフラクタル 第10回　自然公園の森：ウィルダネスの継承 第11回　万博の森：都市に自然林をつくる 第12回　いのちの森：アーバンエコロジーパーク 第13回　癒しの森：次世代統合医療 第14回　世界の森林：グリーンインフラとしての森林生態系 第15回　まとめ：森林の未来
成績評価	授業態度（25%）、小レポート（25%）、および my 樹木図鑑（50%）
教科書	樹木を同定するための図鑑（特に指定しない）。『樹木ウオッチング（NHK 趣味悠々）』NHK 出版
参考書 参考資料	
履修上の注意	
予習・復習指導	休日などに森林と樹木をウォッチングし、my 樹木図鑑を作成する。
関連科目	

講義コード	0001101
講義名	科学と芸術
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎村上　隆　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師　氏名：水上　優　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	科学と芸術の双方を複眼的に見据え、文系・理系という枠組みを乗り越えた見方、考え方を身につける契機とする。
授業概要	古来人類が営々と重ねてきた「ものづくり」は人類を他の生物から差別化する特性である。生活の必需品から始まり、やがて芸術作品を生みだすに至る。また、自然に潜む秩序の追求から始まった科学は、新たな「ものづくり」の駆動力と成長する。 芸術と科学という一見両極にあるこの二つが深いところで結びつくことを改めて俯瞰する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　イントロダクション 第２回　美の発見　…自然は美しい… 第３回　科学とは何か 第４回　美と秩序　…法則の美… 第５回　マクロの世界　ミクロの世界 第６回「ものづくり」から芸術へ 第７回　脳が美を感じるしくみ 第８回　勘と経験が生む科学 第９回　光と色の研究Ⅰ 第10回　光と色の研究Ⅱ 第11回　光と色の研究Ⅲ 第12回　多様化する表現Ⅰ 第13回　多様化する表現Ⅱ 第14回　多様化する表現Ⅲ 第15回　総括
成績評価	講義時のレポート（40%）、最終試験（60%）を合わせて総合的に評価する。
教科書	
参考書 参考資料	
履修上の注意	
予習・復習指導	日常生活において出合うさまざまな現象を多面的にみる習慣をつけるように心がける。
関連科目	

講義コード	0001201
講義名	工芸と経済
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎岩田　均　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・経済学の基本的な考え方を理解する。 ・芸術・文化や工芸と経済の関係について理解する。 ・研究課題を自ら設定し、課題解決に取り組む力を養う。
授業概要	経済学は、社会の枠組みを決定づける重要な学問であるが、現代の支配的な経済学には、美術や工芸の価値を正しく評価する能力が備わっていない、という重大な欠陥がある。そのため、画一的な大量生産品が巷に溢れ、美術工芸産業は衰退からまぬがれない。そこで、固有価値や文化資本等の概念を取り入れた新たな経済学（文化経済学）から学び、受講生が、芸術や工芸という人間の創造能力を中心に据えた社会のあり方を展望できる講義とする。
授業計画 授業内容	第１回　ガイダンス：授業概要、受講の心得、経済学の目的 第２回　経済学の誕生：スミスの経済思想、産業革命、ラスキンの芸術経済論 第３回　地域と経済学：マーシャルの経済学、外部経済論、社会観 第４回　芸術性と経済学：芸術財のジレンマ、ボウモル病、芸術の外部性 第５回　工芸の復権：柳の民衆工藝論、クラフト産業の再評価 第６回　価値を問い直す：労働価値論と効用価値論、ケインズ経済学 第７回　固有価値論：固有価値と享受能力、職人仕事の本質と外部性 第８回　資本を問い直す：経済資本、私的資本、社会資本、社会関係資本 第９回　文化資本とは何か：文化の定義、経済的価値と文化的価値、ストックとフロー 第10回　財を問い直す：私的財と公共財、共同財による問題解決 第11回　産業集積論：伝統産業の組織、産地類型、集積の論理 第12回　産業クラスター論：外部経済論の復活、シリコンバレーモデル 第13回　地域経済論：経済政策、地域と中央、民衆経済の力 第14回　工芸経済の展望：創造産業、工芸基点の産業発展論 第15回　まとめと到達度テスト
成績評価	平素の意欲や積極性（30％）、中間レポート（30％）、最終到達度テスト（40％）によって総合的に評価する。
教科書	岩田均『工芸の経済と経営（2019 年版）』工芸経済研究所
参考書 参考資料	池上惇『文化と固有価値の経済学』岩波書店、スロスビー『文化経済学入門』日本経済新聞社
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 （特記事項）教科書で予習し、講義中はメモを取り、復習によって要点を身につけましょう。工芸こそが世界を救う、という大きなビジョンを獲得しよう。また、学んだことを他者に教える、あるいは実際に使う･応用する、という心構えをもって受講しよう。
関連科目	

講義コード	0001301
講義名	伝統と学び
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	<table><tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr><tr><td>教授</td><td>◎ 冷泉　為人</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr></table>
到達目標	伝統の中で、日本人が自然に身につけた知恵を改めて、未来にいかす術を学ぶ。
授業概要	「伝統」と「学び（学習・教育）」を考える時、そしてまた今日の、「AI」と「人間」を考える時、我々はどうしたら良いのであろうか。「考える」しかない。幸いなことに我々の大学は、京都にある。京都に育まれた「古典」や「伝統」「不易」なものと、その対概念の「現代」や「革新」、「不易」なものとが鬩ぎ合った中から新しいものやことを創造してきている。その一つである江戸時代の安永天明期の京都画を通して「伝統」と「学び」を考える事にする。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　江戸時代の絵画（一） 第２回　江戸時代の絵画（二） 第３回　安永天明期の京都画壇（一） 第４回　池大雅の芸術（一） 第５回　池大雅の芸術（二） 第６回　与謝蕪村の芸術（一） 第７回　与謝蕪村の芸術（二） 第８回　伊藤若冲の芸術（一） 第９回　伊藤若冲の芸術（二） 第10回　曽我蕭白の芸術（一） 第11回　曽我蕭白の芸術（二） 第12回　円山応挙の芸術（一） 第13回　円山応挙の芸術（二） 第14回　呉春の芸術（一） 第15回　呉春の芸術（二）
成績評価	授業態度、レポート又は試験によって総合評価する。
教科書	
参考書 参考資料	随時紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	しっかり勉強すること 「考える」ことが大事
関連科目	

講義コード	0001401
講義名	哲学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎村上　真樹　所属：KYOBI　工芸学部
到達目標	19世紀以降の哲学・思想の歩みをたどり、そこで何が議論されてきたかを把握する。 また近代における芸術の機能を理解し、制作に活かす。
授業概要	主に19世紀以降の哲学および思想を中心に、「近代」と呼ばれる時代について考察する。フランス革命や産業革命に端を発する近代精神の形成は、現代を生きる私たちの生に直接的な影響を与えている。それはまた芸術制作の現場においても数多くの変動を引き起こしてきた。本講義では哲学・思想と芸術との関わりを特に重視し、これからの芸術のあり方を考える機会としたい。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　導入 第2回　理性と啓蒙 第3回　近代精神の確立 第4回　観念論とロマン主義 第5回　実践哲学の台頭 第6回　ニーチェと芸術 第7回　「無意識」の発見 第8回　モダニズム芸術の知的冒険 第9回　複製技術時代の芸術作品 第10回　現象学と実存主義 第11回　構造による世界把握 第12回　消費社会の記号論 第13回　現代アートの哲学 第14回　ポストモダンの精神 第15回　まとめ
成績評価	受講態度（30%）、期末レポート（70%）によって評価する。
教科書	
参考書 参考資料	『現代思想の教科書』、石田英敬著、ちくま学芸文庫。その他、適宜講義中に指示する。
履修上の注意	
予習・復習指導	特別な予備知識は必要としないが、受講生には哲学上の問題について深く思考しようとする姿勢を期待したい。
関連科目	

講義コード	0001501
講義名	教育学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎吉富　千恵　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	1．教育学についての基本的知識を学ぶ。 2．人間の発達、成長過程について学ぶ。 3．自分自身の教育観を形成する。
授業概要	「教育学」の研究対象は、教育制度の歴史や仕組み、教授法、生涯教育など多岐に渡る。これらの諸問題を理解する上で不可欠となるのは、そもそも人間はどのような過程を経て心や体を成長させていくのかという視点である。本講義では、人間の発達を中心に置きつつ、教育心理学や発達心理学の研究で蓄積された豊富な知見を紹介しながら、よりよい教育とは何かについて考えていく。
授業計画 授業内容	第１回　オリエンテーション 第２回　教育学とは 第３回　生命誕生と胎児期 第４回　胎児期と教育 第５回　乳幼児期 第６回　乳幼児期と教育 第７回　児童期 第８回　児童期と教育 第９回　青年期 第10回　青年期と教育 第11回　発達障がいと教育 第12回　現代の教育問題① 第13回　現代の教育問題② 第14回　現代の教育問題③ 第15回　まとめ
成績評価	出席 30 点、期末テスト 70 点　合計 100 点
教科書	毎回レジュメを配布します。
参考書 参考資料	授業時に適宜紹介します。
履修上の注意	私語厳禁です。
予習・復習指導	
関連科目	

講義コード	0001601
講義名	技芸と文学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 中村　利則　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	常に問題意識を喚起し、多角的な視座を求めるとともに、論理性と感性を涵養する。
授業概要	授業概要本講では、日本の歴史と文化を人物を通して考えていく。その基軸とするのが「茶」で、史資料を通して、茶を見、茶を読む。それぞれにおいて、覚える歴史からの脱却を図り、考える歴史を確立する第一歩とする。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス　歴史と文化 第２回　『茶経』と唐文化 第３回　『土佐日記』と真名・仮名 第４回　『源氏物語』・『池亭記』と庭園 第５回　『明月記』と数寄の展開 第６回　『方丈記』と方丈 第７回　『太平記』と婆娑羅 第８回　『喫茶往来』と宴遊 第９回　『君台観左右帳記』と室礼 第10回　『山上宗二記』と茶の湯十躰 第11回　『宗湛日記』と豊臣秀吉 第12回　『南方録』と侘茶 第13回　『奥の細道』と季節感 第14回　『雨月物語』と煎茶 第15回　『茶の本』と近代の茶
成績評価	全15回中３回の小テストを実施して、評価する（75％）。 講義への積極的参加を評価する（25％）。
教科書	
参考書 参考資料	時々に資料を配布する。
履修上の注意	
予習・復習指導	不明な点はできる限りその日のうちに解決する気持ちを持ってほしい。
関連科目	

講義コード	0001701
講義名	世界文化遺産論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎内田　俊秀　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	世界遺産の内、日本国内のいくつかの文化遺産について、現在、地元住民や行政が直面している保全と活用の問題点を把握し、さらに、自分なりの解決策を提示できるようにする。
授業概要	文化遺産を世界遺産に登録する目的と意義について考える。次に、現状を紹介しつつ、保全と活用の様々な課題について、日本の例を中心に挙げながら解説する。また、これらの問題解決方法を考える。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　世界文化遺産の概要と歴史 第２回　世界文化遺産登録制度の解説 第３回　世界文化遺産に登録された外国の遺産の例、１ 第４回　世界文化遺産に登録された外国の遺産の例、２ 第５回　世界文化遺産に登録された外国の遺産の例、３ 第６回　東日本地域における世界文化遺産の例、１ 第７回　東日本地域における世界文化遺産の例、２ 第８回　西日本地域における世界文化遺産の例、１ 第９回　西日本地域における世界文化遺産の例、２ 第10回　西日本地域における世界文化遺産の例、３ 第11回　日本における世界文化遺産と類似の保護制度 第12回　国内の世界文化遺産を観光資源などに活用する際の問題点 第13回　世界文化遺産の危機管理 第14回　イタリアにおける文化遺産の保存と活用 第15回　授業のまとめ、レポート作成
成績評価	受講態度と出席の評価を 60%。レポート作成を１回行い、これを 40%の評価対象とする。
教科書	特になし。授業中に適宜、必要な文献を紹介する。
参考書 参考資料	毛利和雄『改訂版　世界遺産と地域再生』新泉社　2011 年
履修上の注意	特にないが、復習は怠らないようにする。
予習・復習指導	
関連科目	「日本美術史」「歴史学」

講義コード	0001901
講義名	地域社会論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎岩田　均　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	①身近な地域社会の実態を調べ、課題を発見し、課題解決策を考えること、②ふるさとを愛し、良き地域社会づくりに主体的に参画すること、③卒業後の進路として、地域に根ざした仕事、地域貢献事業の起業、公務員などにも関心を持つこと。
授業概要	人々の暮し・仕事・学びなどは地域社会と共に存在したものであるが、近代文明の下でその姿は大きく変容し、地域社会には諸問題が山積している。この授業では、地域社会の変容を巨視的につかみ、その実態や課題を経済学や社会学等の知見により読み解き、具体的な事例を交えながら問題解決の基本的な道筋を提示する。
授業計画 授業内容	第１回　ガイダンス：授業概要、受講の心得、講義計画、地域社会の概念・範囲 第２回　近代化と地域社会：近代文明の勃興と伝統社会の解体、市場と政府 第３回　市場セクターの勃興：営利企業の原理、商品社会、工業・都市開発、市場の失敗 第４回　政府セクターの原理：近代国家の勃興、自由と独占、三権分立、政府の失敗 第５回　日本経済の実態：景気変動、経済成長、企業・雇用の動き、地域と中央 第６回　経済政策：財政政策、金融政策、競争政策、地域政策、自治体の役割 第７回　地域社会の実態：都市と農村、伝統や文化、自然環境、少子高齢化、国際化 第８回　市民セクターの登場：地域を支える非営利事業、ソーシャルビジネス、社会起業家 第９回　文化と経済：経済の独走、文化による制御、アーツ・アンド・クラフツ 第10回　地域と文化：地域文化、異文化交流、文化の継承と創造、創造都市 第11回　地域と産業：中央集中型産業構造、地域資源活用、地域循環経済 第12回　フィールドワーク：地域活動の進め方、インターンシップの奨め 第13回　キャリアデザイン：人生の設計、公を担う市民、仕事の本質、学習社会 第14回　地域の経営：地域の底力、市民・自治体・企業の協働、理想のまちづくり 第15回　まとめと到達度テスト ＊学生の関心事や理解度等に応じて、授業計画を変更する場合があります。
成績評価	平素の意欲や積極性（30%）、レポート（30%）、到達度テスト（40%）によって総合的に評価する。
教科書	
参考書 参考資料	岩田均『工芸の経済と経営（2019 年版）』工芸経済研究所
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 （特記事項）講義中はメモをとり、復習によって要点を身につけましょう。講義内容を実践に生かすつもりで履修すれば、身につきやすいものです。
関連科目	

講義コード	0002001
講義名	人間関係の科学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：客員教授 氏名：◎ 藤原　勝紀 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	学生期の自分に照らしながら、円滑な人間関係と豊かな自己形成のために、授業関係と臨床心理学の基本的知見を通じて、心と人間関係に理解を深め活かす基礎素養を培う。
授業概要	人間関係のテーマは、人生のあらゆる段階で直面する重要な課題であり、人格形成は、人間関係を通じて心を育み、心を使って人間関係を育む生涯学習課題と考えられます。とくに学生期は、諸々の人間関係をめぐる課題に出会う中で、内面的な心・自分を見つめ直し、＜私＞を発見・創造して社会的な自立へと新しい自己確立をめざす過程といえます。ここでは主に臨床心理学の観点から、そのメカニズムや意味について共に考えます。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　はじめに：オリエンテーション（授業の進め方、聴講上の倫理・約束ごと） 第２回　さまざまな人間関係状況・こころ事情（無縁社会、関係性の失調状況など） 第３回　暮らしの中の人間関係課題をめぐって（学生期・五月危機説など） 第４回　心・人間関係を理解する視点・方法について（客観科学的と個別主観的など） 第５回　こころに関する見方・考え方（主な人格理論や人間観） 第６回　心と人間関係①：こころの構造（意識・無意識、主観・客観、内面・行動） 第７回　心と人間関係②：こころのメカニズム（自我機能、防衛機制） 第８回　心と人間関係③：こころの二重性とニ律背反を生きる（逆説・相補） 第９回　人間関係のカウンセリング①：適応・不適応のメカニズム 第10回　人間関係のカウンセリング②：心理的問題・状態の理解と援助 第11回　人間関係のカウンセリング③：問題から課題の発見と創造へ 第12回　心と人間関係を活かす①：豊かな人格発達を育み創造する家族関係 第13回　心と人間関係を活かす②：いきいき共に生きる職場の仕事関係 第14回　心と人間関係を活かす③：＜私＞を創造し表現する学生期の学舎関係 第15回　おわりに：学びと授業関係を振り返りながら
成績評価	受講態度（授業関係へ関与度と相互活性化のためのミニ・レポート 50%）、到達度テスト（小テスト及課題レポート 50%）で総合評価
教科書	
参考書 参考資料	藤原勝紀著「からだ体験モードで学ぶカウンセリング」 ナカニシヤ出版 1700 円
履修上の注意	
予習・復習指導	身近な人間関係や内面的な心の現況について誠実に学生生活を見つめ、真摯な自己理解の姿勢を大切に授業関係に臨んでください。微妙な心や人間関係について誠実で丁寧な受講姿勢・態度が必須です。
関連科目	

講義コード	0002101
講義名	人間関係の心理臨床
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：客員教授　氏名：◎ 藤原　勝紀　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	学生期を通じて専門技能を習得し専門職業人として新しく社会化する上で、対人関係の中で表現し、生きるための自己理解・確立を図りつつ、他者と社会に聞かれた心と人間関係力の備える基礎を培う。
授業概要	少子高齢化、情報化、無縁化など現代社会の複雑多様化が急激に進むなか、人と人との人間環境も変化し、心にも想定外の様々な影響が及んでいます。心の問題は、人と共に生きる上での根本課題です。それが困難になった状態での関わりも踏まえながら、生身の人間関係を通じて信頼関係を築きつつ、協働して心と意味をみつめ問題解決と新しい生き方を育んでいく心理臨床の観点から、心と人間関係について見つめ合い理解を深めたい。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション（授業の進め方、聴講上の倫理・期待・約束等） 第２回　現代の心と人間関係に関する様々な問題・課題状況 第３回　心理臨床の専門的な営みへの社会的な期待 第４回　心の世界を学ぶ学び方の例示「からだ体験モード」 第５回　心理臨床①：心理療法とカウンセリングの関係 第６回　心理臨床②：基礎になる人間観・パーソナリテイ論 第７回　心理臨床③：さまざまなアプローチ・技法について 第８回　個別・内的な生身の人・心に関わる基本態度・姿勢・留意点 第９回　初対面のとき：面接法① 面接準備、面接契約、最初の出会い 第10回　信頼関係を築く：面接法② ラポール、受容的態度、共感的理解 第11回　関係の深まり・終結：面接法③ カタルシス、気づき、自己理解・洞察 第12回　関係性の技術：面接法④ 関係技法、傾聴、「関与しながらの観察」 第13回　問題や悩みを抱えて生きる人に関わることの意味：「創造の病」 第14回　かけがえのない自己創出の人生段階としての「学生期」の意味を考える 第15回　まとめと展望：学びと授業関係を振り返って（成績評価等の再確認）
成績評価	受講態度（授業関係への関与度と相互活性化のためのミニ・レポート 50%）、到達度テスト（小テスト及び課題レポート 50%）で総合評価
教科書	
参考書 参考資料	『からだ体験モードで学ぶカウンセリング』（藤原勝紀著）ナカニシヤ出版 『パーソナリティの心理学』（岡田・藤原・山下・皆藤著）有非閣
履修上の注意	
予習・復習指導	身近な人間関係や＜私＞の内面生活を大切に見つめながら学生生活での真摯な自己体験に照らして臨んでください。微妙な心や内界への誠実で温かな受講姿勢が必須です。
関連科目	

講義コード	0002201
講義名	表現技術論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	教養科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎ 中井川　正道　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	各表現の特長、コンセプト、テクニックなどを理解し、自身の表現力の向上を目指す。
授業概要	表現技術の多様性を講述する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　全体ガイダンス　表現技術と心 第２回　美術表現の世界　１ 第３回　美術表現の世界　２ 第４回　写真表現「虚と実」 第５回　写真表現「作意と無作意」 第６回　美の表現と意味 第７回　美の表現と感性 第８回　美の表現の本質 第９回　ポスター表現の世界　１ 第10回　ポスター表現の世界　２ 第11回　照明表現の世界　１ 第12回　照明表現の世界　２ 第13回　オノマトペ　１ 第14回　オノマトペ　２ 第15回　小レポート作成
成績評価	履修態度（70%）　小レポート（30%）
教科書	配布資料、映像など
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	講師の都合により内容、順番などの変更がある。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「デザイン概論」

講義コード	0100101
講義名	日本工芸美術史
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	伝統文化科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎田中　敏雄　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	作品が生み出された社会的･文化的背景を理解しながら、日本の工芸の歴史と価値を学んでいきたい。
授業概要	日本には金工・漆工・染織・木竹工・陶磁・ガラス・七宝等の工芸作品があり、様々な工芸技法が伝えられている。これらの技法によって制作された工芸品は装飾品、調度品、茶道具、又は実用品として、様々な場で用いられてきた。本授業では、それぞれの工芸技法の特色をふまえながら、個々の工芸が日本の文化の流れのなかにどのように位置づけられてきたかを概説する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション 第２回　縄文・弥生・古墳時代 第３回　飛鳥・奈良時代 第４回　平安時代 第５回　平安時代 第６回　平安・鎌倉時代 第７回　室町・桃山時代 第８回　桃山・江戸時代 第９回　江戸時代 第10回　江戸時代 第11回　江戸時代 第12回　明治時代 第13回　明治・大正時代 第14回　大正・昭和時代 第15回　昭和・平成時代
成績評価	毎回の小レポートによる理解度（40%）、期末レポート（60%）で評価する。
教科書	授業中に資料を配付する。
参考書 参考資料	『カラー版　日本美術史』辻惟雄監修(美術出版社)、『日本美術館』青柳正規監修(小学館)、その他 授業で適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。必修科目である。必ず履修のこと。博物館･美術館などでできるだけさまざまな工芸・美術作品を見ておくことが望ましい。
関連科目	

講義コード	0100201
講義名	京都学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	伝統文化科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	<table><tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr><tr><td>教授</td><td>◎ 新谷　裕久</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr></table> 他
到達目標	京都の文化を楽しみながら体験することを通じて「京都人」になる。また、京都の大学の学生として地域発展に結びつく連携の重要性について学ぶ。
授業概要	京都は歴史に育まれた多彩な文化が生活の中に息づいています。国内外から年間５千万人を超える観光客が訪れる、京都の奥深い魅力に触れるための、具体的な体験メニューや情報収集法などについて学びます。本学は、京都市と「包括連携協定」を結んでおり、地域連携の意義について理解を深めます。
授業計画 授業内容	全15回（オムニバス方式） ※　第２回～第14回については、京都市の担当部門の職員がゲストスピーカーとして登壇 第１回　京都学の意義（京都市との包括連携協定について）／新谷裕久・植田義雄 第２回　「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進／総合企画局総合政策室大学政策担当 第３回　留学生施策の推進／総合企画局総合政策室大学政策担当 第４回　文化庁の京都への全面的な移転に向けて／総合企画局文化庁移転推進室 第５回　これからの京都観光～世界があこがれる観光都市へ～／産業観光局観光 MICE 推進室 第６回　時を超え光り輝く京都の景観づくり／都市計画局都市景観部景観政策課・広告景観づくり推進室 第７回　都心再生のまちづくり／都市計画局まち再生・創造推進室 第８回　京都市の文化財保護について／文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 第９回　わたしたちの伝統産業／産業観光局商工部伝統産業課 第10回　美術鑑賞のいろは／美術館 第11回　美術館とは何か／美術館 第12回　みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう！／保健福祉局障害保健福祉推進室 第13回　家族を守る、地域を守る消防団／消防局総務部消防団課 第14回　東山区のまちづくり　山紫水明の都　結び合う心　東山の未来／東山区役所地域力推進室 第15回　京都学のまとめ／新谷裕久 ※テーマ、日程等は都合により変更となる場合があります。
成績評価	受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。
教科書	講義ごとに資料を配布する。
参考書 参考資料	
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努める。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	京都学演習Ⅰ、社会活動Ⅰ、社会活動Ⅱ

講義コード	0100301
講義名	日本文化史
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	伝統文化科目
配当年次	4
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎村上　隆　所属：KYOBI　工芸学部
到達目標	京都美術工芸大学で学んだ集大成として、日本文化の流れを立体的に大掴みに把握すえうことにより、これからの社会を担う人材の骨格を作る。特に、「ものづくり」の視点にこだわって歴史を考える見方を学ぶ。
授業概要	第一段階として、日本文化の骨組みを時系列で俯瞰し、その流れを再確認する。そして、「ものづくり」の観点を軸に、比較文明論的視点、材料技術史的視点など、文系・理系の枠を超えたさまざまな切り口から日本文化の特性を明らかにすることを試みる。その結果見えてくるものは何か？大学４年間の最後に改めて、日本文化の本質とその奥深さを再認識するとともに、これからの日本を考える礎を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　イントロダクション 第２回　日本文化の流れを掴む 第３回　日本文化の骨組み 第４回　世界史の中での位置づけ 第５回　日本文化の基層 第６回　日本文化の特徴①　（風土） 第７回　日本文化の特徴②　（水） 第８回　日本文化の特徴３　（文字・言語） 第９回　日本文化の特徴④　（度量衡） 第10回　「ものづくり」の材料と技術の変遷① 第11回　「ものづくり」の材料と技術の変遷② 第12回　「ものづくり」の材料と技術の変遷③ 第13回　「ものづくり」の材料と技術の変遷④ 第14回　日本文化の未来を考える 第15回　まとめ
成績評価	授業時のレポート 60%、期末試験 40%を合わせて総合的に評価する。
教科書	村上　隆「金・銀・銅の日本史」（岩波新書）
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	授業内容を深く理解するために、復習を怠らないこと
予習・復習指導	
関連科目	

講義コード	0100401
講義名	伝統芸術入門Ⅰ（茶道）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	伝統文化科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大室　瑞恵	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	手塚　博子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	繰り返し稽古をすることによって、所作の道具の扱いに慣れる。
授業概要	日本の総合文化を含む茶道（茶の湯）とは一期一会を心し、お茶を通してもてなしもてなされる文化のことである。実践を通して、それぞれの所作の意味･道具の位置づけ･その扱い方を学ぶ。掛け軸･花・菓子等を通して、日本の四季やしきたりに触れる。
授業計画 授業内容	第１回 「表千家の一年」ビデオ鑑賞　茶道を学ぶに当たって概要説明 茶道選択の思い等自己紹介（レポート提出）教本　持ち物の説明 第２回 お菓子の頂き方　お茶の飲み方　茶の歴史掃除の仕方 第３回 お菓子の頂き方　お茶の飲み方　茶碗の拝見の仕方　　水屋の仕事の説明 第４回 お菓子の頂き方　お茶の飲み方　茶碗の拝見の仕方 茶室での立ち居振る舞い （座り方　立ち方　お辞儀の仕方等） 第５回 茶室での立ち居振る舞い （座り方　立ち方　お辞儀の仕方等　歩き方） 第６回 茶室での立ち居振る舞い （歩き方等） 第７回 茶室での立ち居振る舞い （歩き方等） 第８回 茶室の畳の説明　席入り　床の拝見の仕方 第９回 席入り　床の拝見の仕方 第10回 席入り　床の拝見の仕方 第11回 席入り　床の拝見の仕方 第12回 道具（薄茶器　茶杓）の拝見 第13回 道具の拝見　盆点前にむけて　割稽古（袱紗の扱い） 第14回 盆点前にむけて　割稽古（袱紗の扱い方　茶器　茶杓の扱い） 道具（薄茶器　茶杓）の拝見 第15回 盆点前にむけて　割稽古（袱紗の扱い　茶筅とうじ） 道具（薄茶器　茶杓）の拝見 盆点前にむけて　割稽古（袱紗の扱い　茶筅とうじ） ２回目以降お茶を飲みます
成績評価	授業内容理解度　30%　　授業態度　70%
教科書	決定版 「初めての茶の湯」 主婦の友社
参考書 参考資料	菅田健三著 「茶席の花十二ヶ月」 講談社
履修上の注意	
予習・復習指導	装飾品（時計　指輪　ブレスレット等）不着用　白靴下（初回授業より必要）着用　長髪はまとめる
関連科目	

講義コード	0100501
講義名	伝統芸術入門Ⅰ（華道）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	伝統文化科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 髙林　佑丞　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	華道の基本的な所作を習得し、いけばなの基礎を理解する。
授業概要	書道・茶道・華道の３つの芸道からひとつを選択し以下の内容を実施する。各芸道において、「日本的なよさ」を各人が感じる機会とする。 （華道）基本的な華道具の扱い方や植物の要素、花器との関係等を学び、五感を通じて草木花に楽しく関心をよせることで、いけばなの基礎の形や姿を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　講義：いけばなの歴史・様式・華道具について 第２回　自由花　自然的表現と意匠的表現・素材要素の特徴 第３回　自由花　自然的表現・季節感と表現 第４回　自由花　意匠的表現・花器と構成 第５回　自由花　意匠的表現（形態自由） 第６回　自由花　自由花表現と構成要素（線・点） 第７回　自由花　自由花表現と構成要素（面・マッス） 第８回　講義：生花概論・陰陽と出生 第９回　生花　一種生（真行草の区分）　真の花形 第10回　生花　一種生（あしらいの働きと効果）　真の花形 第11回　生花　二種生（根〆の意義）　行の花形 第12回　生花　三種生（融合美と取り合わせ） 第13回　自由花　造形表現（線・面の変化） 第14回　生花　草木集の花Ⅰ　一種生（葉物） 第15回　生花　草木集の花Ⅱ　二種生（対照効果）
成績評価	授業態度 60%、技術の習熟度および授業内のレポートによって評価する。
教科書	はじめる　いけばな　学校華道
参考書 参考資料	・池坊いけばなテキスト「生花Ⅰ」・「生花Ⅱ」改訂版・いけばな池坊歴史読門
履修上の注意	
予習・復習指導	演習後、持ち帰った花を生け直し復習をすること。 花と人とのふれあいを大切に、草木の生命を尊ぶこと。
関連科目	

講義コード	0100601
講義名	伝統芸術入門Ⅰ（書道）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	伝統文化科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎吉岡　利彦　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	書道の基本的所作を習得し、書道に於ける初唐は、過去を集大成し将来への発展の大道を開いた時代であり、楷書の三大家の書法を見極め、行書の運・用筆に於いて目を配り様々な筆使いの基本を理解し、書の感性を育てる。
授業概要	書道・茶道・華道の３つの芸道からひとつを選択し以下の内容を実施する。各芸道において、「日本的なよさ」を各人が感じる機会とする。 （書道）楷書・篆刻・行書・仮名の単元に分け、本授業ではこの内、楷書・行書について学ぶ。各々３～４種の臨書を行い、各時代の美意識が集約された古典の美に直接ふれながら、運筆･用筆を学び、表現技術の上達に努める。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　書の変遷の説明　楷書の説明　虞法の説明・練習 第２回「孔子廟堂碑」の臨書（穏やかで内に秘めた力強さの表現） 第３回　欧法の説明　虞法との比較　欧法の練習。 第４回「九成宮醴泉銘」の臨書１（高朗な気品を示す正整美の表現） 第５回「九成宮醴泉銘」の臨書２（１と文字を変えて） 第６回　褚法の説明・練習 第７回「雁塔聖教序」の臨書（隷意の起筆・収筆、変化に富む勁い線の表現） 第８回　中唐の顔法の説明　顔法の練習 第９回「建中告身帖」の臨書（重厚・力強い書法に留意） 第10回　行書の説明　王羲之・「集字聖教序」の説明・臨書 第11回「集字聖教序」の臨書（起筆・収筆・運筆・気脈に留意） 第12回「争坐位稿」の臨書（草稿で作意がなく自然で、ゆったりとした動きに留意） 第13回「争坐位稿」の臨書（文字の大小・抑揚の変化を多彩に蔵した動きを表現） 第14回「蜀素帖」の説明「集字聖教序」と比較し、臨書 第15回「蜀素帖」の臨書（墨の濃淡、太細の変化に留意）
成績評価	授業態度 50%、課題提出及び課題提出作品の評価 50% によって評価する。
教科書	必要に応じて資料配布
参考書 参考資料	「明解書道史」・「大学書道 中国編」。
履修上の注意	
予習・復習指導	半紙用筆・細筆・硯・文鎮・下敷・墨液（50ml x ２本）・半紙（500 枚）・筆巻き・印刀 以上を用意のこと。
関連科目	

講義コード	0100701
講義名	伝統芸術入門Ⅱ（茶道）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	伝統文化科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎大室　瑞恵　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師　氏名：手塚　博子　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	所作の意味をより理解し、繰り返し稽古することによって自然で美しい所作を身に付ける。
授業概要	伝統芸術入門Ⅰに引き続き、もてなしもてなされる文化を学ぶ。所作の意味をより理解し、それぞれの役割が自然の流れとして振舞うことが出来るよう稽古していく中で、またもてなす側として、盆点前を体験し、その構成を学ぶことによってより茶の心を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　前期の復習　（立ち居振る舞い） 第２回　盆点前にむけて　割稽古（袱紗　茶器　茶杓　茶巾の扱い方　茶筅とうじ） 第３回　盆点前にむけて　割稽古（袱紗　茶器　茶杓　茶巾の扱い方　茶筅とうじ） 第４回　盆点前の稽古　客の作法 第５回　盆点前の稽古　客の作法 第６回　盆点前の稽古　客の作法 第７回　盆点前の稽古　客の作法 第８回　盆点前の稽古　客の作法 第９回　盆点前の稽古　客の作法 第10回　盆点前の稽古　客の作法 第11回　席入り　道具（薄茶器　茶杓）の拝見 第12回　席入り　道具（薄茶器　茶杓）の拝見 第13回　初釜　講師による点前にて薄茶 第14回　お菓子　お茶を頂く　道具の拝見　総括 第15回　お菓子　お茶を頂く　道具の拝見　総括 第13回目の初釜　ふさわしい服装で出席のこと
成績評価	授業内容理解度　30％　　授業態度　70％
教科書	決定版 「初めての茶の湯」 主婦の友社
参考書 参考資料	菅田健三著 「茶席の花十二ヶ月」 講談社
履修上の注意	
予習・復習指導	装飾品（時計　指輪　ブレスレット等）不着用　白靴下（初回授業より必要）着用　長髪はまとめる
関連科目	

講義コード	0100801
講義名	伝統芸術入門Ⅱ（華道）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	伝統文化科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎髙林　佑丞　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	いけばなにおける“和”の本質を十分に習得し、自身が反映するいけばなを創作する。
授業概要	「伝統芸術入門Ⅰ」の加え、いけばなの歴史をひも解きながら、更なる演習を積み重ね、伝統文化といけばな芸術につて思考する機会とする。 （華道）歴史を基に、いけばなにおける普遍的な“和と美”の本質を十分に理解し、木美を生かした表現力を身に付けて、作者それぞれの想いが反映するいけばなを創作する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　講義：花伝書（初伝）概要　五ヶ条・七種伝・草木集の花 第２回　生花　草木集の花　～　陰陽と出生 第３回　生花　草木集の花　葉物 第４回　生花　一種生　洋花の現代空間への活用 第５回　自由花　技術の応用と表現Ⅰ 第６回　自由花　技術の応用と表現Ⅱ 第７回　自由花　技術の応用と表現Ⅲ 第８回　講義：大巻伝の考察と草木の生命感 第９回　生花　二種生（原則と禁忌事項の確認） 第10回　生花　草木集の花　～　伝花 第11回　自由花　（行事と花）　加工素材と構成 第12回　自由花　生活空間を彩る花 第13回　生花　一種生（木物表現・らしさ） 第14回　自由花　テーマを決めてグループディスカッション 第15回　自由花　グループ発表
成績評価	授業態度 60%、技術の習熟度および授業内のレポートによって評価する。
教科書	はじめる　いけばな　学校華道
参考書 参考資料	・池坊いけばなテキスト「生花Ⅰ」・「生花Ⅱ」改訂版・いけばな池坊歴史読門
履修上の注意	
予習・復習指導	花と人とのふれあいを大切に、草木の生命を尊ぶこと。 演習後、持ち帰った花を生け直し復習をすること。
関連科目	

講義コード	0100901
講義名	伝統芸術入門Ⅱ（書道）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	伝統文化科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎吉岡　利彦　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	書道の所作の発展と、古代において中国最初の統一国家を作り上げた秦の始皇帝による文字の書体の統一による、大篆から小篆への漢字の発展度を考えると共に、日本の仮名の古典の持つ伝統的な美を感受する。
授業概要	「伝統芸術入門Ⅰ」に引き続き、日本文化としての芸道の位置づけを体感し思考させる。 （書道）篆刻で篆書を学び名前の文字を造形化し、印材に印刀で彫り、線と造形美を追求する。仮名は高野切第三種を中心に臨書を行い運筆・用筆を習得しながら「和様」の趣を体感する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　篆刻及び篆書の説明　自由印の作成　印面の調整 → 校字 第２回　草稿を書く → 印稿を作る 第３回　布字 → 運刀 第４回　補刀 → 押印 → 鑑賞 第５回　実用書の説明（種類等）　手紙文の練習 第６回　漢字仮名交りの手紙文作成（行の中心・行間・天地・太細に留意） 第７回　仮名と漢字の線質の違い及び単体による「いろは」の留意点の説明・練習 第８回　単体による「いろは」の臨書 第９回　２連綿の虚線の種類を理解・練習 第10回　２連綿の臨書 第11回「高野切第三種」の説明　変体仮名の説明　「高野切第三種」を臨書 第12回「高野切第三種」の臨書（行の流れ・連綿美に留意） 第13回「高野切第三種」の臨書（行の流れ・連綿美に加え空間美を留意） 第14回　俳句・短歌の散らし書きの説明・作品制作 第15回　俳句・短歌の散らし書き・作品制作（空間美・行間美に留意）
成績評価	授業態度 50%、課題提出及び課題提出作品の評価 50% によって評価する。
教科書	必要に応じて資料配布
参考書 参考資料	「明解書道史」・「標準 篆刻篆書字典」
履修上の注意	
予習・復習指導	半紙用筆・細筆・硯・文鎮・下敷・墨液（450ml × ２本）・半紙（500 枚）・筆巻き・印刀 以上を用意のこと。
関連科目	

講義コード	0101602
講義名	京都学演習Ⅰ（Aクラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	伝統文化科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授／氏名：◎ 中井川正道／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：教授／氏名：浅見　武／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：特任教授／氏名：ヒルド麻美／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	各専攻の専門性における知識や見識を身につける。
授業概要	1200年の歴史をもつ京都の文化的価値や現代生活との関係を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　各専攻別オリエンテーション 演習全般に関する説明、グループ編成 第２回　調査指導 文献調査、資料収集を行う。 第３回　演習プログラムの内容についての助言 プログラム１－調査内容の作成 第４回　演習プログラムの内容についての助言 プログラム２－調査および調査報告書の作成 第５回　演習プログラムの内容確認 調査報告書の提出　評価 ※上記日程は各専攻ごとに組み立てる。
成績評価	履修態度および調査内容（50%）調査報告書のレベル（50%）により評価する。
教科書	特になし
参考書 参考資料	特になし
履修上の注意	特に校外活動の際は、規律のある行動をとる
予習・復習指導	特になし
関連科目	「日本美術史」「伝統住居概論」「文化財概論」「博物館概論」「日本工芸美術史」「社寺建築概論」「文化財修理論」「伝統絵画技法」「京都学」「伝統建築論Ⅰ」「文献・絵画資料概論」「博物館資料論」

講義コード	0101603
講義名	京都学演習Ⅰ（Bクラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	伝統文化科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授／氏名：◎髙田　光雄／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：教授／氏名：山内　貴博／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授／氏名：井上　年和／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	京都における建築、町なみなどの成り立ちを知るとともに、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高める。
授業概要	京都における特徴的な建築、構築物、町なみなどをグループワークにより調査し、シートにまとめ、プレゼンテーションを行う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　オリエンテーション、課題説明 第2回　フィールドワーク① 第3回　フィールドワーク② 第4回　フィールドワーク③ 第5回　フィールドワーク④ 第6回　フィールドワーク⑤ 第7回　フィールドワーク⑥ 第8回　フィールドワーク⑦ 第9回　エスキースチェック① 第10回　追加調査① 第11回　追加調査② 第12回　エスキースチェック② 第13回　資料作成① 第14回　資料作成② 第15回　プレゼンテーション ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	提出シート、プレゼンテーション
教科書	特になし
参考書 参考資料	建築MAP京都、京都の近代化遺産、京都近代の記録など
履修上の注意	校外学習を行う際は、規律のある行動をとること。
予習・復習指導	フィールドワーク、シートの作成などに当たっては、グループの連携を計り、プレゼンテーションの完成度を高めること。
関連科目	京都学、伝統建築論Ⅱ

講義コード	0101701
講義名	京都学演習Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	伝統文化科目
配当年次	4
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎川北　英　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：特任教授　氏名：ヒルド麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	指定されたテーマ（場所）を視察調査して、視覚化（ポスター）を作成する。
授業概要	京都という都市の分析と特徴を把握し、第三者への説明用メッセージとしての視覚化を実践する
授業計画 授業内容	全15週／週１日・１コマ 第１週　課題説明 ＊授業の趣旨・目的を説明、15 回のスケジュールを発表する 第２週　祇園地区の街並みサーベイ 第３週　祇園地区の街並みサーベイ結果の分析 第４週　祇園地区の歴史調査、およびポスターアイデアの発表 第５週　各自ポスターエスキース 第６週　ポスター第一案提出 第７週　ポスター完成、プレゼンテーション 第８週　東山地区の視察、サーベイ 第９週　東山地区の調査結果の分析 第10週　東山地区の歴史調査、およびポスターアイデアの発表 第11週　各自ポスターエスキース 第12週　ポスター第一案提出 第13週　ポスター完成、プレゼンテーション 第14週　学内発表会 第15週　レポート提出、発表
成績評価	授業出席率 30%、ポスター完成度（発想、分析力、表現等）70% の内容から総合評価を行う。
教科書	特になし
参考書 参考資料	特になし
履修上の注意	街並みサーベイ時の写真撮影等は個人情報・プライバシー保護等の問題が発生するので、特に他人の顔をクローズアップする場合は、事前の許可を取ること。ポスター作製に関して、イラストレーター等のソフトが必要なので事前に準備しておくこと。
予習・復習指導	特に校外学習の時は規律ある態度をとること
関連科目	京都学演習Ⅰ

講義コード	0200102
講義名	日本語表現法（A クラス）
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 吉富　千恵　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	1．日本語コミュニケーションの仕組みを理解する。 2．日本語コミュニケーション力を高める。 3．他者との円滑な人間関係を築く力を鍛える。
授業概要	言葉はコミュニケーションの道具であり、その道具としての言葉を適切に使えることは大変重要である。しかし現実には、日本語表現としては正しいのに、思わぬトラブルを招く言葉もある。なぜだろうか？本講義では、日本語表現を「日本語コミュニケーション論」と捉え、社会心理学や言語学でにて蓄積された豊富な知見を紹介しつつ、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。
授業計画 授業内容	第１回　オリエンテーション 第２回　日本語表現法とは 第３回　コミュニケーションの仕組み① 第４回　コミュニケーションの仕組み② 第５回　非言語コミュニケーション① 第６回　非言語コミュニケーション② 第７回　言語コミュニケーション 第８回　異文化間コミュニケーション 第９回　日本語コミュニケーション 第10回　コミュニケーションスキル① 第11回　コミュ二ケーションスキル② 第12回　恋愛コミュニケーション 第13回　アサーティブコミュニケーション① 第14回　アサーティブコミュニケーション② 第15回　まとめ
成績評価	出席 30 点、期末試験 70 点、合計 100 点
教科書	毎回レジュメを配布します。
参考書 参考資料	授業時に適宜、紹介します。
履修上の注意	私語厳禁です。
予習・復習指導	
関連科目	

講義コード	0200103
講義名	日本語表現法（Bクラス）
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎吉富　千恵　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	1．日本語コミュニケーションの仕組みを理解する。 2．日本語コミュニケーション力を高める。 3．他者との円滑な人間関係を築く力を鍛える。
授業概要	言葉はコミュニケーションの道具であり、その道具としての言葉を適切に使えることは大変重要である。しかし現実には、日本語表現としては正しいのに、思わぬトラブルを招く言葉もある。なぜだろうか？本講義では、日本語表現を「日本語コミュニケーション論」と捉え、社会心理学や言語学でにて蓄積された豊富な知見を紹介しつつ、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。
授業計画 授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　日本語表現法とは 第3回　コミュニケーションの仕組み① 第4回　コミュニケーションの仕組み② 第5回　非言語コミュニケーション① 第6回　非言語コミュニケーション② 第7回　言語コミュニケーション 第8回　異文化間コミュニケーション 第9回　日本語コミュニケーション 第10回　コミュニケーションスキル① 第11回　コミュ二ケーションスキル② 第12回　恋愛コミュニケーション 第13回　アサーティブコミュニケーション① 第14回　アサーティブコミュニケーション② 第15回　まとめ
成績評価	出席 30 点、期末試験 70 点、合計 100 点
教科書	毎回レジュメを配布します。
参考書 参考資料	授業時に適宜、紹介します。
履修上の注意	私語厳禁です。
予習・復習指導	
関連科目	

講義コード	0200201
講義名	英会話Ⅰ（Aクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。留学生や海外からの観光客との会話等、京都でこそ得られる機会を活用し、英語「を」話すのではなく、必要な内容を英語「で」話すことにチャレンジする。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　科目説明　Orientation, Self Introduction in English 第２週　Self Introduction in English 2, Listening Practice 1 第３週　Listening Practice 2 第４週　Listening Practice 3 第５週　Listening Practice 4, Review（小テスト） 第６週　Speaking Practice, Orientation 第７週　Speaking Practice 1 About yourself 1 第８週　Speaking Practice 2 About yourself, Past 第９週　Speaking Practice 3 About yourself, Future 第10週　Speaking Practice 4 Giving Directions 1 第11週　Speaking Practice 5 Giving Instructions 第12週　Speaking Practice 6 Explanations 第13週　Speaking Practice Review, Listening Exercise 1 第14週　Speaking 確認（１), Listening Exercise 2 第15週　Speaking 確認（２), Listening Exercise 3 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	定期試験 20%、Speaking 確認 40%、小テスト 20%、積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	教室内だけの英会話ではなく日常生活で実践し、そこで生じた疑問（こういう場合にはどう言えばいいのか等）を授業でフィードバックしてください。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日 10 分余、１週間で 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回 pick up しそれを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	美術工芸英語、英会話Ⅱ、英語コミュニケーション、英語ビジネスコミュニケーション

講義コード	0200202
講義名	英会話Ⅰ（Bクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。留学生や海外からの観光客との会話等、京都でこそ得られる機会を活用し、英語「を」話すのではなく、必要な内容を英語「で」話すことにチャレンジする。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　科目説明　Orientation, Self Introduction in English 第２週　Self Introduction in English 2, Listening Practice 1 第３週　Listening Practice 2 第４週　Listening Practice 3 第５週　Listening Practice 4, Review（小テスト） 第６週　Speaking Practice, Orientation 第７週　Speaking Practice 1 About yourself 1 第８週　Speaking Practice 2 About yourself, Past 第９週　Speaking Practice 3 About yourself, Future 第10週　Speaking Practice 4 Giving Directions 1 第11週　Speaking Practice 5 Giving Instructions 第12週　Speaking Practice 6 Explanations 第13週　Speaking Practice Review, Listening Exercise 1 第14週　Speaking 確認（１）, Listening Exercise 2 第15週　Speaking 確認（２）, Listening Exercise 3 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	定期試験 20%、Speaking 確認 40%、小テスト 20%、積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	教室内だけの英会話ではなく日常生活で実践し、そこで生じた疑問（こういう場合にはどう言えばいいのか等）を授業でフィードバックしてください。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日 10 分余、１週間で 90 分を目安とする。）
関連科目	美術工芸英語、英会話Ⅱ、英語コミュニケーション、英語ビジネスコミュニケーション

講義コード	0200203
講義名	英会話Ⅰ（Cクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。留学生や海外からの観光客との会話等、京都でこそ得られる機会を活用し、英語「を」話すのではなく、必要な内容を英語「で」話すことにチャレンジする。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　科目説明　Orientation, Self Introduction in English 第２週　Self Introduction in English 2, Listening Practice 1 第３週　Listening Practice 2 第４週　Listening Practice 3 第５週　Listening Practice 4, Review（小テスト） 第６週　Speaking Practice, Orientation 第７週　Speaking Practice 1 About yourself 1 第８週　Speaking Practice 2 About yourself, Past 第９週　Speaking Practice 3 About yourself, Future 第10週　Speaking Practice 4 Giving Directions 1 第11週　Speaking Practice 5 Giving Instructions 第12週　Speaking Practice 6 Explanations 第13週　Speaking Practice Review, Listening Exercise 1 第14週　Speaking 確認（１）, Listening Exercise 2 第15週　Speaking 確認（２）, Listening Exercise 3 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	定期試験 20%、Speaking 確認 40%、小テスト 20%、積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	教室内だけの英会話ではなく日常生活で実践し、そこで生じた疑問（こういう場合にはどう言えばいいのか等）を授業でフィードバックしてください。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日 10 分余、１週間で 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回 pick up し、それらを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	美術工芸英語、英会話Ⅱ、英語コミュニケーション、英語ビジネスコミュニケーション

講義コード	0200204
講義名	英会話Ⅰ（Dクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。留学生や海外からの観光客との会話等、京都でこそ得られる機会を活用し、英語「を」話すのではなく、必要な内容を英語「で」話すことにチャレンジする。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　科目説明　Orientation, Self Introduction in English 第２週　Self Introduction in English 2, Listening Practice 1 第３週　Listening Practice 2 第４週　Listening Practice 3 第５週　Listening Practice 4, Review（小テスト） 第６週　Speaking Practice, Orientation 第７週　Speaking Practice 1 About yourself 1 第８週　Speaking Practice 2 About yourself, Past 第９週　Speaking Practice 3 About yourself, Future 第10週　Speaking Practice 4 Giving Directions 1 第11週　Speaking Practice 5 Giving Instructions 第12週　Speaking Practice 6 Explanations 第13週　Speaking Practice Review, Listening Exercise 1 第14週　Speaking 確認（１）, Listening Exercise 2 第15週　Speaking 確認（２）, Listening Exercise 3 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	定期試験 20%、Speaking 確認 40%、小テスト 20%、積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	教室内だけの英会話ではなく日常生活で実践し、そこで生じた疑問（こういう場合にはどう言えばいいのか等）を授業でフィードバックしてください。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日 10 分余、１週間で 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回 pick up し、それらを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	美術工芸英語、英会話Ⅱ、英語コミュニケーション、英語ビジネスコミュニケーション

講義コード	0200205
講義名	英会話Ⅰ（Eクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。留学生や海外からの観光客との会話等、京都でこそ得られる機会を活用し、英語「を」話すのではなく、必要な内容を英語「で」話すことにチャレンジする。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　科目説明　Orientation, Self Introduction in English 第２週　Self Introduction in English 2, Listening Practice 1 第３週　Listening Practice 2 第４週　Listening Practice 3 第５週　Listening Practice 4, Review（小テスト） 第６週　Speaking Practice, Orientation 第７週　Speaking Practice 1 About yourself 1 第８週　Speaking Practice 2 About yourself, Past 第９週　Speaking Practice 3 About yourself, Future 第10週　Speaking Practice 4 Giving Directions 1 第11週　Speaking Practice 5 Giving Instructions 第12週　Speaking Practice 6 Explanations 第13週　Speaking Practice Review, Listening Exercise 1 第14週　Speaking 確認（１）, Listening Exercise 2 第15週　Speaking 確認（２）, Listening Exercise 3 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	定期試験 20%、Speaking 確認 40%、小テスト 20%、積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	教室内だけの英会話ではなく日常生活で実践し、そこで生じた疑問（こういう場合にはどう言えばいいのか等）を授業でフィードバックしてください。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日 10 分余、１週間で 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回 pick up し、それらを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	美術工芸英語、英会話Ⅱ、英語コミュニケーション、英語ビジネスコミュニケーション

講義コード	0200206
講義名	英会話Ⅰ（Fクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。留学生や海外からの観光客との会話等、京都でこそ得られる機会を活用し、英語「を」話すのではなく、必要な内容を英語「で」話すことにチャレンジする。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　科目説明　Orientation, Self Introduction in English 第２週　Self Introduction in English 2, Listening Practice 1 第３週　Listening Practice 2 第４週　Listening Practice 3 第５週　Listening Practice 4, Review（小テスト） 第６週　Speaking Practice, Orientation 第７週　Speaking Practice 1 About yourself 1 第８週　Speaking Practice 2 About yourself, Past 第９週　Speaking Practice 3 About yourself, Future 第10週　Speaking Practice 4 Giving Directions 1 第11週　Speaking Practice 5 Giving Instructions 第12週　Speaking Practice 6 Explanations 第13週　Speaking Practice Review, Listening Exercise 1 第14週　Speaking 確認（１）, Listening Exercise 2 第15週　Speaking 確認（２）, Listening Exercise 3 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	定期試験 20%、Speaking 確認 40%、小テスト 20%、積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	教室内だけの英会話ではなく日常生活で実践し、そこで生じた疑問（こういう場合にはどう言えばいいのか等）を授業でフィードバックしてください。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日 10 分余、１週間で 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回 pick up し、それらを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	美術工芸英語、英会話Ⅱ、英語コミュニケーション、英語ビジネスコミュニケーション

講義コード	0200301
講義名	美術工芸英語（A クラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	専門分野における簡単な英語表現が理解できるようにする。TOEIC 形式の練習あるいはそれに代わる会話・リスニング練習を繰り返すことで、社会で実際に使える英語力をつける。
授業概要	美術工芸、建築分野の基本的な英語の用語や表現に慣れる。就職活動に向けて TOEIC 受験の練習、あるいはそれに代わる練習を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　科目説明・座席指定・Self Introduction in English １・美術工芸建築英語の導入 第２週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎１・TOEIC 形式練習１ 第３週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎２・TOEIC 形式練習２ 第４週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎３・TOEIC 形式練習３ 第５週　TOEIC 形式練習 Review Test（１）+ 特別教材 第６週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎４・TOEIC 形式練習４ 第７週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎５・TOEIC 形式練習５ 第８週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎６・TOEIC 形式練習６ 第９週　TOEIC 形式練習 Review Test（２）+ 特別教材 第10週　Introducing what you are making １・TOEIC 形式練習７・名品 Reading ７ 第11週　Introducing what you are making ２・TOEIC 形式練習８・名品 Reading ８ 第12週　Introducing what you are making ３・TOEIC 形式練習９・名品 Reading ９ 第13週　TOEIC 形式練習 Review Test（３）+ 特別教材 第14週　総合 Review・Speaking Test 第15週　総合 Review + 特別教材 （授業内容は受講生の習熟度や特別行事にあわせて変更することがあります。）
成績評価	Review Test ３回 30%、定期試験 30%、Speaking Test 20%、積極的授業参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典　和英辞典
履修上の注意	
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日約 10 分余、１週 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回 pick up し、それを次回から自由に使えるようにする。教室内だけの英会話ではなく専門科目で確認し、そこで生じた疑問（こういう場合にはどう言えばいいのか等）を授業でフィードバックしてください。
関連科目	

講義コード	0200302
講義名	美術工芸英語（Bクラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	専門分野における簡単な英語表現が理解できるようにする。TOEIC 形式の練習あるいはそれに代わる会話・リスニング練習を繰り返すことで、社会で実際に使える英語力をつける。
授業概要	美術工芸、建築分野の基本的な英語の用語や表現に慣れる。就職活動に向けて TOEIC 受験の練習、あるいはそれに代わる練習を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　科目説明・座席指定・Self Introduction in English １・美術工芸建築英語の導入 第２週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎１・TOEIC 形式練習１ 第３週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎２・TOEIC 形式練習２ 第４週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎３・TOEIC 形式練習３ 第５週　TOEIC 形式練習 Review Test（１）+ 特別教材 第６週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎４・TOEIC 形式練習４ 第７週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎５・TOEIC 形式練習５ 第８週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎６・TOEIC 形式練習６ 第９週　TOEIC 形式練習 Review Test（２）+ 特別教材 第10週　Introducing what you are making １・TOEIC 形式練習７・名品 Reading ７ 第11週　Introducing what you are making ２・TOEIC 形式練習８・名品 Reading ８ 第12週　Introducing what you are making ３・TOEIC 形式練習９・名品 Reading ９ 第13週　TOEIC 形式練習 Review Test（３）+ 特別教材 第14週　総合 Review・Speaking Test 第15週　総合 Review + 特別教材 （授業内容は受講生の習熟度や特別行事にあわせて変更することがあります。）
成績評価	Review Test ３回 30%、定期試験 30%、Speaking Test 20%、積極的授業参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典　和英辞典
履修上の注意	
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日約 10 分余、１週 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回 pick up し、それを次回から自由に使えるようにする。教室内だけの英会話ではなく専門科目で確認し、そこで生じた疑問（こういう場合にはどう言えばいいのか等）を授業でフィードバックしてください。
関連科目	

講義コード	0200303
講義名	美術工芸英語（C クラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	専門分野における簡単な英語表現が理解できるようにする。TOEIC 形式の練習あるいはそれに代わる会話・リスニング練習を繰り返すことで、社会で実際に使える英語力をつける。
授業概要	美術工芸、建築分野の基本的な英語の用語や表現に慣れる。就職活動に向けて TOEIC 受験の練習、あるいはそれに代わる練習を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　科目説明・座席指定・Self Introduction in English １・美術工芸建築英語の導入 第２週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎１・TOEIC 形式練習１ 第３週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎２・TOEIC 形式練習２ 第４週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎３・TOEIC 形式練習３ 第５週　TOEIC 形式練習 Review Test（１）+ 特別教材 第６週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎４・TOEIC 形式練習４ 第７週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎５・TOEIC 形式練習５ 第８週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎６・TOEIC 形式練習６ 第９週　TOEIC 形式練習 Review Test（２）+ 特別教材 第10週　Introducing what you are making １・TOEIC 形式練習７・名品 Reading ７ 第11週　Introducing what you are making ２・TOEIC 形式練習８・名品 Reading ８ 第12週　Introducing what you are making ３・TOEIC 形式練習９・名品 Reading ９ 第13週　TOEIC 形式練習 Review Test（３）+ 特別教材 第14週　総合 Review・Speaking Test 第15週　総合 Review + 特別教材 （授業内容は受講生の習熟度や特別行事にあわせて変更することがあります。）
成績評価	Review Test ３回 30%、定期試験 30%、Speaking Test 20%、積極的授業参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典　和英辞典
履修上の注意	
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日約 10 分余、１週 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回 pick up し、それを次回から自由に使えるようにする。教室内だけの英会話ではなく専門科目で確認し、そこで生じた疑問（こういう場合にはどう言えばいいのか等）を授業でフィードバックしてください。
関連科目	

講義コード	0200304
講義名	美術工芸英語（D クラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	美術工芸、建築分野の基本的な英語の用語や表現に慣れる。就職活動に向けて TOEIC 受験の練習、あるいはそれに代わる練習を行う。
授業概要	専門分野における簡単な英語表現が理解できるようにする。TOEIC 形式の練習あるいはそれに代わる会話・リスニング練習を繰り返すことで、社会で実際に使える英語力をつける。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　科目説明・座席指定・Self Introduction in English １・美術工芸建築英語の導入 第２週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎１・TOEIC 形式練習１ 第３週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎２・TOEIC 形式練習２ 第４週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎３・TOEIC 形式練習３ 第５週　TOEIC 形式練習 Review Test（１）+ 特別教材 第６週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎４・TOEIC 形式練習４ 第７週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎５・TOEIC 形式練習５ 第８週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎６・TOEIC 形式練習６ 第９週　TOEIC 形式練習 Review Test（２）+ 特別教材 第10週　Introducing what you are making １・TOEIC 形式練習７・名品 Reading ７ 第11週　Introducing what you are making ２・TOEIC 形式練習８・名品 Reading ８ 第12週　Introducing what you are making ３・TOEIC 形式練習９・名品 Reading ９ 第13週　TOEIC 形式練習 Review Test（３）+ 特別教材 第14週　総合 Review・Speaking Test 第15週　総合 Review + 特別教材 （授業内容は受講生の習熟度や特別行事にあわせて変更することがあります。）
成績評価	Review Test ３回 30%、定期試験 30%、Speaking Test 20%、積極的授業参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典　和英辞典
履修上の注意	
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日約 10 分余、１週 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回 pick up し、それを次回から自由に使えるようにする。教室内だけの英会話ではなく専門科目で確認し、そこで生じた疑問（こういう場合にはどう言えばいいのか等）を授業でフィードバックしてください。
関連科目	

講義コード	0200305
講義名	美術工芸英語（E クラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	専門分野における簡単な英語表現が理解できるようにする。TOEIC 形式の練習あるいはそれに代わる会話・リスニング練習を繰り返すことで、社会で実際に使える英語力をつける。
授業概要	美術工芸、建築分野の基本的な英語の用語や表現に慣れる。就職活動に向けて TOEIC 受験の練習、あるいはそれに代わる練習を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　科目説明・座席指定・Self Introduction in English １・美術工芸建築英語の導入 第２週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎１・TOEIC 形式練習１ 第３週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎２・TOEIC 形式練習２ 第４週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎３・TOEIC 形式練習３ 第５週　TOEIC 形式練習 Review Test（１）+ 特別教材 第６週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎４・TOEIC 形式練習４ 第７週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎５・TOEIC 形式練習５ 第８週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎６・TOEIC 形式練習６ 第９週　TOEIC 形式練習 Review Test（２）+ 特別教材 第10週　Introducing what you are making １・TOEIC 形式練習７・名品 Reading ７ 第11週　Introducing what you are making ２・TOEIC 形式練習８・名品 Reading ８ 第12週　Introducing what you are making ３・TOEIC 形式練習９・名品 Reading ９ 第13週　TOEIC 形式練習 Review Test（３）+ 特別教材 第14週　総合 Review・Speaking Test 第15週　総合 Review + 特別教材 （授業内容は受講生の習熟度や特別行事にあわせて変更することがあります。）
成績評価	Review Test ３回 30%、定期試験 30%、Speaking Test 20%、積極的授業参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典　和英辞典
履修上の注意	
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日約 10 分余、１週 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回 pick up し、それを次回から自由に使えるようにする。教室内だけの英会話ではなく専門科目で確認し、そこで生じた疑問（こういう場合にはどう言えばいいのか等）を授業でフィードバックしてください。
関連科目	

講義コード	0200306
講義名	美術工芸英語（F クラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	専門分野における簡単な英語表現が理解できるようにする。TOEIC 形式の練習あるいはそれに代わる会話・リスニング練習を繰り返すことで、社会で実際に使える英語力をつける。
授業概要	美術工芸、建築分野の基本的な英語の用語や表現に慣れる。就職活動に向けて TOEIC 受験の練習、あるいはそれに代わる練習を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　科目説明・座席指定・Self Introduction in English １・美術工芸建築英語の導入 第２週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎１・TOEIC 形式練習１ 第３週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎２・TOEIC 形式練習２ 第４週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎３・TOEIC 形式練習３ 第５週　TOEIC 形式練習 Review Test（１）+ 特別教材 第６週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎４・TOEIC 形式練習４ 第７週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎５・TOEIC 形式練習５ 第８週　美術工芸作品キャプション練習 / 建築関係英語基礎６・TOEIC 形式練習６ 第９週　TOEIC 形式練習 Review Test（２）+ 特別教材 第10週　Introducing what you are making １・TOEIC 形式練習７・名品 Reading ７ 第11週　Introducing what you are making ２・TOEIC 形式練習８・名品 Reading ８ 第12週　Introducing what you are making ３・TOEIC 形式練習９・名品 Reading ９ 第13週　TOEIC 形式練習 Review Test（３）+ 特別教材 第14週　総合 Review・Speaking Test 第15週　総合 Review + 特別教材 （授業内容は受講生の習熟度や特別行事にあわせて変更することがあります。）
成績評価	Review Test ３回 30%、定期試験 30%、Speaking Test 20%、積極的授業参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	
履修上の注意	
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日約 10 分余、１週 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回 pick up し、それを次回から自由に使えるようにする。教室内だけの英会話ではなく専門科目で確認し、そこで生じた疑問（こういう場合にはどう言えばいいのか等）を授業でフィードバックしてください。
関連科目	

講義コード	0200402
講義名	英会話Ⅱ（Aクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	1年次で練習した英語会話力を応用し、さらに英語を意思疎通の言語として活用できるようにする。各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やし、自分が自由に使える英語表現を豊かにすることを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。留学生や海外からの観光客との会話等、京都でこそ得られる機会を活用し、英語「を」話すのではなく、必要な内容を英語「で」話すことにチャレンジする。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　Orientation, Self Introduction in English 第2週　Self Introduction in English 2, Listening Practice 1 第3週　Listening Practice 2 第4週　Listening Practice 3 第5週　Listening Practice 4（小テスト） 第6週　Speaking Practice, Orientation 第7週　Speaking Practice 1 About yourself 第8週　Speaking Practice 2 About yourself, Past 第9週　Speaking Practice 3 About yourself, Future 第10週　Speaking Practice 4 Giving Directions 1 第11週　Speaking Practice 5 Giving Instructions 第12週　Speaking Practice 6 Explanations 第13週　Speaking 確認（1）, Listening Exercise 1 第14週　Speaking 確認（2）, Listening Exercise 2 第15週　Speaking 確認（3）, Listening Exercise 3 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	定期試験 20%、Speaking 確認 Test 40%、小テスト 20%、積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	このクラスは会話に特化しているため、文法問題や長文読解は扱わない。就職・進学等のために総合的な英語力を身につけるためには、このクラスに加えて TOEIC 対策講座を受講すること。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（1日約 10 分余、1週 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回1つ pick up し、それを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話Ⅰ、英語コミュニケーション、英語ビジネスコミュニケーション

講義コード	0200403
講義名	英会話Ⅱ（Bクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	1年次で練習した英語会話力を応用し、さらに英語を意思疎通の言語として活用できるようにする。各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やし、自分が自由に使える英語表現を豊かにすることを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。留学生や海外からの観光客との会話等、京都でこそ得られる機会を活用し、英語「を」話すのではなく、必要な内容を英語「で」話すことにチャレンジする。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　Orientation, Self Introduction in English 第2週　Self Introduction in English 2, Listening Practice 1 第3週　Listening Practice 2 第4週　Listening Practice 3 第5週　Listening Practice 4（小テスト） 第6週　Speaking Practice, Orientation 第7週　Speaking Practice 1 About yourself 第8週　Speaking Practice 2 About yourself, Past 第9週　Speaking Practice 3 About yourself, Future 第10週　Speaking Practice 4 Giving Directions 1 第11週　Speaking Practice 5 Giving Instructions 第12週　Speaking Practice 6 Explanations 第13週　Speaking 確認（1）, Listening Exercise 1 第14週　Speaking 確認（2）, Listening Exercise 2 第15週　Speaking 確認（3）, Listening Exercise 3 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	定期試験 20%、Speaking 確認 Test 40%、小テスト 20%、積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	このクラスは会話に特化しているため、文法問題や長文読解は扱わない。就職・進学等のために総合的な英語力を身につけるためには、このクラスに加えて TOEIC 対策講座を受講すること。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（1日約 10 分余、1週 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回1つ pick up し、それを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話Ⅰ、英語コミュニケーション、英語ビジネスコミュニケーション

講義コード	0200404
講義名	英会話Ⅱ（Cクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	1年次で練習した英語会話力を応用し、さらに英語を意思疎通の言語として活用できるようにする。各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やし、自分が自由に使える英語表現を豊かにすることを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。留学生や海外からの観光客との会話等、京都でこそ得られる機会を活用し、英語「を」話すのではなく、必要な内容を英語「で」話すことにチャレンジする。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　Orientation, Self Introduction in English 第2週　Self Introduction in English 2, Listening Practice 1 第3週　Listening Practice 2 第4週　Listening Practice 3 第5週　Listening Practice 4（小テスト） 第6週　Speaking Practice, Orientation 第7週　Speaking Practice 1 About yourself 第8週　Speaking Practice 2 About yourself, Past 第9週　Speaking Practice 3 About yourself, Future 第10週　Speaking Practice 4 Giving Directions 1 第11週　Speaking Practice 5 Giving Instructions 第12週　Speaking Practice 6 Explanations 第13週　Speaking 確認（1）, Listening Exercise 1 第14週　Speaking 確認（2）, Listening Exercise 2 第15週　Speaking 確認（3）, Listening Exercise 3 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	定期試験 20%、Speaking 確認 Test 40%、小テスト 20%、積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	このクラスは会話に特化しているため、文法問題や長文読解は扱わない。就職・進学等のために総合的な英語力を身につけるためには、このクラスに加えて TOEIC 対策講座を受講すること。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（1日約 10 分余、1週 90 分を目安とする。） （特記事項）自分に役立ちそうな表現を毎回1つ pick up し、それを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話Ⅰ、英語コミュニケーション、英語ビジネスコミュニケーション

講義コード	0200502
講義名	英語コミュニケーション（A クラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	日常会話から始め、自分の専門分野の課題を英語で説明できるようにする。ノーマルスピードで話される英語を聞き取れるようにする。
授業概要	日常会話だけではなく専門分野の英語表現に慣れる。並行してリスニング練習を行い、総合的に英語で聞く・話す力をつける。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　授業計画説明・Listening 導入・Speaking 導入 第２週　Listening Exercise 1, Speaking Exercise 1 第３週　Listening Exercise 2, Speaking Exercise 2 第４週　Listening Exercise 3, Speaking Exercise 3 第５週　Listening Review Test, Speaking Exercise 4 第６週　Speaking 実践（１）, vocabulary check（１） 第７週　Speaking 実践（２）, vocabulary check（２） 第８週　Speaking 実践（３）, vocabulary check（３） 第９週　Speaking 実践（４）, vocabulary check（４） 第10週　Speaking 実践（５）, vocabulary check（５） 第11週　Speaking 実践（６）, vocabulary check（６） 第12週　Speaking 実践（７）, vocabulary check（７） 第13週　Speaking 実践（８）, vocabulary check（８） 第14週　Speaking 確認テスト（１）, Listening Exercise 4 第15週　Speaking 確認テスト（２）, Listening Exercise 5 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	定期試験 30%、スピーキング確認テスト 30%、リスニング Review Test 20%、積極的授業参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典　和英辞典
履修上の注意	この授業を履修する場合「英語コミュニケーション B」は履修できません。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日約 10 分余、１週 90 分を目安とする。） （特記事項）この授業は Speaking, Listening 練習に特化しているため、TOEIC 受験を考える場合は、TOEIC 受験に特化した「英語ビジネスコミュニケーション」を併せて履修すると良い。
関連科目	英会話Ⅰ・美術工芸英語・英会話Ⅱ

講義コード	0200503
講義名	英語コミュニケーション（Bクラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ヒルド　麻美　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	専門分野の英文資料を読み、英文読解力をつける。TOEIC 形式の練習を繰り返し、文法・読解・リスニング力をつけ、学内 TOEIC 団体受験で前年を上回る得点をめざす。
授業概要	専門分野の英文資料を読む。並行して TOEIC の受験対策練習を行ない、学期末の TOEIC 学内団体受験に参加する。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　授業計画説明・Introducing Arts & Architectural Works in English １・TOEIC 練習１ 第２週　Arts & Architectural Works in English ２・TOEIC 練習２ 第３週　Arts & Architectural Works in English ３・TOEIC 練習３ 第４週　Arts & Architectural Works in English ４・TOEIC 練習４ 第５週　Arts & Architectural Works in English ５・TOEIC 練習５ 第６週　TOEIC Review １・English from Mass Media（DVD） 第７週　Arts & Architectural Works in English ６・TOEIC 練習６ 第８週　Arts & Architectural Works in English ７・TOEIC 練習７ 第９週　Arts & Architectural Works in English ８・TOEIC 練習８ 第10週　Arts & Architectural Works in English ９・TOEIC 練習９ 第11週　Arts & Architectural Works in English 10・TOEIC 練習 10 第12週　TOEIC Review ２・English from Mass Media（DVD） 第13週　TOEIC 模擬テスト（１）と確認 第14週　TOEIC 模擬テスト（２）と確認 第15週　TOEIC 模擬テスト（３）と確認 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	定期試験 50%、TOEIC 形式 Review ２回 30%、積極的授業参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典　和英辞典　TOEIC 問題集　TOEIC 語彙集
履修上の注意	この授業を履修する場合「英語コミュニケーション A」は履修できません。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。（１日約 10 分余、１週 90 分を目安とする。） （特記事項）自分にあった TOEIC 問題集、語彙集を選んで自宅学習し、学内 TOEIC 団体受験の準備とする。この授業は英語を学んでこなかった学生を対象とした「やり直し」ではなく、英語力向上を目指す学生を受講対象とする。やむをえない場合を除き、全員 TOEIC 学内団体受験に参加することとする。
関連科目	英会話Ⅰ・美術工芸英語・英会話Ⅱ

講義コード	0200601
講義名	情報基礎演習（A クラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎村上　信　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師　氏名：岡　達也　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：助教　氏名：木村　奈保　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・Word、Excel、PowerPoint の活用方法を習得する。 ・効果的なプレゼンテーションの方法を習得する。 ・コンピュータと人間の特性を理解することで作業の効率化を達成する。
授業概要	パソコンの基礎および実務用ソフト（Word、Excel、PowerPoint）の活用方法を習得する。思い通りの書式で文書を作ることや、効率的な計算処理および処理結果の表示・表現方法を習得する。また、プレゼンテーションとは何かを研究し、ソフトの使い方を学ぶのみにとどまらず、相手に理解してもらう効果的なプレゼンテーションの方法を習得する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　PC 設定・ソフトウェアの準備 Windows：日本語入力システムの理解 第２回　Word：文章の作成・フォントや書式の設定 第３回　Word：ビジュアル要素の設定・レイアウトの設定 第４回　Word：カードのデザイン 第５回　Word：総合問題 第６回　Excel：表の作成・表のデザイン・表計算 第７回　Excel：グラフの作成・データベース作成 第８回　Excel：データ分析 第９回　Excel：総合問題 第10回　Excel：総合問題 第11回　PowerPoint：スライドの作成 第12回　PowerPoint：ビジュアル要素の設定 第13回　PowerPoint：プレゼンテーション 第14回　PowerPoint：総合問題 第15回　PowerPoint：総合問題・講評
成績評価	授業態度（40%）、各演習課題（60%）で成績評価を行う
教科書	データにて配布
参考書 参考資料	しっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト
履修上の注意	個人のノート PC にて授業を行うので、忘れないようにすること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	「IT 活用応用演習」

講義コード	0200602
講義名	情報基礎演習（B クラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授 ／ 氏名：◎ 山内　貴博 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授 ／ 氏名：井上　晋一 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授 ／ 氏名：川嶋　貫介 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師 ／ 氏名：人見　将敏 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：助教 ／ 氏名：岡北　一孝 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・パソコンにおけるデータの入力・出力・保存・読み込み方法を習得する。 ・Word、Excel、PowerPoint の基礎、及び活用方法を習得する。 ・効果的なプレゼンテーション方法を習得する。
授業概要	パソコン（Personal Computer）の基本的な構成（Hardware、Software）や OS（Operation System）、及び実務用ソフト Microsoft Office（Word、Excel 、PowerPoint）など、基礎的な活用方法を習得することを目的とする。実務用ソフトとしては、Word（文書作成ソフト）、Excel（表計算ソフト）、PowerPoint（プレゼンテーションソフト）の使い方だけではなく、大学の授業で必要とされる活用方法を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション：パソコンの共通操作・共通言語の理解 第２回　Word：基本的な文書レイアウト 第３回　Word：情報の整理 第４回　Word：伝える技術 第５回　Word：自由なレイアウト 第６回　Excel：EXCEL とは？ 第７回　Excel：より伝わるデータの作成 第８回　Excel：伝えるためのツール 第９回　Excel：作業の生産性をあげる 第10回　PowerPoint：プレゼンテーションとは？ 第11回　PowerPoint：基本アニメーション 第12回　PowerPoint：高度なアニメーション 第13回　PowerPoint：効果的なプレゼンテーション 第14回　PowerPoint：視聴者参加型プレゼンテーション 第15回　PowerPoint：最終課題プレゼンテーション ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	平常点（30%）、各練習問題（40%）、演習課題（30%）で成績評価を行う。
教科書	授業に応じて作成資料、データなどを配布する。
参考書 参考資料	よくわかる Wor&Excel&PowerPoint
履修上の注意	パソコン操作は習うより慣れることが重要である。常時パソコンを携帯し慣れ親しむ習慣をつける。 また、最初に設定するアプリケーションの ID とパスワードは忘れずに管理する。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	「コンピューターデザイン演習」「IT 活用応用演習」

講義コード	0200701
講義名	総合コミュニケーション
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	コミュニケーション科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ 安藤　眞吾　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：教授　氏名：中井川正道　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	プレゼンター、レスポンデントとしての口頭発表技術、文章表現技術を獲得する。 寸劇の演技を通して自己アピール力を訓練する。
授業概要	社会人としてのコミュニケーションの役割を理解し、円滑なコミュニケーションをとれる論理的思考力と表現力を身につける。寸劇上演を通してグループコミュニケーションや自己アピール力を身につける。 また、サインコミュニケーションを理解し、オリジナルサインコミュニケーションを制作発表する。
授業計画 授業内容	第１週　前半オリエンテーション サインの種類とコミュニケーション（担当：中井川 正道） 第２週　五感で受け取るサインコミュニケーション 第３週　本能で受け取るサインコミュニケーション 第４週　言葉の力・記号の力 第５週　声の力・体の力 第６週　社会概念とサイン 感情概念とサイン 新たなサイン 第７週　オリジナルサインコミュニケーション制作 第８週　オリジナルサインコミュニケーション発表 第９週　後半オリエンテーション コミュニケーションスキルを学ぶ（担当：安藤 眞吾） 第10週　ディベートを学ぶ 第11週　即興ディベート実演 第12週　寸劇シナリオと上演について、グループ分け 第13週　リハーサル 第14週　寸劇上演会 第15週　ポートフォリオの作成について
成績評価	発表等の内容によって評価する。
教科書	適宜、プリント等を配布する。
参考書 参考資料	なし
履修上の注意	後半はグループワークとなるため、欠席のない継続的な参加を希望する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 1.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「社会活動Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップ」

講義コード	0300102
講義名	しごと論Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	キャリア形成科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎ 中井川　正道　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・「しごと」の多様性とその意義を理解する。 ・自身の将来の「しごと」について思考する。
授業概要	入学して間もない学生には、多くの分野の「しごと」をとおして、人の心のありようを知ることや、人の知恵、努力の様を学ぶことが大切である。 そこで、さまざまな講師の経験を踏まえて、これらのことを学生に伝える。
授業計画 授業内容	オムニバス形式／全15回 第1回　新谷　裕久（イントロダクション、社活） 第2回　中井川正道（環境デザイン） 第3回　川北　　英（建築） 第4回　藤井　　收（漆芸） 第5回　西堀耕太郎（伝統工芸） 第6回　太田　　達（京菓子） 第7回　宮本　貞治（木工） 第8回　髙田　光雄（建築） 第9回　浜田　泰介（画家） 第10回　コシノ・ジュンコ（デザイナー） 第11回　九里　一平（漫画家） 第12回　堀木エリ子（和紙デザイナー） 第13回　室瀬　和美（漆芸家） 第14回　今井　政之（陶芸家） 第15回　阿部　祐二（報道リポーター） ※順番は前後する場合があります
成績評価	毎回の小レポート、期末試験（論述形式）によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	3年次には引き続き、「しごと論Ⅱ」を受講することが望ましい。

講義コード	0300201
講義名	しごと論Ⅱ（Aクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	キャリア形成科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎津村　健一　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	学科、コースの専門性を将来の就職先で活かしていく上での社会とのかかわりについて考える。
授業概要	１年次の「しごと論Ｉ」では、新入生ということで具体的にイメージすることのできなかった社会人としての自覚の高揚を改めて３年次に実施する。就職への助言にとどまらず、改めて仕事に向かうべく姿勢を再認識させ、社会に対して新たな視点をもつ機会とする。
授業計画 授業内容	オムニバス方式 / 全 15 回 第１回　（安藤　眞吾）　インテリアプロダクトデザイン 第２回　（川北　　英）　建築美術 第３回　（新谷　裕久）　キャリア教育 第４回　（浅見　　武）　陶芸 第５回　（井上　年和）　伝統建築 第６回　（小林　泰弘）　文化財 第７回　（中井川正道）　環境デザイン 第８回　（川嶋　寛介）　建築デザイン 第９回　（村上　　隆）　文化財 第10回　（冷泉　為人）　日本美術史 第11回　（髙田　光雄）　建築計画 第12回　（遠藤　公誉）　漆芸 第13回　（大西　英玄）　清水寺成就院住職 第14回　（種村　俊昭）　建築計画 第15回　（津村　健一）　美術
成績評価	毎回の小レポート、期末試験（論述形式）によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
関連科目	１年次開講科目である「しごと論Ｉ」に引き続き履修することが望ましい。

講義コード	0300202
講義名	しごと論Ⅱ（Bクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	キャリア形成科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎ 種村　俊昭　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	学科、コースの専門性を将来の就職先で活かしていく上での社会とのかかわりについて考える。
授業概要	１年次の「しごと論Ⅰ」では、新入生ということで具体的にイメージすることのできなかった社会人としての自覚の高揚を改めて３年次に実施する。就職への助言にとどまらず、改めて仕事に向かうべく姿勢を再認識させ、社会に対して新たな視点をもつ機会とする。
授業計画 授業内容	オムニバス方式 / 全 15 回 第１回　（井上　晋一）集合住宅の調査を通じた中間領域研究と設計について考える。 第２回　（井上　年和）歴史的建造物の保存修理を通して経験してきた研究調査、設計監理について語る。 第３回　（岡北　一孝）西洋の歴史的建造物の改修やリノベーションについて 第４回　（大上　直樹）歴史的建造物保存修理の設計監理における復原の考え方について論じる。 第５回　（川北　　英）地球環境を考える―木の文化と石の文化― 第６回　（川嶋　貫介）住宅の設計、リフォームについて 第７回　（高田　光雄）建築設計における倫理について、マンションなど具体的な建築を例として考る。 第８回　（種村　俊昭）建築の様々な「しごと」、そして、アトリエ事務所（安藤忠雄建築研究所）、組織事務所（日本設計）について 第９回　（人見　将敏）「建築家論・作家論」という観点から、建築設計と社会との関わり方を考える。 第10回　（森重　幸子）建築士の職能と、様々な社会制度やまちづくりとの関係を考える。 第11回　（安田　光男）ミラノでの「しごと」 第12回　（山内　貴博）建築とランドスケープデザインの「しごと」について 第13回　（川北　　英）日本人の感性の成り立ちと西洋美の比較 第14回　（高田　光雄）建築の安全と文化の関係性を論じ、建築士の社会的役割を考える。 第15回　（種村　俊昭）総括
成績評価	毎回の小レポート、期末試験（論述形式）によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
関連科目	１年次開講科目である「しごと論Ⅰ」に引き続き履修することが望ましい。

講義コード	0300301
講義名	社会活動Ⅰ
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	キャリア形成科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授／◎ 新谷　裕久／ＫＹＯＢＩ　工芸学部 教授／川北　　英／ＫＹＯＢＩ　工芸学部 教授／津村　健一／ＫＹＯＢＩ　工芸学部 特任教授／宮本　貞治／ＫＹＯＢＩ　工芸学部 講師／青木　太一／ＫＹＯＢＩ　工芸学部　他
到達目標	社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。
授業概要	地域の清掃、催事にボランティア活動として参加することや学校行事に積極的に参加することにより、コミュニケーション能力や行動力などの社会性を育成する機会とする。
授業計画 授業内容	下記の社会活動により延べ５日間選択する。 １．鴨川トレッキング＆清掃活動１日（４/20） 250 名 ２．新日吉神宮神幸祭支援活動１日（５/12） 30 名 ３．七条大橋清掃活動１日（７/ ７、８/ ７/、９/ ７、12/ ７：各２時間２回で１日扱い）／各 20 名 ４．貞教夏祭り支援活動１日（７月下旬） 40 名 ５．園部演習林保全活動１日（９月上旬） 20 名 ６．貞教体育大会支援活動１日（10 月上旬） 40 名 ７．京都伝統工芸館･鴨川七条ギャラリー展示活動１日×６（通年６回実施：各２時間２回で１日扱い）／各 20 名 ８．オープンキャンパス支援活動１日×７（７月３回、８月４回実施予定）／各 20 名
成績評価	演習態度（20%）、小レポート（80%）
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	演習を通して適宜紹介する。
履修上の注意	学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。
予習・復習指導	一演習（１コマ）に対して 1.5 時間の予習復習をすること。各演習ごとに実施される打合せならびに反省会が該当する。具体的な日程については事前に掲示する。
関連科目	２年次には引き続き「社会活動Ⅱ」を選択することが望ましい。

講義コード	0300401
講義名	社会活動Ⅱ
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	キャリア形成科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種 / 氏名 / 所属 教授 / ◎ 新谷　裕久 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 教授 / 川北　　英 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 教授 / 津村　健一 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 特任教授 / 宮本　貞治 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 講師 / 青木　太一 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部　他
到達目標	高度な社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。
授業概要	社会活動Ⅰにより身につけたコミュニケーション能力や行動力などの社会性を地域活動や学校催事への参加を重ねることにより発展させる。
授業計画 授業内容	下記の社会活動により延べ５日間選択する。 1．鴨川トレッキング＆清掃活動１日（４/20）　250 名 2．七条大橋清掃活動１日（7/ 7、8/ 7/、9/ 7、12/ 7：各２時間２回で１日扱い）／各 20 名 3．貞教夏祭り支援活動１日（７月下旬）　40 名 4．園部演習林保全活動１日（９月上旬）　20 名 5．貞教体育大会支援活動１日（10 月上旬）　40 名 6．京都伝統工芸館･鴨川七条ギャラリー展示活動１日×６（通年６回実施：各２時間２回で１日扱い）／各 20 名 7．オープンキャンパス支援活動１日×７（７月３回、８月４回実施予定）／各 20 名
成績評価	演習態度（20%）、小レポート（80%）
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	演習を通して適宜紹介する。
履修上の注意	学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。
予習・復習指導	一演習（１コマ）に対して 1.5 時間の予習復習をすること。各演習ごとに打合せならびに反省会が実施される。具体的な日程については事前に掲示する。
関連科目	１年次の「社会活動Ⅰ」に引き続きを選択することが望ましい。

講義コード	0300501
講義名	インターンシップ
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	キャリア形成科目
配当年次	
必修選択区分	選択
担当教員	<table><tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr><tr><td>講師</td><td>◎ 山田　幸秀</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr></table>
到達目標	①仕事の現場を体験し大学で学ぶ意義を再確認する ②社会人として必要な知識やスキルを身につける ③卒業後の進路に対する明確な意識を醸成し、進路選択のミスマッチを防ぐ ④仕事の現場での能動性（課題の設定・解決策の実践等）を高める
授業概要	卒業後のキャリア人生を充実したものにするため、社会人としての仕事を実体験するカリキュラム。３年次前期の事前学習を通じて就業体験を希望する企業等を見つけ、原則として夏季休暇中の５日間（各日８時間）を実習期間にあて、レポートやプレゼンによって振り返りを行う。特に仕事現場での問題解決や自己の成長を図るため、適切な課題設定を行って実習に臨むことを重視する。
授業計画 授業内容	■平成 31 年度の予定 ①事前学習（１）ガイダンス ②事前学習（２）業界研究＜１＞ ③事前学習（３）業界研究＜２＞ ④事前学習（４）インターンシップの心得（安全教育）など ⑤事前学習（５）実習計画書作成 ⑥事前学習（６）メンタルケア ⑦実　習　夏季休暇中、原則として５日間の実習スケジュールを実習先と相談のうえ各自が設定 ⑧事後学習（１）報告書の書き方指導 ⑨事後学習（２）感想発表 ⑩事後学習（３）プレゼン＜１＞ ⑪事後学習（４）プレゼン＜２＞ ＊予定は変更になることがあるので、掲示などで確認すること ■想定される実習先 各種工房、工芸・建築・デザイン関連企業、京都伝統工芸協議会会員企業、京都府物産協会会員企業、業界団体・組合、公的機関など ＊原則として学生が自ら実習先を開拓する。夏季休暇中なので、帰省先等での実習も可能。就職を希望する業界や企業での就業体験を特に推奨する
成績評価	学内での事前・事後学習、実習先での学びと行動、実習先の評価等を総合的に勘案して評価する。
教科書	
参考書 参考資料	
履修上の注意	
予習・復習指導	①インターンシップは心と技を磨く貴重な教育機会であるため、履修者には十分な準備と能動的な姿勢が要求される②履修申請したものの実習に行かなかった場合の成績は「不可」となるので注意すること。特に建築士試験などを受ける者は注意を要する③４年次にも単位を認める
関連科目	

講義コード	0300601
講義名	メディアリテラシー
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	キャリア形成科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：講師　氏名：◎山田　幸秀　所属：KYOBI　工芸学部
到達目標	・大学生活や就職活動において適切に情報を収集、活用する意識と能力を高める ・積極的にニュースメディアに接する習慣を身に付け、社会への適応能力を養う ・新聞、テレビ、ラジオなどのメディア関係者らから直接、話を聞くことで、ニュースや情報に対する関心を深めるとともに、発信する側の立場も視野に入れながら多面的に情報を分析・評価する能力を養う。
授業概要	わたしたちはインターネットを通じてさまざまな情報を得ている。一方でSNSによって個人による情報発信が可能になった結果、インターネット上にはさまざまな情報があふれ、その真偽を見極めるチカラが求められるようになった。大学の研究や就職活動に情報をどう生かせばいいかを考え、社会生活においてメディアを活用する技術を身に付けるため、メディアの特性を知るとともに、一線で活躍するメディア関係者らの話を聞く。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　ガイダンス：メディアリテラシーとは ― メディア情報を大学生活にどう生かすか 第2回　メディアの種類と特性 ― 新聞、テレビ、ラジオ、通信社、雑誌、フリーペーパー、インターネット 第3回　メディアを巡る諸問題（1）― 誤報、客観報道と情報操作 第4回　英字メディアのリテラシー（1） 第5回　英字メディアのリテラシー（2） 第6回　英字メディアのリテラシー（3） 第7回　テレビ局、新聞社のさまざまな仕事（1） 第8回　テレビ局、新聞社のさまざまな仕事（2） 第9回　ソーシャルメディアの功罪 第10回　サイバー事件捜査の現場から ― ネット犯罪から身を守る 第11回　メディアを巡る諸問題（2）― 実名報道 第12回　FMラジオ局のさまざまな取り組み ― 音楽からアートまで 第13回　情報収集・分析のプロたち ― インテリジェンスとは 第14回　動画広告の世界（「カンヌライオンズ」歴代入賞作品の解説） 第15回　「報道の自由度ランキング」に見る世界のメディア事情
成績評価	・受講態度、小レポートを点数化し、評価する。
教科書	毎回、テーマに関連する資料を配付する。
参考書 参考資料	「実名と報道」（日本新聞協会 編集委員会）　※同協会のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
履修上の注意	
予習・復習指導	・受け身の姿勢ではなく、自分のアタマで考えながら受講すること。 ・ゲストには積極的に質問を。
関連科目	

講義コード	0300701
講義名	現代社会論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	教養教育科目
科目分野名	キャリア形成科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎冷泉　為人　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	今日までの歴史と文化を論述しながら、現代、「今」をどのように生きるかを「考え」てみる。
授業概要	現代社会論では、文字通り、「現代」と「社会」が大事なことばになります。これは、現代すなわち「今　ここに」「今　ここを」基準、視点にして「社会」を考えていくことでしょう。「現代」は、「知性」でもって自由と平等、博愛の民主主義が語られています。一方では資本主義の経済効率やお金のことが声高に叫ばれています。ところが現代は無常なるものです。変わるものです。平家物語・方丈記などがそれを象徴的に語っています。これに対して「歴史」と「文化（文学）」は変わらないものです。この「歴史」と「文化」は誰が何といおうとも動かし難い、変わらないものです。この「歴史」と「文化」は人間が生きていく上での理想の一つの「型」つまり「手本」です。こうしたことを「考える」ということが極めて大事な「もの」「こと」です。これらのことを話す予定です。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　はじめに。　―現代社会論の総論 第２回　吉野源三郎『君たちはど　う生きるか』（岩波文庫） 第３回　見学（例：三十三間堂）―歴史と文化― 第４回　見学（例：京博・豊国神社）　―歴史と文化― 第５回　『菜根譚』『呻吟語』 第６回　齋藤孝「特別授業　中勘助『銀の匙』」（別冊 NHK 100 分 de 名著） 第７回　冷泉為人『円山応挙論』（思文閣出版）の「理想と現実」 第８回　稲森和夫『考え方』　―利己的ではなく利他的に― 第９回　『金子みすゞの童謡集』　―純心― 第10回　渡辺和子『置かれた場所で咲きなさい』（幻冬舎） ―社会が変わらなければ自分が変わる― 第11回　小林秀雄の「無常について」（『古典と伝統について』） 第12回　冷泉流歌道　―型について― 第13回　安永天明期の京都画壇（一） 第14回　安永天明期の京都画壇（二） 第15回　まとめ　―日本人の自然観・美的感性・こころなどについて―
成績評価	
教科書	
参考書 参考資料	
履修上の注意	
予習・復習指導	
関連科目	

講義コード	3100101
講義名	工芸概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：講師　氏名：◎玉村　嘉章　所属：KYOBI　工芸学部
到達目標	・広く工芸全般の意味を理解する。 ・工芸に対する広い視野を身につける。
授業概要	広く工芸の意味を理解すると共に、古くから伝わる工芸が世界のそして日本の文化としていかに我々の生活に定着しているかを各専門分野の切り口をとおして論じる。
授業計画 授業内容	オムニバス /全15回 第１～３回　工芸の語源・意味について述べると共に、ヨーロッパの工芸活動や日本の工芸活動がいかに社会の変遷とともに連動してきたかを論じる（安藤眞吾） 第４・５回　木工の技術・材料・デザイン等の解説。現在活躍している工芸家の作品・映像等を通して多様な工芸のスタイルを紹介する（玉村嘉章） 第６～８回　陶磁器業界の近況と今後を概観すると共に、「ものづくり」の変遷を成形技法、加飾技法、素材などを通じて解説し、工芸への理解を深める（横山直範） 第９・10回　物造りという観点から時代をさかのぼり彫刻作品、仏像彫刻作品が、生活に定着し馴染んできたか、映像、写真資料を参考に学ぶ（青木太一） 第11・12回　美術と工芸の関わりを通し、歴史の中での工芸の位置づけの変化、欧米の美術への影響を考察し、現代の工芸の動向について美術からの視点で概観する（山本麻矢） 第13・14回　伝統的技法による漆工芸品の構造、制作工程全般、諸道具について、また漆工芸を支える素材の内、主に国産漆の現状について概略を説明する（遠藤公誉） 第15回　総括（安藤眞吾）
成績評価	複数回実施する小レポート及び最終レポートにより評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	『工芸の見かた感じ方』（東京国立近代美術館工芸課編淡交社）
履修上の注意	期末時に、講師の中から一人を選び、その講師の担当した講義に関する最終レポートを提出する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「伝統工芸概論」

講義コード	3100201
講義名	伝統工芸概論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授　氏名：◎浅見　武　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・工芸業界の裾野の広さを理解する。 ・各工芸について基本的な知識を身につける。
授業概要	京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。
授業計画 授業内容	オムニバス／全15回 第１回　浅見　　武　概論 第２回　藤井　　收　漆芸 第３回　藤岡　春樹　紙 第４回　内田　俊秀　伝統工芸品 第５回　八田　誠治　友禅・西陣 第６回　須藤　　拓　鋳金・鍛金・彫金 第７回　若林卯兵衛　仏壇・仏具 第８回　若林卯兵衛　仏壇・仏具 第９回　綾部　　之　京指物 第10回　小林　泰弘　文化財 第11回　野口　　康　金箔 第12回　猪飼　祐一　京焼 第13回　浅見　　武　陶芸 第14回　石田　正一　竹工芸 第15回　渡邉　　晶　刃物 ※順番が前後する場合があります
成績評価	毎回実施する小レポート及び最終レポートにより評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	工芸の見かた･感じかた（東京国立近代美術館工芸課:編）淡交社　明日への伝統工芸（浅見 薫著）㈶京都伝統工芸産業支援センター
履修上の注意	各講師が指示する内容のレポートを提出する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	同じく必修科目である「工芸概論」と併せて工芸の知識を深める

講義コード	3100301
講義名	日本美術史
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎田中　敏雄　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	各時代を象徴する日本美術と関連する歴史事象を理解し、美術作品を多面的に鑑賞する能力を身につける。
授業概要	縄文時代から明治・大正時代までの美術を対象とし、日本美術の流れを概観する。授業では各時代の代表的な作品を取り上げ、画像・映像等による作品鑑賞を交えて、それぞれの作品の制作事情、様式的・技法的特徴、造詣の背景にある思想や文化について解説する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス・授業内容の説明 第２回　縄文～白鳳時代の美術 第３回　絵画作品研究① 第４回　奈良～平安時代の美術 第５回　絵画作品研究② 第６回　鎌倉～室町時代の美術 第７回　絵画作品研究③ 第８回　桃山～江戸時代前期の美術 第９回　授業中レポート 第10回　江戸時代後期の美術 第11回　絵画作品研究⑤ 第12回　明治～大正時代の美術 第13回　絵画作品研究⑥ 第14回　総括・質疑応答 第15回　試験
成績評価	授業態度（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）
教科書	辻惟雄監修『増補新装　カラー版日本美術史』、美術出版社、2016 年
参考書 参考資料	辻惟雄監修『カラー版日本美術史年表』、美術出版社
履修上の注意	
予習・復習指導	最低１回、美術館や博物館に行き、展覧会についてレポートを作成する。 できるだけ展覧会、神社仏閣に足を運び本物を見るのが望ましい。
関連科目	

講義コード	3100401
講義名	デザイン概論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎安藤　眞吾　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・広義のデザイン概念を理解する。 ・近代デザインの歴史と作品を認識する。 ・現代のデザイナーやその活動を知る。 ・これからの社会とデザインの関わりを考える。
授業概要	デザインの本来的意味や語源、領域等にわたって述べると共に、産業革命以後の近代デザイン史を概説する。また、デザインがいかに社会の動きと連動してきたか事例を挙げて解説すると共に、デザインの価値についても論じる。さらには、現代社会におけるデザインの役割と課題についても言及し、ヨーロッパにおけるデザインムーブメントや、わが国におけるデザイン啓蒙活動の紹介を通して理解を深める。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション、デザインの意味、狭義・広義のデザインとは 第２回　デザインの領域・ジャンルについて 第３回　近代デザインの歴史１ アーツ・アンド・クラフツ運動を中心として 第４回　近代デザインの歴史２ バウハウスの役割と影響 第５回　アメリカの工業デザインの黎明期 第６回　日本におけるデザインの役割、グッドデザイン賞の制定 第７回　欧米のデザイン動向１ ミラノ・サローネとメゾン・エ・オブジェ 第８回　欧米のデザイン動向２ 北欧のデザイン事例を中心として 第９回　日本の著名なデザイナーとその作品 第10回　カラーデザインの世界（色とカタチの関係性） 第11回　ユニバーサルデザインとインクルーシブデザイン 第12回　デザインプロデュースとブランドデザイン 第13回　ソーシャルデザイン（エコ、地域創成、震災復興） 第14回　日本の美意識と京都デザインの展望 第15回　ディスカッションと総括
成績評価	毎回提出されるレポート及び授業態度によって評価する。
教科書	毎回レジュメを配布する。
参考書 参考資料	「カラー版世界デザイン史」美術出版社
履修上の注意	毎回講義内容に関する小レポートを提出していただき、理解度を確認する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「色彩学」

講義コード	3100501
講義名	伝統住居概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：准教授　氏名：◎井上　年和　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要となる基本的な知識を習得する。
授業概要	日本の伝統的な住居について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション　史跡と古墳 第２回　原始的な住居と集落 第３回　都城と宮殿 第４回　寝殿造 第５回　書院造 第６回　城郭 第７回　武家屋敷 第８回　都市と村落 第９回　民家 第10回　町屋（町家） 第11回　劇場 第12回　茶室と数寄屋 第13回　近代和風建築 第14回　洋風住宅 第15回　歴史的な町並み
成績評価	レポートおよび定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書 参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
関連科目	社寺建築概論、伝統構造学

講義コード	3100601
講義名	色彩学（A クラス）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎安藤　眞吾　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・色彩を体系立てて理論的にとらえる。 ・工芸・デザインや建築に役立つ配色調和手法を体系的に学ぶ。 ・色彩検定試験にチャレンジできる知識の修得。
授業概要	色彩は、私たちの環境･生活全てに大きく関わっている。色彩を単に感性だけで処理するのではなく、体系立てて理論的に学ぶ。配色カード等を活用し、理論を実務に応用するためのセンスアップトレーニングを並行して行う。この講義は色彩検定の受験対策にも役立つ内容とする。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション　色感テスト 第２回　光と色（なぜ色が見えるのか?）　カラーダイヤル作成（１） 第３回　色の表示方法（PCCS 色彩体系）　カラーダイヤル作成（２） 第４回　色の表示（マンセル・JIS の色名）　カラーダイヤル作成（３） 第５回　色の混合（混色の方法）スライド上映（色とデザイン） 第６回　色と心理的効果 演習（色の見え） 第７回　色彩調和（１）演習（ナチュラルハーモニー、コンプレックスハーモニー） 第８回　色彩調和（２）演習（色相配色、トーン配色） 第９回　色彩調和（３）演習（アクセントカラー、セパレーション） 第10回　配色技法（１）演習（トーンオントーン他） 第11回　配色技法（２）演習（古典的配色技法） 第12回　配色技法（３）演習（イメージ配色） 第13回　色彩計画（カラーデザインの世界） 第14回　色彩計画（環境の色彩） 第15回　本授業のまとめ、色彩検定受験対策について
成績評価	毎回の演習課題及び期末試験により評価する。
教科書	『カラーコーディネーター入門「色彩」』（日本色研事業株式会社）『新配色カード 199a』（日本色研事業株式会社）
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	演習内容は配色カードを貼り付けるものとなるので、ハサミとスティック糊を毎回持参すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「デザイン概論」「色彩理論演習」

講義コード	3100602
講義名	色彩学（Bクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎安藤　眞吾　所属：KYOBI　工芸学部
到達目標	・色彩を体系立てて理論的にとらえる。 ・工芸・デザインや建築に役立つ配色調和手法を体系的に学ぶ。 ・色彩検定試験にチャレンジできる知識の修得。
授業概要	色彩は、私たちの環境･生活全てに大きく関わっている。色彩を単に感性だけで処理するのではなく、体系立てて理論的に学ぶ。配色カード等を活用し、理論を実務に応用するためのセンスアップトレーニングを並行して行う。この講義は色彩検定の受験対策にも役立つ内容とする。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション　色感テスト 第２回　光と色（なぜ色が見えるのか?）　カラーダイヤル作成（１） 第３回　色の表示方法（PCCS 色彩体系）　カラーダイヤル作成（２） 第４回　色の表示（マンセル・JIS の色名）　カラーダイヤル作成（３） 第５回　色の混合（混色の方法）スライド上映（色とデザイン） 第６回　色と心理的効果　演習（色の見え） 第７回　色彩調和（１）演習（ナチュラルハーモニー、コンプレックスハーモニー） 第８回　色彩調和（２）演習（色相配色、トーン配色） 第９回　色彩調和（３）演習（アクセントカラー、セパレーション） 第10回　配色技法（１）演習（トーンオントーン他） 第11回　配色技法（２）演習（古典的配色技法） 第12回　配色技法（３）演習（イメージ配色） 第13回　色彩計画（カラーデザインの世界） 第14回　色彩計画（環境の色彩） 第15回　本授業のまとめ、色彩検定受験対策について
成績評価	毎回の演習課題及び期末試験により評価する。
教科書	『カラーコーディネーター入門「色彩」』（日本色研事業株式会社）『新配色カード 199a』（日本色研事業株式会社）
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	演習内容は配色カードを貼り付けるものとなるので、ハサミとスティック糊を毎回持参すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「デザイン概論」「色彩理論演習」

講義コード	3100701
講義名	社寺建築概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：准教授　氏名：◎ 井上　年和　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要となる基本的な知識を習得する。
授業概要	社寺建築について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。 また、歴史的建造物の保存修復について、その理念や具体的な手法について論ずる。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション　建築史学の発展 第２回　神社建築（１）　古代の社殿形式 第３回　神社建築（２）　神社本殿の形式と社殿配置 第４回　寺院建築（１）　寺院の登場と奈良時代の仏教建築 第５回　寺院建築（２）　平安時代の仏教建築－密教、浄土教－ 第６回　寺院建築（３）　中世の仏教建築－大仏様、禅宗様、折衷様、中世仏堂－ 第７回　寺院建築（４）　近世の仏教建築およびその他の宗教関連施設 第８回　生産体制と雛形本 第９回　社寺建築の構造形式 第10回　社寺建築の細部意匠 第11回　近代における西洋技術の導入 第12回　近代建築 第13回　近代化遺産 第14回　文化財建造物の分類と修理技術 第15回　歴史的建造物の保存と活用
成績評価	レポートおよび定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書 参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、太田博太郎『日本建築史序説』彰国社、近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版、後藤治『日本建築史』共立出版
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	伝統住居概論、伝統構造学

講義コード	3100801
講義名	西洋美術史
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 礒谷　有亮　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	1．作品の詳細な鑑賞・分析を通して、美術作品の基本的な見方、理解の仕方を学ぶ。 2．西洋美術史の基本的な流れを理解する。 3．美術と社会の関連を理解し、実作にもつながる論理的な思考・発想方法を養う。
授業概要	この授業では先史時代から 20 世紀までの西洋における美術（主に絵画・彫刻・建築）の歴史的展開を概観する。毎回各時代の主要な作品を取り上げ、作品の基本的な見方と各時代様式の特徴を学ぶとともに、それらがどのような文化・社会・政治的背景との相互作用の中で成立したかを解説する。それを通して美術が単に「芸術家」の意図のみならず、様々な社会的要因との関わりの中で成立してきたことを論理的に理解する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンスとイントロダクション：美術作品の基本的な分析の方法 第２回　先史時代から古代まで：祭祀・権力に奉仕する美術 第３回　古代ギリシャ：人間中心主義の発展と理性的な美 第４回　中世：キリスト教教義の可視化 第５回　ルネサンス１：古代の復興と美術の大革新 第６回　ルネサンス２：巨匠の時代と個人様式の発展 第７回　バロック：王侯・市民・教会、多様化する表現 第８回　新古典主義とアカデミズム：美術をとりまく制度の成立と規範化 第９回　ロマン主義：新古典主義へのオルタナティヴ 第10回　レアリスム：変革する社会と「現実」へのまなざし 第11回　印象派：モダン・アートの誕生 第12回　ポスト印象派：絵画の実験の発展 第13回　フォーヴィスムとキュビスム：絵画とはなにか？ 第14回　ダダ：美術とはそもそも何か？ 第15回　ダダ以降：拡がる美術の地平
成績評価	成績評価期末試験（50%）、小テスト（30%）、授業態度（20%）
教科書	
参考書 参考資料	『カラー版　西洋美術史』（美術出版社）、『西洋美術館』（小学館）、その他必要に応じて授業中に紹介する
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。参考図書、オンラインの画像検索などを利用し、授業中に紹介した作品を各自でもう一度見て理解を深めること。美術史の予備知識は特に必要ではないが、授業への積極的な参加が望ましい。また、開催中の展覧会にできるだけ足を運び、実作品を鑑賞する機会を多く設けること。
関連科目	

講義コード	3100901
講義名	東洋美術史
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 淺湫　毅　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	広い東洋世界の中で、仏教を信仰し（あるいはかつて信仰していた）地域、範囲を理解し、それぞれの地域でうみだされた作品が、同様の主題のもとに製作されていながらもいかに異なるかを理解するとともに、日本文化の基層をなす仏教美術への理解を深めることを目標とする。せっかく仏教美術の聖地京都で学んでいるのだから、仏教美術のエキスパートを目指そうではないか。
授業概要	「東洋」という言葉が指し示す範囲は広く、また場合に応じてその範囲も変化する。本講は、かくのごとく幅広い東洋世界の中で作り続けられてきた美術作品の中でも、とくに日本と関係の深い「仏教美術」を中心に学ぶ。地理的にはインド・パキスタンから、東南アジア、中国、朝鮮を経て日本へ、時間的には古代から現代にいたるまでの仏教美術の特色を、実際の作例映像などを通じてみていく。きらめく仏教美術の世界を、本講を通じてともに旅しよう。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス　東洋世界と仏教美術の基礎知識 第２回　日本の仏教美術　１　飛鳥時代１　法隆寺を中心に 第３回　日本の仏教美術　２　飛鳥時代２　白鳳文化とは 第４回　日本の仏教美術　３　奈良時代１　東大寺・興福寺を中心に 第５回　日本の仏教美術　４　奈良時代２　唐招提寺と鑑真 第６回　日本の仏教美術　５　平安時代１　最澄・空海と密教の美術 第７回　日本の仏教美術　６　平安時代２　仏師定朝の時代 第８回　日本の仏教美術　７　鎌倉時代１　運慶の登場 第９回　日本の仏教美術　８　鎌倉時代２　鎌倉と禅宗の美術 第10回　日本の仏教美術　９　南北朝から近・現代まで 第11回　見学 京都国立博物館の展示（時期未定） 第12回　朝鮮（韓国）の仏教美術　朝鮮三国時代から統一新羅時代 第13回　中国の仏教美術　中国南北朝時代から唐時代 第14回　東南アジアの仏教美術　ベトナム・カンボジア・タイ・ミャンマー 第15回　南アジアの仏教美術　インド・パキスタン・スリランカ
成績評価	受講態度 60%　中間レポート（見学感想）10%　小テスト 10%　期末テスト 20%
教科書	
参考書 参考資料	小学館『日本美術全集』『世界美術全集　東洋編』等の美術書　このほか書店に数多くある「仏像入門」に類する本に目を通しておくこと
履修上の注意	
予習・復習指導	適宜、京都国立博物館や寺社などを訪れ、実際の作例をしっかりみておくこと。テーマの区切りに小テストを数度おこなう。仏教美術に関係する基本的な用語（たとえば如来、菩薩など）を、仏像の入門書などを通じて身につけておくことが望ましい。
関連科目	

講義コード	3101001
講義名	構成基礎演習（A クラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 山本　麻矢　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・造形要素の性質を理解する。 ・造形的バランス感覚を習得する。 ・造形的操作によって変化する心理的効果をとらえる。
授業概要	知覚のメディアが多様化する現代においては、デザインの分野も多岐に渡るが、いずれの場合も基本となる造形的バランス感覚が必要である。実際の視覚体験では、色彩と形態、構成、テクスチュア等の造形要素が複雑に絡み合っているが、本科目では、構成について、点・線・面・という造形要素による平面構成の基礎課題演習を行う。その中で、造形的操作によって変化する心理的効果を考察する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション：授業の目標、受講に対する留意点等 第２回　造形要素１：「点」の性質 第３回　造形要素２：「点」による構成 第４回　造形要素３：「線」の性質 第５回　造形要素４：「線」による構成 第６回　造形要素５：「面」の性質 第７回　造形要素６：「面」による構成 第８回　構成基礎１：位置と比率 第９回　構成基礎２：対比と同調 第10回　構成基礎３：分割と秩序 第11回　構成基礎４：密度と空間 第12回　構成とイメージ１：造形要素による心理表現「要素とテーマの発見」 第13回　構成とイメージ２：造形要素による心理表現「テーマに対する構成」 第14回　構成とイメージ３：造形要素による心理表現「構成の可能性」 第15回　合評会：講評と総括
成績評価	受講態度（20%）、成果物（80%）によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を配布する
参考書 参考資料	朝倉直巳「芸術・デザインの平面構成」六耀社
履修上の注意	課題終了時に用紙を配布し、作品への評価やコメントの記入を求める。 提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 1.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「素描」「色彩理論演習」「造形基礎演習Ⅰ」「造形基礎演習Ⅱ」

講義コード	3101002
講義名	構成基礎演習（Bクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎川北　英　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授　氏名：森重　幸子　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師　氏名：鬼頭　亜実　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・造形物の様々な特性を理解する。 ・平面・立体構成の感覚、空間把握能力を養う。 ・自身の考えを具現化し描写することで他者に伝える能力を習得する。
授業概要	世界のあらゆるものは「線」で構成される。逆に言えば、あらゆるものは「線」から創出される。本科目では造形の基礎演習として、形を生み出す上で最も重要な線の描き方と構成の方法を、様々な事物を描写する中で体得し、かつ描き出したものから発見的に考察していく。最終的には平面から立体空間構成への展開を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション：授業の目標や留意点等の説明、ならびに線の練習等を行う。 第２回　立体物の描写１：基礎練習として、単純な形をした一つの立体物を描写する。 第３回　立体物の描写２：同上 第４回　立体物の描写３：同じ性質をもった二つの立体物を組み合わせ描写する。 第５回　立体物の描写４：異なる性質をもった二つの立体物を組み合わせ描写する。 第６回　立体物の描写５：三つ以上の立体物を組み合わせ描写する。 第７回　自然の中の造形物の描写１：人物・人体の細部・群衆について描写する。 第８回　自然の中の造形物の描写２：植物の特性を把握し、その描写を行う。 第９回　自然の中の造形物の描写３：私たちをとりまく風景に着目し描写する。 第10回　概念の描写１：白と黒、虚と実、地と図。それらのうち「白」「虚」「地」に着目し描写する。 第11回　概念の描写２：私たちは「時間」の中に生きる。その見えない存在を抽出し描写する。 第12回　概念の描写３：「言葉」は空間を抱き形を生み出す。言葉を構成し空間・物語を描き出す。 第13回　建築図面の模写と立体化１：スケッチや図面の模写を通じ、立体をイメージ・具現化する。 第14回　建築図面の模写と立体化２：同上 第15回　最終講評会・展示会・総括
成績評価	受講態度（30%）、各課題提出物の評価（70%）
教科書	特になし
参考書 参考資料	必要に応じて参考資料を配布する。
履修上の注意	毎回の授業に積極的に参加すること。また、提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	

講義コード	3101003
講義名	構成基礎演習（Cクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：氏名：所属 教授：◎川北　英：KYOBI　工芸学部 准教授：森重　幸子：KYOBI　工芸学部 非常勤講師：鬼頭　亜実：KYOBI　工芸学部
到達目標	・造形物の様々な特性を理解する。 ・平面・立体構成の感覚、空間把握能力を養う。 ・自身の考えを具現化し描写することで他者に伝える能力を習得する。
授業概要	世界のあらゆるものは「線」で構成される。逆に言えば、あらゆるものは「線」から創出される。本科目では造形の基礎演習として、形を生み出す上で最も重要な線の描き方と構成の方法を、様々な事物を描写する中で体得し、かつ描き出したものから発見的に考察していく。最終的には平面から立体空間構成への展開を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション：授業の目標や留意点等の説明、ならびに線の練習等を行う。 第２回　立体物の描写１：基礎練習として、単純な形をした一つの立体物を描写する。 第３回　立体物の描写２：同上 第４回　立体物の描写３：同じ性質をもった二つの立体物を組み合わせ描写する。 第５回　立体物の描写４：異なる性質をもった二つの立体物を組み合わせ描写する。 第６回　立体物の描写５：三つ以上の立体物を組み合わせ描写する。 第７回　自然の中の造形物の描写１：人物・人体の細部・群衆について描写する。 第８回　自然の中の造形物の描写２：植物の特性を把握し、その描写を行う。 第９回　自然の中の造形物の描写３：私たちをとりまく風景に着目し描写する。 第10回　概念の描写１：白と黒、虚と実、地と図。それらのうち「白」「虚」「地」に着目し描写する。 第11回　概念の描写２：私たちは「時間」の中に生きる。その見えない存在を抽出し描写する。 第12回　概念の描写３：「言葉」は空間を抱き形を生み出す。言葉を構成し空間・物語を描き出す。 第13回　建築図面の模写と立体化１：スケッチや図面の模写を通じ、立体をイメージ・具現化する。 第14回　建築図面の模写と立体化２：同上 第15回　最終講評会・展示会・総括
成績評価	受講態度（30%）、各課題提出物の評価（70%）
教科書	特になし
参考書 参考資料	必要に応じて参考資料を配布する。
履修上の注意	毎回の授業に積極的に参加すること。また、提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	

講義コード	3101004
講義名	構成基礎演習（Dクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎山本　麻矢　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・造形要素の性質を理解する。 ・造形的バランス感覚を習得する。 ・造形的操作によって変化する心理的効果をとらえる。
授業概要	知覚のメディアが多様化する現代においては、デザインの分野も多岐に渡るが、いずれの場合も基本となる造形的バランス感覚が必要である。実際の視覚体験では、色彩と形態、構成、テクスチュア等の造形要素が複雑に絡み合っているが、本科目では、構成について、点・線・面・という造形要素による平面構成の基礎課題演習を行う。その中で、造形的操作によって変化する心理的効果を考察する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション：授業の目標、受講に対する留意点等 第２回　造形要素１：「点」の性質 第３回　造形要素２：「点」による構成 第４回　造形要素３：「線」の性質 第５回　造形要素４：「線」による構成 第６回　造形要素５：「面」の性質 第７回　造形要素６：「面」による構成 第８回　構成基礎１：位置と比率 第９回　構成基礎２：対比と同調 第10回　構成基礎３：分割と秩序 第11回　構成基礎４：密度と空間 第12回　構成とイメージ１：造形要素による心理表現「要素とテーマの発見」 第13回　構成とイメージ２：造形要素による心理表現「テーマに対する構成」 第14回　構成とイメージ３：造形要素による心理表現「構成の可能性」 第15回　合評会：講評と総括
成績評価	課題の完成度によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を配布する
参考書 参考資料	朝倉直巳「芸術・デザインの平面構成」六耀社
履修上の注意	課題終了時に用紙を配布し、作品への評価やコメントの記入を求める。提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して1.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「素描」「色彩理論演習」「造形基礎演習Ⅰ」「造形基礎演習Ⅱ」

講義コード	3101101
講義名	素描
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授／氏名：◎津村　健一／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師／氏名：山本　麻矢／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師／氏名：山本　千晴／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	創造活動のプロセスにおいて不可欠である透視図法を習得する。また基本となる単純な構造やプロポーションを正確に把握する能力を養い、より複雑な形態へも対応出来る様、応用力をつける。
授業概要	物づくりにおいて、自身のエスキースや他者との視覚的コミュニケーションを正確かつ効率的に進める為には透視図法の習得が不可欠である。本科目では対象物の構造を２次元に落とし込む作業を行う演習により、２点透視図法を習得する。また、プロポーションの把握や空間・量感の表現にも重点を置き、全体という秩序の中で部分を計画出来るバランス感覚を要請する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　準備課題　：　矩形と球体を用いた透視図法の説明 第２回　フォルムと構造　：　１辺 11cm の立方体を２点透視図法で描く 第３回　プロポーション　：　プロポーションの基本「１：１」を様々な角度から描く 第４回　プロポーション応用　：　基本プロポーション「１：１」からの展開 第５回　フォルムと構造応用　：　与えられたモチーフの構造を２点透視図法で捉える 第６回　固有色・量感・材質感　：　モチーフの量感・色・材質感を表現する 第７回　円について　：　正方形の中に円を、円の中に正方形を描く 第８回　円柱１　：　直立した円柱を描く 第９回　円柱２　：　横倒しの円柱を描く 第10回　円柱応用　：　円柱を基本構造にもつモチーフの構造・おプロポーションを捉える。 第11回　円柱応用　：　円柱応用１で捉えた形態に固有色・量感・材質感を加える 第12回　複合形態１　：　基本形態が組み合わさった複合形態の構造・プロポーションを捉える 第13回　複合形態２　：　複合形態１で捉えた構造に固有色・量感・材質感を加える 第14回　想定描写　：　文章によって指示された形態や色、材質などを視覚化する 第15回　合評会　：　２点透視図法のまとめと補足
成績評価	課題制作の完成度によって評価する。
教科書	なし
参考書 参考資料	基礎から身につくはじめてのデッサン（西東社）
履修上の注意	素描経験者も１から学ぶ姿勢で臨むこと。
予習・復習指導	講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	構成基礎演習、立体造形

講義コード	3101201
講義名	伝統絵画技法Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎長谷川　雅也　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・花卉、蔬菜を写生し基礎的画材を用いて描写できる。 ・古典の描線、彩色の意識を理解する。
授業概要	日本の絵画は、古くは中国および朝鮮半島の影響を強く受けながら独自の発展を遂げてきた。明治時代以降「日本画」というカテゴリーの中で制作されるようになってからも西洋の絵画理論とは異なる「写意･写生」の意識や伝統的絵画技術を保ち続けている。本科目では、「写生」の伝統に学ぶため、花卉、蔬菜を写生し基礎的画材を用いて描写する。併せて、日本の古典作品の模写により古典の描線、彩色の意識について学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション　画材・技法・進行手順の説明、受講時の留意点等 第２回　古典作品の模写による描法①　（運筆） 第３回　古典作品の模写による描法②　（運筆） 第４回　作品の模写による描法③　（彩色） 第５回　作品の模写による描法④　（彩色） 第６回　植物の制作①　写生（鉛筆・色鉛筆を使用） 第７回　植物の制作②　写生（鉛筆・色鉛筆を使用） 第８回　植物の制作③　本紙（パネル、薄美濃紙）準備、構成検討 第９回　植物の制作④　本紙へ転写、骨描き、地塗り 第10回　植物の制作⑤　背景、モチーフの彩色 第11回　植物の制作⑥　彩色、描き込み 第12回　植物の制作⑦　彩色、描き込み、仕上げ 第13回　団扇型の自由課題①　紙面の準備、構成検討 第14回　団扇型の自由課題②　描き入れ、彩色 第15回　団扇型の自由課題③　彩色、仕上げ
成績評価	出席、遅刻、課題制作の完成度によって評価する。
教科書	必要に応じて適時資料を提示する。
参考書 参考資料	模写手本（コピー手本）
履修上の注意	
予習・復習指導	授業の進行より遅れが生じた場合は、自主的に翌週までに課題制作を進めておくこと。欠席時も同様。課題制作物の提出を厳守する。
関連科目	

講義コード	3101301
講義名	建築計画Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎ 種村　俊昭　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	建築を具体的な形にしていく計画・設計手法とそのために必要となる基礎的知識を学び、その知識が応用できることが必要最低限の目標である。風土や建築環境を調査結果から読み取り、人々の生活・行動・意識とのかかわりを考慮しながらコンセプトを立案し、小規模な建物の機能図を描き、プランのスケッチができるようになるための知識を習得することが到達目標とする。
授業概要	建築に携わる者にとって基礎的で必須の教科。建築そのものを理解するための基礎知識や建築計画・設計に要求される知識・技術、計画・設計手法を体系的に学習する。前半において計画の基礎となる人間の知覚と行動、建築空間の性能、形態、後半において設計の基礎となる建築の計画手法、空間構成の技法、外部空間の構成手法､計画の表現技法などを学習する｡建築設計実習･演習と相関した授業計画としている。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス、建築計画の目的、意義など 第２回　人間の知覚と行動１：(形態知覚の特性、心理環境と形態) 第３回　人間の知覚と行動２：(人間の行動と形態) 第４回　寸法と規模の計画１：(寸法の計画) 第５回　寸法と規模の計画２：(単位空間の寸法) 第６回　空間の性能１：(空間の機能、安全性) 第７回　空間の性能２：(耐久性、経済性、省エネルギー) 第８回　空間の形態：(地理的環境と形態、機能と形態) 第９回　計画の技法１：(設計プロセス) 第10回　計画の技法２：(空間構成のエレメント) 第11回　空間構成の技法 第12回　造形技法 第13回　外部空間の構成と配置計画１：(外部空間のスケール、歩行空間の形態) 第14回　外部空間の構成と配置計画２：(外部空間の構成、建物の配置形態) 第15回　表現技法 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート（小テスト）＋期末試験（期末レポート)」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め 30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	「現代建築学　新訂　建築計画１」 岡田光正著他　鹿島出版会
参考書 参考資料	第版３「コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会　丸善株式会社
履修上の注意	基礎教養として社会学、心理学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、建築に関わる現代的問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識していることも重要である。(「認識力」) また、人間の行動実態や、豊かな生活環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活環境などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。(「観察力」)
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「工芸実習基礎Ⅰ、Ⅱ」､「建築デザイン演習Ⅰ、Ⅱ」､「建築計画Ⅱ、Ⅲ」

講義コード	3101401
講義名	建築構造力学Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎戸高　太郎　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	力学理論の基礎を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。
授業概要	静定梁、静定ラーメンに生じる力の算出方法、応力度の算定方法を身に付け、建築構造設計に必要な構造力学の基礎を習得することを目的とする。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション／力の基礎（１） 力の分解 第２回　力の基礎（２）モーメントの計算 第３回　力の釣合い 第４回　構造物に生じる外力／荷重・支点反力／反力計算（１） 第５回　反力計算（２） 第６回　反力計算（３） 第７回　反力計算（４） 第８回　部材断面に生じる力／応力計算（１） 第９回　応力計算（２） 第10回　応力計算（３） 第11回　応力計算（４）／３ヒンジラーメンの反力計算 第12回　応力図を描く（１） 第13回　応力図を描く（２） 第14回　応力図を描く（３） 第15回　応力図を描く（４） ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験・小テストの結果及び演習課題提出・出席状況により評価する
教科書	『新版　建築構造設計１　構造力学・材料力学』 和田章　監修　市ヶ谷出版社
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習・小テストを随時行う。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築構造力学Ⅱ」「建築構造力学Ⅲ」

講義コード	3101601
講義名	建築概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授　氏名：◎ 種村　俊昭　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・広く建築の意味を認識、理解する。 ・建築に対する幅広い視野を身につける。
授業概要	建築は、人間の「生活（生き生きした活動）」を支える「衣食住」の一要素として古くから時代や地域に即して発展してきた。日本にも世界にも、文化として受け継がれた伝統的な建築が魅力を醸し出している地域や、新しい建築による快適で魅力的な都市もあるが、改善すべき環境もある。広く建築の意味を理解すると共に、建築が世界のそして日本の文化としていかに我々の生活に定着しているかを各専門分野の関連科目の導入を兼ねて概説する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス、建築とは、設計とは、建築の学びの基本について 第２回　建築の生産：建築関連職業と知識・技術・技能 第３回　建築の歴史・伝統建築：どのように生まれ、どのように展開してきたか 第４回　建築の定義・種類・分類・範囲、関連書籍の紹介 第５回　建築の基本的要件：機能・性能・意義： 第６回　建築教育・学習・実習・演習： 第７回　建築計画・設計（１）：建築設計（デザイン） 第８回　建築計画・設計（２）：建築計画 第９回　建築計画・設計（３）：地域・都市計画・地域・都市デザイン 第10回　建築環境工学・建築設備 第11回　建築一般構造・建築力学 第12回　建築材料 第13回　建築施工・積算・各種実験 第14回　建築法規・その他の規制 第15回　その他：関連教養学問・総括 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート（小テスト）＋期末試験（期末レポート）」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め 30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	自作プリント
参考書 参考資料	各座学の教科書、配布資料、授業中に紹介
履修上の注意	基礎教養として経済学、社会学、法学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、現代的問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」＋「構想力」）
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	建築各分野の関連科目の導入を兼ねている。

講義コード	3101701
講義名	文化財概論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基本科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林　俊和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	文化財保護法を中心とした文化財保護の社会的な仕組みを理解する。 文化財の活用に関連したまちづくり運動や文化政策について、基本的な内容を理解する。
授業概要	日本や西欧諸国には、残念ながら文化財を破壊してきた歴史がある。その歴史の上で、各国は独自に文化財の保存や保護、さらには活用や国際協力の仕組みを考え出してきた。 この授業では、文化財保護法を手掛かりにして、文化財に関連した社会的な保存、保護、活用の仕組みを学習する。尚、授業中に数人間での意見交換を行う機会を設ける。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　文化財の保存とは？：文化財保存の目的と対象、体系等 第２回　文化財保護法制定までの保護制度 第３回　文化財保護・保存に関わる行政と財政の制度 第４回　有形文化財の保存と活用概論 第５回　有形文化財の管理 第６回　有形文化財の保護 第７回　有形文化財の公開 第８回　登録有形文化財制度 第９回　無形文化財と民俗文化財の保護と活用 第10回　史跡、記念物の保護と活用 第11回　埋蔵文化財の保護制度とその限界 第12回　伝統的建造物群の保護と運用 第13回　重要文化的景観の保護と運用 第14回　世界遺産と文化財の公開 第15回　総括：文化財の保存
成績評価	到達度を測るテスト（期末試験）による評価（100%）
教科書	後藤治『都市の記憶を失う前に』白揚社
参考書 参考資料	川村恒明監修『文化財政策概論』東海大学出版会
履修上の注意	
予習・復習指導	その他（教科書の中から指定ページを読むように指示をします。その際には、提示した視点で読み込むなどの予習復習を行ってもらいます。）欠席のないよう継続的な参加を希望する。不明な点があれば、ぜひ質問を。
関連科目	

講義コード	3110101
講義名	伝統住居論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：講師　氏名：◎ 人見　将敏　所属：KYOBI　工芸学部
到達目標	① 現代にまで至る、建築・都市の近代化過程についての大枠・流れを理解すること。 ② ①の理解に際し、建築家・建築作品のみに着目せず、その背景（地理・社会・文化など）をふまえて考察できるようになること。
授業概要	現在の建築環境に深く関わる、建築の近代化過程について講義を行う。その際に、近現代建築史も歴史学の一環である以上、政治･経済･社会･思想･文化などあらゆる分野と関連して考える必要があり、単なる様式史として捉えない。すなわち、建築の生産（計画･設計･施工等）の技術を様々な面（思想、価値観、社会制度等）から捉える必要があり、それらの相関性で理解することが重要である。現代の建築環境に深く影響を与えた近代住居・建築について、産業革命以降の詳細な社会的背景、建築文化･思想･主義、技術の相関性と歴史的変遷、代表的な建築家とその作品の紹介を通じて解説する。
授業計画 授業内容	全 15 コマ 1．ガイダンス 2．プレ・モダニズム（1）工業化時代の建築と技術 3．プレ・モダニズム（2）近代建築における伝統性と近代性 4．プレ・モダニズム（3）世紀末のヨーロッパ建築 5．モダニズム（1）建築のアヴァンギャルド 6．モダニズム（2）大量生産社会の建築 7．モダニズム（3）アメリカにおける近代建築 8．モダニズム（4）近代を代表する建築家（1） 9．モダニズム（5）近代を代表する建築科（2） 10. モダニズム（6）近代建築の成立と成熟 11. モダニズム（7）近代建築のひろがりと変容（1） 12. モダニズム（8）近代建築のひろがりと変容（2） 13. ポスト・モダニズム（1）近代建築への懐疑と超克 14. ポスト・モダニズム（2）建築のポストモダン 15. ポスト・モダニズム（3）21 世紀への建築 ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期テスト（80%）及び学習状況（20%）により総合的に評価する。
教科書	本田昌昭、末包伸吾　『テキスト建築の 20 世紀』学芸出版社
参考書 参考資料	石田潤一郎、中川理　『近代建築史』昭和堂、鈴木博之『近代建築史』市ヶ谷出版
履修上の注意	基礎教養として経済学､社会学､法学などの基礎を理解し､社会の仕組みを（ある程度）理解していること､現代的問題･課題をニュース､新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である（「認識力」）。また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面､機会などを捉え､豊かな生活実現と都市･街などのあり方､情景などについて日々発見する心掛けが重要である（「観察力」+「構想力」）。
予習・復習指導	一講義（1 コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」、「伝統住居概論」、「伝統住居論」、「伝統空間論」他

講義コード	3110201
講義名	デザインと法規
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 鈴木　行大　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	社会において、デザイン関係の活動をするうえで、①どんな問題が起こりえるのか、②問題が起きたらどう専門家に持っていったら良いのか、③問題はどういう流れで解決されるのか、について大まかに知ってほしい。（自分で解決できるようになる必要はありません。）
授業概要	近年、デザインの創作や利用にあたって、法律面でのケアが重要となっている。他人のデザインを加工する場合、作品を事業に用いる場合など、場面ごとにケアする内容も異なる。 本講義では、デザインが直接問題となる法律（著作権法・意匠法・商標法・不正競争防止法）を扱う。制度の基礎から、各制度での効果的な権利取得方法、権利行使方法を事例を交えて解説する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション：デザインを取り巻く法律について。 第２回　意匠法１：工業デザインをどう守るのか。意匠法基礎。 第３回　意匠法２：意匠の手続。どのような書類がいるのか。事例紹介。 第４回　意匠法３：戦略的に工業デザインをどう守るのか。意匠法応用。 第５回　商標法１：ブランドをどう守るのか。商標法基礎。 第６回　商標法２：商標の手続。どのような書類がいるのか。事例紹介。 第７回　商標法２：ブランドとしてのデザインをどう守るのか。デザインとブランドの交錯。商標法応用。 第８回　著作権法１：アートをどう守るか。著作権法基礎。 第９回　著作権法２：アートを巡る争いの事例。著作権法応用。 第10回　不正競争防止法１：模倣をどう防ぐか。不正競争防止法基礎。 第11回　不正競争防止法２：模倣に関する事例。不正競争防止法応用。 第12回　パロディ問題：パロディって合法？違法？事例から学ぶ。 第13回　外国での保護：外国で知的財産をどう守る？外国での権利行使事例紹介。 第14回　最近のデザイン紛争：最近のトピックスは？ 第15回　おさらい
成績評価	授業中の小レポートと出席の総合評価。
教科書	なし。パワーポイントを用いる。
参考書 参考資料	
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。①物事に対して世間一般がどう考えるか、②それをうけて自分の主張をどう組み立てるか、③その主張を正確な言葉でどう伝えるか、を意識されたい。
関連科目	

講義コード	3110301
講義名	社寺建築論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	4
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎大上　直樹　所属：KYOBI　工芸学部
到達目標	社寺建築を単に様式で捉えるのではなく、決定された寸法の根拠や意味まで深く考察できる知識と思考法を体得する。
授業概要	「社寺建築概論」で得た様式上の基礎知識のうえに、社寺建築の各部構造がどのような設計原理と様式によって決定がなされてきたかについて論じ、社寺建築の本質にせまろうとする。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　授業ガイダンス　　社寺建築を理解するための基礎知識 第２回　基礎廻りの構造と様式的変遷 第３回　軸部の構造と様式的変遷 第４回　組物の構造と様式的変遷　その１　古代・中世の組物 第５回　組物の構造と様式的変遷　その２　近世の組物と中備 第６回　軒の構造と様式的変遷　その１　古代・中世の軒 第７回　軒の構造と様式的変遷　その２　近世・近代の軒 第８回　軒の構造と様式的変遷　その３　扇垂木 第９回　小屋組みの構造と様式的変遷 第10回　屋根葺きの構造と様式的変遷 第11回　天井の構造と様式的変遷 第12回　建具の構造と様式的変遷 第13回　細部意匠論　その１　木鼻・虹梁 第14回　細部意匠論　その２　高欄・格狭間・その他 第15回　授業のまとめ
成績評価	出欠を含む受講態度とレポート
教科書	近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版
参考書 参考資料	各文化財建造物修理工事報告書
履修上の注意	「社寺建築概論」の既習を条件とする
予習・復習指導	日頃から文化財建造物の修理工事報告書に慣れ親しんでほしい。そこから常識ではなく、実物から復元することができる知識、能力を学びたい。また現地に赴き実際の社寺建築を見学する行動力と観察眼を身につけたい。
関連科目	「社寺建築概論」「伝統建築図」

講義コード	3110401
講義名	伝統空間論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎ 中井川　正道　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	屋外空間のほとんどが日本固有の風土や文化の影響下に形成されていることを理解する。
授業概要	日本における伝統空間＝屋外空間のありようを理解する。特に「内」、「外」の空間概念のとらえ方が西欧とは違っていること、また生活様式に屋外空間が必要不可欠であったこと、身分と空間の関係などを学習する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　授業ガイダンス（屋外空間の意義、役割） 第２回 「内」、「外」の空間概念の誕生 第３回　自然環境と生活空間　１　（雨、湿度、日照、風、台風、雪、四季など） 第４回　自然環境と生活空間　２　（暮らし、集住など） 第５回　戦いがもたらす屋外空間　（集住、防御など） 第６回　もてなしがもたらす屋外空間 第７回　寺社がもたらす屋外空間　１　（浄土、石庭、参道、鎮守の杜など） 第８回　寺社がもたらす屋外空間　２ 第９回　貴族、大名がもたらす屋外空間　１（枯山水、池泉回遊式庭園、大名庭、茶庭など） 第10回　貴族、大名がもたらす屋外空間　２ 第11回　江戸期の都市空間（火除地、橋詰、広小路など） 第12回　江戸期の都市空間 第13回　現代都市における空間（街路、広場、公園など） 第14回　現代都市における空間 第15回　小レポート作成
成績評価	履修態度（60%）　期末試験（40%）により評価する。
教科書	配布資料、映像等
参考書 参考資料	「風土」和辻哲郎　「作庭記」田村剛　「日本建築史図録」
履修上の注意	常に自身の生活空間（屋外）と比較する意識を頭に置きながら授業を受ける。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築概論」「伝統住居概論」「社寺建築論」「伝統建築環境学」など

講義コード	3110501
講義名	伝統建築環境学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	建築空間と外部空間の集積としての地域・都市の成り立ちを知り、そのことから、古代から近世以前までの都市形成・造営と都市デザインの歴史を振り返りながら、その時代と社会が求めてきた伝統建築環境、地域･都市造営･デザインとはどのようなものかを理解、説明できることを到達目標とする。
授業概要	単体の住宅や様々な建築はその敷地形状や周辺の状況によって形式・形態や空間形成に強く影響を受けてきた。古代から近世以前までの都市形成・造営と都市デザインの歴史を振り返りながら、その時代と社会が求めてきた都市造営・デザインとはどのようなものかを解説。次に、近世以降、特に産業革命後の市街地形成の概要と課題、近代都市計画の誕生の経緯など近代都市デザインの歩みを通して、近代都市計画の考え方と問題点を解説。そして、歴史的環境活用例として歴史的遺産を活用した地域再生や歴史的景観を活かした街づくり例を紹介する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　都市、地域、地区の定義と都市形成史、都市計画を学ぶ意義 防衛、統治の（城壁）都市１：四大河川流域の都市、古代ギリシア、ローマの都市 第２回　防衛、統治の（城壁）都市２：中世ヨーロッパ、日本の都市（四神相応、遷都） 第３回　均等、拡張の（格子割）都市１：古代ギリシア、古代ローマ（都市住宅） 第４回　均等、拡張の（格子割）都市２：中国、日本（都市の街区割りと敷地割りの変遷） 第５回　都市空間の効果的構成を意図した（バロック）都市 第６回　日本の都市空間１：都市のデザイン 第７回　日本の都市空間２：形成の原理 第８回　日本の都市空間３：構成の技法 第９回　日本の都市空間４：要素の作用 第10回　近代以前の都市デザインと近代都市デザイン 第11回　近代都市計画・デザインの展開 第12回　歴史的環境活用１：歴史的遺産を活用した地域再生 第13回　歴史的環境活用２：歴史的景観を活かした街づくり 第14回　外部空間、造園、公園の歴史と概説 第15回　総括 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート（小テスト）＋期末試験（期末レポート）」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め 30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書 参考資料	「都市計画の歴史」日端康雄 講談社、「日本の都市空間　都市デザイン研究体　彰国社 「建築設計資料集成」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編] 及び [地域・都市Ⅱ～データ編] 日本建築学会編　丸善㈱
履修上の注意	基礎教養として経済学、社会学、法学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、現代的問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。(「認識力」) また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。(「観察力」＋「構想力」)
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」、「伝統住居概論」、「伝統住居論」、「伝統空間論」他

講義コード	3110601
講義名	文献・絵画史料概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 海原　亮　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	歴史学の科学的な手法（調べかた、解釈のしかた）について学ぶ。文献・絵画を実際に使って、自分の力で、古い時代の文化・社会・思想などの事実を読みとく力を身につける。
授業概要	歴史学は文献（文字史料）の解釈を基本とする学問だが、絵画もまた有益な情報を提供してくれる。本講義では、江戸時代の絵画史料を中心にとりあげ、そこからどのような歴史的事実を読みとることができるのか、考えていく。なるべく京都に関する文献・絵画を用いるが、あわせて日本史・世界史への視角も盛り込んでいく。
授業計画 授業内容	第１回　歴史学のなかの絵画史料（オリエンテーション） 第２回　描かれた京都①　洛中洛外図 第３回　描かれた京都②　洛中洛外図 第４回　描かれた京都③　都名所図会 第５回　描かれた京都④　都名所図会 第６回　朝鮮通信使のみた京都①　文献 第７回　朝鮮通信使のみた京都②　絵画 第８回　動物を描く①　虎 第９回　動物を描く②　象 第10回　動物を描く③　犬 第11回　京都の写実と学問①　円山派の絵師たち 第12回　京都の写実と学問②　医学と絵師の世界史的関係 第13回　京都の写実と学問③　解剖図を眺めてみる 第14回　京都の写実と学問④　医学の近代化と芸術 第15回　授業のまとめ
成績評価	出席・授業への姿勢・読書レポート 60%、期末試験 40%
教科書	授業中にプリントを配布する。
参考書 参考資料	授業期間中のどこかで参考図書を 10 冊程度、紹介する。このうち１冊について読書レポートを課す。
履修上の注意	受講に関するルールは初回の授業で説明する。また、講義中でふれる絵画史料については、プリントを配布するが、予習・復習の時点で図書や Web などを介し自身で検索・閲覧を必ずおこなうこと。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。講義中でふれる絵画史料については、プリントを配布するが、予習・復習の時点で図書や Web などを介し自身で検索・閲覧を必ずおこなうこと。
関連科目	「歴史学」「京都学」「日本美術史」など

講義コード	3110701
講義名	伝統構造学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	社寺建築、古民家、町屋、煉瓦造建造物など、日本の歴史的建造物について構造的特徴を理解し、調査研究、設計・施工に活かすための素養を身につける。
授業概要	歴史的建造物の基礎、軸部、壁、屋根など各部の構造形式、技法、工法、耐震技術などを学び、耐震診断や構造設計の基本を理解する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション　歴史的建造物の地震被害 第２回　耐震対策の歴史 第３回　伝統工法と在来工法 第４回　基礎の工法 第５回　伝統木造の工法（１）床組 第６回　伝統木造の工法（２）軸組 第７回　伝統木造の工法（３）小屋組 第８回　伝統木造の工法（４）軒廻り、妻飾り 第９回　伝統木造の工法（５）雑作 第10回　屋根の工法 第11回　壁の工法 第12回　木造以外の歴史的建造物 第13回　伝統工法の耐震技術 第14回　伝統工法の構造設計 第15回　在来工法の構造設計
成績評価	定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書 参考資料	伝統のディテール研究会『伝統のディテール』障国社、渋谷五郎他『新訂 日本建築』学芸出版社
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	建築一般構造Ⅰ・Ⅱ、伝統住居概論、社寺建築概論

講義コード	3110803
講義名	色彩理論演習
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎山本　麻矢　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：助教　氏名：木村　奈保　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・色彩の基本構造を理解する。 ・色彩理論を習得する。 ・色彩表現の可能性と効果を理解する。
授業概要	色彩は非常に人の記憶に刻まれやすい性質をもっており、創造活動において非常に重要なエレメントである。本科目では、色彩の基本構造を理解するための基礎課題の制作を行った後、色彩の好き嫌いというものが主観的な判断によるものではなく、色彩理論によって客観的に捉え得るという事を課題を行うことで感得する。課題ではテーマや条件を指定された中で、その目的に応じた色彩構成を行うものとし、それぞれの学生が制作した課題作品を合評することで、色彩の理論が現実に即している事を確認する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション：授業の目標、受講に対する留意点等 第２回　色彩の構造 第３回　配色計画１：トーナルカラーによる制作／ １色相系配色（ナチュラル配色とコンプレックス配色） 第４回　配色計画１：トーナルカラーによる制作／ ２色相系配色（セパレーション効果とアクセント効果） 第５回　配色計画１：トーナルカラーによる制作／ ３、４色相系配色（ドミナント効果とグラデーション効果） 第６回　絵画と配色１：構成と配色Ⅰ（明清色と暗清色） 第７回　絵画と配色２：構成と配色Ⅱ（中間色） 第８回　時代と配色１：イメージと配色Ⅰ（トーンとイメージ） 第９回　時代と配色２：イメージと配色Ⅱ（構成とイメージ） 第10回　時代と配色３：イメージと配色Ⅲ（デザインと色彩） 第11回　配色の実践１：パターンとデザインⅠ（プロダクトのための色彩１） 第12回　配色の実践２：パターンとデザインⅡ（プロダクトのための色彩２） 第13回　配色の実践３：パターンとデザインⅢ（レピテーション効果による配色） 第14回　配色の実践４：パターンとデザインⅣ（テーマのための色彩） 第15回　合評会：講評と総括
成績評価	受講態度（20%）、成果物（80%）によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を配布する
参考書 参考資料	伊達千代『配色デザイン見本帳』（MdN）・『カラーコーディネーター入門 色彩』（日本色研事業）
履修上の注意	紙面媒体での制作のほかに、コンピュータによる課題制作を行う。 提出期限を厳守すること。課題終了時に用紙を配布し、作品への評価やコメントの記入を求める。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	事前に「色彩学」「コンピュータデザイン演習」を履修することが望ましい。

講義コード	3110902
講義名	デザイン作図演習（A クラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎ 中井川正道　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：特任教授　氏名：八木　光也　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・色彩を体系立てて理論的にとらえる。 ・工芸・デザインや建築に役立つ配色調和手法を体系的に学ぶ。 ・色彩検定試験にチャレンジできる知識の修得。
授業概要	デザインに不可欠な伝達法は図面を作成し提示することにある。CAD の時代といえども手描きを基本とした基礎的な作図能力を備えてこそデザイナーとしての資質となる。そこで、特に正投影図法、等測投影図法に力点を置くと共に、透視図法によるパース（完成予想図）の要領を習得する。 あわせて、２級インテリア設計士の資格取得講座（実技）を併設（希望者のみ）する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション 第２回　正投影図の演習 / 第三角法の理解（１） 第３回　正投影図の演習 / 第三角法の理解（２） 第４回　等測投影図法の演習 / アイソメ図の理解（１） 第５回　等測投影図法の演習 / アイソメ図の理解（２） 第６回　アクソメトリック図の演習（１） 第７回　アクソメトリック図の演習（２） 第８回　一点透視図法の演習（１） 第９回　一点透視図法の演習（２） 第10回　二点透視図法の演習（１） 第11回　二点透視図法の演習（２） 第12回　二点透視図法による室内空間の表現 第13回　応用演習 / 家具の作図表現（１） 第14回　応用演習 / 家具の作図表現（２） 第15回　合評会、総括 ２級インテリア設計士 資格取得講座（実技） 【企画・計画】 空間デザインの計画 コンセプト 仕様書の作成 【表現技術】 室内設計図の作成 平面図 天井伏図 展開図 透視図 家具図 スケッチ　等
成績評価	受講態度、演習課題の作図精度によって評価する。
教科書	毎回資料を配布する。（２級インテリア設計士受験テキスト : 受験希望者のみ）
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	製図用具を毎回持参すること。演習課題は授業時間内で完成させること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。 ２級インテリア設計士の資格取得希望者は別途学科試験講座も受講すること。
関連科目	IT 活用応用演習

講義コード	3110903
講義名	デザイン作図演習（Bクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授／◎川北　英／KYOBI　工芸学部 職種：准教授／森重　幸子／KYOBI　工芸学部 職種：特任講師／杏　義啓／KYOBI　工芸学部 職種：非常勤講師／小梶　吉隆／KYOBI　工芸学部
到達目標	・スケッチ演習によって、３次元の空間を２次元・モノクロの世界へ転換、表現する ・ポスター作りを通じて、自己の視点・価値観を表現する ・同一素材を使って、様々な空間構築を行う（二次元からから三次元へ）
授業概要	ものづくりの原点は、創造的アイデア・デザインの構築である。一方で、そのアイデアを他者へ伝え理解してもらわなければいかに素晴らしいアイデアでも実現しない。この授業では自己のアイデアを構築する練習だけでなく他者への伝達のツールの獲得を目指す。
授業計画 授業内容	全15回／１回２コマ 第１回：オリエンテーション／空間の概念について、デザインの概念について 第２回：自己表現パネルの作成とプレゼンテーション 第３回：表現手法演習（１）線の描写演習、平面表現 第４回：表現手法演習（２）線の描写演習、立体表現 第５回：表現手法演習（３）線の描写演習、街並みスケッチ（外観） 第６回：表現手法演習（４）線の描写演習、街並みスケッチ（外観） 第７回：表現手法演習（５）線の描写演習、インテリアスケッチ演習 第８回：表現手法演習（６）線の描写演習、インテリアスケッチ演習 第９回：ポスター製作（校外取材）／概念把握と分析力 第10回：ポスター製作（構想、エスキース） 第11回：ポスター製作（プレゼンテーション） 第12回：空間表現演習（１）／構想力とオリジナリティー 第13回：空間表現演習（２） 第14回：空間表現演習（３） 第15回：作品発表と講評・総括
成績評価	受講態度（出席等 30%）、演習作品の完成度等（70%）によって評価する
教科書	毎回資料を配布する
参考書 参考資料	
履修上の注意	スケッチブック、鉛筆、消しゴム、カッター持参
予習・復習指導	
関連科目	工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

講義コード	3110904
講義名	デザイン作図演習（Cクラス）
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	

職種	氏名	所属
教授	◎川北　英	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任講師	杏　義啓	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・スケッチ演習によって、３次元の空間を２次元・モノクロの世界へ転換、表現する ・ポスター作りを通じて、自己の視点・価値観を表現する ・同一素材を使って、様々な空間構築を行う（二次元からから三次元へ）
授業概要	ものづくりの原点は、創造的アイデア・デザインの構築である。一方で、そのアイデアを他者へ伝え理解してもらわなければいかに素晴らしいアイデアでも実現しない。この授業では自己のアイデアを構築する練習だけでなく他者への伝達のツールの獲得を目指す。
授業計画 授業内容	全15回／１回２コマ 第１回：オリエンテーション / 空間の概念について、デザインの概念について 第２回：自己表現パネルの作成とプレゼンテーション 第３回：表現手法演習（１）線の描写演習、平面表現 第４回：表現手法演習（２）線の描写演習、立体表現 第５回：表現手法演習（３）線の描写演習、街並みスケッチ（外観） 第６回：表現手法演習（４）線の描写演習、街並みスケッチ（外観） 第７回：表現手法演習（５）線の描写演習、インテリアスケッチ演習 第８回：表現手法演習（６）線の描写演習、インテリアスケッチ演習 第９回：ポスター製作（校外取材）/ 概念把握と分析力 第10回：ポスター製作（構想、エスキース） 第11回：ポスター製作（プレゼンテーション） 第12回：空間表現演習（１）/ 構想力とオリジナリティー 第13回：空間表現演習（２） 第14回：空間表現演習（３） 第15回：作品発表と講評・総括
成績評価	受講態度（出席等 30%）、演習作品の完成度等（70%）によって評価する
教科書	毎回資料を配布する
参考書 参考資料	
履修上の注意	スケッチブック、鉛筆、消しゴム、カッター持参
予習・復習指導	
関連科目	工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

講義コード	3111002
講義名	ＩＴ活用応用演習（Ａクラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：助教　氏名：◎木村　奈保　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師　氏名：村上　　信　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・AutoCAD の操作と図面（２次元）作成方法の習得 ・Fusion360 の操作と３D データ作成技術の習得
授業概要	２次元及び３次元 CAD ソフトの活用方法を習得する。造形設計と表現を効率化することができ、CAD で作成したデータは、さまざまなメディアと連携することが容易となる。これにより、作品発表の場を広げることも可能となり、ポートフォリオへの活用や学外コンペ等への応募等に役立てることができる。始めに２次元 CAD を使って基礎的な操作方法を習得し、その後３次元 CAD の練習へ進む。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　AutoCAD と Fusion360 の特徴・ソフトウェアの準備 AutoCAD：基本操作（画面・基本操作） 第２回　AutoCAD：基礎演習１（図形作成・図形編集） 第３回　AutoCAD：基礎演習２（レイヤー・文字・寸法） 第４回　AutoCAD：応用演習（図面の作成） 第５回　AutoCAD：演習課題 第６回　Fusion360：画面操作・モデリング基礎 第７回　Fusion360：データの管理方法・スケッチの基本操作 第８回　Fusion360：モデリング基礎 第９回　Fusion360：モデリング基礎・レンダリング基礎 第10回　Fusion360：モデリング基礎 第11回　Fusion360：モデリング基礎 第12回　Fusion360：モデリング基礎 第13回　Fusion360：演習課題 第14回　Fusion360：演習課題 第15回　課題のプレゼンテーション・講評
成績評価	授業態度（40%）、各演習課題（60%）で成績評価を行う。
教科書	データにて配布
参考書 参考資料	これからはじめる AutoCAD の本、Fusion360 操作ガイド［ベーシック編］・［アドバンス編］
履修上の注意	個人のノート PC にて授業を行うので、忘れないようにすること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	「情報基礎演習」「コンピューターデザイン演習」

講義コード	3111003
講義名	ＩＴ活用応用演習（Ｂクラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：山内　貴博　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授　氏名：◎井上　晋一　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授　氏名：安田　光男　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授　氏名：森重　幸子　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師　氏名：人見　将敏　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：助教　氏名：岡北　一孝　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・２D CAD 及び３D CAD の操作と活用方法を習得する。 ・モデリングデータ作成技術を身につける。
授業概要	建築設計における CAD（Computer Aided Design）ソフトの活用方法を習得する。 CAD を活用することで造形設計を効率化するとともに様々な表現方法が可能となる。また CAD 化されたデータは様々なソフトウェアと連携することが可能となる。演習では、近年建築業界で急速に発展してきた BIM（Building Informetion Modeling）ソフトウェアを取り上げ、３D モデリング操作を学ぶとともに、様々なプレゼンテーション手法を習得する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション　２D-CAD / ３D-CAD / BIM の特徴 第２回　２D / ３D-CAD　基本操作 第３回　２D / ３D-CAD　基礎演習１ 第４回　２D / ３D-CAD　基礎演習２ 第５回　２D / ３D-CAD　基礎演習３ 第６回　２D / ３D-CAD　応用演習１（図面の作成） 第７回　２D / ３D-CAD　応用演習２（図面の作成） 第８回　３D-CAD　基本操作１ 第９回　３D-CAD　基本操作２ 第10回　３D-CAD　モデリング基礎演習１ 第11回　３D-CAD　モデリング基礎演習２ 第12回　３D-CAD　モデリング基礎演習３ 第13回　演習課題１ 第14回　演習課題２ 第15回　課題のプレゼンテーション・講評 ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	学習状況（40%）、提出課題（60%）により成績評価を行う。
教科書	授業に応じて作成資料、データなどを配布する。
参考書 参考資料	授業の中で適宜紹介する。
履修上の注意	パソコン操作は習うより慣れることが重要である。常時パソコンを携帯し慣れ親しむ習慣をつける。 また、最初に設定するアプリケーションの ID とパスワードは忘れずに管理する。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	「情報基礎演習」「コンピューターデザイン演習」

講義コード	3111102
講義名	コンピュータデザイン演習（A クラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：講師／氏名：◎岡　達也／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：助教／氏名：木村　奈保／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師／氏名：嶋﨑　依里／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・Illustrator で描画と文字入力ができる。 ・Photoshop で画像の加工、修正や合成ができる。 ・両ソフトを使用してグラフィック作品が作成できる。
授業概要	２次元グラフィックソフト（AdobeIllustrator･Photoshop）を使用して､コンピュータ上で｢絵を描く｣｢文字を書く｣｢画像を加工｣といった基礎的な技術を学ぶ。 コンピュータソフトのグラフィックツールを使える様になる事で、デザイン表現力の広がりやプレゼンテーション力の向上を目的とする。さらにポートフォリオ作成のスキルも習得する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション／２次元グラフィックソフトの特徴等の理解 第２回　Illustrator の基本的な操作説明 第３回　Illustrator による描画（１） 第４回　Illustrator による文字入力 第５回　Illustrator による描画（２） 第６回　Illustrator による課題作成 第７回　Illustrator による課題作成・プレゼンテーション・講評 第８回　Photoshop の基本的な操作説明 第９回　Photoshop による画像加工 第10回　Photoshop による課題作成 第11回　Photoshop による課題作成 第12回　総合演習課題の作成（１） 第13回　総合演習課題の作成（２） 第14回　総合演習課題の作成（３） 第15回　総合演習課題のプレゼンテーション・講評
成績評価	受講態度を重視（70%）、課題（30%）とで総合的に判断する。
教科書	・授業に応じて作成資料、データなどを配布する。
参考書 参考資料	・開講時にの最新ソフトのヴァージョンに即した書籍を紹介
履修上の注意	・段階的なスキルアップを目標とするので、特に継続した出席が重要（特に第１回～第４回はこの授業での基礎を学ぶ上で重要） ・遅刻は厳禁。 ・授業後半は個人のレベルや目的にあわせた個別指導も進める。 ・Adobe Illustrator・Photoshop をインストールした PC を持参すること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。 欠席時は、授業においての学習範囲の理解を自習にて務めること。
関連科目	｢情報基礎演習｣

講義コード	3111103
講義名	コンピュータデザイン演習（Bクラス）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：准教授 / 氏名：◎井上　晋一 / 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授 / 氏名：森重　幸子 / 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：助教 / 氏名：岡北　一孝 / 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・Photoshop により画像の加工・修正・合成方法を習得する。 ・Illustrator により図形描画や文字入力方法を習得する。 ・Photoshop と Illustrator を活用しグラフィック作品（建築）を作成する。
授業概要	グラフィックソフト（Adobe Photoshop、Illustrator）を使用し、画像処理や図形描画の基礎を学ぶ。Photoshop では主に写真などのペイント系ラスターデータの処理方法を学ぶ。また Illustrator ではドロー系ベクターデータの処理方法を学ぶ。これらのグラフィックソフトを活用し、デザイン表現力やプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とする。コンピュータソフトのグラフィックツールを使える様になる事で、デザイン表現力の広がりやプレゼンテーション力の向上を目的とする。さらにポートフォリオ作成のスキルも習得する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション：グラフィックソフトの理解 第２回　Photoshop：基本操作 第３回　Photoshop：画像処理 第４回　Photoshop：課題作成 第５回　Photoshop：課題作成・プレゼンテーション 第６回　Illustrator：基本操作 第７回　Illustrator：描画（１） 第８回　Illustrator：文字入力 第９回　Illustrator：描画（２） 第10回　Illustrator：課題作成 第11回　Illustrator：課題作成・プレゼンテーション 第12回　総合演習課題の作成（１） 第13回　総合演習課題の作成（２） 第14回　総合演習課題の作成（３） 第15回　総合演習課題のプレゼンテーション・講評 ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	学習状況（40%）、提出課題（60%）により成績評価を行う。
教科書	・授業に応じて作成資料、データなどを配布する。
参考書 参考資料	授業の中で適宜紹介する。
履修上の注意	パソコン操作は習うより慣れることが重要である。常時パソコンを携帯し慣れ親しむ習慣をつける。 また、最初に設定するアプリケーションの ID とパスワードは忘れずに管理する。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること
関連科目	「情報基礎演習」「IT 活用応用演習」

講義コード	3111301
講義名	伝統絵画技法Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 長谷川　雅也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・より高度な伝統絵画技法を身につける。 ・基底材とその性質について理解する。
授業概要	「伝統絵画技法Ⅰ」で修得した描写力をもとに、実技を行い鉄線描、たらし込み、溜め塗り等の伝統的絵画技法が現代においてもリアルな感覚を持つことについて理解を深める。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション 第２回　野菜の制作①　写生（鉛筆・色鉛筆・顔彩による） 第３回　野菜の制作②　本紙（パネル、薄美濃紙）準備、構成検討 第４回　野菜の制作③　背景、マチェール作り、モチーフ描き入れ 第５回　野菜の制作④　背景、モチーフの彩色 第６回　野菜の制作⑤　彩色 第７回　野菜の制作⑥　彩色、描き込み、仕上げ 第８回　植物の制作①　写生（鉛筆・色鉛筆・顔彩による） 第９回　植物の制作②　本紙（パネル、薄美濃紙）準備、構成検討 第10回　植物の制作③　背景、マチェール作り、モチーフ描き入れ 第11回　植物の制作④　背景、モチーフの彩色 第12回　植物の制作⑤　彩色 第13回　植物の制作⑥　彩色、描き込み、仕上げ 第14回　扇子型の①　自由課題　紙面の準備、構成検討 第15回　扇子型の②　自由課題　描き入れ、彩色
成績評価	出席、遅刻、課題制作の完成度によって評価する。
教科書	必要に応じて適時資料を配布する。
参考書 参考資料	
履修上の注意	
予習・復習指導	授業の進行より遅れが生じた場合は、自主的に翌週までに課題制作を進めておくこと。欠席時も同様。課題制作物の提出を厳守する。
関連科目	

講義コード	3111401
講義名	伝統建築図（基礎）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎大上　直樹　所属：KYOBI　工芸学部 職種：非常勤講師　氏名：大田　精一　所属：KYOBI　工芸学部
到達目標	製図器具の使い方や図面表現の基本知識を理解し、伝統建築特有の複雑な様式を表現できる製図技術力を習得するとともに、伝統建築設計図面を読解できる技術力を体得する。
授業概要	伝統建築設計図が表現している意味を理解し、製図技術力を習得する為、代表的な寺院・神社建築の平面図・断面図・立面図（縮尺＝1/40 ～ 1/50 程度）を作図する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　ガイダンス（図面の表現、製図道具の使い方）、寺院・神社建築について説明 第2回　課題説明、寺院建築図面の表現と理解（1）/ 平面図 第3回　寺院建築図面の表現と理解（2）/ 平面図 第4回　寺院建築図面の表現と理解（3）/ 横断面図 第5回　寺院建築図面の表現と理解（4）/ 横断面図 第6回　寺院建築図面の表現と理解（5）/ 縦断面図 第7回　寺院建築図面の表現と理解（6）/ 立面図 第8回　寺院建築図面の表現と理解（7）/ 立面図 第9回　寺院建築図面の表現と理解（8）/ 立面図 第10回　寺院建築図面の表現と理解（9）/ 模型作成 第11回　寺院建築図面の表現と理解（10）/ 模型作成 第12回　寺院建築図面の表現と理解（11）/ 模型作成 第13回　寺院建築図面の表現と理解（12）/ 模型作成 第14回　寺院建築図面の表現と理解（13）/ 模型作成 第15回　寺院建築図面の表現と理解（14）/ 模型作成、図面提出 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	受講態度、堤出図面で成績評価する。
教科書	課題ごとに、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	日本建築史基礎資料集成（中央公論美術出版）、国宝、重要文化財修理工事報告書等
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。
関連科目	伝統建築図（応用）への展開、履修することを薦める科目；工芸実習基礎

講義コード	3111501
講義名	建築計画Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	<table><tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr><tr><td>准教授</td><td>◎ 安田　光男</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr></table>
到達目標	生活に関する多面的な知見に触れながら、住居に関する建築計画についての基礎的な専門知識の理解を深め、現代のライフスタイルに応じた住居の計画・設計を行える能力を身につける。
授業概要	住居は人間生活を行うためのシェルターであり、あらゆる建築物の起源と言われる。本講義では、「住まう」ということに関する、さまざまな原理・原則について、具体的な例を用いて解説を行う。「住まう」ことについての現代的なテーマについても触れながら、時代とともに変化していく、ライフスタイルに応じた居住空間の計画、設計に関する基本的な知識を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス、住居の建築計画学について 第２回　ライフスタイルと社会の変化について 第３回　住空間の計画プロセス１ 第４回　住空間の計画プロセス２ 第５回　住宅の単位空間 第６回　住空間の機能と組織 第７回　住環境としつらえ 第８回　住居計画　（屋根と階段、開口部と水回り） 第９回　住居計画　（外構・植栽、住宅の構成） 第10回　住居計画　（住戸の定型とバリエーション） 第11回　集合住宅の系譜 第12回　集合住宅の種類と規模 第13回　現代における集合住宅 第14回　優秀レポート発表 第15回　総括・ディスカッション
成績評価	学習状況（30%）と小テスト（35%）及び期末試験（35%）によって評価する。
教科書	「住むための建築計画」 佐々木誠著他　彰国社
参考書 参考資料	「住宅の計画学入門」 岡田光正著他　鹿島出版会
履修上の注意	建築計画に関して、幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ」「建築計画Ⅲ」「建築計画Ⅳ」「公共デザイン論」「室内意匠論」

講義コード	3111601
講義名	建築一般構造Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎戸高　太郎　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	「木構造」の構成を覚え、基本原理を理解する。在来軸組工法における床組・小屋組の設計方法を理解する。
授業概要	1．建築物の架構としての「木構造」の構成、基本原理について学ぶ。 2．「木構造」が水平力へ抵抗するメカニズムを学ぶ。 3．部材の継手・仕口、造作等、「木構造」のディティールについて学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　建築工法の分類 第２回　木構造（１）　木材の特徴 第３回　木構造（２）　木構造の基本構成 第４回　木構造（３）　軸組／耐力壁 第５回　木構造（４）　耐力壁量・耐力壁の配置 第６回　木構造（５）　耐力壁量・耐力壁の配置 第７回　木構造（６）　床組の構成／床組の設計 第８回　木構造（７）　床組の設計／部材の継手・仕口 第９回　木構造（８）　床組の設計 第10回　木構造（９）　小屋組の構成 第11回　木構造（10）　小屋組の設計 第12回　木構造（11）　小屋組の設計 第13回　木構造（12）　接合金物・造作・仕上げ 第14回　木構造（13）　造作・仕上げ 第15回　木構造（14）　枠組壁工法（２×４工法） ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験・小テストの結果及び演習課題提出・出席状況により評価する
教科書	『建築構法』第五版　内田祥哉著　市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑　木造住宅』 大野隆司著　エクスナレッジ
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習・小テストを随時行う。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「工芸実習基礎Ⅱ」「建築材料」「建築施工法」「建築一般構造Ⅱ」 他

講義コード	3111701
講義名	建築構造力学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	1
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎ 戸高　太郎　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	力学理論の基礎を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。
授業概要	静定トラスに生じる応力の算出方法、構造物の断面に生じる応力度の算定方法を身に付ける。また、許容応力度設計、不静定構造物の応力計算、塑性設計など構造設計における必要知識を習得する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　トラス構造物の部材に生じる力／トラス構造物の応力計算（１） 第２回　トラス構造物の応力計算（２） 第３回　トラス構造物の応力計算（３） 第４回　トラス構造物の応力計算（４） 第５回　断面諸量（１）　断面１次モーメントと図心 第６回　断面諸量（２）　断面２次モーメント 第７回　応力と応力度／応力度の計算（１） 第８回　応力度の計算（２） 第９回　応力度の計算（３） 第10回　応力度の計算（４） 第11回　応力度の計算（５） 第12回　座屈現象と座屈荷重 第13回　部材の変形（たわみ） 第14回　不静定構造 第15回　弾性と塑性／塑性設計 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験・小テストの結果及び演習課題提出・出席状況により評価する
教科書	『新版　建築構造設計１　構造力学・材料力学』　和田章　監修　市ヶ谷出版社
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習・小テストを随時行う。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築構造力学Ⅰ」「建築構造力学Ⅲ」

講義コード	3111801
講義名	建築材料
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 橋本　頼幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	建築物の設計に必要となる材料選定の基本を理解する。
授業概要	建築物を構成する部材はどのような材料でできているのか、その材料はどのような性能や特徴をもっているのかについて理解する。
授業計画 授業内容	第１回　構造材　コンクリートの材料（セメント、水、骨材、混和材料）について講義する。 第２回　構造材　コンクリートの性質について講義する。 第３回　構造材　鋼材について講義する。 第４回　構造材　木材の種類、製品について講義する。 第５回　構造材　木材の性質について講義する。 第６回　外装材　ガラス、サッシについて講義する。 第７回　外装材　塗装材、吹き付けについて講義する。 第８回　外装材　タイル、石について講義する。 第９回　外装材　屋根、防水について講義する。 第10回　その他の外装材について講義する。 第11回　内装材　ボード、左官について講義する。 第12回　内装材　プラスチック系材料、塗装材について講義する。 第13回　内装材　内装用木材、植物材について講義する。 第14回　内装材　壁材、天井材について講義する。 第15回　その他の内装材について講義する。
成績評価	定期試験（90%）及び小課題（10%）により評価する。
教科書	野口貴文　他　著「ベーシック建築材料」彰国社　必要に応じてプリントを配布する。
参考書 参考資料	三橋博三、大濱嘉彦、小野英哲　編集「建築材料学」共立出版　森田司郎、岡島達雄、荒川治徳　共著「【新編】建築材料・施工」鹿島出版会
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 日頃から、身の回りの建築材料を意識して観察する。
関連科目	

講義コード	3111901
講義名	建築法規
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	**京都確認検査機構** 非常勤講師　寺本　健三 非常勤講師　藤井　茂 非常勤講師　山本　辰哉 非常勤講師　余谷　和則
到達目標	建築基準法及び関連規定の主旨や背景を学び、さらに論理解釈及び文理解釈の法文読解力を養う。それらの規定を正しく読みこなし、設計や施工に活用する能力を養うことを目標とする。また、法規科目に係る建築士試験対策を実施し、試験合格に必要な能力を養う
授業概要	建築物を設計し建築するには､各種の法的規制が関わってくる｡本講義は主に建築基準法を理解し､建築の計画、設計、施工に必要な法規として遵守すべき基本的な事項について学ぶ。前半は、法解釈及び法律と社会生活との関連、総則規定並びに単体規定の一般構造や防火避難規定を学ぶ。後半は、集団規定及び構造強度並びに建築基準法関連規定、加えて最新の動向や景観条例、法適用除外などを学び、演習にて当該講義内容の全般を確認する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　法の成り立ち並びに法の読み方及び解釈、用語の定義 第２回　建築基準法１（制度規定：手続き） 第３回　建築基準法２（単体規定１：一般構造１） 第４回　建築基準法３（単体規定２：一般構造２） 第５回　建築基準法４（単体規定３：防火避難規定１） 第６回　建築基準法５（単体規定４：防火避難規定２） 第７回　建築基準法６（単体規定５：防火避難規定３） 第８回　建築基準法７（単体規定６：防火避難規定４） 第９回　建築基準法８（集団規定１：敷地と道路） 第10回　建築基準法９（集団規定２：容積率、建ぺい率） 第11回　建築基準法 10（集団規定３：高さ制限） 第12回　建築基準法 11（単体規定７：構造強度） 第13回　建築基準法 12（関連規定１） 第14回　建築基準法 13（景観条例等） 第15回　建築基準法 14（演習）
成績評価	課題提出（45%）及び期末試験（55%）
教科書	①　基本建築関係法令集 法令編　平成 30 年版（井上書院）　②　やさしい建築法規（学芸出版社）
参考書 参考資料	
履修上の注意	資格取得に必要な科目です。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ」「建築計画Ⅲ」「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ」

講義コード	3112101
講義名	文化財マネージメント論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林　俊和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	文化財活用の現状を理解する。 文化財の持続的な保存を促す社会的な仕組みや環境について理解する。
授業概要	文化財は、保存の対象から活用の対象へ、さらには文化財が地域の社会的な問題を克服する手掛かりとして、再生の象徴となることもある。文化財に新しい見方があることを発見し、その視点を活かしてゆくことが文化財の活用と言えるだろう。そして、活用することが文化財を保存することにつながり、また、文化財の担い手を増やしてゆく基盤となるならば、再生と呼ぶことができるだろう。この授業では、文化財の活用と再生を促すマネージメントについて、ケーススタディを交えながら学習してゆく。 尚、個人ワークのほかにグループに分かれてグループワークや意見交換する機会を設けます。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　文化財マネジメント概論 第２回　文化財マネジメントを学ぶ１- 保護と優先順位 第３回　文化財マネジメントを学ぶ２- 保護と重要度 第４回　日本の文化財保護の仕組み 第５回　文化財の保存 第６回　文化財の再現 第７回　文化財の被災シミュレーション基礎 第８回　文化財の被災シミュレーション - 所有者の視点から学ぶ 第９回　文化財の被災シミュレーション - レスキューの視点から学ぶ 第10回　文化財の被災シミュレーション - 防災マニュアルを考える 第11回　費用効果分析１－運用コストの計算 第12回　費用効果分析２－比較と分析 第13回　文化財と被災から文化行政を学ぶ 第14回　経営資源から文化とマネジメントを考える 第15回　総括：文化財のマネジメント
成績評価	個人ワークシートやグループワークシートの提出（40%）・期末テスト（60%）
教科書	後藤治『都市の記憶を失う前に』白揚社
参考書 参考資料	森まゆみ『東京遺産』岩波書店
履修上の注意	
予習・復習指導	その他（教科書の中から指定ページを読むように指示をします。その際には、提示した視点で読み込むなどの予習復習を行ってもらいます。）欠席のないよう継続的な参加を希望する。不明な点があれば、ぜひ質問を。
関連科目	

講義コード	3112201
講義名	インテリア設計
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ 八木　光也　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・インテリアの平面図、展開図、家具図及び模型を作成する力を身につける。 ・インテリア設計のオリジナル作品を完成し、発表する。
授業概要	インテリアデザイン計画に取り組む。インテリアの計画は、どのような人がどのように使うかという生活行動を考慮し、快適に生活できる空間を考えることである。課題に対して、生活行動を考慮した住まい方のコンセプト及びデザインコンセプトを立案し、そのコンセプトを具現化した平面図、展開図、家具図、模型等を作成し提案する。【インテリアプランナー合格者の実務免除科目】
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス・課題提示 第２回　コンセプト立案・計画 第３回　平面図・展開図のレクチャー、作成 第４回　平面図・展開図の作成 第５回　平面図・展開図の作成 第６回　平面図・展開図の作成 第７回　家具図のレクチャー・作成 第８回　家具図の作成 第９回　模型制作のレクチャー 第10回　模型制作 第11回　模型制作 第12回　模型制作 第13回　模型制作 第14回　プレゼンテーション準備 第15回　合評会
成績評価	課題への取り組み姿勢 30%、作品・プレゼンテーション 70%として評価する。
教科書	毎回資料を配布する。
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	インテリアプランナー合格者の実務免除科目として位置づけられている。毎回のスケジュール管理をしっかりと行い、必ず提出期限を守ること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	デザイン作図演習

講義コード	3120101
講義名	伝統工芸産業工学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：講師　氏名：◎遠藤　公誉　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部　他
到達目標	・伝統工芸産業の位置づけと概要を理解する。 ・匠の技を理解するための基盤を固める。
授業概要	伝統工芸産業について、その定義、種類（特に地域ごとの実例）、問題点等について論じる。また、伝統工芸作品の匠の技を詳しく解説する上で、作品の構造や技法についても学問的基礎から概説する。
授業計画 授業内容	オムニバス／15回 第１回　ガイダンス及び概論 第２回　漆芸特論 第３回　彫刻特論① 第４回　彫刻特論② 第５回　陶芸特論① 第６回　陶芸特論② 第７回　木工特論① 第８回　木工特論② 第９回　文化財特論① 第10回　文化財特論② 第11回　木工特論③ 第12回　木工特論④ 第13回　金属工芸特論① 第14回　金属工芸特論② 第15回　総括
成績評価	毎回提出されるレポート及び最終レポートによって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 各講義についての感想をレポートにまとめ提出してもらうので、毎回必ず出席すること。
関連科目	

講義コード	3120301
講義名	工芸経営論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎岩田　均　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・企業経営の基礎的な考え方を理解する。 ・工芸家に必要な経営の要素を把握する。 ・研究テーマを設定しキャリアプランを策定する。
授業概要	現代において工芸や手仕事で身を立てるには、ものをつくる技を身につけるとともに、その良さを自覚し社会に普及するための深い理解と実践力が不可欠である。そのため、この講義では、従来の経営学の基礎を踏まえたうえで、現代の工芸家に必要な経営の考え方や事例を紹介する。受講生は、卒業後の進路を見定め、自分らしい人生を実現する仕事と生活のスタイルを確立することを目標に、就職活動にも役立てるなど目的意識をもって授業に臨んでほしい。
授業計画 授業内容	第１回　工芸経営・序論：講義ガイダンス、エレガントカンパニー 第２回　経営学の誕生：科学的管理、フォーディズム 第３回　経営学の展開：人間関係論、経営管理論、環境適合論 第４回　経営戦略論：使命と戦略、戦略策定法、組織文化、ストーリー戦略 第５回　マーケティング論：顧客の創造、マーケティングの４P、信頼市場 第６回　消費者研究：ブランド論、顧客との関係性、購買代理 第７回　組織の理論：バーナードの組織論、産業組織論、ネットワーク組織 第８回　人間の理論：欲求の階層、動機づけ理論、リーダー論、日本的経営 第９回　資金マネジメント：経営分析、資金調達、記帳・税務 第10回　文化経営論：文化資本の経営、知的資産経営、ナレッジマネジメント 第11回　企業の社会性：営利企業と社会企業、CSR、起業の基礎知識 第12回　価値の創造：コモディティ化、感性価値、経験価値、意味的価値 第13回　工芸家の世界観：生活スタイルの創造、工芸家の価値観、本ものの価値 第14回　工芸経営の展望：地域経営、工芸まちづくり、工芸起業家の使命 第15回　まとめと到達度テスト
成績評価	意欲や積極性（30%）、中間レポート（30%）、到達度テスト（40%）によって総合的に評価する。
教科書	岩田均『工芸の経済と経営（2019 年版）』工芸経済研究所
参考書 参考資料	赤岡功『エレガント・カンパニー』有斐閣　ドラッカー『マネジメント』ダイヤモンド社
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。教科書で予習し、講義中はメモを取り、復習によって要点を身につけましょう。学んだことを他者に教える、あるいは実際に使う･応用する、という積極的な心構えをもって受講すれば習得しやすい。
関連科目	

講義コード	3120401
講義名	伝統工芸材料科学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎村上　隆　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部　他
到達目標	伝統的な「ものづくり」を科学の眼でみる視点を持つことを涵養する。
授業概要	伝統工芸の世界で用いられる材料は、長い間に培われた職人の経験と勘によって吟味されてきた歴史を持つ。現代の材料科学の観点から、伝統的な「ものづくり」に用いられた材料と技術を調査研究していくと、その選択の妥当性に改めて驚かされることが多い。本講では、伝統的な様々な素材を科学的な眼で見ていくことが新たな発見につながることを様々な事例で紹介する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　イントロダクション　「ものづくり」と材料 第２回　無機材料基礎 第３回　金属Ⅰ 第４回　金属Ⅱ 第５回　金属Ⅲ 第６回　陶磁器Ⅰ 第７回　陶磁器Ⅱ 第８回　陶磁器Ⅲ 第９回　有機材料基礎 第10回　繊維・染料Ⅰ 第11回　繊維・染料Ⅱ 第12回　紙・絹Ⅰ 第13回　紙・絹Ⅱ 第14回　木工 第15回　総括
成績評価	授業時のレポート（40%）と期末レポート（60%）を合わせて総合的に評価する。
教科書	特に使わない。
参考書 参考資料	授業中適宜紹介する
履修上の注意	
予習・復習指導	授業内容を深く理解するために、復習を怠らないこと
関連科目	

講義コード	3120501
講義名	文化財修理論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	<table><tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr><tr><td>教授</td><td>◎ 小林　泰弘</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr></table>
到達目標	文化財修理の歴史とその中から生まれてきた修復の理念や理論を理解し、これらの修理技術の修得や、実践における指針を得る。
授業概要	文化財の保存と活用は、将来のわが国の文化の向上発展の基礎をなすものである。長い歴史のなかでわが国の文化財がどのような方法、理念に基づいて修理が行われてきたのか、その過去と現在を理解するとともに、未来に伝えていくべき文化財修理の課題を考察する
授業計画 授業内容	全15回 1回　修理とは何か 2回　修理とは何か 3回　修理の現場から　仏像彫刻 4回　修理の現場から　木工 5回　修理の現場から　漆 6回　修理の理念 7回　修理の理念 8回　文化財修理　表具 9回　文化財修理　染色 10回　文化財修理　金属 11回　文化財修理　民具 12回　文化財修理　建築 13回　文化財修理　科学調査 14回　文化財修理　複製 15回　総括 ※順番は前後することがあります。
成績評価	実習中の態度、習得度、レポート等を基本に、総合的に判断する
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	
履修上の注意	予習・復習をすることで講義を深く理解するように努めること。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「文化財保存概論」「文化財概論」等の講義系科目

講義コード	3120601
講義名	伝統文様
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：講師　氏名：◎岡　達也　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	古典から現代に至る装飾文様についての知識の習得。「生きたデザイン」としての装飾文様の造形、成り立ちを理解し、造形に取り入れることができる。
授業概要	2000年前におよその原型は完成したと言われる伝統（装飾）文様。かたち、地域、歴史の３つの視点から知識を学び、継承した知識を造形に生かすまでの意識を学ぶ。
授業計画 授業内容	第１回　ガイダンス 第２回　伝統文様の起源① 第３回　伝統文様の起源② 第４回　東洋の伝統文様① 第５回　東洋の伝統文様② 第６回　東洋の伝統文様③ 第７回　西洋の伝統文様① 第８回　西洋の伝統文様② 第９回　西洋の伝統文様③ 第10回　工芸における伝統文様 第11回　デザインにおける伝統文様① 第12回　デザインにおける伝統文様② 第13回　現代における伝統文様① 第14回　現代における伝統文様② 第15回　総括
成績評価	授業態度、授業時のレポート、期末レポートによって総合的に評価する。
教科書	資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	

講義コード	3120701
講義名	伝統建築論Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎種村　俊昭　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：助教　氏名：岡北　一孝　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	各地固有の気候風土や地域社会と結びついて展開してきた伝統建築の多様性と、その歴史的価値を理解し、各時代、各地域の思想、価値観、社会制度と建築様式との関わりについて説明できることができるようになる。
授業概要	西洋の様式建築をとりあげ、代表的様式の変遷や構法、素材、意匠的特徴などに関して解説する。建築史も歴史学の一環であるため、政治・経済・社会・文化などあらゆる分野と関連して考える必要があり、建築の技術を様々な面（思想、価値観、社会制度、構法、材料、施工等々）から捉えて解説する。
授業計画 授業内容	全90分×15回 第１回　ガイダンス：受講の心構え、参考書の紹介など解説。 第２回　古代エジプト・オリエントの建築：風土と材料、社会と宗教 第３回　古代ギリシア建築１：神殿の形式、オーダーとプロポーション 第４回　古代ギリシア建築２：古代ギリシアの都市施設 第５回　古代ローマ建築１：構造技術の発展 第６回　古代ローマ建築２：古代ローマの都市施設 第７回　イスラム建築とビザンツ建築 第８回　ロマネスク建築１：バシリカ式教会堂の展開 第９回　ロマネスク建築２：各地のロマネスク建築 第10回　ゴシック建築１：フランスにおけるゴシック建築の成立と展開 第11回　ゴシック建築２：ゴシック建築伝播の諸相 第12回　ルネサンス建築１：イタリアにおけるルネサンス建築の成立と展開 第13回　ルネサンス建築２：ルネサンス建築伝播の諸相 第14回　バロック建築１：イタリアにおけるバロック建築の成立と展開 第15回　バロック建築２：バロック建築伝播の諸相、ロココ様式 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	期末テスト・小テスト（80%）
教科書	図説 建築の歴史－西洋・日本・近代　西田雅嗣（他）　学芸出版社
参考書 参考資料	桐敷真次郎：建築学の基礎　3　西洋建築史、共立出版株式会社　2001
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して45時間の予習復習をすること。建築史を学ぶ目的は、様々な地理的、社会的背景にもとづいた様々な建築の成り立ちを知ることで建築技術者として必要な知識を養い、その基盤に立って自らの専門分野を開くための知恵を得るためである。そのために建築史では、建築の変遷の大きな流れとその時代の代表建築を正しく理解することが必要であり、そのことがその後に実習する設計製図の技能につながり、また作品評価をするための基準が得られる教科の一つである。
関連科目	

講義コード	3120801
講義名	伝統建築論Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎髙田　光雄　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授　氏名：井上　晋一　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	京町家や細街路（路地）の保全・継承・再生の意義、まちづくり（コミュニティ・デザイン）に関わる学理、方法、実践、社会システムを理解する。まちづくり（コミュニティ・デザイン）にかかわる実践的対応能力の開発を行う。
授業概要	京町家や細街路（路地）の保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり（コミュニティデザイン）に関する講義を行う。また、フィールドワークやワークショップの方法を学んだ上でまちづくりの現代的課題と実践にかかわる演習を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　講義概要・履修指導 第２回　町家・細街路・リノベーション（１） 第３回　京町家・細街路・リノベーション（２） 第４回　京町家・細街路・リノベーション（３） 第５回　フィールドワーク論（１） 第６回　フィールドワーク論（２） 第７回　フィールドワーク論（３） 第８回　まち歩き 第９回　フィールドワーク演習準備 第10回　フィールドワーク演習（１） 第11回　フィールドワーク演習（２） 第12回　演習発表・講評（１） 第13回　ワークショップ（１） 第14回　ワークショップ（２） 第15回　演習発表・講評（２）
成績評価	演習（30 点満点）と試験（70 点満点）の合計点が 60 点以上を合格とする。
教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書 参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して、4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	伝統建築論Ⅰ

講義コード	3120901
講義名	室内意匠論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：准教授　氏名：◎安田　光男　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	各インテリアエレメントの役割やインテリアに関連する材料、設備、環境、計画等、幅広く知識を吸収することで、適切なインテリアデザインを行うための基礎知識と技術の習得を目的とする。
授業概要	インテリア空間は人間に最も身近な環境であると同時に、時代ごとの社会背景、生活文化、技術などから　大きく影響を受けていると言われている。本講義では室内意匠に関するさまざまな研究から明らかにされた原理・原則について、具体的な事例を通して解説し、インテリア計画及び設計における基本的な考え方、用語、技術等についての講義を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション：インテリアデザインとは 第２回　インテリア空間 第３回　インテリアエレメント 第４回　インテリアスタイル 第５回　家具デザイン 第６回　ウインドートリートメント 第７回　ライティングデザイン 第８回　インテリア設備 第９回　マテリアルコーディネート 第10回　カラーコーディネート 第11回　エルゴノミクス（人間工学） 第12回　室内環境 第13回　インテリア計画と発想 第14回　ユニバーサルデザイン、 サスティナブルデザイン 第15回　優秀レポート・プレゼンテーション
成績評価	学習状況（30%）とレポート課題（25%）及び期末試験（45%）によって評価する。
教科書	図解テキスト「インテリアデザイン」／井上書院　／小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口眞佐子、ペリー史子、西山紀子
参考書 参考資料	「住むための建築計画」 佐々木誠著他　彰国社
履修上の注意	室内意匠に関して、幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「デザイン概論」「建築概論」「色彩学」「伝統工芸概論」「デザイン作図演習」

講義コード	3121101
講義名	立体造形
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎津村　健一　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	材料に対する考え方や表面と構造についての認識など、物質を扱う立体造形において重要な事柄を理解し、何かの意匠や装飾ではない自立した価値を持つ造形作品を制作する。
授業概要	立体物を創造する場合、様々な造形要素を平面での二次元に対し、三次元的に統合するバランス感覚が要求される。さらに価値の根拠を用途性に委ねる事のない芸術作品の場合は視覚性にも増して言説性が重要となる。本科目では、純粋芸術の多様な表現とその思想を学んだ後、実際に作品制作を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション　授業概要説明 第２回　講義　芸術表現の歴史 第３回　表現研究 第４回　表現研究発表 第５回　作品エスキース（主題） 第６回　作品エスキース（表現手法） 第７回　エスキース発表 第８回　作品制作　実制作 第９回　作品制作　実制作 第10回　中間チェック　主題再確認 第11回　作品制作　実制作 第12回　作品制作　実制作 第13回　最終チェック　仕上げ考察 第14回　作品制作　仕上げ 第15回　合評会
成績評価	提出物の完成度によって評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	平素から芸術作品の優れた表現に触れておくことが望ましい。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	造形基礎演習Ⅰ、造形基礎演習Ⅱ

講義コード	3121201
講義名	伝統建築図（応用）
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎大上　直樹　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師　氏名：大田　精一　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	伝統建築におけるより精緻な平面図・断面図の作成技術力を習得、さらに伝統建築に必要な重要図面（妻飾詳細図・軒詳細図・見上図・小屋伏図・屋根伏図・規矩図等）の作成技術力を習得する。
授業概要	伝統建築の基礎的な納まりや寸法を把握し、より高度な図面作成技術を習得するため、代表的な伝統建築図面（縮尺＝１/20 ～ １/40 程度の平面図・断面図、縮尺＝１/20 ～ １/40 程度の妻飾詳細図・軒詳細図・見上図・小屋伏図・屋根伏図・規矩図等）を作図する。 また、理解を深めるため、模型を作成する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　課題説明、伝統建築図面の高度な表現（１）/ 平面図 第２回　伝統建築図面の高度な表現（２）/ 横断面図 第３回　伝統建築図面の高度な表現（３）/ 縦断面図 第４回　伝統建築図面の高度な表現（４）/ 断面詳細図（矩計図） 第５回　伝統建築図面の高度な表現（５）/ 断面詳細図（矩計図）・妻飾詳細図 第６回　伝統建築図面の高度な表現（６）/ 妻飾・その他詳細図 第７回　伝統建築図面の高度な表現（７）/ 小屋伏図 第８回　伝統建築図面の高度な表現（８）/ 立面図 第９回　伝統建築図面の高度な表現（９）/ 立面図 第10回　伝統建築図面の高度な表現（10）/ 模型作成 第11回　伝統建築図面の高度な表現（11）/ 模型作成 第12回　伝統建築図面の高度な表現（12）/ 模型作成 第13回　伝統建築図面の高度な表現（13）/ 模型作成 第14回　伝統建築図面の高度な表現（14）/ 模型作成 第15回　伝統建築図面の高度な表現（15）/ 模型完成、図面提出 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	制作模型、提出図面の評価で成績評価する。
教科書	課題ごとに、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	日本建築史基礎資料集成（中央公論美術出版）、国宝、重要文化財修理工事報告書等
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	伝統建築専門実習への展開、履修することを薦める科目；伝統建築図（基礎）・（発展）

講義コード	3121401
講義名	古文書解読演習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎三野　拓也　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	文字のくずし方に慣れ、記載内容を理解する能力を習得する。
授業概要	美術・工芸・建築に関する思想や意匠をくみ取るためには、作品以外の情報も調査し理解する必要がある。本授業は、そのような情報を有している古文書を解読する能力を身につけることを目的とする。また、古文書だけではなく、木製品や布製品に記された墨書にも触れ、多様なくずし字を理解する力を養成する。
授業計画 授業内容	第１回　オリエンテーション 第２回　漢文の基礎文法 第３回　漢文の読解方法 第４回　古文書の基礎知識 第５回　古文書の読解① 第６回　古文書の読解② 第７回　古文書の読解③ 第８回　古文書の読解④ 第９回　古文書の読解⑤ 第10回　古文書の読解⑥ 第11回　古文書の読解⑦ 第12回　古文書の読解⑧ 第13回　古文書の読解⑨ 第14回　古文書の読解⑩ 第15回　まとめ
成績評価	定期試験
教科書	児玉幸多編『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）
参考書 参考資料	角川『新字源』（漢和辞典）
履修上の注意	
予習・復習指導	復習を中心に行なうこと。『くずし字用例辞典　普及版』と漢字辞典を持参すること。手持ちの漢字辞典がない場合には参考書記載のものを用意するのが望ましい。
関連科目	

講義コード	3121501
講義名	古文書解読演習Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 海原　亮　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	くずし字（ひらかな、漢字）の読解力を身につける。将来的に自らの力で解読できるようにするための方法、考え方の基礎を学ぶ。
授業概要	江戸時代の、くずし字で書かれた文献に接し、くずし字に慣れていく。テキストは、くずし字の難易度を変えたものを複数、用意する。授業で扱う史料は、なるべく美術に関係するものにしたいが、受講者の要請にも配慮する。
授業計画 授業内容	第１回　イントロダクション（授業概要、到達目標、進め方、辞書の使い方の説明） 第２回　江戸時代の文章に慣れる（古文書を読むために活字史料に慣れる）① 第３回　江戸時代の文章に慣れる（古文書を読むために活字史料に慣れる）② 第４回　江戸時代の文章に慣れる（古文書を読むために活字史料に慣れる）③ 第５回　古文書を読む（ひらかなを中心に）① 第６回　古文書を読む（ひらかなを中心に）② 第７回　古文書を読む（ひらかなを中心に）③ 第８回　古文書を読む（かな交じりの文章を読む）① 第９回　古文書を読む（かな交じりの文章を読む）② 第10回　古文書を読む（かな交じりの文章を読む）③ 第11回　古文書を読む（美術作品と芸術家の名前をくずし字で読む）① 第12回　古文書を読む（美術作品と芸術家の名前をくずし字で読む）② 第13回　古文書を読む（美術作品と芸術家の名前をくずし字で読む）③ 第14回　古文書を読む（美術作品と芸術家の名前をくずし字で読む）④ 第15回　古文書を読む（美術作品と芸術家の名前をくずし字で読む）⑤
成績評価	出席・授業への姿勢 60%、期末試験 40%
教科書	授業中にプリントを配布する。
参考書 参考資料	児玉幸多編『くずし字用例字典（普及版）』（東京堂出版）など古文書に関する事典のいずれか。
履修上の注意	受講に関するルールは初回の授業で説明する。第５～15回については、授業中に発表を求める場合がある。くずし字字典は毎回必ず持参すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 参加者の積極性を歓迎する。読解力に加え、授業に取り組む姿勢を重視する。以上は、成績に反映させる。
関連科目	「古文書解読演習Ⅰ」

講義コード	3122101
講義名	建築一般構造Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎戸高　太郎　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	「鋼構造」・「鉄筋コンクリート」の構成を覚え、基本原理を理解する。
授業概要	1．建築物の架構としての「鉄筋コンクリート構造」の構成、基本原理について学ぶ。 2．建築物の架構としての「鋼構造」の構成、基本原理について学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　建築工法の分類（木構造の復習） 第２回　鉄筋コンクリート構造（１）　鋼材及びコンクリートの特徴 第３回　鉄筋コンクリート構造（２）　鉄筋コンクリート構造（ラーメン構造・壁式構造）の基本構成 第４回　鉄筋コンクリート構造（３）　配筋原理 第５回　鉄筋コンクリート構造（４）　部材の設計 第６回　鉄筋コンクリート構造（５）　部材の設計 第７回　鉄筋コンクリート構造（６）　陸屋根の防水 第８回　鉄筋コンクリート構造（７）　仕上げ等 第９回　鋼構造（１）　鋼材の特徴 第10回　鋼構造（２）　鉄骨造の基本構成 第11回　鋼構造（３）　ボルト接合部の設計 第12回　鋼構造（４）　溶接接合部の設計 第13回　鋼構造（５）　溶接接合部の設計 第14回　鋼構造（６）　床スラブ・壁 第15回　鋼構造（７）　仕上げ等 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験・小テストの結果及び演習課題提出・出席状況により評価する
教科書	『建築構法』第五版　内田祥哉著　市ヶ谷出版社　『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑　RC造・鉄骨造』　大野隆司著　エクスナレッジ
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習・小テストを随時行う。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	「工芸実習基礎Ⅱ」「建築材料」「建築施工法」「建築一般構造Ⅰ」「建築構造力学Ⅲ」 他

講義コード	3122102
講義名	建築環境工学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎橋本　頼幸　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	熱・光・空気・音などの環境要素の利用や制御技術の基礎を習得し、建物設計に生かす能力を養う。
授業概要	人間生活の器であるとされる建築物に、直接・間接に影響をおよぼす内外の環境条件について総合的に理解し、計画設計に応用する能力を養う。本講義においては主に熱、空気、日照などについての理解を深める。
授業計画 授業内容	第１回　建築環境工学とは 第２回　熱環境１―伝熱、熱貫流 第３回　熱環境２―壁体各部の温度、断熱 第４回　熱環境３―熱容量、空気線図、結露 第５回　空気環境１―空気汚染物質、換気 第６回　空気環境２―通風、換気の方式 第７回　日照と日射１―太陽の位置、隣棟間隔 第８回　日照と日射２―日射の種類、日照調整 第９回　採光、照明と色彩１―採光の方法、昼光率 第10回　採光、照明と色彩２―照明方式、照明計算 第11回　採光、照明と色彩３―色彩、色の３属性、色彩調節 第12回　音環境１―音の性質、音の量と単位、騒音 第13回　音環境２―騒音防止、遮音と吸音、室内音響 第14回　都市の熱環境、都市の空気環境 第15回　まとめ
成績評価	成績評価提出課題（20%）および期末試験（80%）
教科書	基礎力が身につく建築環境工学（森北出版株式会社）
参考書 参考資料	エース建築環境工学＜１＞＜２＞（朝倉書店）
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 講義を通して学んだことは、実生活を通して観察、体験および計算をすることで理解を深めること。
関連科目	

講義コード	3122103
講義名	建築設備
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎ 橋本　頼幸　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	建築諸設備を、シェルターである建築構造や建築環境との相互関係を理解し、都市の基幹設備（インフラストラクチャー）や環境との関連を把握し、環境に配慮したシステム設計の基礎を習得する。
授業概要	シェルターとしての建築を安全・快適・健康・利便で、人間のあらゆる生活活動に供できる環境を作り上げるのに不可欠な建築の数々の設備システムの基礎を理解し、適切に設計する基礎技術の習得を目的とする。
授業計画 授業内容	第１回　建築設備とは 第２回　情報・通信設備 第３回　給水設備１ 第４回　給水設備２ 第５回　給湯設備 第６回　排水・通気設備１ 第７回　排水・通気設備２ 第８回　ガス設備 第９回　防災設備１ 第10回　防災設備２ 第11回　空調設備１　システム 第12回　空調設備２　負荷計算 第13回　空調設備３　熱源 第14回　空調設備４　搬送 第15回　まとめ
成績評価	提出課題（20%）および期末試験（80%）
教科書	図解　建築設備（森北出版株式会社）
参考書 参考資料	絵解き建築設備、吉村武、世良田崇、オーム社
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 日頃から、身の回りの建築設備を意識して観察する。
関連科目	

講義コード	3122104
講義名	建築施工法
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 平澤　要　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	①建築施工法と建築施工技術の基礎知識の習得と、現代の様々な建築用途や機能を機能を実例をもとに理解する、同時にそれらを施工に適用する方法論について習得する。
授業概要	①生産現場を１つのビジネスモデルとして、企画段階から施工法及び運用段階までを理解する。②建築施工の周辺知識を理解する。③施工を構成する材料・職域・専門性（人）を理解する。④施工法全般を理解する。基本的な専門知識･QCDSE について理解する。⑤建築技術･建築材料特性を理解する。土質力学・コンクリート工学・熱環境に配慮する。
授業計画 授業内容	平成 30 年　全15回 ①　建設業の現状と役割 ②　建築生産のプロセスとマネジメント ③　施工管理（１）　QCDSE 管理（その１） ④　施工管理（２）　QCDSE 管理（その２） ⑤　主要工事（１）　仮設工事・杭地業工事 ⑥　主要工事（２）　山留工事・土工事 ⑦　主要工事（３）　鉄筋コンクリート工事（全体・鉄筋・型枠） ⑧　主要工事（４）　コンクリート工事 ⑨　主要工事（５）　鉄骨工事 ⑩　施工計画（１）　地下工事 ⑪　施工計画（２）　地上工事 ⑫　仕上げ工事　　（外装） ⑬　仕上げ工事　　（内装・結露・騒音・振動・熱環境） ⑭　建築と設備 ⑮　工法の変遷と現在の工法 ＊機会をみて実施されている現場の見学会を企画予定
成績評価	レポート（期末１回）と出席状況及び「小レポート」内容で総合評価する。
教科書	パワーポイント資料及び随時配布資料を主に講義予定
参考書 参考資料	基礎から学ぶ「建築生産」：学芸出版社（大久保孝昭編著）
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。「小レポート用紙」に感想・質問を講義ごとに記載すること。建築士資格に必要な科目である､「建築施工」を理解する為の総合的知識を習得する。
関連科目	

講義コード	3122105
講義名	建築計画Ⅲ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	2
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎ 種村　俊昭　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	商業建築から公共的な施設までの計画について、標準的な機能計画の手法や、建築の企画から設計・施工に至る全体的なプロセスの理解ができるようになる。
授業概要	建築計画学の一般理論をビルディングタイプ別に講義する。また各種建築物の個別の計画手法について、具体的な建築家作品をあげながら解説する。複合施設や現代的な現象である変容についても言及し、今後の建築計画学のあり方についても展望する。
授業計画 授業内容	全 90 分× 15 回 第１回　ガイダンス 第２回　社会教育施設；美術館・博物館（１） 第３回　社会教育施設；美術館・博物館（２） 第４回　社会教育施設；美術館・博物館（３） 第５回　教育施設；幼稚園、保育園（１） 第６回　教育施設；小学校、中学校（２） 第７回　教育施設；小学校、中学校（３） 第８回　建築家の考え方 隈研吾 第９回　集住施設；集合住宅（１） 第10回　集住施設；集合住宅（２） 第11回　集住施設；集合住宅（３） 第12回　建築家の考え方 安藤忠雄 第13回　商業施設；劇場・ホール（１） 第14回　商業施設；劇場・ホール（２） 第15回　商業施設；劇場・ホール（３）
成績評価	期末テスト・小テスト（80%）とレポート及び学習状況（20%）により総合的に評価する。
教科書	岡田光正著他「現代建築学 新訂 建築計画２」鹿島出版会 2016
参考書 参考資料	『第３版コンパクト建築設計資料集成』（丸善）
履修上の注意	建築計画に関する事例研究をすることで、講義を深く理解するよう努めること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 建築を学ぶ学生としていろいろな建物に興味を持ち見学する事を勧める。
関連科目	「建築デザイン演習Ⅰ、Ⅱ」、「建築計画Ⅰ、Ⅱ」

講義コード	3122106
講義名	建築計画Ⅳ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎髙田　光雄　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	建築計画学の基礎概念や現代的課題について理解する。また、それらをふまえて、居住空間の現代的再編・再生を目的とした、住居・住環境の計画、設計、整備、運営のあり方や方法に関する基礎的知識と技術を習得する。(建築の設計・計画的側面の理解能力の獲得)
授業概要	住居はあらゆる建築の原点である。本講義では、建築計画学の基礎的概念や現代的課題について概説するとともに、人間居住についての多面的考察をふまえ、様々なレベルでの居住空間の構成原理を示し、併せて、居住空間の現代的再編・再生を目的とした住居・住環境の計画、設計、整備、運営などに関わる学理と実践について具体的に講述する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　講義概要・履修指導 第２回　建築計画学・住居計画学とは何か 第３回　第二次世界大戦後のわが国の住まい 第４回　人間と建築・住居：近代建築の失敗に学ぶ 第５回　空間の機能：住宅は住むための機械なのか 第６回　空間の組織化：動線と空間組織図からみた建築・住居 第７回　中間まとめ：住居計画のための建築計画学的基礎 第８回　公共性・社会性と住居計画（空間における公・共・私の関係） 第９回　地域性・場所性と住居計画（地方性と地域性・空間と場所） 第10回　多様性・適合性と住居計画（スケルトン・インフィル） 第11回　近未来の都市居住（実験集合住宅 NEXT21 の実験） 第12回　少子高齢社会と住居計画１（高齢社会と長寿社会） 第13回　少子高齢社会と住居計画２（自立と交流の支援）【演習課題出題】 第14回　地球環境問題と住居計画１（住居計画における環境配慮） 第15回　地球環境問題と住居計画２（生活文化の継承・発展と環境配慮）
成績評価	演習（30 点満点）と期末試験（70 点満点）の合計点が 60 点以上を合格とする。
教科書	なし（配布資料あり。パワーポイント、ビデオなどを使用）
参考書 参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して、4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画Ⅰ、建築計画Ⅱ、建築計画Ⅲ

講義コード	3122107
講義名	建築構造力学Ⅲ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎山田　滋也　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	構造設計における実務的な知識を得る。
授業概要	鉄筋コンクリート造、鉄骨造など、具体的な構造設計法を身につける。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション 第２回　構造設計の流れ 第３回　荷重（１） 第４回　荷重（２） 第５回　断面諸量（１） 第６回　断面諸量（２） 第７回　鉄筋コンクリート構造の設計（１） 第８回　鉄筋コンクリート構造の設計（２） 第９回　鉄筋コンクリート構造の設計（３） 第10回　鉄骨構造の設計（１） 第11回　鉄骨構造の設計（２） 第12回　鉄骨構造の設計（３） 第13回　層間変形角 第14回　剛性率、偏心率 第15回　保有水平耐力
成績評価	定期試験・小テスト結果により評価を行う。
教科書	教科書浅野清昭　『図説　やさしい構造設計』　学芸出版社
参考書 参考資料	
履修上の注意	
予習・復習指導	授業内容に関する演習・小テストを随時行う。
関連科目	

講義コード	3122108
講義名	公共デザイン論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目　展開科目
配当年次	3
必修選択区分	選択
担当教員	職種：教授　氏名：◎ 中井川正道　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：教授　氏名：山内　貴博　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	公共物に対するデザインについて全般的な内容および価値観等を理解し、都市空間における問題点を解決する能力を養う。
授業概要	公共物、空間に対する社会的役割、価値について講述する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　公私の中間領域論　1 第２回　公私の中間領域論　2 第３回　中間領域デザイン論　1 第４回　中間領域デザイン論　2 第５回　演習課題提示・演習指導　1 第６回　演習指導　2 第７回　発表・講評　1 第８回　発表・講評　2 第９回　土木分野における公共デザイン 第10回　土木施設の役割と景観 第11回　景観法と景観デザイン 第12回　施設形状、ボリュームのデザイン 第13回　色彩、素材のデザイン 第14回　住民コンセンサス手法　（アカウンタビリティ、ワークショップ他） 第15回　小レポート「景観デザインの役割について」
成績評価	授業態度（60%）建築分野小レポート（演習課題含む）、土木分野小レポート（各 20%）
教科書	配布資料、映像等
参考書 参考資料	「現代集合住宅のリ・デザイン」彰国社　「住み継がれる家の価値総集編」財）勤労者住宅協会「シビックデザイン自然、都市、人々の暮らし」大成出版社「カラーコーディネーションの実際」環境色彩　東京商工会議所
履修上の注意	講義内容は前半建築分野、後半土木分野に別れるが、両分野は密接な関係にあり一体的なものである。従って、片方に偏ることなく受講すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画Ⅱ　建築計画Ⅳ　伝統建築論Ⅱ　デザイン概論　色彩理論演習

講義コード	3122109
講義名	専門演習
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	美術工芸科目 - 展開科目
配当年次	4
必修選択区分	選択
担当教員	職種 / 氏名 / 所属 教授 ◎川北　英 KYOBI　工芸学部 教授 種村　俊昭 KYOBI　工芸学部 教授 髙田　光雄 KYOBI　工芸学部 教授 山内　貴博 KYOBI　工芸学部 准教授 井上　年和 KYOBI　工芸学部 他
到達目標	建築・地域・都市課題、歴史的建造物の調査を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザイン、図面・模型化することを到達目標とする。(卒業研究、設計としてのより具体的な成果と繋げることも念頭に入れる。)
授業概要	建築・地域・都市的デザイン（リージョナル・アーバンデザイン)、伝統的建築群含む群建築・再開発・複合施設・外部空間構成・リノベーション・コンバージョンや歴史的建造物の調査、設計に関するテーマを学生各自が設定し、図面・模型の制作、論文の執筆を行う。(ゼミ制とし、各指導教官に配属)(建築デザイン演習Ⅲ、伝統建築専門実習Ⅲの補足として、建築デザインコンペの参加も念頭に入れるとともに、卒業研究･設計へと繋げることも念頭に入れる)
授業計画 授業内容	全15回（以下の授業計画は一例を示す。テーマに応じてゼミ指導教官が設定する。) 第１回　ガイダンス、設計課題、設計方針（希望徴収) 第２回　設計課題抽出と整理、方向性の決定 第３回　敷地及び周辺地域図の準備、各自敷地周辺視察 第４回　キックオフミーティング、グルーピング 第５回　企画作業、フィールドサーベイ＜敷地模型作成＞ 第６回　敷地・周辺調査報告、事例調査報告 第７回　基本構想発表（コンセプト・テーマ)（施設構成・空間利用)、＜企画書＞ フィードバック（見直し)(事例研究･考察)(周辺環境検証)(諸技術)(オルタナティブの検討) 第８回　ボリューム報告（面積構成・ボリューム模型) 第９回　合同検討会（全体施設構成・環境･LSD)（全体コンセプト・テーマ)（デザインコード・景観) 第10回　中間報告＜基本計画書＞ 第11回　基本設計、S（スタディ）模型 第12回　プレゼンボード・プレゼン模型制作 第13回　成果品発表、討議 第14回　修正作業、展示 第15回　講評会
成績評価	授業態度（出席等30%)、中間・最終「成果品」(評価等70%）から総合評価を行う。
教科書	自作プリント、「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ･Ⅳ」､「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等　「建築設計資料集成」[地域･都市Ⅰ ～プロジェクト編]及び[地域・都市Ⅱ ～データ編] 日本建築学会編　丸善㈱　文化財建造物等の修理工事報告書、『日本建築史図面史料集成』中央公論美術出版
履修上の注意	敷地見学、事例見学、建築物調査時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して３時間の予習復習をすること。 (特記事項）設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「工芸実習導入」､「工芸実習基礎Ⅰ･Ⅱ」､「建築デザイン演習Ⅰ･Ⅱ」、各種座学

講義コード	3301301
講義名	工芸実習導入（建築デザイン）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	3
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目　工芸基礎系
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：准教授　氏名：◎ 森重　幸子　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師　氏名：人見　将敏　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：助教　氏名：岡北　一孝　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	①図面表現、模型製作、の基礎的手法を習得する。 ②模型製作による道具や考え方を習得する。
授業概要	建築設計製図の基礎科目である。建築製図に用いる各種用具の使い方、線の練習、強弱、濃淡の使い分けや線とともに建築製図の重要な要素である文字の書き方、平面図・立面図・断面図など建築の基本図面および透視図・アイソメ図などの建築で用いる立体図の書き方や表現方法などについて課題演習を通して学ぶ。さらに建築を空間体験しながら、実測し、それを図面化・模型化する作業を通して建築図面を体験的に理解する。
授業計画 授業内容	全15週/ 週 90 分× 5 時限× 15 回 第１週：ガイダンス（用具の使い方、課題説明） 第２週：線の練習（１） 第３週：線の練習（２） 第４週：文字の練習 第５週：実測体験・実測図の作成 第６週：実測図の模型製作 第７週：建築図面の模写（１）　配置図を学ぶ 第８週：建築図面の模写（２）　平面図を学ぶ 第９週：建築図面の模写（３）　立面図を学ぶ 第10週：建築図面の模写（４）　断面図を学ぶ 第11週：建築図面の模写（５）　矩計図を学ぶ 第12週：建築模型の製作（１） 第13週：建築模型の製作（２） 第14週：建築模型の製作（３） 第15週：建築模型の製作・総括 ※課題の詳細および日程については、各課題の講義初日に指示する。
成績評価	学習状況（20%）、提出作品（80%）の完成度によって総合的に評価する。
教科書	武者英二著：建築設計演習／基礎編（建築デザインの製図法から簡単な設計まで）
参考書 参考資料	『建築設計演習１基礎編』鹿島出版会、新装版『初めての建築設計製図』学芸出版、『第２版コンパクト建築設計資料集成［住居］』丸善
履修上の注意	安全についての指導には必ず従うこと。
予習・復習指導	実習課題はその都度与えますが、提出期限は厳守すること。
関連科目	「工芸実習基礎Ⅰ」「工芸実習基礎Ⅱ」

講義コード	3301401
講義名	工芸実習基礎Ⅰ（建築デザイン）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	4
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目　工芸基礎系
配当年次	1
必修選択区分	必修

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　晋一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	安田　光男	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	川嶋　貫介	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	岡北　一孝	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標

基本的な設計及び評価ができる。また、そのプロセスについても習得する。具体的には、「設計条件設定」や「発想・概念」のまとめ方、機能や空間の「構成法・構想力」、形態化を習得すると共に、製図法の知識と「表現技術」を習得する。

授業概要

基本的な設計の進め方に沿って一通りの「建築設計プロセス」を体験する。前半の課題は、小規模建築（10ｍキューブ）の課題を通して、一般的で基本的な設計手法を習得する。後半は、ギャラリー機能を持つカフェを具体的な土地に対してフィールドサーベイなどを行い、「コンセプト」（設計意図）を立て、それを「具体化する設計（デザイン）」を行う。全体を通して建築設計作品としてまとめて行くプロセスを習得する。

授業計画 授業内容

全15週/ 週２日・５コマ

第１週　ガイダンス、課題Ａ＜10ｍキューブ（用途ギャラリー）＞：課題説明・課題分析作業
第２週　課題Ａ：コンセプトワーク・エスキース
第３週　課題Ａ：エスキース・図面作成（平面図・断面図・立面図）
第４週　課題Ａ：模型作成・図面修正
第５週　課題Ａ：プレゼンテーション作成
第６週　課題Ａ：優秀作品発表→展示
第７週　課題Ｂ＜カフェギャラリー＞：課題説明・課題分析作業・見学計画作業
第８週　課題Ｂ：敷地見学・事例見学
第９週　課題Ｂ：課題・敷地・事例分析作業
第10週　課題Ｂ：基本構想作成作業
第11週　課題Ｂ：基本構想発表・平面・断面・エスキス模型作成作業
第12週　課題Ｂ：平面・断面・エスキスチェック
第13週　課題Ｂ：平面・断面・エスキス模型報告・成果品作成作業
第14週　課題Ｂ：成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業
第15週　課題Ｂ：優秀作品発表→展示

成績評価

授業態度（30%）、成果品（70%）で成績評価を行う。成果品提出遅延の場合は大幅に減点されるので、注意すること。

教科書

自作プリント、「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善

参考書 参考資料

「建築概論」、「建築計画Ⅰ」の教科書及び講義の中で配布された資料等

履修上の注意

製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT作業（CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。

予習・復習指導

設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。

関連科目

「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅱ」、「デザイン作図演習」、「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

講義コード	3301501
講義名	工芸実習基礎Ⅱ（建築デザイン）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	4
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目　工芸基礎系
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授　氏名：◎ 種村　俊昭　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：特任教授　氏名：大上　直樹　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授　氏名：井上　年和　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授　氏名：井上　晋一　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授　氏名：安田　光男　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部　他
到達目標	小規模の造形デザインや家具のデザイン・創作を通じて、素材を生かした立体的な造形能力を身に付ける。また、小規模の伝統建築について、構法を含めた知識を習得する。そして、住宅について住まい方を提案しながらより豊かな空間の創造を目指してエスキスができ、基本設計図書である配置図、平面図、立面図、断面図が作図できるようになり、設計した住宅のプレゼンテーションができるようになる、また、それまでに学んだ建築計画、建築設計CAD操作、環境、構造を関連付けすることができるようになる。
授業概要	第一課題として、・平面（２次元）材から立体（３次元）物を考え創造する・限定された材料、量のもとで素材の物性を生かした造形・椅子としての利用に耐える構成、組立の考案を目的に椅子のデザイン・創作を行う。中間に伝統建築の理解の一助として民家もしくは茶室・茶屋の描写を行う。第二課題として、趣味空間のある住まい方を提案しながらより豊かな住空間の創造を目指しエスキスを行い、基本設計図書を作成し、プレゼンテーションを行う。
授業計画 授業内容	全15週／週２日・５コマ 第１週　ガイダンス、課題Ａ・[家具（椅子)]①：課題説明 平面でのエスキス（スケッチ、アイソメ、アクソメ等） 第２週　家具②：制作のための作図（平面・展開）と部品図づくり 第３週　家具③：１/５のマケットを作成・プレゼンボード作成 第４週　家具④：プレゼンテーション 第５週　伝統建築⑤：[民家もしくは茶室] 建築図面の表現と理解（１）/平面図 第６週　伝統建築⑥：[民家もしくは茶室] 建築図面の表現と理解（２）/横断面図 第７週　伝統建築⑦：[民家もしくは茶室] 建築図面の表現と理解（３）/縦断面図 第８週　伝統建築⑧：[民家もしくは茶室] 建築図面の表現と理解（４）/立面図 第９週　課題Ｂ：[趣味空間を活かした住宅] ①：課題説明 課題・敷地・事例分析作業・コンセプトシート作成作業 第10週　住宅②：コンセプトシート報告＜個別＞・基本構想作成作業＜各自＞ 第11週　住宅③：基本構想発表＜全員公聴＞・平面・断面・エスキス模型作成作業＜各自＞ 第12週　住宅④：平面・断面・エスキスチェック 第13週　住宅⑤：平面・断面・エスキス模型報告＜個別＞・成果品作成作業＜各自＞ 第14週　住宅⑥：成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第15週　住宅⑦：作品発表＜全員公聴・評価＞→展示：自他評価、展開形⑩：自他評価提出
成績評価	授業態度30%、「基本型課設計・製図・展開型課題成果品」70%の内容から総合評価を行う。
教科書	自作プリント、「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書 参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ・Ⅱ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。ＶＤＴ作業（ＣＡＤ等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「工芸実習導入」「工芸実習基礎　I」

講義コード	3340101
講義名	伝統建築専門実習Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	4
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目　伝統建築系
配当年次	2
必修選択区分	選択必修
担当教員	職種 / 氏名 / 所属 教授 / ◎ 種村　俊昭 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 教授 / 山内　貴博 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 特任教授 / 大上　直樹 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 准教授 / 安田　光男 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 准教授 / 川嶋　貫介 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 他
到達目標	建築デザイン演習Ⅰに倣う。
授業概要	建築デザイン演習Ⅰと統合する。
授業計画 授業内容	全15週 第１～15週　建築デザイン演習Ⅰに倣う
成績評価	建築デザイン演習Ⅰに倣う
教科書	建築デザイン演習Ⅰに倣う
参考書 参考資料	建築デザイン演習Ⅰに倣う
履修上の注意	建築デザイン演習Ⅰに倣う
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	建築デザイン演習Ⅰに倣う

講義コード	3340201
講義名	伝統建築専門実習Ⅱ
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	6
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目　伝統建築系
配当年次	3
必修選択区分	選択必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：大上　直樹　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：准教授　氏名：◎井上　年和　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	前期は建築デザイン演習Ⅱに倣う。 後期は歴史的建造物の現地調査（実測調査、破損調査、仕様調査）を行い、実測図を作成するとともに、修理計画を立案し、調査研究、設計、施工に関するそれぞれの手法を習得する。
授業概要	前期は建築デザイン演習Ⅱと統合する。 後期は歴史的建造物の調査、設計に関する論文の執筆、図面・模型の制作などを行う。
授業計画 授業内容	全30週 〈前期〉第1～15週　建築デザイン演習Ⅱと統合 〈後期〉第16週　オリエンテーション 第17週 実測調査① 第18週 実測調査② 第19週 実測調査③ 第20週 実測調査④ 第21週 実測調査⑤ 第22週 図面作成① 第23週 図面作成② 第24週 図面作成③ 第25週 図面作成④ 第26週 図面作成⑤ 第27週 報告書・プレゼンテーション資料作成① 第28週 報告書・プレゼンテーション資料作成② 第29週 報告書・プレゼンテーション資料作成③ 第30週 プレゼンテーション、講評 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。 〈後期〉それぞれの成果物の完成度、発表の内容で評価する。
教科書	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。〈後期〉適宜プリントを配布する
参考書 参考資料	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。〈後期〉文化財建造物等の修理工事報告書、『日本建築史図面史料集成』中央公論美術出版
履修上の注意	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。 〈後期〉各自が主体的に取り組み、成果達成に向けて時間配分を充分に考慮すること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。〈後期〉伝統住居概論、社寺建築概論、伝統構造学

講義コード	3340301
講義名	伝統建築専門実習Ⅲ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	4
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目　伝統建築系
配当年次	4
必修選択区分	選択必修
担当教員	

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	「伝統建築専門実習Ⅱ」で得た知見を基に、歴史的建造物の調査研究、設計、施工に関する制作手法を発展させる。
授業概要	各自が歴史的建造物の調査、設計に関するテーマを設定し、論文の執筆、図面・模型の制作を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１週　オリエンテーション 第２週　テーマ設定① 第３週　テーマ設定② 第４週　論文執筆、図面・模型制作① 第５週　論文執筆、図面・模型制作② 第６週　論文執筆、図面・模型制作③ 第７週　論文執筆、図面・模型制作④ 第８週　論文執筆、図面・模型制作⑤ 第９週　中間発表 第10週　論文執筆、図面・模型制作⑥ 第11週　論文執筆、図面・模型制作⑦ 第12週　論文執筆、図面・模型制作⑧ 第13週　論文執筆、図面・模型制作⑨ 第14週　論文執筆、図面・模型制作⑩ 第15週　プレゼンテーション、講評 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	それぞれの成果物の完成度、発表の内容で評価する。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書 参考資料	文化財建造物等の修理工事報告書、『日本建築史図面史料集成』中央公論美術出版
履修上の注意	伝統建築専門実習Ⅱの既習を受講条件とする。 学生個々に卒業制作との関連を確認しながら進めること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。 学生個々に卒業制作との関連を確認しながら進めること。
関連科目	伝統建築専門実習Ⅱ、伝統住居概論、社寺建築概論、伝統構造学

講義コード	3350101
講義名	建築デザイン演習Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	4
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目　建築デザイン系
配当年次	2
必修選択区分	選択必修
担当教員	職種 / 氏名 / 所属 教授 / ◎ 種村　俊昭 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 教授 / 山内　貴博 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 特任教授 / 大上　直樹 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 准教授 / 安田　光男 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 准教授 / 川嶋　貫介 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部　他
到達目標	①小・中規模建築物の設計手法を習得する。 ②基本コンセプト、ゾーニング、配置計画、動線計画、環境設計、構造設計、プランニングを体系的に進める事が出来るようになる。
授業概要	小･中規模の教育施設､社会教育施設､商業施設､展示施設､コミュニティ施設などの設計を行い､課題を通して､計画・構造・設備・デザイン・透視図など、あらゆる建築設計の基礎的要素を体験的に学ぶことを目的とする。具体的な土地に対してフィールドサーベイなどを行い､「コンセプト」(設計意図) を立て、それを「具体化する設計」を行う。各学生が分析・検討した成果品を個別にチェックを行い、最適解とするための指導を行う。
授業計画 授業内容	全15週/ 週 90 分× 4 時限× 15 回 第１週　ガイダンス、課題 A「ある人物の記念館」: 課題説明・課題分析作業 第２週　課題・敷地・事例分析結果報告 < 全員公聴 >・コンセプトシート作成作業 第３週　コンセプトシート報告 < 個別 >・基本構想作成作業 < 各自 > 第４週　基本構想発表 < 全員公聴 >・平面・断面・エスキス模型作成作業 < 各自 > 第５週　平面・断面・エスキスチェック・基本計画提出・講評 第６週　平面・断面・立面・面積表作図・作成作業・提出 第７週　作品発表 < 全員公聴・評価 > →展示 : 自他評価、自他評価提出 第８週　ショート課題 :「７つのフロアをもつワンルームの家」(例) 第９週　課題 B・「認定こども園」: 課題説明・課題分析作業・見学計画作業 第10週　課題・敷地・事例分析結果報告 < 全員公聴 >・コンセプトシート作成作業 第11週　コンセプトシート報告 < 個別 >・基本構想作成作業 < 各自 > 第12週　基本構想発表 < 全員公聴 >・平面・断面・エスキス模型作成作業 < 各自 > 第13週　平面・断面・エスキスチェック・基本計画提出・講評 第14週　平面・断面・エスキス模型報告 < 個別 >・成果品作成作業 < 各自 > 第15週　作品発表 < 全員公聴・評価 > →展示 : 自他評価、自他評価提出
成績評価	学習状況（20%)、提出作品（80%）の完成度によって総合的に評価する。
教科書	「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書 参考資料	「建築計画」の講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業 (CAD 等) の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学､事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された､あるいは収集した関連資料等を整理し常備すること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。課題着手までに類似物件を数多く調査・見学しておくこと。製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業 (CAD 等) の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理し常備すること。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅰ」、「工芸実習基礎Ⅱ」

講義コード	3350201
講義名	建築デザイン演習Ⅱ
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	6
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目　建築デザイン系
配当年次	3
必修選択区分	選択必修
担当教員	【前　期】 職種：教授／氏名：山内　貴博 職種：准教授／氏名：◎ 井上　晋一 職種：特任講師／氏名：杏　義啓 職種：助教／氏名：岡北　一孝 【後　期】 職種：教授／氏名：川北　英 職種：教授／氏名：髙田　光雄 職種：准教授／氏名：◎ 井上　晋一 職種：准教授／氏名：森重　幸子 職種：特任講師／氏名：杏　義啓
到達目標	【前期】建築における単位空間設計手法を習得する。グループによる設計手法を習得する。既存建物の改修手法を習得する。 【後期】上記の設計課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、構造・設備計画法等を習得すると共に、各種の構工法、製図法の知識と表現技術を習得することを到達目標とする。
授業概要	【前期】住宅課題・グループ制作課題・リノベーション課題を設計することで、建築設計に必要な基礎知識を習得し、3年後期課題に向けての準備を行う。住宅課題では空間の基礎的な単位空間を再認識する。グループ課題では複数人による共同設計手法を習得する。リノベーション課題では既存建物の問題点を発見し改修手法を習得する。 【後期】中低層中規模の集合住宅、教育施設、社会教育施設、商業施設、展示施設、コミュニティ施設などの施設から課題を選択し設計を行う。そのことを通じてＲＣ造などの建築の構工法、製図法の知識と表現技術を学ぶと共に、設計条件や発想･概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、構造・設備計画法等を習得する。(小グループに分け各グループを各教員が指導するスタジオ制で行う。)
授業計画 授業内容	【前期】全15週/ 週２日・４コマ 第１週 ガイダンス・課題説明：「住宅再考」 第２週 エスキース：テーマ、コンセプト作成 第３週 エスキース：デザイン、スタディー模型作成 第４週 プレゼンボード作成 第５週 講評会 第６週 課題説明：グループ制作課題「まちなみをつくる」 第７週 エスキース：テーマ、コンセプト作成 第８週 エスキース：デザイン、スタディー模型作成 第９週 プレゼンボード作成 第10週 講評会 第11週 課題説明：「リノベーション」 第12週 エスキース：テーマ、コンセプト作成 第13週 エスキース：デザイン、スタディー模型作成 第14週 プレゼンボード作成 第15週 講評会 【後期】全15週／週２日・４コマ 第１週 ガイダンス、課題Ａ（１）＜集合住宅＞課題説明・班分け・作業 第２週 課題Ａ（２）：課題・機能・社会的課題分析発表 第３週 課題Ａ（３）：サーベイプレゼン・提出（課題・敷地分析、類似施設見学報告） 第４週 課題Ａ（４）：基本構想発表・提出（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第５週 課題Ａ（５）：スタディ模型等エスキス（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第６週 課題Ａ（６）：作図（仕上げ）、提出模型製作 第７週 課題Ａ（７）：作図（仕上げ）、提出模型製作 第８週 長期課題Ａ（８）：作品発表・指摘内容の修正加筆（指摘作品）・展示　自他評価 第９週 長期課題Ｂ（１）：＜図書館＞課題説明 第10週 長期課題Ｂ（４）：課題・機能分析発表 第11週 長期課題Ｂ（５）：サーベイプレゼン・提出（課題・敷地分析、類似施設見学報告 第12週 長期課題Ｂ（６）：基本構想発表・提出（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第13週 長期課題Ｂ（７）：スタディ模型等エスキス（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第14週 長期課題Ｂ（８）：作図（仕上げ）、提出模型製作 第15週 長期課題Ｂ（７）：作品発表・指摘内容の修正加筆（指摘作品） ※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。
成績評価	【前期】授業態度 20%、「基本型課設計・製図・展開型課題成果品」80% の内容から総合評価を行う。 【後期】授業態度（出席等 30%）、中間・最終「成果品」（評価等 70%）から総合評価を行う。
教科書	【前期】自作プリント　【後期】自作プリント、「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書 参考資料	【前・後期】「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の講義の中で配布された資料等
履修上の注意	【前・後期】製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD 等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学､事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された､あるいは収集した関連資料等を整理･ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	【前期】一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。 【後期】一講義(２コマ)に対して３時間の予習復習をすること。設計課題と類似する実例(複数)を日頃見学､視察し分析すること。
関連科目	【前期】「工芸実習導入」､「工芸実習基礎Ⅰ」､「工芸実習基礎Ⅱ」､「建築デザイン演習Ⅰ」【後期】「工芸実習導入」､「工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ」､「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ」､各種座学

講義コード	3350301
講義名	建築デザイン演習Ⅲ
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	4
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目　建築デザイン系
配当年次	4
必修選択区分	選択必修
担当教員	職種：教授／◎川北　英／ＫＹＯＢＩ　工芸学部 教授／髙田　光雄／ＫＹＯＢＩ　工芸学部 教授／種村　俊昭／ＫＹＯＢＩ　工芸学部 教授／山内　貴博／ＫＹＯＢＩ　工芸学部 特任教授／大上　直樹／ＫＹＯＢＩ　工芸学部　他
到達目標	授業概要の建築・地域・都市課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザイン力を到達目標とする。（卒業研究、設計としてのより具体的な成果と繋げることも念頭に入れる。）
授業概要	建築・地域・都市的デザイン（リージョナル・アーバンデザイン）：伝統的建築群含む群建築・再開発・複合施設・外部空間構成・リノベーション・コンバージョン等学生の希望により課題設定（複数有り）（ゼミ制とし、各指導教官に配属） （建築デザインコンペの参加も念頭に入れるとともに、卒業研究・設計へと繋げることも念頭に入れる）
授業計画 授業内容	全15週／週２日 第１週　ガイダンス、設計課題、設計方針（希望徴収） 第２週　設計課題抽出と整理、方向性の決定 第３週　敷地及び周辺地域図の準備、各自敷地周辺視察 第４週　キックオフミーティング、グルーピング 第５週　企画作業、フィールドサーベイ　＜敷地模型作成＞ 第６週　敷地・周辺調査報告、事例調査報告 第７週　基本構想発表（コンセプト・テーマ）（施設構成・空間利用）、＜企画書＞ フィードバック（見直し）（事例研究・考察）（周辺環境検証）（諸技術）（オルタナティブの検討） 第８週　ボリューム報告（面積構成・ボリューム模型） 第９週　合同検討会（全体施設構成・環境・LSD）（全体コンセプト・テーマ）（デザインコード・景観） 第10週　中間報告＜基本計画書＞ 第11週　基本設計、S（スタディ）模型 第12週　プレゼンボード・プレゼン模型制作 第13週　成果品発表、討議 第14週　修正作業、展示 第15週　講評会
成績評価	授業態度（出席等 30%）、中間・最終「成果品」（評価等 70%）から総合評価を行う。
教科書	自作プリント、「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等　「建築設計資料集成」［地域・都市Ⅰ～プロジェクト編］及び［地域・都市Ⅱ～データ編］日本建築学会編　丸善㈱
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。ＶＤＴ作業（ＣＡＤ等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ」、「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ」、各種座学

講義コード	3360001
講義名	芸術導入演習
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授　氏名：◎津村　健一　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：教授　氏名：中井川正道　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	専門教育のための基礎として、様々な導入テーマを通じて芸術的なものの見方を理解し、芸術的なアプローチがスムーズに行えるスキルを学ぶ。
授業概要	芸術系初年次教育の一環として、専門教育を受けるための基盤をつくり、４年間の学生生活における様々な領域で求められる力の基礎を育む。
授業計画 授業内容	全15回 【学部合同授業】 第１回　ガイダンス 第２回　ハンティング力テーマ（まちを切り取る） 第３回　ハンティング力テーマ（まちを切り取る） 第４回　ハンティング力テーマ（まちを切り取る）発表 第５回　観察力テーマ（日常の芸術を切り取る） 第６回　観察力テーマ（日常の芸術を切り取る） 第７回　観察力テーマ（日常の芸術を切り取る）発表会 第８回　想像力テーマ（トリックアート） 第９回　想像力テーマ（トリックアート） 第10回　想像力テーマ（トリックアート）発表会 第11回　構成力テーマ（一枚のベニア板から作るイス） 第12回　構成力テーマ（一枚のベニア板から作るイス） 第13回　構成力テーマ（一枚のベニア板から作るイス） 第14回　構成力テーマ（一枚のベニア板から作るイス） 第15回　合評会
成績評価	受講態度、授業テーマの取り組み、提出作品によって評価する。
教科書	毎回資料を配布する。
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	演習作品は各テーマ切り替えまでに完成させること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	「芸術導入実習」「造形基礎演習Ⅰ」

講義コード	3360002
講義名	芸術導入実習
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授 / 氏名：◎ 中井川正道 / 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：特任教授 / 氏名：安藤　眞吾 / 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：教授 / 氏名：浅見　武 / 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：教授 / 氏名：小林　泰弘 / 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師 / 氏名：青木　太一 / 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部　他
到達目標	導入教育の一環として専門教育を受けるための基盤を学びます。３分野（陶芸 / 木工・彫刻 / 漆芸）の伝統に基づいた知識と技術を学び、それぞれの素材を通して『ものづくり』の基礎を養います。
授業概要	導入教育の一環として専門教育を受けるための基盤を学びます . ３分野（陶芸 / 木工・彫刻 / 漆芸）の伝統に基づいた知識と技術を学び、それぞれの素材を通して『ものづくり』の基礎を養います。
授業計画 授業内容	１～５回　Ａ班：陶芸　Ｂ班：木工・彫刻　Ｃ班：漆芸 ６～10回　Ａ班：漆芸　Ｂ班：陶芸　Ｃ班：木工・彫刻 11～15回　Ａ班：木工・彫刻　Ｂ班：漆芸　Ｃ班：陶芸 陶芸…全国の陶磁器製品の主流である鋳込成形をとおして、製造技術の基礎である素材や成形技術の基礎知識を習得する。 漆芸…漆芸の代表的な加飾技法である螺鈿の内、入門編として青貝（薄貝）技法を学ぶ。 木工・彫刻…綸子文様の地紋彫りを通して彫刻の基本を学ぶ。道具の理解を深め、古典文様を彫刻する中で、木材の性質を学び、運刀法の基本技を学ぶ。
成績評価	実習中の態度、習得度、提出作品等を基本に、総合的に判断する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	
履修上の注意	予習・復習をすることで材料技法を深く理解するように努めること。
予習・復習指導	
関連科目	

講義コード	3360003
講義名	造形基礎演習Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授／氏名：◎津村　健一／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師／氏名：山本　麻矢／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・モチーフとの対話の中で対象の本質に迫ってゆく観察力をつける。 ・素材の特性と自然のフォルムを統合し、単なる模倣を超えた価値を創造する。
授業概要	美術・デザイン・工芸など造形芸術とその周辺領域において、我々が自然の造形から学ぶことは多い。そのためには観察力、表現力の鍛錬は欠かせない。本科目では、素材を用いて自然物のフォルム、構造にアプローチすることによって模倣に終わらない表現力を身につける。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション　授業の目標について 第２回　分割と構成１　：　比率・形態について 第３回　分割と構成１　：　長方形の２分割再構成 第４回　分割と構成１　：　合評会 第５回　分割と構成２　：　関係を考える 第６回　分割と構成２　：　立方体３分割再構成　エスキース 第７回　分割と構成２　：　立方体３分割再構成　制作 第８回　分割と構成２　：　立方体３分割再構成　制作 第９回　分割と構成２　：　合評会 第10回　ケント紙の塔　：　構造とフォルム　事例紹介 第11回　ケント紙の塔　：　ドローイング・材料体験 第12回　ケント紙の塔　：　エスキース 第13回　ケント紙の塔　：　制作 第14回　ケント紙の塔　：　制作 第15回　ケント紙の塔　：　合評会
成績評価	提出作品により評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	構想や試作段階で数多くの検討をする事。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	素描、構成基礎演習

講義コード	3360005
講義名	造形基礎演習Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授　氏名：◎津村　健一　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	一元的な思考によるアイデアの枯渇を防ぐため、物事を多角的に捉える力を身につける。 一つのテーマに対して様々な解を導き出し、新しい価値観を持つ作品をつくり発表する。
授業概要	平面、立体を問わず造形作品には視覚的側面と言説的側面が存在する。様々な造形分野での専門的な技術は視覚的側面に大きく関わってくるが、専門分野の技術や知識に傾倒した関心の持ち方は視野を狭め、新しいものの創造を困難にする。そこで、本科目では日常生活における何気ない物事に注目し、考え、働きかけていく課題によって言説的側面からのアプローチを学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　カレンダー制作Ⅰ　：　課題説明　時間についての考察 第２回　カレンダー制作Ⅱ　：　エスキース 第３回　カレンダー制作Ⅲ　：　エスキース　表現手法検討 第４回　カレンダー制作Ⅳ　：　実制作 第５回　カレンダー制作Ⅴ　：　実制作 第６回　カレンダー制作Ⅵ　：　実制作 第７回　合評会　：　プレゼンテーション形式　人の知覚についての考察 第８回　視覚情報の言語化Ⅰ　：　課題説明 第９回　視覚情報の言語化Ⅱ　：　写真の言語化作業　言語表現についての考察 第10回　視覚情報の言語化Ⅲ　：　写真の言語化作業 第11回　視覚情報の言語化Ⅳ　：　生徒間の言語情報交換 第12回　視覚情報の言語化Ⅴ　：　表現手法検討 第13回　視覚情報の言語化Ⅵ　：　再視覚化作業 第14回　視覚情報の言語化Ⅶ　：　再視覚化作業 第15回　合評会　：　多角的視点による物事の考察、２課題のまとめ
成績評価	課題制作の完成度70%、合評会での発表30%によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて、資料を配布する。
履修上の注意	授業の性格上、各自の積極性・自主性が求められる。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	造形基礎演習Ⅰ

講義コード	3360010
講義名	プロジェクト演習Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種 / 氏名 / 所属 教授 / ◎津村　健一 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 教授 / 中井川正道 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 特任教授 / 安藤　眞吾 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 教授 / 小林　泰弘 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 講師 / 岡　達也 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 他
到達目標	・チームワークで課題解決するのためのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 数テーマに分かれて実施、専門コースを問わない学科内の横断的な演習授業とする。
授業計画 授業内容	全15日 / 週1日 第1週　プロジェクト演習全体ガイダンス（グループ分け） 第2週　オリエンテーション 第3週～第6週　アイデアの具現化 第7週　中間発表 第8週　アイデア修正 第9週～第14週　実制作 第15週　最終プレゼンテーション 前年度の事例 「京都花灯路プロジェクト」 京都東山花灯路に連動して、京都の美大が創作行灯を制作。円山公園南の大谷祖廟参道に設置。 「駅ナカアートプロジェクト」 「国際文化都市・京都」をテーマにしたアート作品を地下鉄駅に展開することで、学生の視点で駅から京の文化を世界へ発信。（連携先：京都市交通局） 「京風パッケージデザインコンテスト」 次代を担う大学生を対象とした「食」をテーマにした京風パッケージデザインコンテスト。（主催：京都中央信用金庫）
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「専門実習Ⅰ（デザイン）」

講義コード	3360011
講義名	プロジェクト演習Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	3
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授／氏名：◎ 中井川正道／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：特任教授／氏名：安藤　眞吾／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：教授／氏名：小林　泰弘／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師／氏名：田川新一朗／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・チームワークで課題解決するのためのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 「デザイン系」「工芸系」「文化財系」の数テーマに分かれて実施。専門コースを問わない学科内の横断的な実習授業とする。
授業計画 授業内容	全15日／週1日 第1週　プロジェクト演習全体ガイダンス（グループ分け） 第2週　オリエンテーション 第3週～第6週　アイデアの具現化 第7週　中間発表 第8週　アイデア修正 第9週～第14週　実制作 第15週　最終プレゼンテーション 前年度の事例 「一坪茶室プレゼンテーション出展」 お茶の京都博での宇治茶を味わう新たな空間提案を京都府山城地区の市町村の一つとタイアップし企画立案制作を行う。（連携先：京都府） 「京風パッケージデザインコンテスト」 京都中央信用金庫主催の京風パッケージデザインコンテストに作品応募する。（連携先：京都中央信用金庫）
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
参考書参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「専門実習Ⅱ（デザイン）」

講義コード	3360012
講義名	プロジェクト演習Ⅲ
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	3
必修選択区分	必修
担当教員	職種 / 氏名 / 所属 教授 / ◎ 中井川正道 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 教授 / 小林　泰弘 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 助教 / 木村　奈保 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部 非常勤講師 / 田川新一朗 / ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・チームワークで課題解決するのためのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 「デザイン系」「工芸系」「文化財系」の数テーマに分かれて実施。専門コースを問わない学科内の横断的な実習授業とする。
授業計画 授業内容	全15日 / 週1日 第1週　プロジェクト演習全体ガイダンス（グループ分け） 第2週　オリエンテーション 第3週～第6週　アイデアの具現化 第7週　中間発表 第8週　アイデア修正 第9週～第14週　実制作 第15週　最終プレゼンテーション 前年度の事例 「カフェの食器開発プロジェクト」 東山キャンパスの近くに新規開店するカフェの食器を四季をテーマに企画デザインし実制作する。 （連携先：株式会社灰孝本店） 「きものデザインコンペ」 京都市内の学生を対象に、京都の基幹産業である和装の振興、人材育成及び学生のまち京都の推進寄与することを目的にしたコンペティション。（連携先：京都産業会館） 「東山花灯路プロジェクト」 大谷祖廟参道（円山公園南）の「大学の街京都・伝統の灯り展」に灯りのオブジェを出展する。 （連携先：京都東山花灯路実行委員会）
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「専門実習Ⅲ（デザイン）」

講義コード	3360018
講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（文化財）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	

職種	氏名	所属
教授	◎ 小林　泰弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	高橋　利明	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	田川新一朗	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	文化財の基礎として模刻を行い時代による形状の相違を学び、古典技法を体験し、 文化財の幅広い知識と技術を習得し、理解を深めます。
授業概要	古典技法を体験し、素材・技法・構造等を見極める観察力を身に着け、『ものづくり』における知恵と心を学びます。造形の基本を学び、観察力を養い、文化財の調査や修復の理念を習得します。 また文化財の宝庫である京都という地の利を生かし社寺等を見学し、文化財の環境等、文化財を総合的に理解し、観光資源としての文化財の在り方も学びます。
授業計画 授業内容	第15週 講義については随時状況を見て行う 第１週　模刻　　透かし彫り 第２週　模刻　　透かし彫り 第３週　模刻　　透かし彫り 第４週　模刻　　透かし彫り 第５週　模刻　　透かし彫り（寺院見学等のフィールドワーク） 第６週　模刻　　透かし彫り 第７週　模刻　　透かし彫り 第８週　模刻　　透かし彫り 第９週　模刻　　透かし彫り 第10週　模刻　　透かし彫り 第11週　模刻　　透かし彫り 第12週　模刻　　透かし彫り 第13週　模刻　　透かし彫り 第14週　模刻　　透かし彫り 第15週　総評
成績評価	実習中の態度、習得度、提出作品等を基本に、総合的に判断する。
教科書	
参考書 参考資料	
履修上の注意	健康管理に留意し、道具・材料の安全な取り扱いを徹底すること。 文化財を汚したり傷つけることのないように常に心掛けること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	「文化財保存概論」「文化財修理論」等の講義系科目

講義コード	3360019
講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：講師／氏名：◎青木　太一／所属：KYOBI　工芸学部 職種：講師／氏名：玉村　嘉章／所属：KYOBI　工芸学部
到達目標	・各種道具（印刀・丸刀）の使用方法、研ぎ方の習得を深める。 ・基礎的な立体造形表現と技法を習得する。 ・刳物の基本的な技法を習得する。
授業概要	「芸術導入実習（木工・彫刻）」で学んだ木彫刻の基礎をもとに、宝相華唐草文様の透かし彫り彫刻の制作を行う。透かし彫り彫刻は、表裏両面の浮彫り、地の部分の彫りぬきを経て完成させる。次の工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）での課題のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作。刳物による器物の制作を通して適切な木取り法を理解し、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　オリエンテーション（課題説明、課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解） 第２週　透かし彫り用宝相華唐草文様の作図、作図の板材への転写 第３週　糸のこにて透かす部分の抜き取り、表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り 第４週　表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り 第５週　表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り、両面の仕上げ彫りから完成へ 第６週　立体彫刻の課題説明（課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解） 第７週　木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 第８週　刳物についての講義と作品考案・図面制作　丸のみの仕立て・研ぎ 第９週　荒彫り 第10週　中仕上げ①（鏝鑿） 第11週　中仕上げ②（豆鉋） 第12週　仕上げ① 第13週　仕上げ② 第14週　仕上げ③ 第15週　まとめ・合評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	西川新次著　『平等院大観　第２巻　彫刻』（岩波書店　1987）「盆百選」（平安堂書店　1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	透かし彫り彫刻の実際の作品を古寺社寺で見学、スケッチするなど、積極的に課外での学習し取り組むことが望ましい。実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。
関連科目	「芸術導入実習（木工・彫刻）」「日本工芸美術史」

講義コード	3360020
講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（陶芸）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	<table><tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr><tr><td>教授</td><td>◎ 浅見　武</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr><tr><td>非常勤講師</td><td>小野多美枝</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr></table>
到達目標	日本の伝統的な灰釉を用いた祥瑞・色絵陶器について、その歴史的な変遷と基礎的な製作工程を理解し、現在における陶磁器工芸の基礎を理解することを目的に、当時の祥瑞･色絵陶器の素材調製方法･成形技法・加飾技法を実習し、さらに陶磁器製造技術を深く就学することを目標とする。
授業概要	江戸後期に確立された日本の伝統的な祥瑞・色絵陶器について、素材である素地と灰釉薬の素材実習と、基礎的なろくろ成形実習、および基礎的な下絵付・上絵付・化粧技法の加飾実習を行い、陶磁器製造の基礎を習得する。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　課題説明・テストピース用石膏型作り・小煎茶碗道具作成 第２週　テストピース作り　化粧（生） 第３週　荒もみ・菊もみ ロクロ実習（土殺し・土取り・盃引き）・灰釉ピース素焼焼成実習（OF） 第４週　ロクロ成形（小煎茶碗水挽き）（磁器 30 個）（カンナ等道具作り） 第５週　ロクロ成形（小煎茶碗水挽き）（磁器 30 個） 第６週　ロクロ成形（小煎茶碗水挽き）（磁器 30 個） 第７週　ロクロ成形（小煎茶碗削り） 第８週　ロクロ成形（小煎茶碗削り）・素焼焼成実習（OF）・長石を用いた灰釉の調合・施釉 第９週　陶石・含鉄を用いた灰釉の調合・施釉・本焼焼成実習（OF・ＲＦ） 第10週　灰釉・化粧土のピース貼り付け・レポート 第11週　染付：小煎茶碗（ろくろ線）練習 第12週　染付：小煎茶碗（割付け・小紋）練習 第13週　染付：小煎茶碗（小紋）練習 第14週　染付：小煎茶碗（ろくろ線・割付け・小紋）清書・本焼焼成実習（ＲＦ） 第15週　染付：小煎茶碗（ろくろ線・割付け・小紋）清書 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度 30%・技術習得 30%・レポートと作品完成度 40% により総合的に評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	日本陶磁大系(平凡社)　やきものと釉薬―基本的な考え方(理工学社)［その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜資料を紹介する。］
履修上の注意	陶磁器の素材・制作技術・加飾技術の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓､後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	技法習得のために実習時間外を利用し反復練習に励むこと。
関連科目	「芸術導入実習（陶芸）」「日本美術史」

講義コード	3360021
講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（漆芸）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：講師　氏名：◎遠藤　公誉　所属：KYOBI　工芸学部
到達目標	用途に応じた用具類の調整と適切な使用法、素材の取り扱い方、並びに作業工程の理解・認識を深めることを目的とする。髹漆技法のうち布着せ本堅地の下地技法、及び呂色仕上げ技法、布乾漆技法の習得を目指す。
授業概要	前期に引き続き、漆芸技法の内基本となる髹漆技法（下地・塗り）の習得と理解を目指す。手板木地を用いた布着せ本堅地呂色仕上げの技法、並びに原型に布を貼り重ねて胎を形成する乾漆技法を通じ下地・塗りの作業を反復し、技を身に付ける。基礎的な髹漆技法について知識のみでなく、経験に基づいたより深い理解・認識を得ることを目標とする。
授業計画 授業内容	全15日／週2日（遠藤：2日／週） 第1週　本科目の概要説明　下地作業1：木地固め　乾漆作業1：和紙水貼り 第2週　下地作業2：木地固め研ぎ、布着せ　乾漆作業2：布貼り 第3週　下地作業3：布目揃え、目摺り錆　乾漆作業3：布目揃え、目摺り錆 第4週　下地作業4：地付け、地研ぎ　乾漆作業4：目摺り錆研ぎ、布貼り 第5週　下地作業5：地付け、地研ぎ　乾漆作業5：目摺り錆研ぎ、布貼り 第6週　下地作業6：地研ぎ、地固め　乾漆作業6：目摺り錆研ぎ、布貼り 第7週　下地作業7：錆付け、錆研ぎ　乾漆作業7：目摺り錆研ぎ、布貼り 第8週　下地作業8：錆付け、錆研ぎ　乾漆作業8：原型除去 第9週　下地作業9：錆付け、錆研ぎ、繕い錆付け　乾漆作業9：内側布貼り 第10週　下地作業10：繕い錆研ぎ、面取り、中塗り　乾漆作業10：内側布目揃え、目摺り錆 第11週　塗り作業11：中塗り研ぎ、中塗り　乾漆作業11：中塗り 第12週　塗り作業12：中塗り研ぎ、上塗り　乾漆作業12：中塗り 第13週　塗り作業13：上塗り呂色研ぎ、胴摺り、上摺　乾漆作業13：上塗り 第14週　塗り作業14：呂色磨き、上摺　乾漆作業14：上塗り 第15週　塗り作業15：呂色仕上げ磨き　乾漆作業15：研ぎ、仕上磨き
成績評価	技術の習得度40%、作品完成度40%、実習受講の積極性20%によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」Ⅰ～Ⅳ　社団法人　日本漆工協会編　「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂
履修上の注意	作業に使用する小刀・ヘラ木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。また、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」

講義コード	3360022
講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（デザイン）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	1
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授／氏名：◎津村　健一／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：教授／氏名：中井川正道／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師／氏名：岡　達也／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・イメージするアイデアを造形として具現化する手法を学ぶ。 ・素材ごとの適切な加工方法などの技術を身に着ける。 ・表現手法を習得し、次年度からの展開に応用する力をつける。
授業概要	立体系デザインのプロセスにおいて重要な立体認識及び表現能力を習得するため、視覚図面作図法、プロトタイプ作製法の基本を学ぶ。これらはアイデアを具現化し身体性を確認するものであると同時に第三者への伝達に欠く事の出来ないものとなる。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　座るかたち：動作研究 第２回　座るかたち：アイデアスケッチ 第３回　座るかたち：設計図面作成１ 第４回　座るかたち：設計図面作成２ 第５回　座るかたち：ペーパーモデル作成１ 第６回　座るかたち：ペーパーモデル作成２ 第７回　座るかたち：ペーパーモデル作成３ 第８回　座るかたち：合評会 第９回　一人の空間：空間計測・体験 第10回　一人の空間：空間構想 第11回　一人の空間：空間スケッチ 第12回　一人の空間：スケールモデルの作成 第13回　一人の空間：空間制作１ 第14回　一人の空間：空間制作２ 第15回　一人の空間：合評会
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	演習作品は各テーマ切り替えまでに完成させる事。 道具の整理整頓、後片づけに留意のこと。
予習・復習指導	特になし
関連科目	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ

講義コード	3360023
講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：講師 ／ 氏名：◎ 青木　太一 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師 ／ 氏名：玉村　嘉章 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・各種道具（印刀・丸刀）の使用方法、研ぎ方の習得を深める。 ・基礎的な立体造形表現と技法を習得する。 ・挽物の基本的な技法を習得する。 ・小箱制作の手法を習得する。
授業概要	「芸術導入実習（木工･彫刻）」で学んだ木彫刻の基礎をもとに､宝相華唐草文様の透かし彫り彫刻の制作を行う。透かし彫り彫刻は､表裏両面の浮彫り､地の部分の彫りぬきを経て完成させる。次の工芸･デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）での課題のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作。挽物による器物の制作を通して、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。隠蟻組の反復練習を通して加工精度を上げた後に、小箱の制作を行う。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　オリエンテーション（課題説明、課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解） 第２週　透かし彫り用宝相華唐草文様の作図、作図の板材への転写 第３週　糸のこにて透かす部分の抜き取り、表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り 第４週　表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り 第５週　表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り、両面の仕上げ彫りから完成へ 第６週　立体彫刻の課題説明（課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解） 第７週　木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 第８週　挽物についての講義・作品考案・図面作成　椀制作① 第９週　椀制作② 第10週　小箱製作①（木取り・墨付け） 第11週　小箱制作②（仕口加工） 第12週　小箱制作③（底板溝切り） 第13週　小箱制作④（蓋加工） 第14週　小箱制作⑤（接着・仕上げ） 第15週　まとめ・合評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	西川新次著 『平等院大観　第２巻　彫刻』（岩波書店　1987）「ろくろ」（法政大学出版局　1979)、「漆椀百選」（光琳社出版　1975）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	透かし彫り彫刻の実際の作品を古寺社寺で見学、スケッチするなど、積極的に課外での学習し取り組むことが望ましい。実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工）」「科学と芸術」

講義コード	3360024
講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（陶芸）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	<table><tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr><tr><td>教授</td><td>◎ 浅見　武</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr><tr><td>非常勤講師</td><td>小野多美枝</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr></table>
到達目標	江戸後期・明治期より現在まで京焼の主流である粟田坏土による色絵陶器の製陶技術の知識と技法の習得を目的する。現在の陶磁器の基礎となった化学計算を用いた釉薬調製方法の基礎を実習し、ろくろ・鋳込み成型法と和絵具・洋絵具を用いた色絵陶磁器技法の習得を目標とする。
授業概要	明治時期に導入された土石原料・工業原料を用いた釉薬調製方法・磁器泥漿の素材基礎を習得する。また、粟田坏土を用いたろくろ成型法を実習する。加飾実習では、和・洋絵具（金襴手）を用い色絵陶器技法について実習する。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　課題説明（資料説明）テストピース作り（土石釉・色釉実験用） 第２週　ロクロ成形（磁器五寸皿：道具作り）　テストピース素焼焼成 第３週　ロクロ成形（磁器五寸皿：水挽き） 第４週　ロクロ成形（磁器五寸皿：水挽き）・土石釉・色釉調合 第５週　ロクロ成形（磁器五寸皿：削り） 第６週　ロクロ成形（磁器五寸皿：削り） 第７週　磁課題説明・ロクロ成形（仁清茶碗：道具作り）・本焼焼成実習（OF・RF） 第８週　ロクロ成形（仁清茶碗：水挽き） 第９週　ロクロ成形（仁清茶碗：削り） 第10週　土石・色釉施釉および窯詰め 第11週　赤絵（磁器五寸皿）練習 第12週　赤絵（磁器五寸皿）清書 第13週　秋草紋（仁清茶碗）練習　本焼焼成実習（OF・ＲＦ） 第14週　秋草紋（仁清茶碗）清書 第15週　瓔珞紋（仁清茶碗）練習・清書　本焼焼成実習（OF） 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度 30%・技術習得 30%・レポートと作品完成度 40% により総合的に評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	日本陶磁大系（平凡社）　やきものと釉薬―基本的な考え方（理工学社）［その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜資料を紹介する。］
履修上の注意	美術工芸書籍により江戸・明治期の陶磁器作品・技法の予備知識を得る。陶磁器窯業化学の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	技法習得のために実習時間外を利用し反復練習に励むこと。
関連科目	「工芸・デザイン 基礎実習Ⅰ（陶芸）」「日本工芸美術史」

講義コード	3360026
講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（漆芸）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：講師　氏名：◎遠藤　公誉　所属：KYOBI　工芸学部
到達目標	蒔絵筆など使用する道具類の基礎的な取扱い方や、金属粉および貝の取り扱いと仕上げ方など、最も基礎的な加飾技法に関する作業手順の理解・制作技術の習得を目標とする。
授業概要	漆芸の加飾技法のうち難易度の低い線描き蒔絵と青貝技法を学ぶことで、基礎的な加飾技術の習得を目指す。線描き蒔絵では銀丸粉１号と呼ばれる磨き仕上げの金属粉を用いる。図案については基本形のものを３種類課題として準備している。青貝技法ではアワビの薄貝を用い図案を表わす。１年次後期で制作した呂色の手板をそれぞれの加飾を施す土台として用いる。
授業計画 授業内容	全30日／週２日（遠藤：２日／週） 第１週　準備作業１：本科目の概要説明、置き目作成　青貝作業１：薄貝切り出し 第２週　準備作業２：置き目作成青貝作業２：薄貝切り出し、貼り付け 第３週　準備作業３：置き目作成青貝作業３：薄貝切り出し、貼り付け 第４週　準備作業４：絵漆調合、焼き漆作成、置き目留め・押し　青貝作業４：括り 第５週　準備作業５：置き目留め・押し　青貝作業５：中塗り 第６週　蒔絵作業１：線描き、粉入れ　青貝作業６：中塗り研ぎ 第７週　蒔絵作業２：木砥掃除、線描き、粉入れ　青貝作業７：中塗り 第８週　蒔絵作業３：木砥掃除、線描き、粉入れ　青貝作業８：中塗り研ぎ 第９週　蒔絵作業４：木砥掃除、線描き、粉入れ　青貝作業９：上塗り 第10週　蒔絵作業５：木砥掃除、線描き、粉入れ　青貝作業10：上塗り炭研ぎ 第11週　蒔絵作業６：木砥掃除、線描き、粉入れ　青貝作業11：上塗り炭研ぎ、胴摺り 第12週　蒔絵作業７：粉固め、胴摺り　青貝作業12：上摺り、呂色磨き１回目 第13週　蒔絵作業８：摺り漆、磨き青貝作業13：上摺り、呂色磨き２回目 第14週　蒔絵作業９：摺り漆、磨き青貝作業14：上摺り、呂色磨き３回目 第15週　蒔絵作業10：摺り漆、磨き青貝蒔絵・青貝手板作業完成確認、総括
成績評価	技術の習得度40%、作品完成度40%、実習受講の積極性20%によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」 Ⅰ～Ⅳ　社団法人　日本漆工協会編 「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂
履修上の注意	作業に使用する蒔絵筆などの道具の手入れを日常行うこと。また、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「芸術導入実習」

講義コード	3360027
講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（デザイン）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授　氏名：◎津村　健一　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師　氏名：岡　達也　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・精密な複製と大量生産の技術を習得する。 ・制作物の表面処理の自由度を拡大する。
授業概要	生産性に優れた合成化学素材による様々な造形技術を習得するとともに、合成化学素材の問題点である材質的存在感の希薄さを配合充填剤によって解消する実験を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　握るかたち：アイデアスケッチ 第２回　握るかたち：１次原型作成 第３回　握るかたち：１次原型作成 第４回　握るかたち：１次原型作成 第５回　握るかたち：型取り（石膏） 第６回　握るかたち：２次原型作成 第７回　握るかたち：２次原型作成 第８回　握るかたち：２次原型作成 第９回　握るかたち：型取り（シリコン） 第10回　握るかたち：型取り（シリコン） 第11回　握るかたち：配合充填剤の実験 第12回　握るかたち：成型、修正 第13回　握るかたち：表面処理 第14回　握るかたち：表面処理 第15回　合評会：
成績評価	課題制作の完成度によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意	授業中には必ず作業着を着用すること。 薬品の使用に際しては指定された分量を厳守すること。
予習・復習指導	特になし
関連科目	工芸デザイン基礎実習Ⅰ

講義コード	3360028
講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（文化財）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授　氏名：◎小林　泰弘　所属：KYOBI　工芸学部
到達目標	文化財の基礎として模刻を行い時代による形状の相違を学び、古典技法を体験し、文化財の幅広い知識と技術を習得し、理解を深めます。
授業概要	古典技法を体験し、素材・技法・構造等を見極める観察力を身に着け、『ものづくり』における知恵と心を学びます。造形の基本を学び、観察力を養い、文化財の調査や修復の理念を習得します。 また文化財の宝庫である京都という地の利を生かし社寺等を見学し、文化財の環境等、文化財を総合的に理解し、観光資源としての文化財の在り方も学びます。
授業計画 授業内容	全15週 講義については随時状況を見て行う 第１週　オリエンテーション・　道具作りを通して材料の特性を学ぶ 第２週　模刻　連弁　調査・採寸・作図 第３週　模刻　連弁　型紙製作 第４週　模刻　連弁　型紙製作 第５週　模刻　連弁　木取（寺院見学等のフィールドワーク） 第６週　模刻　連弁　木取 第７週　模刻　連弁　荒取り 第８週　模刻　連弁　荒取り 第９週　模刻　連弁　小作り 第10週　模刻　連弁　小作り 第11週　模刻　連弁　小作り 第12週　模刻　連弁　仕上げ 第13週　模刻　連弁　仕上げ 第14週　模刻　連弁　仕上げ 第15週　総評
成績評価	実習中の態度、習得度、提出作品等を基本に、総合的に判断する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	観心寺　如意輪観音関係の書籍
履修上の注意	健康管理に留意し、道具・材料の安全な取り扱いを徹底すること。 文化財を汚したり傷つけることのないように常に心掛けること。
予習・復習指導	刃物は切れるように研いでおくこと。 一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	

講義コード	3360029
講義名	専門実習Ⅰ（木工・彫刻）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：講師／氏名：◎ 青木　太一／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師／氏名：玉村　嘉章／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・各種道具（印刀・丸刀）の使用方法、研ぎ方の習得を深める。 ・基礎的な立体造形表現と技法を習得する。 ・刳物の基本的な技法を習得する。 ・拭漆の基本的な技法を習得する。
授業概要	ここでは本格的な立体彫刻制作に取り組む。本実習では、伝統彫刻技法を駆使しながら木彫刻の基本造形となる課題で木彫刻彫像を完成させる。刳物による器物の制作を通して適切な木取り法を理解し、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。作品は基本的な自然塗装である拭漆で仕上げる。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　刳物についての講義と作品考案・図面制作　丸のみの仕立て・研ぎ 第２週　盆制作 荒彫り 第３週　中仕上げ①（鍛鑿） 第４週　中仕上げ②（豆鉋） 第５週　仕上げ① 第６週　仕上げ② 第７週　拭漆についての説明　拭漆① 第８週　拭漆② 第９週　見本となるモデリングをもとに、材への作図の転写、木取り、 第10週　材への作図の転写、木取り、 第11週　材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第12週　荒取り工程　中取り工程 第13週　中取り工程、小造り行程 第14週　小造り行程、仕上げ彫り工程 第15週　仕上げ彫り行程から完成へ、講評・総括
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	丸尾 彰三郎　水野敬三郎著『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版）近藤豊著『古建築装飾文様集成　草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）」

講義コード	3360030
講義名	専門実習Ⅰ（陶芸）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授　氏名：◎浅見　武　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師　氏名：小野多美枝　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	明治期導入された西欧の化学的な陶磁器製造技術の基本的な知識とその調製法の習得を目標とする。磁器坏土を用いた大物ろくろ成形技法の習得と、土石色釉薬を用いた陶磁器製造技法、低火度釉・いっちん技法を用いた交趾焼技法及び、耐熱素地を用いた中火度陶器の製造技術の習得を目標とする。
授業概要	土石合わせ色釉薬を用いた高火度陶磁器技術・市販無鉛フリットを用いた低火度陶器・中火度陶器技術について実習する。これらの素材を用い、磁器坏土を用いた大物ろくろ基礎成形技法・いっちん技法加飾技法を習得する。また土鍋製作をとおして耐熱素地・中火度陶器技法を習得する。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　課題説明・ロクロ成形（酒器揃［徳利・盃］：道具作り／水挽き 第２週　成形実習（ロクロ成形［酒器揃］）：水挽き 第３週　成形実習（ロクロ成形［酒器揃］）：水挽き 第４週　成形実習（ロクロ成形［酒器揃］）：削り 第５週　成形実習（ロクロ成形［大皿］）：道具作成・水挽き 第６週　成形実習（ロクロ成形［大皿］）：水挽き・中火度釉調製 第７週　成形実習（ロクロ成形［大皿］）：水挽き 第８週　成形実習（ロクロ成形［大皿］）：削り　　素焼焼成実習 第９週　成形実習（ロクロ成形［土鍋］）：水挽き・中火度製品化 第10週　成形実習（ロクロ成形［土鍋］）：削り・仕上げ） 第11週　加飾実習（大皿）：いっちん・影青 第12週　京薩摩金襴手技法（酒器揃） 第13週　加飾実習（大皿）：いっちん彩色　本焼焼成実習（ＯＦ・RF） 第14週　加飾実習（大皿）：上絵付　上絵付焼成実習 第15週　成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度 30%・技術習得 30%・レポートと作品完成度 40% により総合的に評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	日本陶磁大系(平凡社)　やきものと釉薬―基本的な考え方(理工学社)［その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜資料を紹介する。］
履修上の注意	美術工芸書籍により明治期の陶磁器作品・技法の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	技法習得のために実習時間外を利用し反復練習に励むこと。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（陶芸）」「色彩理論演習」

講義コード	3360032
講義名	専門実習Ⅰ（漆芸）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：講師　氏名：◎遠藤　公誉　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	蒔絵３技法と螺鈿（厚貝）技法の習得を目指す。前期よりも難易度の高い蒔絵技法や螺鈿技法に用いる素材及び道具類の取り扱いも課題制作を通じ習得し、高度な加飾技法の習得を目標とする。
授業概要	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ」において学んだ線描き蒔絵の技法よりも、更に高度な技法である蒔絵の代表的な３技法（平蒔絵・高上蒔絵・研出蒔絵）及び螺鈿技法を習得する。１年次で制作した呂色の手板を蒔絵を施す器物として用いる。図案のデザインについては基本形のものを課題として複数設定、準備しているため、自身での考案は行わないものとする。
授業計画 授業内容	全30日／週２日（遠藤：２日／週） 第１週　準備作業１：本科目の概要説明　各技法置目作成 第２週　蒔絵作業１：研ぎ出し蒔絵粉入れ・高蒔絵炭粉上げ 螺鈿作業１：厚貝切り出し 第３週　蒔絵作業２：研ぎ出し蒔絵粉入れ・高蒔絵炭粉上げ研ぎ 螺鈿作業２：厚貝ヤスリがけ 第４週　蒔絵作業３：研ぎ出し蒔絵固め　高蒔絵炭粉上げ 螺鈿作業３：彫り込み、貼り付け 第５週　蒔絵作業４：研ぎ出し蒔絵固め　高蒔絵炭粉上げ研ぎ 螺鈿作業４：隙間繕い 第６週　蒔絵作業５：研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、固め　高蒔絵高上げ漆塗り込み 螺鈿作業５：括り 第７週　蒔絵作業６：高蒔絵高上げ漆塗り込み、再塗り込み 螺鈿作業６：中塗り 第８週　蒔絵作業７：研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、胴摺り　高蒔絵高上げ漆塗り込み研ぎ、胴摺り 螺鈿作業７：中塗り研ぎ、中塗り 第９週　蒔絵作業８：研ぎ出し蒔絵粉入れ　高蒔絵粉入れ 螺鈿作業８：中塗り研ぎ、上塗り 第10週　蒔絵作業９：研ぎ出し蒔絵固め　高蒔絵固め 螺鈿作業９：上塗り研ぎ、胴摺り 第11週　蒔絵作業10：研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、胴摺り　平蒔絵粉入れ　高蒔絵胴摺り 螺鈿作業10：上摺り、呂色磨き 第12週　蒔絵作業11：平蒔絵固め、胴摺り、粉入れ 第13週　蒔絵作業12：平蒔絵固め、胴摺り 螺鈿作業11：厚貝面取り、胴摺り 第14週　蒔絵作業13：高蒔絵・平蒔絵・研ぎ出し蒔絵毛打ち粉入れ 第15週　蒔絵作業14：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵・平蒔絵・毛打ち固め、仕上げ磨き 螺鈿作業12：厚貝貼り付け 蒔絵・螺鈿作業完成確認、総括
成績評価	技術の習得度40%、作品完成度40%、実習受講の積極性20%によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」　Ⅰ～Ⅳ　社団法人　日本漆工協会編　「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂
履修上の注意	作業に使用する蒔絵筆などの道具の手入れを日常行うこと。また、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ」

講義コード	3360033
講義名	専門実習Ⅰ（デザイン）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授 ／ 氏名：◎ 中井川正道 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：特任教授 ／ 安藤　眞吾 ／ ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	ウインドウディスプレイの機能を理解した上で、架空の「自分のブランド」での空間提案に連動したビジュアルデザインも制作し、そのプロセスを体験することで、ディスプレイデザインの社会での機能を理解する。
授業概要	ディスプレイデザインとは全体の要素を集約し、アートの表現、グラフィックの表現、立体の造形制作など､それらあらゆる要素を集約しコンセプトを表現することである｡本授業では､ウインドウディスプレイのデザイン企画を行う。実際にウインドウディスプレイのリサーチから実例への理解を踏まえ、架空の「自分ブランド」によるデザインプロセスを体験する。
授業計画 授業内容	全15回/ 週２日 第１週　オリエンテーション スライド（ディスプレイデザインとは） 第２週　ウインドウディスプレイ事例調査 学外調査（スケッチ、写真） 第３週　ウインドウディスプレイ事例発表 調査レポート提出 第４週　デザインコンセプト作成 第５週　デザインコンセプト作成 デザインコンセプト提出 第６週　アイデアスケッチ作成 第７週　アイデアスケッチ発表 アイデアスケッチ提出 第８週　デザインスケッチの図面化 第９週　デザインスケッチの図面化 図面提出 第10週　スケールモデル制作 第11週　スケールモデル制作 第12週　スケールモデル制作 第13週　プレゼンパネル制作 第14週　プレゼンパネル制作 第15週　合評会
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
関連科目	「専門実習Ⅱ（デザイン）」

講義コード	3360034
講義名	専門実習Ⅰ（文化財）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	2
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授／氏名：◎ 小林　泰弘／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師／氏名：藤岡　春樹／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師／氏名：亀井　珠生／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師／氏名：田川新一朗／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	文化財の基礎として模刻を行い時代による形状の相違を学び、古典技法を体験し、文化財の幅広い知識と技術を習得し、理解を深めます。
授業概要	古典技法を体験し、素材・技法・構造等を見極める観察力を身に着け、『ものづくり』における知恵と心を学びます。平安初期の立体物への彩色技法を学び、観察力を養い、文化財の調査や修復の理念を習得します。 文化財を総合的に理解し、観光資源としての文化財の在り方も学びます。
授業計画 授業内容	全15週 講義については随時状況を見て行う 第１週　オリエンテーション・道具作りを通して材料の特性を学ぶ 第２週　模刻　連弁　木地固め 第３週　模刻　連弁　胡粉下地 第４週　模刻　連弁　胡粉下地・下絵骨書 第５週　模刻　連弁　胡粉下地・下絵骨書（寺院見学等のフィールドワーク） 第６週　模刻　連弁　胡粉下地・下絵骨書 第７週　模刻　連弁　胡粉下地・下絵骨書 第８週　模刻　連弁　彩色（箔押し） 第９週　模刻　連弁　彩色 第10週　模刻　連弁　彩色 第11週　模刻　連弁　彩色 第12週　模刻　連弁　彩色 第13週　模刻　連弁　彩色 第14週　模刻　連弁　彩色 第15週　総評
成績評価	実習中の態度、習得度、提出作品等を基本に、総合的に判断する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	観心寺　如意輪観音関係の書籍
履修上の注意	健康管理に留意し、道具・材料の安全な取り扱いを徹底すること。 文化財を汚したり傷つけることのないように常に心掛けること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。授業中は、常に『作業記録』『作品の観察記録』を取り、扱っている作品の状態を把握すること。記録情報は、作業メンバーで共有すること。
関連科目	「文化財保存概論」「文化財修理論」等の講義系科目

講義コード	3360035
講義名	専門実習Ⅱ（木工・彫刻）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	3
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授／氏名：◎宮本　貞治／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師／氏名：青木　太一／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師／氏名：玉村　嘉章／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師／氏名：江元　遥／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・抽斗付棚制作の全体過程を習得する。 ・より高度で専門的な拭漆の技法を習得する。 ・木の特性について理解を深める。
授業概要	今までに学んだ技術をベースに指物作品を制作する。制作する作品は抽斗付小棚とし、図面引き、木取りを通して、板材から作品となるまでの全体過程を習得する。完成した作品には仕上げとして、拭漆塗りを行う。また、最後に装飾金物の取付指導を行う。加工をとおして、材料の反りが発生する可能性がある。その対処方法を学ぶことで木材特性をさらに習得することにつなげる。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　授業の概要と進め方・作品考案　作品考案・図面作成 第２週　割り付け・木取り・小割・小作り（鉋がけ等）　小作り①（鉋がけ・寸法切り） 第３週　小作り②（鉋がけ・寸法切り）　小作り③（鉋がけ・寸法切り） 第４週　仕口加工① 第５週　仕口加工② 第６週　仕口加工③ 第７週　仕口加工④ 第８週　仮組・部材調整　成形① 第９週　成形② 第10週　拭漆① 第11週　拭漆② 第12週　拭漆③ 第13週　拭漆④ 第14週　拭漆⑤ 第15週　組上げ　合評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	図解木工の継手と仕口（理工学社　1987）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	特になし (特記事項)実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。
関連科目	「専門実習Ⅰ（木工・彫刻）」「伝統工芸産業工学」「工芸経営論」

講義コード	3360036
講義名	専門実習Ⅱ（陶芸）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	3
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授　氏名：◎浅見　武　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	中国・韓国・日本の伝統的な高火度陶磁器の製造技術について技術的な習得を目的とする。文化財として継承されている伝統的な陶磁器の製造技術と化学的な陶磁器の製造技術を比較し、色釉陶器の特質を理解し、さらにこれら素材を用いた加飾技術を習得することを目標とする。
授業概要	伝統釉（灰釉と土石釉）を調製し、文化財として継承されている陶磁器の比較検討を行う。磁器坏土を用いた複雑な形状のろくろ技法・磁器泥漿を用いた鋳込み成形技法の実習や各種色釉薬を用いた加飾技術の実習を行う。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　課題説明：テストピースの作成 第２週　成形実習（鋳込み成形［オリジナル作品］）：説明・図面作成・ミニアチュール作成 第３週　成形実習（鋳込み成形［オリジナル作品］）：原型作成 第４週　成形実習（鋳込み成形［オリジナル作品］）：原型仕上げ 第５週　成形実習（鋳込み成形［オリジナル作品］）：鋳込み型作成 第６週　伝統釉（鉄釉と銅釉）の調製 第７週　伝統釉（鉄釉と銅釉）の調製・施釉　　本焼焼成実習（OF） 第８週　伝統釉（鉄釉と銅釉）の施釉　　本焼焼成実習（RF） 第９週　成形実習（ロクロ成形［急須］）：図面作成・道具作成 第10週　成形実習（ロクロ成形［急須］）：水挽き 第11週　成形実習（ロクロ成形［急須］）：水挽き 第12週　成形実習（ロクロ成形［急須］）：削り 第13週　成形実習（ロクロ成形［急須］）：削り・仕上げ 第14週　鉄釉と銅釉の製品化（天目碗・黄瀬戸・織部向付けの制作）本焼焼成実習（OF・RF） 第15週　製品化の講評とレポート提出 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度 30%・技術習得 30%・レポートと作品完成度 40% により総合的に評価する。
教科書	伝統釉プリントおよび必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	釉調合の基本（改訂版）（加藤悦三著）窯技社　［必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する。］
履修上の注意	実習を始めるまでに、現在伝承している陶磁器の釉薬や素地、焼成などを調査しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	技法習得のために実習時間外を利用し反復練習に励むこと。
関連科目	「専門実習Ⅰ（陶芸）」「伝統工芸産業工学」

講義コード	3360038
講義名	専門実習Ⅱ（漆芸）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	3
必修選択区分	必修
担当教員	職種：講師　氏名：◎遠藤　公誉　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	髹漆技法の内、乾漆のデザイン・素地制作、挽物木地の下地の工程を通じて、工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（漆芸）の習得内容を応用し、更に高い次元の技術の習得を目指す。
授業概要	これまでの実習において習得した髹漆の技法を発展させるため、より難易度の高い課題を設定する。本実習では、下地・塗りの分野である髹漆においてより高度で応用的な技法である乾漆の胎の制作方法並びに挽物の下地を習得するが、乾漆については作品のデザインも自身で行うため、立体の造形についても習得する。
授業計画 授業内容	全30日／週2日（遠藤：2日／週） 第1週　本科目の概要説明　乾漆1：デザイン・原型成形　挽物1：木地固め 第2週　乾漆2：原型成形　挽物2：木地固め研ぎ・目止め 第3週　乾漆3：原型成形　挽物3：目止め研ぎ・布着せ 第4週　乾漆4：原型成形　挽物4：布目揃え・目摺り錆 第5週　乾漆5：布着せ1回目　挽物5：目摺り錆研ぎ・地付け 第6週　乾漆6：布目揃え・目摺り錆　挽物6：つまみ砥石合わせ・地研ぎ・地付け 第7週　乾漆7：目摺り錆研ぎ・布着せ2回目　挽物7：地研ぎ・括り錆 第8週　乾漆8：布目揃え・目摺り錆　挽物8：括り錆研ぎ・錆付け 第9週　乾漆9：目摺り錆研ぎ・布着せ3回目　挽物9：錆研ぎ・錆付け 第10週　乾漆10：布目揃え・目摺り錆　挽物10：錆研ぎ・錆付け 第11週　乾漆11：目摺り錆研ぎ・布着せ4回目　挽物11：錆研ぎ・錆付け 第12週　乾漆12：布目揃え・目摺り錆　挽物12：錆研ぎ・繕い錆 第13週　乾漆13：目摺り錆研ぎ・布着せ5回目　挽物13：繕い錆研ぎ・繕い錆 第14週　乾漆14：布目揃え・目摺り錆　挽物14：錆仕上げ研ぎ 第15週　乾漆15：目摺り錆研ぎ　布胎工程完了　挽物15：面取り・仕上げ固め　下地工程完了
成績評価	技術の習得度40%、作品完成度40%、実習受講の積極性20%によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」 Ⅰ～Ⅳ　社団法人　日本漆工協会編 「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂
履修上の注意	作業に使用する小刀・ヘラ木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。また、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「伝統工芸産業工学」「芸術導入実習」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」

講義コード	3360039
講義名	専門実習Ⅱ（デザイン）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	3
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授／氏名：◎ 中井川正道／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：特任教授／氏名：安藤　眞吾／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：助教／氏名：木村　奈保／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	平面系（グラフィック）、立体系（プロダクト）、空間系（インテリア）の企画・立案する力を身につける。実際的な表現方法を学び、デザインプロセスにおける一連の流れを推進できる力をつける。
授業概要	本授業は、「専門実習Ⅰ」で学んだ課題内容から、興味を持つことができた、平面系（グラフィック）、立体系（プロダクト）、空間系（インテリア）の３テーマの課題の選択制の実習とする。
授業計画 授業内容	全15回/ 週２日 第１週　オリエンテーション 第２週　企画・アイデア発想手法演習 第３週　市場調査、情報収集及び分析 第４週　デザイン企画（アイデア抽出） 第５週　デザイン企画（コンセプトの検討） 第６週　デザイン企画（デザイン検討） 第７週　デザイン企画（設計作業） 第８週　中間講評、合評会 第９週　デザイン計画（コンセプトの再検討） 第10週　デザイン計画（実施設計） 第11週　デザイン計画（試作、モデリング） 第12週　試作によるユーザー調査 第13週　デザイン計画（ブランディング） 第14週　デザイン計画（商品 PR、販売検討） 第15週　課題総括、総合合評
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「専門実習Ⅰ（デザイン）」

講義コード	3360040
講義名	専門実習Ⅱ（文化財）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	3
必修選択区分	必修
担当教員	職種：氏名：所属 教授：◎小林　泰弘：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 非常勤講師：高橋　利明：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 非常勤講師：藤岡　春樹：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 非常勤講師：亀井　珠生：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	時代的な表現・材質・そのために確立された各工程の方法と技術の基本を習得して、材料の変化に対応した修理技術と表現法の変遷を学ぶことで、文化財修理の本質を理解するとともに、報告書作成のノウハウを学ぶ。また共同作業を通して連携作業を学ぶ。
授業概要	現在の文化財修理の理念を学び、修理の全工程を実習するとともに、それに不可欠な、さまざまな材料を用いた文化財修理に必要な技法を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15週 講義については随時状況を見て行う 第１週　入・ガイダンス 第２週　文化財（仏像）の調書作成。（保存状態調査・写真撮影法）木彫像の修理事例研究。 第３週　文化財（仏像）の調書作成。（保存状態調査・写真撮影法）木彫像の修理事例研究。 第４週　修理仕様書作成。江戸期の像造事例研究。技法研究（接着・木材加工） 第５週　クリーニング法。剥落止め（材料選択、テストピース作成、実験）合成樹脂研究 第６週　クリーニング法。剥落止め 第７週　クリーニング法。剥落止め 第８週　解体作業の注意　接着剤除去方法 第９週　解体作業 第10週　解体写真撮影法。調査・採寸・作図 第11週　材質補強（材料選択、テストピース作成、実験）合成樹脂研究 第12週　材質補強（材料選択、テストピース作成、実験）合成樹脂研究 第13週　組み立て（材料選択、試作） 第14週　組み立て（材料選択、試作） 第15週　総評
成績評価	実習中の態度、習得度、提出作品等を基本に、総合的に判断する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	修復の理論・美術院紀要・文化財修理報告書（楽浪文化財修理所）など
履修上の注意	健康管理に留意し、道具・材料の安全な取り扱いを徹底すること。 文化財を汚したり傷つけることのないように常に心掛けること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。授業中は、常に『作業記録』『作品の観察記録』を取り、扱っている作品の状態を把握すること。記録情報は、作業メンバーで共有すること。
関連科目	「文化財保存概論」「文化財修理論」等の講義系科目

講義コード	3360041
講義名	専門実習Ⅲ（木工・彫刻）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	3
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎宮本　貞治　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師　氏名：青木　太一　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師　氏名：玉村　嘉章　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・椅子・テーブルの構造について理解する。 ・より高度で精密な加工技術を習得する。 ・塗装技法をより向上させる。
授業概要	椅子を制作する。複数の椅子のデザイン計画、設計をした上で、1／5サイズで模型を制作するなどしてそれぞれの寸法の妥当性を検討する。作品としての問題点を抽出し、解決に向けての模索を通しより良い作品を制作するセンスを養う。その後、原寸サイズの椅子の制作を行い、より複雑な木工立体加工技術を修得する。また、ペーパーコード、ウレタン等による座面、椅子張りの概要についても学ぶ。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　授業の概要と進め方・作品考案　作品考案・図面作成 第２週　割り付け・木取り・小割・小作り（鉋がけ等）　小作り①（鉋がけ・寸法切り） 第３週　小作り②（鉋がけ・寸法切り）　小作り③（鉋がけ・寸法切り） 第４週　仕口加工① 第５週　仕口加工② 第６週　仕口加工③ 第７週　仮組・部材調整 第８週　成形、仕上げ① 第９週　成形、仕上げ② 第10週　成形、仕上げ③ 第11週　成形、仕上げ④ 第12週　組上げ、調整接着① 第13週　組上げ、調整接着② 第14週　塗装 第15週　最終調整・合評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	椅子と日本人のからだ（矢田部英正　晶文社　2003）、1000chairs（Taschen America2000）　日本の木の椅子（商店建築社　1996）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	特になし (特記事項)実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。
関連科目	「専門実習Ⅱ（木工・彫刻）」「伝統工芸産業工学」「工芸経営論」

講義コード	3360042
講義名	専門実習Ⅲ（陶芸）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	3
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授　氏名：◎浅見　武　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	上絵付技法について、文化財として継承されている伝統的な陶磁器の製造技術と化学的な陶磁器の製造技術を比較し、低火度絵具色彩調製技術を習得することを目的とする。また陶磁器の特質を理解していくとともにあらゆる石膏型成形技法を習得し、その素材を用いた加飾技術を習得することを目標とする。
授業概要	陶磁器坏土を用いた低火度・中火度・高火度陶磁器の製造技術として複雑な形状の石膏型成形技法の実習を行う。無鉛フリットによる低火度絵具色彩調製、中火度釉薬調製実習を行ない、低火度・中火度焼成技術について実習を行う。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　低火度絵具調製（京無鉛楽フリットベースの調製）：テストピース作成 第２週　低火度絵具調製（京無鉛楽フリットベースの調製）：基礎調製 第３週　低火度絵具調製（京無鉛楽フリットベースの調製）：絵具調製 第４週　低火度絵具調製（京無鉛楽フリットベースの調製）：絵付け・低火度焼成実習 第５週　成形実習（鋳込み成形）：泥漿調製 第６週　成形実習（鋳込み成形）：鋳込み 第７週　成形実習（鋳込み成形）：鋳込み 第８週　高火度釉・低火度釉（オリジナル調製テスト） 第９週　高火度釉・低火度釉（オリジナル調製テスト） 第10週　成形実習（押し型成形［蓋物］）：図面作成・石膏型作成 第11週　成形実習（押し型成形［蓋物］）：押し型 第12週　成形実習（押し型成形［蓋物］）：削り仕上げ 第13週　高火度釉・低火度釉（オリジナル調製テスト）の施釉［蓋物］：製品化 第14週　高火度釉・低火度釉（オリジナル調製テスト）の施釉［蓋物］：製品化 第15週　製品化の講評とレポート提出 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度 30%・技術習得 30%・レポートと作品完成度 40% により総合的に評価する。
教科書	伝統釉プリントおよび必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	釉調合の基本（改訂版）（加藤悦三著）窯技社　［必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する。］
履修上の注意	実習を始めるまでに、現在伝承している陶磁器の釉薬や素地、焼成などを調査しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。 整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	技法習得のために実習時間外を利用し反復練習に励むこと。
関連科目	「専門実習Ⅱ（陶芸）」「伝統工芸産業工学」

講義コード	3360044
講義名	専門実習Ⅲ（漆芸）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	3
必修選択区分	必修
担当教員	職種：講師　氏名：◎遠藤　公誉　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	鞣漆技法の内、乾漆の下地・塗りの工程及び挽物木地の塗りの作業工程を通じて、工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（漆芸）の習得内容を応用しつつ更に高い次元の鞣漆技術の習得を目指す。
授業概要	専門実習Ⅱを引き継ぐ形で、課題作品である乾漆の下地と塗りの工程、並びに挽物の塗りの工程を通じてそれぞれの技術を習得する。作品は無地の状態での仕上げを目指し、４年次前期での加飾に備える。本実習でも専門実習Ⅱと同様、下地・塗りの分野である鞣漆においてより高度で応用的な技法を習得する。
授業計画 授業内容	全30日／週２日（遠藤：２日／週） 第１週　本科目の概要説明　乾漆１：外側地付け　挽物１：捨て中塗り 第２週　乾漆２：外側地研ぎ・地付け　挽物２：捨て中塗り 第３週　乾漆３：外側地研ぎ・地付け　挽物３：捨て中塗り研ぎ・中塗り 第４週　乾漆４：外側地研ぎ・錆付け　挽物４：中塗り 第５週　乾漆５：外側錆研ぎ・錆付け　挽物５：中塗り 第６週　乾漆６：外側錆研ぎ・錆付け　挽物６：中塗り研ぎ 第７週　乾漆７：外側錆研ぎ・原型除去　挽物７：上塗り 第８週　乾漆８：内側地付け　挽物８：上塗り 第９週　乾漆９：内側地研ぎ・地付け　挽物９：呂色研ぎ 第10週　乾漆10：内側地研ぎ・錆付け　挽物10：呂色研ぎ 第11週　乾漆11：内側錆研ぎ・錆付け　挽物11：胴摺り 第12週　乾漆12：内側錆研ぎ・錆付け　挽物12：胴摺り 第13週　乾漆13：内側錆研ぎ・捨て中塗り　挽物13：上摺り・呂色磨き 第14週　乾漆14：捨て中塗り研ぎ・中塗り　挽物14：上摺り・呂色磨き 第15週　乾漆15：中塗り研ぎ・上塗り　工程完了　挽物15：上摺り・呂色磨き　工程完了 それぞれの技法について総括を行う
成績評価	技術の習得度40%、作品完成度40%、実習受講の積極性20%によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」　Ⅰ～Ⅳ　社団法人　日本漆工協会編　「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂
履修上の注意	作業に使用する小刀・ヘラ木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。また、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「伝統工芸産業工学」「芸術導入実習」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」

講義コード	3360045
講義名	専門実習Ⅲ（デザイン）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	3
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授 ／ 氏名：◎ 中井川正道 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：特任教授 ／ 氏名：安藤　眞吾 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：助教 ／ 氏名：木村　奈保 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・実践的な市場調査を体験し、情報収集力や分析力を身につける。 ・商品開発における企画・立案する力を身につける。 ・開発プロセスにおける一連の流れを推進できる力をつける。
授業概要	開発プロセスの重要性を認識しその方法について学ぶため、独自テーマを設定して作品を試作する。開発テーマの設定にあたっては、実践的な市場調査・分析手法を学び、情報収集に努めるものとする。試作演習では企画立案・アイデア発想の応用演習としてとらえ、開発の流れを体得するものである。
授業計画 授業内容	全15回/ 週２日 第１週　オリエンテーション 第２週　企画・アイデア発想手法演習 第３週　市場調査、情報収集及び分析 第４週　商品企画（アイデア抽出） 第５週　商品企画（コンセプトの検討） 第６週　商品企画（デザイン検討） 第７週　商品企画（設計作業） 第８週　中間講評、合評会 第９週　商品計画（コンセプトの再検討） 第10週　商品計画（実施設計） 第11週　商品計画（試作、モデリング） 第12週　試作によるユーザー調査 第13週　商品計画（ブランディング） 第14週　商品計画（商品 PR、販売検討） 第15週　課題総括、総合合評
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「専門実習Ⅱ（デザイン）」

講義コード	3360046
講義名	専門実習Ⅲ（文化財）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	3
必修選択区分	必修
担当教員	<table><tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr><tr><td>教授</td><td>◎ 小林　泰弘</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr><tr><td>非常勤講師</td><td>高橋　利明</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr></table>
到達目標	時代的な表現・材質・そのために確立された各工程の方法と技術の基本を習得して、材料の変化に対応した修理技術と表現法の変遷を学ぶことで、文化財修理の本質を理解するとともに、報告書作成のノウハウを学ぶ。
授業概要	現在の文化財修理の理念を学び、修理の全工程を実習するとともに、それに不可欠な、さまざまな材料を用いた文化財修理に必要な技法を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　組立 第２週　組立 第３週　組立 第４週　接ぎ目処理（材料選択、テストピース作成、実験） 第５週　接ぎ目処理（材料選択、テストピース作成、実験） 第６週　接ぎ目処理（材料選択、テストピース作成、実験） 第７週　接ぎ目処理（材料選択、テストピース作成、実験） 第８週　漆箔・彩色（材料選択） 第９週　漆箔・彩色（材料選択） 第10週　漆箔・彩色（材料選択） 第11週　漆箔・彩色（材料選択） 第12週　修理記録（報告書）作成　完成写真撮影法　作図、採寸 第13週　修理記録（報告書）作成　完成写真撮影法　作図、採寸 第14週　修理記録（報告書）作成　完成写真撮影法　作図、採寸 第15週　総評　現地納入
成績評価	実習中の態度、習得度、レポート等を基本に、総合的に判断する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	
履修上の注意	健康管理に留意し、道具・材料の安全な取り扱いを徹底すること。 文化財を汚したり傷つけることのないように常に心掛けること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。授業中は、常に『作業記録』『作品の観察記録』を取り、扱っている作品の状態を把握すること。記録情報は、作業メンバーで共有すること。
関連科目	「文化財保存概論」「文化財修理論」等の講義系科目

講義コード	3370101
講義名	卒業制作研究（木工）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	4
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	4
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎宮本　貞治　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師　氏名：玉村　嘉章　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・工芸品に対する美意識をより深いものとする。 ・卒業作品の具体的な設計と材料の準備をする。 ・塗装技法をより向上させる。
授業概要	今までに修得してきた三次元的な木工加工技術を用いて作品制作を行う。そしてより工芸品に対する美的感覚を習得する。ここでは、「小さな空間に技と美を収斂する上で大切なことは何なのか」を作品制作を通して体得することを目標とする。また同時に卒業作品の設計と、使用する材料の乾燥養生を並行して行う。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　図面作成①（指物・刳物・挽物いずれも可） 第２週　板材への墨付け・木割作業 第３週　部材加工：鋸による粗取り 第４週　部材加工：各部材の鉋がけ① 第５週　部材加工：各部材の鉋がけ② 第６週　部材加工：仕口加工① 第７週　部材加工：仕口加工② 第８週　部材加工：仕口加工③ 第９週　卒業制作プレゼンテーション① 第10週　部材組立 第11週　拭漆作業 第12週　卒業制作設計図作成 第13週　卒業制作プレゼンテーション② 第14週　拭漆作業 第15週　全体講評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	木工大図鑑（講談社　2008）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	特になし (特記事項)実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。
関連科目	「専門実習Ⅲ（木工)」

講義コード	3370201
講義名	卒業制作研究（陶芸）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	4
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	4
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授　氏名：◎浅見　武　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	これまでに習得した陶磁器製造技術は日本の長い歴史の伝統の中で切磋琢磨されてきた技術であり、各時代でさらに展開し、新しい技術・考え方を導入し、衣食住の文化を考慮した工芸製品の作成を目標に、新しい釉薬・素地・成型技術・加飾技法を考察し、進化してきた。卒業制作研究では、これまでに就学したことをふまえ、現在の新素材や新技術を取り入れ、これまでにない新しい文化的要素・意匠・用途・新たな価値観を考え、さらに進化する伝統工芸品の作成に向け、卒業制作研究することを目標とする。
授業概要	陶芸実習の三年間で培った素材研究・成形研究・加飾研究・焼成研究を基礎として、各自の卒業制作テーマに向けて更なる研究を行う。
授業計画 授業内容	全15週 第１週　制作テーマの設定・ミーティング（担当職員と随時） 第２週　制作テーマ検討（素地のテストピースの作成） 第３週　素地のテストピースの作成 第４週　素地のテストピースの作成・素焼き 第５週　技法実習Ⅰ（加飾技法の検討：選択と応用検討）　実施計画 第６週　技法実習Ⅱ（加飾技法の検討：選択と応用検討）　テストピースによる検討 第７週　技法実習Ⅲ（焼成技法の検討：選択と応用検討）　焼成と評価 第８週　技法実習Ⅳ（素材技法の検討：選択と応用検討）　エスキースによる検討 第９週　技法実習Ⅴ（加飾技法の検討：選択と応用検討）　エスキースによる検討 第10週　技法実習Ⅵ（焼成技法の検討：焼成技法の選択と応用検討）　焼成・評価 第11週　技法実習Ⅶ　試作品制作実習 第12週　技法実習Ⅷ　試作品制作実習 第13週　技法実習Ⅸ　試作品制作実習 第14週　技法実習Ⅹ　試作品制作実習・レポートまとめ 第15週　試作品講評・レポート提出（担当教員による評価） ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度 30%・技術習得 30%・レポートと作品完成度 40% により総合的に評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	釉調合の基本（改訂版）（加藤悦三著）窯技社　［必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する。］
履修上の注意	専門実習Ⅱ・Ⅲ（陶芸）で確立した素地技術・成形技術、加飾技術、焼成技術を応用する。
予習・復習指導	特になし （特記事項）習得した素材・成形・加飾・焼成を卒業制作に活かせるために更なる研究に励むこと。
関連科目	「専門実習Ⅱ（陶芸）」「専門実習Ⅲ（陶芸）」

講義コード	3370301
講義名	卒業制作研究（彫刻）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	4
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	4
必修選択区分	必修
担当教員	職種：講師 ／ 氏名：◎ 青木　太一 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師 ／ 氏名：中岡　　功 ／ 所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・木彫刻技法・木彫刻のプロセス（彫り進め方）について理解を深める。 ・適切な道具の使い方（適材適所での各道具の使用）に習熟する。 ・卒業作品の構想をして木材料の準備をする。
授業概要	これまでに学んだ仏像彫刻、木彫刻彫像の技法の集大成として、今までの課題作品よりも大きな木彫刻を制作する。後期からの卒業制作に向けて材料の選択及び技法など卒業作品制作のプロセスを研究し確立させる。
授業計画 授業内容	全30日／週2日（青木：2日 中岡：1日／週） 第1週　木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い製作 第2週　木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い製作 第3週　木彫刻の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第4週　材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第5週　荒取り工程 第6週　荒取り工程、中取り工程 第7週　中取り工程 第8週　中取り工程 第9週　中取り工程、小造り工程 第10週　小造り工程 第11週　小造り工程 第12週　小造り工程、仕上げ工程 第13週　仕上げ工程 第14週　仕上げ工程 第15週　講評、卒業制作構想発表
成績評価	履修態度30%、技術習得度30%作品完成度40%によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	太田古朴著『仏像彫刻技法』（綜芸舎　1965）近藤豊著『古建築装飾文様集成　草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972）
履修上の注意	古社寺や美術館を訪れて実際の木彫刻作品を見学するなど、課外学習を積極的に行なうことが望ましい。制作する作品の資料を収集して準備し、十分に構想を練っておくこと。
予習・復習指導	特になし （特記事項）実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。
関連科目	専門実習Ⅱ（彫刻）

講義コード	3370401
講義名	卒業制作研究（漆芸）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	4
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	4
必修選択区分	必修
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎藤井　收　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	３年次通期に履修した伝統工芸専門実習Ⅱ（漆芸）を引き継ぐ形で、形態の異なる課題（乾漆）を完成させる。３年間履修した鬃漆の技法を結集して､漆芸全般の総合的な理解を目標に卒業制作（鬃漆）に挑む。
授業概要	専門実習Ⅱの課題である乾漆の完成を目指して作業し、鬃漆・加飾仕上げの選択肢と漆芸技法の総合的な理解と習得を目標とする。卒業制作作品のデザイン、技法について、作図と共に企画案を各自提出し、それを反映した作品を制作する。
授業計画 授業内容	全30日／週２日（藤井：２日／週） 第１週　卒制について：概要説明、乾漆作品の作業継続説明 第２週　作図１：作図及び製図、制作計画 第３週　作図２：作図及び製図、制作計画 第４週　作図３：作図及び製図、制作計画 第５週　乾漆作品完成作業１月：作業継続 第６週　乾漆作品完成作業２：作業継続 第７週　乾漆作品完成作業３：作業継続 第８週　乾漆作品完成作業４：作業継続 第９週　乾漆作品完成作業５：作業継続 第10週　乾漆作品完成作業６：作業継続 第11週　卒業制作研究１ 第12週　卒業制作研究２ 第13週　卒業制作研究３ 第14週　卒業制作研究４ 第15週　卒業制作研究５
成績評価	技術の習得度40%、作品完成度40%、レポート20%によって評価する。
教科書	必要に応じて、適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』１～４　　社団法人　日本漆工協会編
履修上の注意	課題作品の制作だけでなく、工程のレポートも作成するため、参考文献の読み込みなどにより、技法や素材の名称などを広範に且つ正確に認識しておく必要がある。
予習・復習指導	卒業制作に関わる情報を各自で収集し、十分対応出来るように予め準備すること
関連科目	「伝統工芸産業工学」「伝統工芸材料科学」「伝統文様」

講義コード	3370501
講義名	卒業制作研究（デザイン）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	4
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	4
必修選択区分	必修
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎安藤　眞吾　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：教授　氏名：中井川正道　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	・開発視点を明確にして、それを実践する能力を養う。 ・コンセプトやアイデア抽出、アピール方法等のノウハウを学ぶ。 ・エコロジーなどの社会的なデザインの関わりにも理解を深める。
授業概要	本科目は後期の「卒業制作」のための研究と位置づけ、各自で設定したテーマをどのようにトータルに進めることができるかを検討する。これまでに学んできた商品開発などの実習授業をさらに発展させ、市場やユーザー調査を実施して開発視点を明確にして総合的な実践授業とする。
授業計画 授業内容	全15回/ 週２日 第１週　オリエンテーション 第２週　市場調査・開発視点の検討 第３週　市場調査の実施 第４週　市場調査の分析、開発テーマの設定 第５週　コンセプトの検討、アイデア抽出 第６週　アイデア及びデザイン案の決定 / 検討会 第７週　図面制作 第８週　図面制作 第９週　試作、モデリング 第10週　試作、モデリング 第11週　関連グラフィックの検討（ロゴ、パッケージ等） 第12週　関連グラフィックの検討（ロゴ、パッケージ等） 第13週　コンセプトパネルの制作 第14週　コンセプトパネルの制作 第15週　合評会 / 総括
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「専門実習Ⅲ（デザイン）」

講義コード	3370601
講義名	卒業制作研究（文化財）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	4
科目分類名	専門教育科目
科目分野名	専門演習・実習科目
配当年次	4
必修選択区分	必修
担当教員	職種：教授／氏名：◎ 小林　泰弘／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：非常勤講師／氏名：田川新一朗／所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	これまで培ってきた実習成果をまとめ、卒業制作、卒業論文の研究課題を見つけ、卒業制作の第１歩を得る。
授業概要	これまで実習で培ってきた修復技術や古典技法などの実習成果の記録をまとめ、卒業制作・卒業論文に向けて材料、技法など試作研究を行う。
授業計画 授業内容	全15週／週２回 第１週　卒業制作準備　実習成果のまとめ 第２週　卒業制作準備　実習成果のまとめ 第３週　卒業制作準備　実習成果のまとめ 第４週　卒業制作準備　製作物・製作論文等のの調査・研究 第５週　卒業制作準備　製作物・製作論文等のの調査・研究 第６週　卒業制作準備　製作物・製作論文等のの調査・研究 第７週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第８週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第９週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第10週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第11週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第12週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第13週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第14週　卒業制作準備 第15週　総評
成績評価	実習中の態度、習得度、レポート等を基本に、総合的に判断する
教科書	
参考書 参考資料	
履修上の注意	専門書等の調査・研究を行う。復習を怠らないこと。
予習・復習指導	
関連科目	文化財専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが履修済みであること

講義コード	5000101
講義名	博物館経営論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	博物館学芸員養成科目
科目分野名	
配当年次	2
必修選択区分	自由
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎岩田　均　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	博物館経営の基礎的な理論や事例を学び、実践的な活動に応用できること。
授業概要	博物館には、固有の文化的資源を発掘･評価し、資料を収集･保存･展示し、文化資本として過去･現在･未来をつなぐ重要な使命がある。この授業では、主に経営学と文化経済学の知見を基に、博物館経営の要諦を解説する。受講生は、学術的な理論や優れた事例を学びながら、博物館の現場に足繁く通い、授業には新鮮な情報を持ち込んでほしい。
授業計画 授業内容	第１回　博物館経営とは 第２回　博物館の設置者、経営形態 第３回　博物館の使命や理念 第４回　博物館の経営戦略 第５回　博物館マーケティング 第６回　組織のマネジメント 第７回　人のマネジメント 第８回　資金のマネジメント 第９回　博物館の倫理、危機管理 第10回　博物館マネジメントの評価 第11回　ミュージアムショップの経営 第12回　博物館の社会連携 第13回　博物館のイノベーション 第14回　博物館経営の課題と展望 第15回　まとめと到達度テスト （注）学生の関心事や到達状況などにより、授業計画を改善することがある。グループ討論なども取り入れます。
成績評価	平常点（30%）、小テスト（30%）、到達度テスト（40%）によって総合的に評価する。
教科書	講義の前に毎回パワーポイント教材を配布する。
参考書 参考資料	岩田均『工芸の経済と経営』工芸経済研究所　佐々木亨ほか『博物館経営論』放送大学教育振興会
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。博物館学芸員資格取得者必修科目。 学んだことを実際に使う・応用する、という積極的な心構えをもって受講すること。
関連科目	

講義コード	5000201
講義名	博物館資料論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	博物館学芸員養成科目
科目分野名	
配当年次	2
必修選択区分	自由
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎村上　隆　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部 職種：講師　氏名：岡　達也　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	博物館資料の分類とその方法に関する知識と、取扱いの基礎的能力を養う。
授業概要	博物館のコレクションを構築する博物館資料の名称、員数、時代表記、形状、品質、構造、伝来および解説を記述する方法を、各分野別に体系的かつ実践的に学び、高度に洗練された多様な文化の遺産を守り伝える博物館学芸員の素養を身につける。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　博物館資料とは 第２回　博物館資料の分類 第３回　資料分類法Ⅰ　年代別 第４回　資料分類法Ⅱ　材質別 第５回　資料分類法Ⅲ　材質別 第６回　資料分類法Ⅳ　年代別 第７回　資料取扱い法Ⅰ 第８回　資料取扱い法Ⅱ 第９回　資料の保管管理法Ⅰ 第10回　資料の保管管理法Ⅱ 第11回　資料展示法Ⅰ 第12回　資料展示法Ⅱ 第13回　博物館資料と災害Ⅰ 第14回　博物館資料と災害Ⅱ 第15回　まとめ
成績評価	授業時のレポート（40%）と期末試験（60%）を合わせて総合的に評価する。
教科書	特に使用しない
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	博物館学芸員資格取得希望者は必修。
関連科目	

講義コード	5000301
講義名	博物館資料保存論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	博物館学芸員養成科目
科目分野名	
配当年次	3
必修選択区分	自由
担当教員	職種：非常勤講師　氏名：◎ 内田　俊秀　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部
到達目標	博物館に保管展示されている様々な種類の文化財について、材料、制作技法、保管環境について基礎的な事項を理解する。特に材料と制作技法、劣化の原因、劣化の防止方法を保管品の種類ごとに理解する。
授業概要	博物館資料の分類についての基本的考え方、資料に使用される材料の特徴や検査方法、劣化防止策について学ぶ。さらに資料に使われている材料に適した展示・保管方法を学ぶ。また、近年、水害が各地で頻発するが、自然災害に対する博物館資料の防災対策について、災害の種類ごとに分けて紹介し、博物館や学芸員の役割を考える。
授業計画 授業内容	全15回 第１回：導入（多様な博物館資料を紹介し基本的な理解を図る） 第２回：「もの」としての博物館資料を分類、記録する方法 第３回：博物館資料の活用方法、材質別の問題把握 - １ 第４回：博物館資料の活用方法、材質別の問題把握 - ２ 第５回：博物館資料の点検ー目視による点検、器機を利用した点検 第６回：博物館資料の保存環境（１）― 温度と湿度の管理 第７回：博物館資料の保存環境（２）― 光と熱の管理、館内の空気の管理 第８回：小テスト 第９回：博物館資料の生物による劣化とその防止 第10回：和紙資料の構造と保管、酸性紙の問題 第11回：館蔵品の汚れの除去方法と修理の考え方 第12回：屋外展示物の管理 第13回：博物館資料と災害時の応急対策、１（民俗資料など） 第14回：博物館資料と災害時の応急対策、２（収蔵品全般、地域の資料） 第15回：まとめ（博物館を巡る様々な問題と対応策、外国の例の紹介）
成績評価	受講態度や出席についての評価が 60%、小テストを１回行い評価を 40%とする。
教科書	
参考書 参考資料	授業中に随時プリントを配布
履修上の注意	復習については確実に行い、疑問があれば授業中に質問すること。
予習・復習指導	復習については確実に行い、疑問があれば授業中に質問すること。
関連科目	「日本美術史」「歴史学」

講義コード	5000401
講義名	博物館展示論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	博物館学芸員養成科目
科目分野名	
配当年次	3
必修選択区分	自由
担当教員	<table><tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr><tr><td>講師</td><td>◎岡　達也</td><td>ＫＹＯＢＩ　工芸学部</td></tr></table>
到達目標	博物館における展示の理念と歴史、博物館展示の諸形態、展示方法における基本的な知識を習得し、実際に企画展を考えることで、それを他者に理解してもらうプレゼンテーションスキルを身につける。
授業概要	博物館がおこなう事業は多岐にわたるが、そのなかでも来館者の誰もが訪れるのが展示空間である。展示空間は「もの」が展示される場であり、来館者が「もの」を見る場でもある。本講義では、展示の基本理念の確認と具体的な方法について紹介する。
授業計画 授業内容	第１回　ガイダンス 第２回　博物館展示の歴史と意義 第３回　フィールドワーク 第４回　博物館建築の歴史と課題 第５回　常設展示と企画展示 第６回　企画展示の実際①　企画・構成 第７回　企画展示の実際②　借用・輸送 第８回　小テスト 第９回　企画展示の実際③　図録・キャプション 第10回　企画展示の実際④　教育プログラム 第11回　展示環境 第12回　企画展他の発表 第13回　企画展他の発表 第14回　総括・質疑応答 第15回　レポート作成
成績評価	授業態度（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）によって総合的に評価する。
教科書	資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して 4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	

講義コード	5000501
講義名	博物館情報・メディア論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	博物館学芸員養成科目
科目分野名	
配当年次	4
必修選択区分	自由
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎村上　隆　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部　他
到達目標	博物館における情報の活用と発信の重要性を、博物館の情報の提供と活用等に関するメディア運用の基礎を学ぶ。
授業概要	最近の博物館・美術館においては、資料研究、展示、さらには教育を含めて情報の管理と発信に、さまざまなメディアを用いたデジタル技術の応用が盛んになってきている。本講では、文化、技術、経営等の視点から博物館施設における情報やデジタル・コンテンツ利用の具体的な事例を紹介し、実践的な取り組みの方法論を考察する。なお、現状の事例紹介は、文化事業分野でデジタルコンテンツを活用する日本を代表する企業の担当者による実践的なプログラムを用意する予定である。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　イントロダクション　博物館における情報とは何か 第２回　博物館におけるメディアとは　情報教育の意義と重要性 第３回　情報のデーターベース化とその運用 第４回「見えないもの」のアーカイブ 第５回　デジタル・ミュージアムの現状Ⅰ 第６回　デジタル・ミュージアムの現状Ⅱ 第７回　デジタル・ミュージアムの現状Ⅲ 第８回　デジタル・ミュージアムの現状Ⅳ 第９回　デジタル・ミュージアムの現状Ⅴ 第10回　デジタル・ミュージアムの現状Ⅵ 第11回　デジタル・ミュージアムの現状Ⅶ 第12回　デジタル・ミュージアムの現状Ⅷ 第13回　デジタル・ミュージアムの現状Ⅸ 第14回　デジタル化の問題点と今後の課題 第15回　総括
成績評価	授業時におけるレポート（40%）と最終レポート（60%）により総合的に評価する
教科書	特に使わない
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	博物館学芸員資格取得希望者は必修。
関連科目	

講義コード	5000601
講義名	博物館教育論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類名	博物館学芸員養成科目
科目分野名	
配当年次	4
必修選択区分	自由
担当教員	職種：特任教授　氏名：◎村上　隆　所属：ＫＹＯＢＩ　工芸学部　他
到達目標	博物館施設を社会教育の現場ととらえ、地域社会と連携する意識の確立を目指すとともに、各館の取り組みを理解する。
授業概要	博物館は、幼児から大学生に至る学校教育、生涯学習を視野に入れた社会教育、地域コミュニティの学習など、あらゆる世代が関わる社会教育機関としての役割を担っている。本講は、博物館における教育のあり方を実践的に学ぶことを目的としている。具体的な事例を通して、運営側の取り組み方、利用者側の取り組み方の双方を学ぶとともに、これからの博物館像を構築していきたい。なお、実践例は、京都市を中心に近隣地域にある博物館施設、機関の担当者に具体的な事例を紹介していただく予定である。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　イントロダクション 第２回　博物館施設の事例①　博物館の教育プログラムⅠ 第３回　博物館施設の事例②　博物館の教育プログラムⅡ 第４回　博物館施設の事例③　博物館の教育プログラムⅢ 第５回　博物館施設の事例④　ギャラリートークⅠ 第６回　博物館施設の事例⑤　ギャラリートークⅡ 第７回　博物館施設の事例④　講演会Ⅰ 第８回　博物館施設の事例⑤　講演会Ⅱ 第９回　博物館施設の事例⑥　図録Ⅰ 第10回　博物館施設の事例⑦　図録Ⅱ 第11回　博物館施設の事例⑧　学校教育 第12回　博物館施設の事例⑨　地域社会と繋がり 第13回　博物館施設の事例⑩　デジタルアーカイブⅠ 第14回　博物館施設の事例⑪　デジタルアーカイブⅡ 第15回　総括
成績評価	授業時における小レポート（40%）と最終レポート（60%）を総合して評価する。
教科書	特に使わない
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	博物館学芸員資格取得希望者は必修。
関連科目	

学校法人 二本松学院
京都美術工芸大学
〒605−0991 京都市東山区川端通七条上ル
TEL : 075−525−1515（代表）　FAX : 075−533−6033
URL : http//www.kyobi.ac.jp